２０１８年度　点検評価改善報告書

［教育研究活動報告］

西南女学院大学
西南女学院大学短期大学部

大　　学

保健福祉学部

看　護　学　科

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　工藤二郎	職名　教授	学位　医学博士　九大　1985 年

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
医学　内科学　倫理学 看護学	消化器疾患、血液疾患　肝疾患　集団検診　病院倫理 看護教育

研　　究　　課　　題
内科的疾患、消化管疾患、肝胆膵疾患、血液疾患についての臨床的研究 消化管の集団検診についての研究 主として病院内で起こる倫理的な問題についての考察 看護教育の研究

担　　当　　授　　業　　科　　目	
疾病学総論	２単位必修
医療と倫理	１単位選択

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　疾病学総論　】 対象は臨床医学用語を初めて学習する１年生であるため、きるだけ平易な説明をした。 毎回シラバスを確認し、各授業の目標を明らかにして授業を開始した。授業終了時には予習を促した。 キーワードのノートを毎回チェックし、書写を促し、また漢字の説明をした。教科書の重要な文章を指摘し、マークを入れさせた。パワーポイントのプリントは国家試験に沿うように心がけ画像を多く紹介した。 キーワードのノートを使って予習をしていた学生もいた。また、これを使って復習したという学生もいた。
授業科目名【　医療と倫理　】 医療と関係する倫理的諸問題を講義した。国家試験にも、たまに必須問題で出題されることがあるのでポイントを押さえるよう注意した。毎回シラバスを説明して講義を開始した。 毎回講義で扱った問題について議論を促し、具体的な作文を課し、配点した。 パワーポイントのプリントは文字を少なくして画像を多く紹介した。いくつかの教科書を紹介した。大教室だったが、集中するように促し、学生の注意は途切れなかった印象である。
授業科目名【　　】

授業科目名【　　】

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本消化器病学会会員	九州地区評議員　専門医	1976 年 4 月
日本内科学会会員	認定内科医	1978 年 11 月
日本血液学会会員	専門医、指導医	1979 年 4 月
日本癌学会会員		1987 年 9 月
日本感染症学会会員		1988 年 1 月
日本肝臓学会会員		1988 年 12 月
日本消化器内視鏡学会会員		1989 年 3 月
日本看護科学学会		2008 年 6 月
日本臨床救急医学会		2011 年 6 月

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） （運営・宗教等に関す） 大学機関別認証評価において評価基準に適合となったことについて	単	2018 年 5 月	西南女学院月報	3 月 6 日付けで評価基準に適合との認定証を得たことを紹介した。
大学の教育力の発展について	単	2018 年 6 月	広報西南女学院	全ての国家試験合格率が平均を上回り、就職率も同様に高かったことや新しいマスコットキャラクターを紹介した。
幸福な家庭について	単	2018 年 9 月	シオンのそののあゆみ	家庭の役割、聖書の言葉などを紹介した。
２つの支援室のあゆみについて	単	2018 年 11 月	西南女学院月報	地域連携室と学生相総合支援室の活動について紹介した。

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
九州労災病院倫理委員会	委員	2003年４月より
同　臨床研修委員会	委員	2004年４月より
同　薬剤治験審査委員会	委員	2000年４月より、
社会福祉法人福音会	理事長	2016年６月より
学校法人阿部学園	理事	2015年４月より

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）

学長　大学評議会議長、運営会議議長、入学試験会議議長、学院運営協議会委員、学院評議員、学院理事、西南女学院後援会顧問、西南女学院維持会幹事、チャペルアワー奨励：須賀敦子---旅行、日伊の架け橋、祈り（2019年１月９日、10日）

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　浅野嘉延	職名　　教授	学位　医学博士（九州大学 1989 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
内科学、看護教育学、高齢者福祉学、疫学	看護学生教育、先天性風疹症候群、福祉用具開発

研　究　課　題
医療現場での臨床医と看護系大学における教員の経験を同時に有する立場を生かして、看護学生に臨床現場で実際に必要となる知識・技術を有効に教授する教育法の確立を目指している。これまで、患者サンプルを用いた実践的な教材を作成し、５冊のテキストを出版してきた（現在、のべ 150 校以上で教科書採用されている）。また、看護学生向けの雑誌「プチナース」にも特集号を執筆した。現在、栄養学と画像教材の２冊のテキストを執筆中である。 高齢者複合施設「ふれあいの里とばた」での研究から商品化した「車椅子用フットプレートカバー」は、有薗製作所より販売を継続中である。 数年前より行ってきた先天性風疹症候群の発生状況と風疹ワクチンの予防効果についての研究結果をまとめて、今年度、原著論文を学会誌に報告した。

担　当　授　業　科　目
疾病学各論Ⅰ（前期）（看護学科） 疾病学各論Ⅱ（前期）（看護学科） 看護のための臨床検査（前期）（看護学科） 医学総論（前期）（福祉学科） 保健統計学（後期）（看護学科） 疾病学特論（後期）（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【疾病学各論Ⅰ】【疾病学各論Ⅱ】 自著の教科書「看護のための臨床病態学（改訂３版）」を使用して、内科疾患を中心に疾病学の系統的な講義を行った。学生が興味を持てるように臨床現場での経験なども紹介した。また、看護師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。外科疾患、小児科疾患、精神科疾患の講義は専門家に依頼し、全体的なコーディネートを行った。
授業科目名【看護のための臨床検査】 上記の疾病学各論Ⅰ＆Ⅱと連携させて進行し､疾病とリンクして臨床検査の知識が身につくように工夫した。自著の教科書「看護のための臨床検査」を使用して、各々の検査法やデータの解析を解説するとともに、検査データから患者の病態が把握できるように症例検討をした。検査手技の DVD５本を用意し、検査の説明と平行して映像を供覧した。 また、２コマを用いて演習を行った。心電図、検尿、肺機能、超音波検査などの検査を、一部は学生自らが検査者や被験者になって検査の実際を体験させた。

授業科目名【医学総論】 福祉学科の学生に、基礎医学（解剖生理）、臨床医学（主要疾患）、社会医学（公衆衛生）といった非常に広範囲な内容を講義するため、福祉の業務に関係する内容にポイントを絞って解説した。学生が興味を持てるように臨床現場での経験なども紹介した。また、社会福祉士国家試験の出題範囲であるため、国家試験の過去問題の解説も行った
授業科目名【疾病学特論】 卒業後は臨床現場で働くことになる４年生に対して、自著の教科書「解剖生理と疾病の特性（改訂２版）」を使用して、疾病学の総復習を行いながら、臨床現場で必要なことを解説した。また、看護師国家試験の直前であるため、国家試験の対策となるようにポイントを示した。
授業科目名【保健統計学】 看護学科の学生にとって数少ない社会医学の系統講義である。ただ、馴染みの薄い分野であるので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計（改訂３版）」を使用して、基礎から分かりやすく解説した。前回の復習に時間を使って、繰り返し説明を行うようにした。また、保健師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本内科学科	専門医部会編集担当委員（2006 年 9 月～現在）	1983 年 6 月～現在
日本血液学科	評議員（1998 年 4 月～現在） 九州支部評議員（2011 年 4 月～現在）	1985 年 6 月～現在
日本癌学会		1986 年 6 月～現在
アメリカ内科学会	上級会員 FACP（2000 年 1 月～現在）	1998 年 12 月～現在
日本看護科学学会		2008 年 12 月～現在
日本看護学教育学会		2008 年 12 月～現在
日本臨床ウイルス学会		2018 年 10 月～現在

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） ≪原著≫ 1. 妊娠中の風疹感染による先天性聴覚障害児（1981-2015）　～全国聾学校を対象としたアンケート調査成績～	共著 （筆頭執筆者）	2018 年	臨床とウイルス 46(5)： 428-434, 2018	執筆者：浅野嘉延、門屋亮、宮崎千明、岡田賢司、砂川富正、植田浩司 （先天性風疹症候群の発生状況と風疹ワクチンの予防効果についての研究）

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） ≪教科書の単著≫ 1. 看護学生のための疫学・保健統計（改訂３版）	単著	2018年８月	南山堂 （全196ページ）	看護学生を対象とした疫学保健統計学の教科書を大幅に改訂
（雑誌） ≪依頼されて執筆≫ 1. アセスメントできる！実習で出会う検査まるわかりガイド	単著	2018年５月	プチナース（2018年５月臨時増刊号）7-130, 2018	臨床検査に関する特集号１冊を単独で執筆
≪依頼されて監修≫ 1. 付録ポスター　脳・神経	単独	2018年４月	プチナース（2018年４月号）	ポスターの内容を医学監修
2. 付録ポスター　ホルモン	単独	2018年５月	プチナース（2018年５月号）	ポスターの内容を医学監修
3. 付録ポスター　検査値	単独	2018年６月	プチナース（2018年６月号）	ポスターの内容を医学監修
（その他の出版物） 1. 改革の槌音	単著	2018年	広報 西南女学院 第94号: 4, 2018	西南女学院大学・大学短期大学部の紹介
2. クリスマスツリーマップ	単著	2018年	西南女学院キリスト教センター便り 105, 2018	地域連携室／学生スタッフの活動の紹介

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	平成30年度　西南女学院大学共同研究費	田川辰也、近江雅代、境田靖子、他、浅野嘉延、他	1,067,000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
社会福祉法人　福音会	産業医	2007 年 4 月～現在
北九州いのちの電話	評議員	2009 年 2 月～現在
医療法人起生会 大原病院	評議員	2009 年 4 月～現在
	産業医	2016 年 6 月～現在
	褥瘡委員会委員長	2016 年 8 月～現在
神理幼稚園	評議員	2010 年 4 月～現在
北九州市医療センター治験審査委員会、医の倫理委員会	委員会委員	2015 年 4 月～現在

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
評議員　2011 年 4 月～現在 外部資金導入促進プロジェクト　2013 年 8 月～現在 入試部長　2016 年 4 月～現在 地域連携室室員　2016 年 8 月～現在 茶道部顧問 水泳部顧問

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　安藤　愛	職名　　助教	学位　修士（看護学）（福岡県立大学　2017 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
精神看護学	ストレングス　精神科病棟　精神科看護師　看護

研　究　課　題
精神科病棟看護師の精神疾患患者へのストレングスに焦点をあてた看護の特徴を明らかにする。

担　当　授　業　科　目
精神看護学演習、看護研究の基礎、診療関連技術論、母性看護学演習、小児看護学演習（前期） 精神看護方法論、精神看護学実習、基礎看護学実習Ⅰ（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　精神看護学演習　】 学生が事例の展開を行う過程で患者の気持ちを考え、成育歴や生活歴を踏まえたアセスメントが行えるように具体的な問いかけや解説を心がけた。コミュニケーションに苦手意識をもつ学生の増加に伴い、対話の練習を強化した。対話時の注意事項や配慮することなど学生自ら気付くことができるよう臨床指導者の協力のもと実施した。また、質問の仕方や実際の現場での対応方法など臨床指導者との交流の場を設けることで実習前にイメージがもてるよう工夫した。
授業科目名【　精神看護方法論　】 疾患における看護について実際の臨床での経験を伝えたり、DVD を使用し具体的に看護がイメージできるよう心がけた。授業スライドは、重要な部分を穴抜きにし、集中力が維持できるよう工夫した。また、疾患についても特に現代社会で問題になっている事柄を主に伝えていくようにした。事前課題として、授業に沿って疾患の学習をしてもらい代表グループにパワーポイントで発表してもらった。さらに、事後学習として国家試験問題をグループごとに集めてもらい国家試験に向けた学習も行った。
授業科目名【　精神看護学実習　】 学生が指導者に質問しやすいよう環境調整を行い、問題が生じた際には指導者および師長との連携を強化した。情報収集が進まない学生については、一緒にカルテを見ながら指導していった。学生が自分の傾向と向き合い受け持ち患者と関係性を築き、看護計画の立案・実施ができるよう関わった。また、学生の理解度に応じた問いかけを心がけ、状況に応じて指導者や看護師の実際の看護援助場面が見学できるよう調整を行った。

授業科目名【　基礎看護学実習Ⅰ　】 初めての実習であったため挨拶などのマナーから指導を行った。学生の日々の目標を明確にし、その目標が達成できるよう指導者と連携し関わった。また、バイタルサイン測定や環境整備など技術の根拠や意味の確認を行いながら知識と技術の定着を図った。プロセスレコードでは、患者のニーズに気が付けるよう学生に問いかけ、自己理解に向けた個別指導を行った。そのため、指導者との役割分担を日々調整していった。対話から患者のニーズに気付き、看護展開ができるよう対話の内容の確認と学生が捉えている患者像の把握に努めた。
授業科目名【　看護研究の基礎　　】 研究の一連の流れを学生が体験することで理解が深まるよう「なぜ、そのように考えたのか」をまず聞くように努めた。リサーチクエスチョンや研究方法など、各グループの興味・関心に沿ったものになるように助言していった。教員の経験不足もあり判断できない場合は、単位責任者にその都度指示を仰ぐように心がけ、教員間でなるべく学生の学びに差が出ないように配慮した。
授業科目名【　診療関連技術論　　】 噴霧吸入療法では、吸入療法の種類や適応・目的を確認し使用方法の説明を行った。また、実際に体験してもらい噴霧量の調整やそれに伴う看護について考えられるよう問いかけを行った。筋肉内注射では、中殿筋における注射部位の確認と穿刺角度や固定の仕方について重点的に伝えていった。採血では、駆血帯の締め方、手順、清潔動作を中心に説明し練習してもらった。モデル人形と思わずに患者が対象であることを意識できるように関わった。
授業科目名【　母性看護学演習　　】 沐浴の演習では、学生がポイントをおさえながら手順通りに安全に実施できているのか確認を行うと同時に根拠をもって実施できているのか質問しながら見守った。また、時間以内に全員が経験できるよう時間調整や本番と同様に実施ができるようお湯の調整など環境調整を行った。
授業科目名【　小児看護学演習　　】 バイタル測定の技術演習では、実際の患児への対応を意識しながら声かけを行うよう指導し測定の仕方や細やかな配慮など安全に注意した関りの必要性が理解できるよう関わった。また、根拠が理解できているのか質問しながら思考と一連の技術が結びつくように配慮した。技術テストでは、どこができていなかったのか、気になる学生など小児看護学の教員に伝えフォローを依頼した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
福岡県看護協会会員 日本教師学学会会員 日本精神科看護協会会員 日本看護科学学会会員 日本精神保健看護学会		2014年4月～現在に至る 2015年1月～現在に至る 2017年4月～現在に至る 2017年4月～現在に至る 2017年4月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 第107回看護師国家試験問題解説	共	2018年5月	メディカ出版 国家試験対策 e-Learning Nプラス	第 107 回看護師国家試験において出題された精神看護学の問題の一部の解説を担当した。

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文） 精神看護学の「経験型実習教育」における「学生の患者ケアへの内発的動機付け」と「学生の観点から見た教授-学習活動」との相関	共	2018年3月	福岡県立大学紀要	①精神看護学実習の経験型実習教育において、「学生の患者ケアへの内発的動機付け」と、「学生の観点から見た教授－学習活動」との間には相関があるという仮説を立て検証した結果、学生が患者を心から援助したいと思ったことに直接的に相関した教授－学習活動は対話であり、対話の相手は１．臨床指導者、２．受け持ち看護師をはじめとするスタッフ、３．記録を媒介にした大学の教師や臨床指導者、４．大学の教師、の順で相関が強かった。 ②共著者名 松枝美智子，坂田志保路， 宮﨑初，安永薫梨，宮野香里 ③P1-P11
（学術論文） 精神看護学の「経験型実習教育」における「学生の患者ケアへの内発的動機付け」と「学生の観点から見た教授-学習活動」の自己評価の理由	共	2018年3月	福岡県立大学紀要	①精神看護学の「経験型実習教育」における、「学生の患者ケアへの内発的動機付け」と「学生の観点から見た教授－学習活動」の自己評価と、その理由を明らかにした。学生の「患者ケアへの内発的動機付け」の理由のデータからは、９つのカテゴリーが抽出され、「学生から見た教授-学習活動」の理由のデータからは、６カテゴリーが抽出された。 ②松枝美智子，坂田志保路， 宮﨑初，安永薫梨，宮野香里 ③P13-P23
（翻訳）				

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 精神科病棟看護師の精神疾患患者へのストレングスに焦点をあてた看護の特徴	共	2018．12	第 38 回日本看護科学学会学術集会	①神科病棟看護師の精神疾患患者へのストレングスに焦点を当てた看護の特徴を明らかにした結果、レジリエンスを育てる支援では看護師主体のストレングスに着目した看護が行われ、退院に向けた意思表出後の支援では患者主体の退院へ向けた患者の思いや行動を支えるストレングスを活かした看護が行われていた。また、この時期の≪患者の意向に合わない指示的な関わり≫は、患者の状態の悪化につながる可能性がある。 ②共同発表者名 後藤有紀，前田由紀子 ③P1-1-19
				教育研究業績　総数 （20019.4.1） 著書：2（内訳：共2） 学術論文：2（内訳：共2） 学会発表：2（内訳：共2）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
第 30 回日本精神保健看護学会学術集会 福岡県精神看護専門看護師活動促進協議会	編集副委員長 会員	2018 年 12 月 3 日～2020 年 6 月 14 日 2017 年 3 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教職員懇親会 3 年アドバイザー

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　飯野　祥之	職名　　助教	学位　修士（看護学）（九州大学　2012 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード

研　　究　　課　　題

担　　当　　授　　業　　科　　目	
診療関連技術演習（前期　看護学科）	看護のための臨床検査（前期　看護学科）
保健福祉学入門（前期　看護学科）	リハビリテーション看護学（前期　看護学科）
成人・老年看護学演習（前期　看護学科）	
基礎看護学実習Ⅰ（後期　看護学科）	基礎看護学実習Ⅱ(前期　看護学科)
成人急性期看護学実習（後期　看護学科）	成人慢性期看護学実習（後期　看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　診療関連技術演習　】 与薬に関する技術演習（皮下注射、筋肉内注射）で指導教員として参加した。注射は危険の伴う処置であることを念頭に置き、安全に行うための適切な方法について指導を行った。１つ１つの手技・手順を説明するだけでなく、それぞれの根拠についてその都度説明し、正しい手順の必要性について理解を促した。
授業科目名【　看護のための臨床検査　】 腹部エコーの被験者として参加した。
授業科目名【 保健福祉学入門 】 　20 分ほどの講演を行うための講師として参加した。内容は「臨床現場でのチーム医療の実際と、看護師の立場から他の医療職種に求めること」についてであった。看護学科、社会福祉学科、栄養学科の新１年生が対象だったこともあり、初学者でもイメージしやすいよう簡潔かつ具体的に臨床のことを説明した。 また、社会福祉士、栄養士と臨床で実際にどのような関わりをしたかについて事例を出し、イメージしやすいようにした。
授業科目名【　リハビリテーション看護学　】 摂食・嚥下障害のある患者、運動器に障害のある患者のリハビリテーション看護についての実技演習に参加した。前者に関しては、嚥下するときの姿勢や食事介助の方法について、良い例と悪い例の双方とも提示して、どのような援助が適切かを実感的に理解できるように配慮した。後者は階段教室で行った。転倒の危険があったため階段での杖を用いての昇降をする際は必ず学生の下に位置し、転倒予防に努めた。その上で杖歩行の困難な状況や適切に行う時のポイントなどを提示した。

授業科目名【　成人・老年看護学演習（前期　看護学科）　】 術後の患者観察についての実技演習に指導、テストの評価をするために参加した。 手術や病態について学生の知識の及ばないところはこちらから提示するとともに、既習の知識については教員側から積極的に問いかけ、記憶の想起や知識の深化・定着に努めた。また、術後患者の観察について、初回の説明時はかみ砕いて説明するとともに根拠を説明し、実技練習の際にその根拠を問いながら演習を進めた。 また、同講義にて看護過程の演習も行った。アセスメントの視点がずれている場合が多かったため、各パターンのアセスメントの視点をかみ砕いて説明するとともに、アセスメントに必要な指標についても提示を行った。 また、紙面の事例だけでなく、実習を意識して「実際の事例だったら～～」のように他の事例だとどのようなアセスメントの展開となるのかを具体的に説明した。
授業科目名【　基礎看護学実習Ⅰ（後期　看護学科）　】 初めて患者を受け持つ実習であり、患者とのコミュニケーションをとることが一番の目的であった。 患者とのコミュニケーションに難儀している学生がいた場合は一緒に患者のもとに行き、患者との間を取り持つなど配慮した。また、可能な限り患者と学生のコミュニケーションを直接見て、患者の非言語的な反応などをフィードバックし、コミュニケーションの意味を考えられるよう努めた。
授業科目名【　基礎看護学実習Ⅱ（前期　看護学科）　】 受け持ち患者のことをアセスメントし、看護過程を含めた看護展開を行う初めての実習であった。病態的に理解が及びにくいところがあったため、逐一病態の説明を行った。また、学生が積極的に看護実践を行えるように、教員も一緒に入り、ケアを行える機会を増やせるよう努めた。
授業科目名【　成人急性期看護学実習（後期　看護学科）　】 術後侵襲における生体反応、消化器外科手術、術後全身管理について事前学習内容を明確に提示して、術後の早い看護展開についていけるように学習を促した。また、術後の患者状態の理解を促すために、患者状態の説明をかみ砕いて行った。また、術後の変化やケアについて説明し、教員も一緒に観察やケアに入るようにして学生の理解力、看護技術の習熟度の把握に努めた。
授業科目名【　成人慢性期看護学実習（後期　看護学科）　】 患者の疾患や病期、生活環境や家族関係などを含めた歴を理解し、必要なケアを行えるよう学生への支援を行った。既往歴が長期であるため学生に理解できるよう説明を行い、「長期の病歴の中で今はどのような時期なのか」「今後の療養のために、現在はどのようなケアが必要なのか」ということを考えられるよう指導を行った。 また、多職種との連携がみられるよう、積極的にカンファレンスに入れるよう調整を行った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護研究学会	一般会員	2010 年 7 月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
ゆめみらいワーク　ブース出展（2018．8．21） 国家試験対策担当　（2018．4．1～現在に至る）

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　石井 美紀代	職名　准教授	学位　修士（看護学）大分医科大学　2001 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
地域看護学	在宅ケア、訪問看護

研　究　課　題
国の医療・介護一体化改革によって、在宅医療・在宅看護が慢性疾患患者のための受け皿を期待され、在宅ケアの対象が拡大している。さらに「在宅」の定義が単に自宅を指すものではなく、その人の生活の場に拡大されている。そこで、病院と在宅の継続看護の構築、および在宅ケアにおいて看護職に求められるニーズについて研究する。

担　当　授　業　科　目
社会保障概説（看護学科１年　後期） 保健医療福祉行政論（看護学科２年　前期） 対象別保健指導論（看護学科２年　後期） 看護研究の基礎（看護学科３年　前期） 在宅看護学（看護学科３年　前期） 在宅看護学演習（看護学科３年　前期） 在宅看護学実習（看護学科３・４年　通年） 看護総合演習（看護学科４年　前期） 看護総合実習（看護学科４年　前期） 看護学（栄養学科３年　後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【社会保障概説】 新カリキュラムで創設された科目である。社会福祉士の外部講師と分担して講義を実施した。1 年生後期の科目であるため、学生は当初、看護専門科目というよりも総合人間科学と同じイメージで受講していた。そのため、なぜ、看護職が社会保障を学習するのか？から説明を行った。 講義では制度ごとで解説していくため、学生はすべての制度を独立して別物として覚えようとする。そのため、講義の後半では、制度の共通性があるもの、同じサービスが複数あっても優先されるもの、といった視点を説明することで、生活上の身近なものとして感じてもらう工夫をした。 また、自分で覚えなければ身に付かないため、必ず、自分でまとめるように、テストは自分で作成した資料を持ち込み可とした。学生たちは、それぞれ工夫して資料を作成してテストに臨んでいたため、有効な方法であったと考える。
授業科目名【保健医療福祉行政論】 本授業は社会福祉士の外部講師と分担して担当するため、事前に講義の項目、内容についての打ち合わせをし、前回に繋げて今回の授業を展開するようにした。また、各制度について、患者の看護にどう活用されるかを意識して説明した。 講義資料は、重要な部分を学生が書き込むように空けて作成した。また、毎回、最後に、講義内容に関連した国家試験問題を出題し、解答、解説した。さらに、毎回、出席カードに授業の評価を書いてもらい、質問が書かれていた場合は、次の講義で答えた。しかし、学生の学習量を増やすことができなかったことが反省点である。

授業科目名【対象別保健指導論】

本授業は、保健師課程の必修、看護師課程の選択授業であるが、保健師選抜が２年後期終了後であることから、受講生は保健師を目指す者と選択科目の単位をとるために来ている者があった。そのため、病院での看護とは違う「公衆衛生の視点」を身につけることを目標として、教科書とオリジナルの授業プリントで特徴を解説した。さらに、保健師ジャーナルから公衆衛生分野で先駆的な活動例を紹介した。保健師ジャーナルは専門雑誌のため、最初から学生が読み解くのは難しいことから、読み解くためのワークシートを用い、活動のプロセスと課題を見出せるようにした。

学生は、専門雑誌の記事であっても毛嫌いせずに取り組んでくれたことから、活動の企画・運営から評価に至るプロセスを解説できた。

授業科目名【看護研究の基礎】

看護研究は、3 年生の講義で概要を学び、4 年生の看護総合演習・看護総合実習で卒業論文を作成するプロセスがある。本講義は、半分を講義、半分をグループワークで構成し、研究計画書の作成から簡単な調査研究もしくはインタビューを実施し、それらを整理して抄録を作成、発表する作業を体験させた。

教員５名で実施したため、内容の打合せと進行状況を調整しながら進めた。

学生にとって、レポートのための調べ学習の経験はあっても、研究計画書の作成と抄録作成は初めての経験であった。指導者として「このテーマでは研究にならない」「目的と方法が一致できていない」ことを気づかせようとするが、学生はそのことを受け入れられず、指導に苦慮した。

授業科目名【在宅看護学・在宅看護学演習】

学生は病院施設内看護の経験しかなく、在宅看護のイメージが難しい。そのため、実習中に実習施設と療養者家族にお願いして DVD や写真を撮り、在宅看護学の講義ではそれらも媒体に加えた。

在宅看護学演習では、導入で「訪問看護が必要な寝たきり高齢者にとって望ましいのは住み慣れた自宅で過ごすことである 」をテーマにディベートを実施した。ネットで資料を得る学生が多かったが、家族介護を社会のありようとつなげて考えることに有効であった。一方、地域ケアシステムを理解させるため、グループワークでソーシャルサポートを調べて図式化させ、次の講義で良く書けているグループの図を配布し解説したが、全体的にネットワークの枠から広がらなかった。看護過程の演習にあたっては、最初に知識確認の口頭試問を実施した。昨年は最後に実施したため学生から苦情があったが、知識確認の目的を明確にしたことで、積極的に取り組まれ、好成績であった。

授業科目名【在宅看護学実習】

在宅看護実習は、学生と看護師が１対１で同行訪問を行う。教員は学生が看護を提供する場で直接指導ができないことから、指導看護師と事前に実習目標や進め方の打ち合わせを重視した。

病棟の実習では、学生は１人の患者を２～３週間継続して担当するため、複数の患者の看護を同時に考えることができない。訪問看護は、１人の看護師が１日４～６件訪問をするが、実習では同伴訪問１日１～３件に絞って考えさせた。さらに、教員が学生の思考を方向づけながらすすめた。

一方で、私を含め３人の教員（非常勤助手含む）が学生の指導を担当するため、学生が書いた記録、最終カンファレンス資料等をもとに、時間を見つけて常に教員間でディスカッションを実施した。このことは、指導方法の検討や自己研鑽の機会につながった。

授業科目名【看護総合演習・看護総合実習】

本授業は、卒業研究に代わるものである。そのため、これまでの実習での疑問、もっと深めたいことから、学生自らテーマを選択し、文献検索から実習での介入計画を立案し、論文としてまとめさせた。

看護総合演習では、段取りする力、資料化する力、わかりやすい発表の工夫につながることを期待し、毎週１回、テーマに沿った内容を調べ、プレゼンテーションをさせて行った。看護総合実習は、学生が選んだテーマに合った対象が複数いる訪問看護ステーションにお願いして実習させていただいた。

訪問看護は、対象者との契約による訪問頻度で実施されるため、対象者の訪問日に合わせて実習させていただく。そのため、実習期間を提示するのではなく、実習日数と成果によって実習終了を決めている。今回、担当している学生の１人から「実習期間の説明が不足であり、評価に疑義がある」との申し出が教務課に出された。当該学生には、評価の公平性と客観性を担保している旨を文書で回答したが、本当に納得してもらえたか、伝わってこなかった。実習の条件が施設内実習と違いがあるため、多領域との整合性をどうするか、課題を残すことになっている。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本健康福祉政策学会		１９９７年６月～（現在に至る）
日本地域看護学会		１９９７年10月～（現在に至る）
日本看護学教育学会		１９９８年４月～（現在に至る）
日本公衆衛生学会		１９９８年４月～（現在に至る）
日本老年社会科学会		１９９９年４月～（現在に至る）
日本学校保健学会		１９９９年４月～（現在に至る）
日本老年看護学会		１９９９年８月～（現在に至る）
日本看護研究学会		２００１年11月～（現在に至る）
日本在宅ケア学会		２００４年８月～（現在に至る）

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） 訪問看護師が「急性期看病院の病棟看護師が行う退院支援」に期待すること なし	共著	2019.3	第４９回日本看護学会論文集 (急性期看護)	①慢性疾患高齢者の入院治療と在宅療養を円滑に進めるために、継続療養の現状と課題を知るべく,訪問着護師を対象に調査した。そこでの困りごとについてまとめた。 ②高本あゆみ、水原美地、鹿毛美香、石井美紀代 ③,p.123-126
（翻訳） なし				
（学会発表） 訪問看護師が「急性期病院の病棟看護師が行う退院支援」に期待すること	共著	2018.9	日本看護学会（急性期看護）第49回学術集会 別府市	①慢性疾患高齢者の入院治療と在宅療養を円滑に進めるために、継続療養の現状と課題を知るべく,訪問着護師を対象に調査した。そこでの困りごとについてまとめた。 ②高本あゆみ、水原美地、鹿毛美香、石井美紀代
訪問看護師・介護支援専門員・病院の退院調整職が思う退院調整に関する課題	共著	2018.9	日本看護学会（慢性期看護）第 49 回学術集会	①慢性疾患高齢者の継続医療を円滑に進めるため、退院調整を実務する訪問看護師、介護支援専門員、病院の退院調整職の3者に、現状と困りごとについて調査した。

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				②水原美地、高本あゆみ、石井美紀代、鹿毛美香、

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
			円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
北九州市介護認定審査会	委員	２００７年4月～２０１９年3月

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
〔大学委員会〕 図書委員 〔学科役割〕 国家試験対策担当

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　一　期　﨑　直　美	職名　　講　師	学位　修士（教育学）（熊本大学　2010 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
養護教育	養護教諭、専門職、ケア

研　　究　　課　　題
養護教諭による子どもへのケアを社会学的に研究していく予定である。現在、養護教諭の仕事に関する教育学の研究を検討し問題の所在を定め、次に専門職に関する社会学を検討し、理論枠組みを構築した。今後、養護教諭の社会調査から理論枠組みを検討する。

担　　当　　授　　業　　科　　目
初年次セミナーⅠ、健康相談活動、事前及び事後の指導（4 年生）、養護実習、教育実習Ⅰ、公衆衛生看護学概論、看護総合演習、看護総合実習（前期）（看護学科） 初年次セミナーⅡ、学校保健教育法、学校保健、養護概説、教職実践演習〈養護教諭・中・高等学校〉、事前及び事後の指導（3 年生）（後期）（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【初年次セミナーI】 ① スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の修得は、ミニレポート作成からレポート作成へとレベルをあげ段階をおってすすめた。レポート作成にはグループ学習を取り入れ、学生間でコミュニケーションをとり意見交換しながら取り組むようにした。 ② 毎回の講義の概要や疑問点・調べたことなどを 500 字程度にまとめさせた。また、学修ポートフォリオを作成させ、主体的学習を促すとともに学修の達成状況をチェックした。 ③ 学習修得に向けモチベーションの向上を目指し、学外の実習施設(医療機関)から実習指導者を招き講演をしていただいた。 ④ 科目の評価視点は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示し説明を加えた。各自に印刷物として配布した。 ⑤ 情報倫理や図書・文献の検索法などの講義は、情報課および図書課と連携し行なった。 ⑥ 本科目は 10 名の教員で担当する科目である。詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容及び成績評価に差が出ないようにした。
授業科目名【健康相談活動】 ① 本科目は養護教諭が行う健康相談について学ぶ。健康相談を行う養護教諭自身が心の健康を保つことが重要となる。そのため、学生自身が自己理解を深めるような演習を取り入れた。 ② 養護教諭の健康相談に必要とされる心理学領域の基礎理論を学習し、演習で理解を深めた。 ③ 養護教諭の職務の特質および保健室の機能を活かした健康相談の基礎・基本を身につけるために、演習では、事例を活用した。 ④ 学校における課題を抱える子ども（虐待、不登校など）への理解を深めるだけでなく、そのような子どもたちへの対応についても学生同士で討論させ理解を深めさせた。 ⑤ 保健室来室者への対応場面の演習では、ロールプレイを取り入れ、その後、学生同士での振り返り場面を設定し各自の対応を省察するようにした。

授業科目名【事前及び事後の指導】（前期）４年生

①　初めての教職課程の実習（4年次）である。実習校での実習内容（授業や参加行事）について、可能な限り学生に情報を収集させ、その内容を講義の演習に取り入れて進めた。

②　学生は、実習で初めて児童生徒へ授業を行うため、学生の指導計画作成や教材づくりは、授業時間外でも支援した。

③　学生が行う模擬授業の評価は、事前に学生に提示し、学生同士の評価の機会を取り入れ授業内容を検討した。

④　実習後に学生同士が実習校での学びを共有することを目的に、実習発表会を実施した。

⑤　実習発表会は、学生が主体的な取り組みとなるよう、発表会の役割は学生が担うように指示した。また、その発表会でのプレゼンテーション資料作成は、授業時間外で支援した。

⑥　次年度実習予定の３年生が参加できるよう発表会の時間設定を工夫し、他学年との連携を図った。

授業科目名【教育実習Ⅰ】

教育実習は、高等学校教諭一種免許状（看護）の取得のために行う、高等学校における２週間の実習である。学校の生徒の実態や教員の実際の働き等について学ぶ。そのため、事前及び事後の指導の講義と教育実習が連動するように講義日やその内容について計画した。また、実習に向けて、心身の準備を整えることや、実習目標を明確にし、学生自身が目標に到達できるよう、事前に面談した。

授業科目名【養護実習】

養護実習は、養護教諭一種免許状取得のために行う、学校での３週間の実習である。養護教諭の実際の働き等について学ぶ。そのため、事前及び事後の指導の講義と養護実習が連動するように講義日やその内容について計画した。また、実習に向けて、心身の準備を整えることや、実習目標を明確にし、学生自身が目標に到達できるよう、事前に面談した。

授業科目名【公衆衛生看護学概論】

①　公衆衛生看護学概論の中で、学校保健について３時間の講義を実施した。学校保健の概要、現在の児童生徒の健康面に関わる課題、学校保健を主に担う養護教諭の役割について、講義と演習を各時間に取り入れた。

②　特別支援教育が必要な子どもについては、ＤＶＤなどの映像等を活用して学生の理解を深めた。

③　学校保健における課題（いじめや不登校や自殺など現代的な子どもの課題・特別支援教育など）について、事例などを用いて学生が考える演習を設定した。

授業科目名【初年次セミナーⅡ】

①　初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。

②　個人ワーク、グループワークを取り入れた演習を行なった。具体的には、グループで一つの課題に取り組み、章立てし、各自が一つの章を担当して一つの冊子づくりを行なった。冊子づくりを行なうことで、各自が全体を把握しながら自分の担当に責任をもち取り組むことができたと考える。

③　さらに、上記冊子にまとめた内容について、レジュメ作成、パワーポイント作成、発表原稿作成を行ない、プレゼンテーションをさせた。課題発見から発表までの一連のプロセスをグループで取り組むことで、他者の意見を聞き、自分の考えを述べる機会となり、スタディスキルズ（聞く、考える、討論する）の強化につながった。また、司会・進行など経験させることで、役割意識をもたせた。

④　評価は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示して説明を加えた。学生は自己評価を行ない、自己の振り返りを行なうことができていた。

⑤　本科目は10名の教員で担当する科目である。初年次Ⅰ同様に詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容および成績評価に差がでないようにした。さらに、プレゼンテーションでは、教員２名～3 名で評価を行なうことで、評価に差がでないようにした。

授業科目名【学校保健教育法】

①　学校保健教育法は、教職課程における養護教諭一種免許状取得希望学生を対象とする科目である。学校で養護教諭になった際に保健教育が担えるよう、歯の健康づくり、性に関する教育、環境教育、安全教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する教育について事前学習するように指導した。

②　学校での保健教育と関連する学習指導要領の知識を学生に確認しながら進めた。

③　保健教育に必要な知識を踏まえた上で、模擬授業などの演習と連動するように授業を構成した。
④　演習課題については、ブレインストーミングやロールプレイ等の教授方法が身につく事例を提示した。
⑤　各学生が実施した模擬授業について、学生が振り返ることができるよう他者評価やビデオ等を活用した。
⑥　情報活用能力を児童生徒に育成するため、学校保健におけるＩＣＴ活用につながるデータベースなどを学生に紹介した。
⑦　授業時間外でも、学習指導案や教材の作成などの学生への個別支援を行った。

授業科目名【学校保健】
①　学校保健は、学校における保健活動を学ぶ講義である。学生の能動的な学習を促すために、授業における事前学習課題をポートフォリオするように指導した。
②　授業中に事前学習について学生に発表の機会を設け、その後、事前学習の重要点の解説だけでなく、学校における実際の保健活動について解説した。
③　事前学習を活用させるために、事前学習を用いたテーマで学生が討論する機会を設定した。
④　学校保健でよく利用するホームページや電子書籍サイトの使用方法について紹介し、実際に必要な資料は学生がダウンロードし、授業中に活用するように設定した。

授業科目名【養護概説】
①　養護概説は、学校保健の活動を養護教諭として実践していくために必要な基本的な知識などを学ぶ講義のため、学校保健の内容と連動するように構成した。
②　学生の能動的な学習を促すために、授業の事前学習課題をポートフォリオするように指示した。
③　授業中に事前学習について学生に発表の機会を設け、養護教諭の職務の重要な点や学校で養護教諭の具体的な活動について解説した。
④　養護教諭が学校で行う主な仕事について演習（健康診断の検査・児童生徒への保健指導・救急処置・環境衛生検査・保健だより作成）を取り入れた。
⑤　救急処置・保健指導などのロールプレイは、学生が養護教諭と子どもという相互の役割を担うように設定し、振り返りには、自己評価および他者評価を取り入れた。

授業科目名【看護総合演習】
①　看護総合演習は、各個人で看護実践における自己の課題を探求し、看護総合実習に向けて計画を立案し、実習終了後テーマに基づきレポートを作成していくために個別指導を含めて支援した。
②　学生の実習時期が学生によって数か月離れていたため、学生を２グループに大別して指導した。
③　３年次の看護研究での既習事項を振り返りながら進めた。
④　量的研究の統計処理は、パソコン室を利用して、模擬的なデータで統計処理を実施した。
⑤　看護の専門性をいかした実習校での保健指導が実践できるよう、指導計画や模擬授業を支援した。
⑥　実習後は、実習について個人で振り返るだけでなく、グループでの振り返りや実習発表会で、各自の学びを共有できるようにした。
⑦　各自のレポートについては、授業時間外にも個別支援した。

授業科目名【看護総合実習】
①　看護総合実習は、看護実習の集大成と位置づけられ、主体的に計画から展開していくことが重要になるが、現場の状況に応じて担当者で日程調整をおこなった。
②　学校保健の領域は、養護教諭の職務を体験し、担任などの他職種と連携しながら、学級で保健指導（授業）を実践させていただく。実施させていただく保健指導の準備を看護総合演習で支援し準備した。
③　実習中、学生が学級で保健指導（授業）を実践する際は、可能なかぎり参観し、保健指導の内容を改善していくよう、現場の指導者と連携して指導した。

授業科目名【教職実践演習】（養護教諭）
①　教職課程における学び及び実習を振り返らせ、教員になるための課題を考え解決へと結びつけていくための集大成の講義である。外部講師（特別支援教育・地域家庭との連携）を招き、学生の学びを深化させるように機会が設定されている。
②　教職課程担当者全員で指導を行う授業には参加し、学生の状況を把握した。主に看護学科の養護教諭志望学生の講義を担った。
③　他学科の学生と発表や討論を行う講義を企画した。
・福祉学科養護教諭志望学生とグループを組み、性に関する保健指導を学生が実施するよう企画した。

・栄養学科栄養教諭志望学生と看護学科養護教諭志望学生で、相互の職務について発表したり討論したりするよう講義を企画した。

④　特別支援学校における養護教諭の職務や子どもたちの実態を学ぶために、特別支援学校へ参観できるよう機会を設定した。

⑤　学校保健研修会に実際に参加させていただき、学生が実際の学校現場の学校保健活動の実践について学ぶ機会を設けた。

授業科目名【教職実践演習】（中・高等学校教諭）

①　教職課程における学び及び実習を振り返らせ、教員になるための課題を考え解決へと結びつけていくための集大成の講義である。外部講師（特別支援教育・地域家庭との連携）を招き、学生の学びを深化させるように機会が設定されている。

②　教職課程担当者全員で指導を行う授業には参加し、学生の状況を把握した。中・高等学校教諭の講義は、主に学生の模擬授業の際に参加した。

③　高等学校看護教諭の模擬授業に関しては、事前の指導案作成に協力した。

授業科目名【事前及び事後の指導】（後期）３年生

①　３年次の事前及び事後の指導の講義は、学生の看護実習（3年次）の終了時期を考慮し計画した。

②　３年後期の実習前の講義は、実習に向けて準備を整えるために、実習前オリエンテーションで現場の教員を講師の調整を図った（現職養護教諭）。

③　実習に向けて意識や実習での実践力を高めるよう、実践的な演習を中心に授業を進めた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本学校保健学会		２００８年5月
日本養護教諭教育学会		２００８年9月
日本健康相談活動学会		２００９年1月
日本教育保健学会		２０１３年3月
日本看護協会		２０１５年
日本看護学教育学会		２０１６年4月

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				
				教育研究業績　総数　(2019.3.31現在) 著　　書 1　(内訳　単0　，共1) 学術論文 4　(内訳　単1　，共3) 翻　　訳 0　(内訳　単0　，共0) 学会発表 8　(内訳　単4　，共4)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）	
教職課程委員会委員	２０１８年4月１日～２０１９年3月３１日
ＦＤ委員	２０１８年4月１日～２０１９年3月３１日
看護学科１・４年アドバイザー	２０１８年4月１日～２０１９年3月３１日
教員免許更新講習コーディネーター	２０１８年4月１日～２０１９年3月３１日

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　井手　裕子	職名　　助　教	学位　　修士(看護学)　(大分大学　2006 年)

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
成人看護学	慢性期看護学 看護教育

研　　究　　課　　題
成人慢性期看護学の教育活動に関して、学生が慢性期にある患者および家族の特徴とその看護を理解するために、学内での演習とそれに連動する臨地実習での指導の在り方について考察する。また、学生に実習で受け持たれた慢性疾患患者と学生との人間関係構築に影響する因子について、受け持ち患者の立場からの調査をして、今後の実習指導の示唆を得る。

担　　当　　授　　業　　科　　目
・基礎看護学実習Ⅰ（後期） ・基礎看護学実習Ⅱ（前期） ・成人・老年看護学演習（前期） ・成人慢性期看護学実習（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ】 ・基礎看護学実習Ⅰ 昨年より新たに実習施設となった病院での２年目の実習担当となった。昨年と同様に、病棟師長や臨床指導者と本学の基礎実習Ⅰのねらいについての共有を図り、学生が効果的な学習支援を受けられように調整することを念頭におきながら、学生の指導に当たった。学生にとっては、初めて自分の患者を受け持ち、看護職という専門職の立場で患者とのコミュニケーションとることになる。慣れない病棟という環境への不安や緊張もある中で、実習の目的達成へ向けて、学生の個別性に応じた指導へつながるよう、学生への声かけなどを通して実習の進捗状況などを把握するように努めた。 ・基礎看護学実習Ⅱ 実習導入時において、個々の学生に対し１年次で履修済みの基礎実習Ⅰでの課題と、それらを達成するためにはどのような実践がもとめられるかを確認し実習に臨ませた。学生によっては、自分の課題が不明瞭な者もいた。通常は３年次の成人看護学を担当しているため、２年次の学生の情報不足の面もあるため、課題不明瞭な学生については、当該科目の担当教員に学生の学習達成状況など尋ねるなどして、学生の把握に努めた。また初めて看護過程の展開を実施する実習であり、看護者として患者を観察すること、療養生活上の看護上の問題点（気がかり）を解決するための看護実践について、基本的知識や技術の定着化を基盤におきながら個別的な援助への工夫にも、目を向けられるよう指導した。 基礎実習といえども、実際の臨床の場面では患者の病状によっては、各論レベルの看護を求められる場合もあるが、そのような場合は学生の学習状況に応じて臨床指導者と連携を図りながら、３年次の学習へつながるように支援を行った。

授業科目名【成人・老年看護学演習】

・紙上患者における看護過程展開において、患者の情報から専門的な知識を用いて科学的に分析するという基本的な指導は勿論のことであるが、各学年ごとの学びは連動していることを意識づけるためにも、2 年次の看護過程論での学びも想起させた。情報を分析する段階では、急性期および慢性期という健康レベルにおける看護の特徴をいかに伝えられるかを念頭におきながら指導を行った。看護の方向性を考える際には、急性期の特徴である術後患者の合併症の予防と早期の回復を目指す視点と、慢性期の特徴である疾患と共に共存しながらＱＯＬを維持する視点を比較しながら口頭で説明した。今年度は演習回数の都合もあり、慢性期は個人ワークとした。大半の学生がパソコン教室を利用しての学びとなった。学習環境の調整など教務課との事前の打ち合わせなどが不十分な面もあり課題となった。

・技術演習

血糖測定・インスリン自己注射の技術では、看護技術の正確な習得のみならず、看護者として慢性疾患患者の自己管理へむけての指導をいかに実施していくかについて、実際での臨床での様子などを口頭で説明しイメージさせた。

糖尿病食事指導の演習においては､患者の個別性に合わせた指導の方向性を考えるという課題達成のため、初めて、ロールプレイによる演習を導入した。1 回の演習であるため、十分にアセスメントしたうえでの指導は実践できないが、後期での実習へ向けての学びにつなげることができた。

術直後の援助の演習においては、学生はパター――ン化された看護を実践する傾向にあるため、実際の臨床で遭遇しそうな場面などを話し、に陥る単に身体的な援助にとどまらず、精神面での看護の必要性も口頭で指導した。

授業科目名【成人慢性期看護学実習】

・上記の演習において慢性期の看護の特徴をいかに理解させるかということを重要視し、昨年度に引き続き実習事前学習において、糖尿病患者の闘病記を読んで学生個々がとらえた患者および家族の特性やその看護についてレポート提出を求めた。また前期の慢性期の看護過程演習で個人ワークのみの実施となり、優先順位１位の看護診断のみ展開となっていたため、２位の看護診断も展開についても課題とした。複数個の診断の計画立案を実施させたことにより、個々の学生の陥りやすい問題点なども事前に把握しやすくなり、実習での指導に役立たせることができた。

・療養生活が長期にわたり、尚且つはっきりしない病態へのもどかしさを抱える慢性期疾患患者および家族の精神的苦悩に少しでも共感できるよう、学生と共にベッドサイドへ行き、タッチングなどの技術を通して患者との援助的人間関係を成立させるよう工夫した。

・病棟のみの実習では、継続看護についてイメージできないことも多いので、学生を患者会や外来などへも積極的に参加できるよう指導者との調整を密に行った。

・病棟での学生への指導のばらつきが生じないように、実習指導者との調整を密に行った。、

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
聖路加看護学会		1996 年　4 月
日本看護研究学会		1996 年　6 月
日本看護学教育学会		1998 年　4 月
日本看護診断学会		1998 年　6 月
日本糖尿病教育・看護学会		2003 年　8 月
日本看護科学学会		2008 年 10 月
日本慢性期看護学会		2017 年　7 月

２０１６年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学び	共	2018.　9	日本看護学会ヘルスプロモーション学術集会（於：岡山）	①子育て世代の母親に対して乳がん検診・自己検診法の啓発活動を行った看護学生に対し、啓発活動後にインタビューを行い、その学についてまとめた。 ②吉原悦子、古賀玉緒、穴田和子 山田恵、前田幸、笹月桃子 久保田千景

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
＜３年生アドバイザー＞ ① 個別面接の実施 年度初めに担当する 28 名の学生の個別面接を実施した。面接では、2 年次までの学習における課題や後期から始まる長期にわたる各論実習への目標などを学生と共に確認し、前期で見直す内容について方向性を見出せるよう指導した。また、必要時個々の学生に応じて問題解決に向けて適宜面接を実施した。 ② 保護者会の企画・実施 本年度は、2 年生と合同の保護者会を実施した。就職に関しては、就職情報専門業者および就職課からの話題提供の機会を設けた。終了後のアンケート結果では、９割以上の保護者が「適当」と回答し、関心の高さも伺えた。 ③ 学習支援（模擬試験実施を含む） 年度初めの個別面接の折に、ポートフォリオの作成を促し後期から開始される実習での自己学習を綴じるなど、4 年次の国家試験の学習へつながるように指導した。また、各領域での夏季休暇中の課題について、それらの学習計画を整理し長期にわたる実習期間において効果的な学習がすすむように、「領域別実習事前計画書」を作成し、学生に記入させ、各アドバイザー毎で事前チェックを行った。 3 月には４年次進級前の業者模試を実施した。実習期間内である学生もおり、数日に分けて実施した。 結果は、4 年次の各ゼミ担当教員に渡し、国家試験対策に役立ててもらうこととした。

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　伊藤直子	職名　　教授	学位　　学士（社会学）（佛教大学　1996 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学　地域看護	公衆衛生看護　介護保険　地域包括ケア

研　究　課　題
行政における看護職である保健師の機能と役割について考察する。また、それらの機能を学ぶための学士課程実習での教育方法を検討する。 地域包括ケアシステムにおける看護職の機能について検討する。

担　当　授　業　科　目
公衆衛生看護学概論（後期）必修　15/15 コマ 疫学演習（後期）選択　15/15 健康危機管理論（後期）必修　8/8 公衆衛生看護管理演習（後期）選択　15/15 公衆衛生看護学実習（通年）選択 看護総合演習（通年）15/15 看護総合実習（通年） 地域母子保健（前期）（助産別科）8/15

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　公衆衛生看護学概論　】 「公衆衛生看護学概論」では、2018年度より1年生後期科目となった。初年次の学生に地域で看護を実践する視点の基盤を養成するための授業内容に一部変更した。また、保健師選択をしたいという漠然とした希望をもっている学生が、学年進行とともにキャリアデザインを描けるよう保健師活動に対する具体的な活動を盛り込む講義内容を加えた。毎時の授業コメントから学生の理解状況を判断し、次の授業で補足及び修正を図っていきながら、学生とのコミュニケーションに努めた。
授業科目名【　疫学演習　】 「疫学演習」では、保健師課程選択の科目である。演習のため、1単位であるが30時間の授業内容である。 疫学・保健統計で学習した内容を、さらに、保健師が遭遇する事象で具体化した教材を作成し、単元毎に、予習での基礎知識の準備→実際の事例を取り入れた演習→復習を展開した。 授業展開について、教材事例の検討を毎年度実施し、新人保健師が遭遇する事例を精選し、思考判断の醸成に努めている。保健師として問題解決していく充実感を味わえるような工夫を行なっている。保健統計に苦手意識を持っている学生も理解できるよう、授業時間外においても希望する学生には補習を実施した。

授業科目名【　健康危機管理論　】
「健康危機管論」では、健康危機管理の概念と日本における健康危機管理の社会システムを解説し、このような事態に対する看護職の果たす役割について考える必修科目である。
教材は、災害が多い昨今では、学生も身近に遭遇することを意識できるよう、日本における事例および世界の事例のできるだけ直近の内容を取り上げている。また、現実的な健康危機を学生たちが感じるための工夫として、DVD や写真等多く取り入れた教材により、看護職としての対応について考えを求めながら授業を展開した。授業のコメントカードに寄せられるコメントから昨今の日本における災害および感染症事例の関心が高く、受講開始は市民感覚としての意見から終了時点では看護師としての使命や責任についてのコメントが数多くみられ、学生自身も学修の意義や成果を実感している。

授業科目名【　公衆衛生看護学実習　】
「公衆衛生看護学実習」は、実習期間が５週間と長いため、学生の学習意欲が持続できるよう教員間の情報交換を密に行いながら、教育支援を行った。また、実習指導者および施設と教員間の共有も有効に機能し、学生の教育支援が効果的に運営された。従来と同様に、学生個々の学修状況の違いに即応した実習対応が実施され、、全員の学生が到達レベルに達成することができた。
　また、今年度も実習の成果指標である、保健師国家試験結果は、残念ながら１名の不合格者を出したが、概ね保健師選択学生の学修成果は評価できる。

授業科目名【　看護総合演習　】【　看護総合実習　】
「看護総合演習」「看護総合実習」は４年生が最終的な看護の統合として、自身が自ら演習及び実習領域を選択する科目として位置づけられている。公衆衛生看護領域である産業保健における保健師活動について、演習・実習を行い、就労者およびその家族における健康管理の現状および課題について、議論を進めていった。加えて、2018 年度から行政機関の２か所から協力を得ることができ、行政保健師就職希望学生がさらに行政の課題解決に向けた実習を看護総合実習で展開することができた。今年度も受講した学生は、公衆衛生看護学実習において学習した生活エリアの現状から就労者の健康支援が結びつき、これからの包括的な健康管理のあり方に対して、道筋が明確になり、満足度や充実感が高い実習であったと評価している。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員	訪問看護委員会副委員長 （1996 年４月～1997 年３月） 訪問看護委員会委員長 （1997 年４月～1998 年３月） 介護支援専門員支援委員会委員長 （1997 年４月～2004 年３月） 認定看護管理者研修委員会委員 （2001 年４月～2006 年３月） 介護保険関連委員会委員長 （2004 年４月～2006 年３月） 第 46 回日本看護学会－看護管理―学術集会抄録選考委員（2014 年 3 月～2014 年９月） 消費税対応検討委員会委員長 （2015 年 11 月～2016 年７月）	1977 年４月～現在に至る
日本公衆衛生学会		1979 年４月～現在に至る
日本地域看護学会		1999 年４月～現在に至る
日本在宅ケア学会		2000 年９月～現在に至る
日本保健医療社会学会		2002 年４月～現在に至る
日本病院管理学会		2002 年９月～現在に至る

日本高齢者虐待防止学会 日本看護教育学会 日本健康教育学会 日本看護研究学会 日本看護科学学会 日本臨床救急医学会		2003年8月～現在に至る 2003年2月～現在に至る 2005年6月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2011年8月～2016年3月

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(その他)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
九州における産業看護職が担う保健活動の質向上のための支援の在り方	保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○鹿毛美香 伊藤直子 (住徳松子) (日笠理恵)	232,000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

福岡県介護保険審査会	専門調査員	2007 年 7 月～現在に至る
北九州市社会福祉法人等審査会	委員	2012 年 4 月～現在に至る
大分県地方独立行政法人評価委員会	委員	2012 年 6 月～現在に至る
日本私立看護系大学協会	理事（業務執行理事）	2013 年 7 月～2018 年 7 月
粕屋町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定協議会	委員	2005 年 4 月～現在に至る
粕屋町地域包括支援センター・地域密着型介護サービス運営協議会	委員	2007 年 4 月～現在に至る
北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議調整会議	構成員	2012 年 4 月～現在に至る
北九州市高齢者支援と介護の質の向上介護予防・高齢者活躍推進に関する会議	代表	2013 年 4 月～現在に至る
北九州市健康づくり推進プランの推進にかかる意見交換会	構成員	2014 年 2 月～現在に至る
北九州市認知症施策推進会議（北九州市オレンジ会議）	構成員	2013 年 4 月～現在に至る
全国保健師教育機関協議会	社員	2015 年 4 月～現在に至る
福岡県総合計画審議会	委員	2016 年 7 月～現在に至る
行橋市地域保健計画策定委員会	委員	2017 年 12 月～2018 年 2 月 24 日
行橋市地域保健計画推進委員会	委員	2018 年 2 月 25 日～現在に至る
第６回北九州市健康づくり活動表彰選考	審査員	2018 年 10 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学校法人西南女学院　評議員　　2005 年 4 月～現在に至る 西南女学院大学　教務部長　　2013 年 4 月～現在に至る ・教務委員会　委員長 ・教務人間科学小委員会　委員 ・教職課程委員会　委員 ・教員免許状更新講習会　委員 ・大学点検評価改善会議 FD 部門　部門長 ・教育の質保証プロジェクト会議　代表 ・教学マネジメント検討会　構成員 ・3 部門会議（教務部・学生部・入試部）　構成員 ・教学ＩＲ推進室　構成員

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　大嶋　満須美	職名　教授	学位　　修士（健康福祉学）山口県立大学

研　究　分　野	研究内容のキーワード
慢性期看護 看護管理	慢性期、受容過程、家族 組織、人材育成

研　究　課　題
慢性的疾患を抱えた患者・家族の疾病の受容と看護

担　当　授　業　科　目
成人・老年看護学概論　(前期) 成人・老年看護学演習　(前期) 緩和・終末期看護　(前期) 保健福祉学入門　(前期) 看護マネジメント論　(前期) 成人慢性期看護方法論　(後期) 成人慢性期看護学実習　(通年) 看護総合実習　(前期) 看護総合演習　(前期) 看護研究演習　(後期)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　成人・老年看護学概論　】 成人期の位置づけを明確化するとともに、生活者としての看護の対象を健康の側面から理解できるように統計資料を用いて教授した。社会環境が大きく変化する中で、学生の成長発達と関連づけ、発問をしながら進めた。毎回、学生の気づきや感想を記入してもらい、内容のフィードバックに努めた。
授業科目名【　緩和・終末期看護　】 学生にとって「死」は非日常であり、自ら考えることはあまりない。がんの罹患による健康障害や、終末期のありようについて健康観や死生観を深めていけるよう問いかけを行った。そして看護者として人々の尊厳とQOL の視点を持ち、かかわることの意義について教授した。
授業科目名【　成人慢性期看護方法論　】 既習の知識や、基礎看護学実習、成人看護学概論を基盤に、系統別看護として健康障害とアセスメントの視点について強調し、形態機能や疾患の理解に結び付けながら解説、対象への看護について解説した。
授業科目名【　成人・老年看護学演習　】 臨地実習の前段階として看護実践の基盤となる看護過程の思考を深め、看護実践能力を育成するため模擬患者による演習と、看護技術が安全にできるように 30 コマを展開した。進行状況を確認しながら解説を行い、グループワークと個人ワークを組み合わせ、個別にも配慮し関わった。毎回、教員間で、進捗状況や方向性について情報共有を行い、課題や到達度について協議した。
授業科目名【　成人慢性期看護学実習　】 既習の学習内容を資源とし、受け持ち事例を中心に、慢性疾患の病態理解と看護の方向性について、アセスメントの視点を重要視し看護過程の展開が出来るよう指導した。また、臨床指導者との連携を図り、慢

性疾患の自己管理や継続看護の重要性についても機会をとらえ伝えた。個別性のある看護実践について実習グループ間で学びの共有が出来る場の設定を行った。実習終了後は個別面接を行い、自己の学習課題の明確化を図った。また、そのことを教員間で確認をした。

授業科目名【　看護総合実習:　成人慢性期・終末期　】
　社会に出る前の学生として
学生の主体性と看護の洞察が深まるよう臨地の指導者と調整を図りながら展開した。テーマと実習展開の具体的方法の決定に時間をかけ、実践計画の立案において自らが取り組む実習内容の確認を行った。また、看護職への将来展望を視野に入れ、複数の事例を体験し時間管理や多職種による連携、看護管理についても組み入れた。

授業科目名【　　看護総合演習　　】
　看護総合実習前後の演習として位置づけられ、関心のあるテーマや自己の課題について主体的に取り組めるよう個別に関わった。学生が取り組もうとしている課題に向き合い、個別の時間を設け、学生の言葉にある背景やそれぞれの現象を概念化し、学生とプロセスを共有する中で看護観や死生観が深まるよう助言した。また、グループメンバーによる学びの機会を設け、類似性や新たな視点について学びを共有した。

授業科目名【　　看護研究演習　　】
　既習の知識・技術・理論および臨地実習の経験をもとに自ら看護に関する研究テーマを設定する。また文献検討をはじめ一連の研究活動の基本を学ぶ選択科目である。
本年度選択履修者はいなかった。

授業科目名【　　保健福祉学入門　　】
　履修学生は学部 3 学科(看護・福祉・栄養)の 1 年生である。入門編として保健・医療・福祉の専門性と多職種連携の意義を理解し、社会の期待にこたえるための課題への認識を深めて行くものである。合同講義を通じ、他領域を知り、理解することにより、より広く現象を捉えることができること、また自身の専門性における課題が明確になるよう毎回ミニレポートの提出を行った。レポート内容にコメントを加え学生の疑問にも具体的に答えていった。

授業科目名【　　看護マネジメント論　　】
　看護総合実習において「看護管理」をテーマとする学生が選択科目として受講していることから、マネジメントの本質を確認しながら、学生の学習のニーズに対応した。「管理」は看護管理者が行うものという認識が強いため、組織やチーム、また経営的な側面についても再度確認し、「看護の質」と管理、看護実践者としてのサービス提供の在り方について助言した。また、保健医療福祉の動向と求められる看護師や看護政策について教授することにより、今後、自身の専門職としての在り方を意識化できるように問いかけた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会 日本家族看護学会		1975 年～　現在 1997 年～　現在

２　０　１　８年度　　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
乳房切除術を受けた患者の就労に対する支援ニーズの検討	西南女学院大学	○髙橋甲枝 大嶋満須美 笹月桃子 （後藤元子）	307,600 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
財団法人　佐波共済会	評議員	2017 年 5 月～　現在
山口県立大学	非常勤講師	2014 年 4 月～　現在
福岡県看護協会	地区支部 施設会員代表者	2018 年 4 月～　現在
日本私立看護系大学協議会	施設代表者	2018 年 4 月～　現在
日本看護系大学協議会	施設代表者	2018 年 4 月～　現在

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）

・看護学科　学科長　　(2018 年 4 月～　現在)
　　運営会議、入学試験会議、点検評価改善会議、学生総合支援室会議の構成員
　　学科会議
・看護キャリア支援センター長　　(2018 年 4 月～　現在)
　　認定看護管理者教育課程　講師
　　ファーストレベル講師　(2018 年 7 月 28 日)
　　セカンドレベル　講師　(2018 年　10 月 12 日・11 月 2 日)
　　認定教育課程検討委員長　　(2018 年 4 月～現在)
　　認定教育課程運営委員長　　(2018 年 4 月～現在)
・高大連携講座　(2018 年 11 月 1 日)
・高校訪問模擬授業　山口県立長府高等学校（2018 年 9 月 20 日）
・国家試験対策講義　成人慢性期看護学領域　(2019 年 1 月 29 日)

※　2016 年度様式から、学部長による評価・改善記入（助手については、学科長による評価・改善記入）は行われません。

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　小田日出子	職名　　教授	学位　修士（法律学）（九州国際大学 1998 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
基礎看護学，基礎看護技術	社会人基礎力育成，潜在的カリキュラム

研　　究　　課　　題
看護技術教育に関する研究（シミュレーション教育） 大学生の社会人基礎力の向上と主体性の育成に関する研究

担　　当　　授　　業　　科　　目
看護技術論（→早期看護実習のみ）（1 年前期） 生活援助技術論演習（1 年後期） フィジカルアセスメント技術演習（1 年後期） 診療関連技術論（→「吸引」実技試験の実技試験監督及び評価）（2 年前期） 看護過程論（2 年前期） 基礎看護学実習Ⅰ(1 年後期)，基礎看護学実習Ⅱ（2 年前期） 看護総合演習（4 年前期・後期） 看護総合実習（4 年前期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【 看護技術論（→主に早期看護実習の企画・実施・振り返りを担当）】

・看護技術論の履修者は新 1 年生 110 名＋再履修者 3 名の計 113 名であった.

・2018 年度入学生 110 名を対象に，看護の“Early exposure”として看護技術論に位置づける 2 日間の早期看護実習について，今年度は，3 病院（JCHO 九州病院・小倉記念病院・製鉄記念八幡病院）の見学実習を企画・実施した．なお，再履修者 3 名については，既に昨年度「早期看護実習」修了のため，別途，「課題レポート」を課し，期間内に提出を求めることとした.

・本実習のねらいは，病院で療養生活を送る人々を対象に，そこでの看護について，看護師の“Shadowing”を通して臨床看護の役割・機能、看護活動の実際を理解すること，加えて，看護学生であることへの自覚を高め，今後の学習への意欲向上を図ることにある.

・学生 110 名のうち，JCHO 九州病院で実習に臨む 10 グループ 56 名を担当し，早期看護実習を行った．実習前 1 週間，臨地実習を効果的に進めるためのチーム作りを兼ねて，学生の学習動機の高揚や主体的学習行動を促すために，実習グループ毎に課題学習に取り組ませ，メンバー間で討議する機会を設けた．事後の学習成果発表に向けても，担当した 10 グループについては，基礎看護学領域助手 1 名とともに，プレゼンに向けて，きめ細かな助言と指導を行った.

・実習後の成果発表では，実習施設毎，各グループが準備・作成したスライドによる発表が，3 分間の持ち時間を効果的に使いながら行われた．事前学習で共有した実習目標を基に，それぞれ各病院・病棟の特性を捉えた内容が発表されていた．発表後も，それぞれの気づきや発見を基に盛んに意見交換がなされ，学生のそうした在り様やレポート内容から，1 年生全体の主体的・積極的な学びの姿勢を垣間見る機会となった．実習後の学生の学びの姿勢からも，看護の“Early exposure”としての本実習の効果はあったと考える.

・次年度も今年度と同様の形式・内容で，早期看護実習を企画・実施したい.

授業科目名【　看護過程論　】

・学生115名を対象に，講義・グループワークを組み合わせた授業を展開した.
・看護学科LMS（kaname.net）を活用し，毎回の学習目標と授業内容及び授業進行を提示，授業のイメージ化を図るとともに，講義とグループ学習活動を効果的に組み合わせながら，学生の主体的学修を支援した.
・講義はグループワークの進度と連動させ，ワークの学習到達目標と照らして，適時，実施した.
・講義には視聴覚教材（パワーポイント，VTR等）を活用した．講義資料をはじめ，使用する教材は全て事前にkaname.netにupし，授業中の資料配布は一切行わず，学生個々の責任で授業準備を整えるようにした.
・グループワークへの支援は，基礎看護学分野の教員4名と助手3名の計7名で行った．教員1＋助手1の2人体制を基本に，学生4〜5名のグループを8グループずつ担当し，チューター役割を果たした.
・学習支援体制の充実を図るため，グループを751講義室にまとめ，随時，教員間の情報交換を行いながら，指導の標準化に努めた.
・全24グループについて，意図的にグループ間でディスカッションする機会を設け，意見交換を促した．グループ間で相互に刺激し合うことにより，学習へのモチベーションが高まり，最後までよい意味での緊張感を維持した積極的なグループワークが展開できるように配慮した.
・グループワークの振り返りに観点別評価シートを用い，学生が自身の学習活動を客観視するとともに，目標達成状況を確認できるようにした．ねらいは，シートの記載 →教員の助言 →助言を受けての修正を繰り返すなかでの思考の深化にあったが，毎回の振り返りを返す者と返さない者とに分かれ，期待したほどの成果は得られなかったように思う．次年度については，シート記載の方法を見直したい.
・例年同様，グループ間の学習成果の共有を目的に，各グループが導き出した援助技術の実際をロールプレイングで発表したが，これも前述の振り返りと同様，熱心かつ積極的に取り組むグループ/そうでないグループ，根拠に基づく援助技術の実践がなされるグループ/そうでないグループと，取り組みにはグループ差が大きかった．事後の質疑応答は比較的活発であった.
・当該科目の達成度評価は，筆記(50%)，個人学習/課題レポート(20%)，グループワーク成果（10%)，学習貢献度(20%)による総合評価とした.

履修の結果，クラス平均は72.4点（最高90点,最低51点）と，昨年度と大差なかった．評価の内訳は，秀 2名，優 20名，良 51名，可38名，不可4名(うち1名は途中休学)で，再試験該当者3名に対しては，筆記による再試験を実施，結果は2名合格，1名が再履修で，学生115名中113名が当該科目の履修を修了した.

上述のとおり，演習を中心に様々に工夫して臨んだ（つもりの）授業であったにも関わらず，今年度，学生による主観評価は，かなり批判的な意見が多く，例年と大きく異なり，正直，困惑している．具体的には「教員によって言うことが違う」「教員によって質問した際の返答がバラバラ，意見統一してほしい」「教員によってグループワークの進み方が違いすぎて困る」「グループ内でやる人/やらない人がいる」「4 人グループの個人負担が大きい」「グループで参加する人/しない人がいる中で，グループとして評価されるのが悔しい」等々、学生からは，本授業に対する肯定的意見は殆どなく，辛辣な評価であった．科目の主担当者としては驚きの事態であり，なぜこの反応だったかについては，基礎看護学分野を担当する教員・助手間で謙虚に振り返らなければならないと考えている.

総合評価としての成績結果からは，当該科目で「学生が達成すべき目標」は「概ね達成できた」と考えるが，学生の指摘にある教員間の意思疎通の不十分さ，指導内容の統一性の不足，グループ編成方法の再考など，残された課題は多い．学生の主体的学修を促そうとの教員側の意図・試みは全くもって機能しなかったし，学生の意欲・関心という点についても非効果的であった．唯一，看護学科LMS（kaname.net）の利用数が向上した点のみが評価できる.

授業科目名【　生活援助技術論　】

・学生105名(→前期；退学者1名，休学者2名，後期；休学者2名あり5名減)を対象に，生活援助技術のうちの「清潔」単元を講義・演習合せて10コマ（20時間)，「栄養」単元を講義・演習合せて6コマ（12時間）担当し，DVDによる看護技術の反転学習，講義，演習，最後に学生によるパフォーマンスの流れで授業を行った.
・看護の基本技術習得のための学生支援策として，自作「看護技術手順書」に基づく看護学科LMS（Kaname.net）への教材(DVD等)提示を継続し，学生にその活用を奨励，技術習得に向けた自主学修の強化を図った.
・授業後は，知識の整理と蓄積を目的にポートフォリオの作成を促した．また，一定期間を置いた後の「おさら

いテスト」(1)～(5)を準備し，ケア技術のエビデンスとなる知識の定着を図った．

・「清潔」ケア技術の演習は，昨年同様の方法で実施した．使用する物品量の多さ，演習の場と時間確保の難しさ，演習前日からの大掛かりな準備，演習後の片付けなど，例年のことながら，最も大変な演習と言える．加えて，1 技術項目をクラス全員で演習すること自体が困難なため，今年度も，「清潔」単元で取り上げる 4 技術項目を，クラス全体での演習が可能な「寝衣交換」「洗髪」と 2 クラスに分かれて行わざるを得ない「全身清拭」「足浴」に分けて企画・実施した．2 クラスに分かれる技術項目（全身清拭，足浴）については，物品準備等に要する時間と関係者の負担軽減を図り，クラス全体の技術習得度を高めるために，時間をおかず演習できるように，当該科目とヘルスアセスメントとを組み合わせた時間割上の工夫を行った．

・生活援助技術としての技術到達度を測る「導尿」の実技本試験には，試験監督者として参加した(3 コマ，6 時間)．所定の「技術評価表」に則り，担当学生の技術到達度を評価した．評価後は全体調整会議に加わり，評価の妥当性・公平性を担保した．「導尿」実技試験の合格者は 64(90)/105(114)名で，合格率 60.9(78.9)％と前年度を 2 割近く下回っていた．不合格者 41(24)名中 37(24)名は，後日実施した実技再試験に合格できたが，4(0)名は実技再試験も不合格であった．再試験不合格の 4 名については，技術を再指導した後，実技の再々試験を実施し，各人の技術習熟度を担保した．　※( )内は前年度の人数)．

期末（筆記）試験では，担当した清潔単元の問題（全体の 4 割分）を作成・出題した．最終的に，筆記(60%)，実技(25%)，演習課題/ポートフォリオ及び学習貢献度(15%)で総合評価した結果，105 名中 104 名が当該科目の履修を修了，1 名が次年度再履修となった．

授業科目名【　フィジカルアセスメント技術演習　】

1. 1 年次後期，学生 108 名(1 年次生 105 名＋再履修者 3 名)を対象に，観察技術としてのバイタルサイン測定技術，呼吸･循環器系，消化器系（腹部），感覚器･神経系，筋・骨格系（運動）のフィジカルアセスメントに必要な身体診査技術の習得を目標に，講義・デモンストレーション・技術演習の一連の流れで展開した．
2. 1 単位 30 時間(2 コマ 8 回)に納めるには，かなりボリュームのある内容であり，加えて，バイタルサイン測定技術は実技試験を行うため，学生にとってはハードな科目と言える．
3. 自作の「技術手順書」をもとに，教員によるデモンストレーションの他，看護学科 LMS（Kaname.net）を積極的に活用し，看護技術習得のための学生の自主学習を支援した．
4. 100 名を超える学生に看護基本技術を確実に習得させることは容易なことではない．特に，バイタルサイン測定技術については実技試験を伴うため，昨年同様，4 年次の「看護総合演習(看護管理)」とリンクさせ，当該ゼミ学生 11 名に SA として演習時の技術指導に参加してもらった．1 年生は，日頃，関わる機会の少ない 4 年生に直接指導を受けることで，バイタルサイン測定技術の習得への関心・意欲が高まり，演習への積極的な取り組みにつながっていた．先輩-後輩としての学生間の関係性と相互作用を期待しての依頼であったが，1，4 年生の双方にプラス効果がもたらされていた．具体的には，1 年生は学習意欲の向上と技術習得に向けた積極的な演習への取り組みとして，4 年生は根拠に基づく看護基本技術の振り返りと看護師国家試験(必修問題　目標Ⅳ)に頻出する基礎的知識の見直しと定着化に，それぞれ有効な学習機会となっていた．
5. 実技試験によりスクリーニング技術（バイタルサイン測定技術）の技術習熟度を確認した．科目責任者として，当該実技試験の企画・準備・運営に当たった．実技試験の結果は，受験者 108(114)名中，本試合格者 88(87)名，不合格者 19(27)名で，合格者は全体の 81.5(76.3)％で昨年度を 5.2 ポイント上回り，概ね 8 割の学生がバイタルサイン測定技術を習得できた．本試不合格者 20 名については，後日，同一課題による再試験を実施，15(24)名を合格，5(3)名を不合格とした．不合格者 5 名のうち，1 名は実技本試験，筆記試験共に受験放棄が続き，2018 年度 3 月末をもって退学となった．残り 4 名については，臨地実習中のスクリーニングに不可欠のバイタルサイン測定技術を確実に習得させるために，再度，科目責任者による個別指導・技術チェックを実施し，2 月末の「基礎看護学実習Ⅰ」に備えた．(※( )内は前年度の人数)

筆記試験のクラス平均は 60 点満点中 42.2(37.4)点（最高 55.2(53.4)点，最低 29.4(21)点）で昨年度を 4.8 ポイント上回った．総合評価は筆記(60%)，実技(25%)，レポート及び学習貢献度(15%)で行うが，総合評価のクラス平均は 76.6 点（最高 95 点,最低 42 点)，成績の内訳は，秀 4 名，優 50 名，良 39 名，可 10 名，不可 4 名であった．不可＝再試験該当者 4 名には筆記(100 点満点)による再試験を実施，その結果，3 名は再試験に合格して履修を修了，残り 1 名は不合格のため，次年度再履修となった．　(※( )内は前年度の人数)

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学教育学会		1998年 7月～現在に至る
日本看護科学学会		1998年12月～現在に至る
九州看護理論研究会		1999年 4月～現在に至る
日本看護診断学会		1999年 6月～現在に至る
日本看護技術学会		2007年12月～現在に至る
日本看護倫理学会		2009年 6月～現在に至る
日本がん看護学会		2009年12月～現在に至る
日本看護管理学会		2012年10月～現在に至る

２０１６年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） 1.西南女学院大学生のキャンパスニーズに関する調査	共	2019年3月	西南女学院大学紀要 2019　VOL.23	① 西南女学院大学・大学短期大学部では，将来，専門職となる人材を育成している．専門職間の連携・協働の基盤となる社会人基礎力を強化するべく，学生の主体的学びを促すための環境づくりに必要な基礎資料を得る目的で，キャンパスニーズ調査を実施した．結果から，全体6割の学生がキャンパスに満足していること，正課外学習に注力している学生は 1 割にすぎないこと，教職員との交流機会を望む声があることが確認された． ② 共同研究者：上村眞生，小田日出子，天本理恵，塚本美紀，高橋幸夫，篠木賢一 ③ P.47-60
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
・社会人基礎力養成のための「意図的な Hidden Curriculum(潜在的カリキュラム）」構築に関する研究	西南女学院大学保健福祉学部付属保健福祉学研究所	○上村　眞生 小田日出子 天本　理恵 塚本　美紀 篠木　賢一 伊藤　直子 八尋　春海 小川　　尚 三宅　利佳	1,388,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
・日本看護協会/福岡県看護協会	会員	2005 年 4 月～現在に至る
・西南女学院大学認定看護師教育課程	認定看護師教育課程検討委員	2016 年 4 月 1 日～現在に至る
・門司掖済会病院看護部看護研究指導	講師	2016 年 5 月 11 日～現在に至る
① 第 1 回：研究計画書の作成		2018 年 5 月 25 日
② 第 2 回：質問紙調査，質問紙の作成		2018 年 6 月 29 日
③ 第 3 回：データ分析，最終指導		2018 年 11 月 28 日
④ 第 4 回：院内研究発表		2019 年 3 月 16 日
・西南女学院大学認定看護管理者教育課程ファーストレベル	「討議法」オリエンテーション講師(1 時間)	2018 年 6 月 22 日
	「討議法」講師(3 時間)	2018 年 7 月 21 日
	「看護専門職論－看護関連法規」講師(6 時間)	2018 年 8 月 21 日
	「看護サービス提供論－問題解決法」講師(6 時間)	2018 年 9 月 8 日
・独立行政法人地域医療機能推進機構九州地区事務所主催：新任看護師長及び新任副看護師長研修	「ファシリテーションに関する基礎知識」講師	2018 年 7 月 4 日，2018 年 9 月 12 日
・北九州市国民健康保険窓口業務委託業者選定委員会	選考委員	2018 年 8 月 1 日

・北九州市国民健康保険運営協議会 ① 平成 30 年度第 1 回北九州市国民健康保険運営協議会 ② 平成 30 年度第 2 回北九州市国民健康保険運営協議会	副会長	委嘱期間(継続)：2018 年 9 月 1 日～2020 年 8 月 31 日(継続)， 2012 年 2 月～現在に至る 2018 年 8 月 24 日 2019 年 2 月 18 日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
【大学委員会】 ● 2018.4.1～2019.3.31　看護学科入学試験委員 ✓ 大学委員会のうち「入学試験会議」に属し，看護学科入試委員として， 看護学科長とともに，2019 年度入学試験に関する事項（入学者選抜要項の検討，入学試験実施に関する事項，入学者選抜方法に関する事項，入学者の選抜に関する事項等）の審議に加わり，入学試験の円滑な実施に向けて自身に課せられた業務・役割を遂行した. ✓ 一般入学試験（前期）の折，主任監督者として地方会場(山口)に出向，入学試験全般の業務を支障なく遂行した. ✓ 助産別科一般入学試験に関して，依頼された業務(入学試験問題作成，推薦入試時面接試験官)を忠実に遂行した. ● 2016.4.1～現在に至る　学び場プロジェクト委員 ✓ 2016 年度より，旧 FD 研修企画委員会メンバー（5 名）のうち，上村眞生准教授（福祉学科）を中心に，教・職・学合同の全学的な取り組みとして，「学びの拠点づくり」プロジェクトの活動を継続して行っている. ✓ 教員集団としては，本学共同研究費の助成を受けた「社会人基礎力養成のための『意図的な Hidden Curriculum（潜在的カリキュラム)』構築に関する研究」に継続して取り組んでいる. ✓ 2018 年度「意図的な Hidden Curriculum（潜在的カリキュラム)」，通称「要カリキュラム」の構築に向けて，西南女学院生自主活動グループ STEP UP の学生（3 学部 8 学科，現在 29 名）を中心に，2016 年度後期より「要カリキュラム」実行に必要な学内環境の整備と充実を図るための「西南女学院生のキャンパスニーズに関する実態調査」の質問紙の作成に取り掛かり，2017 年前期に倫理審査を受審した後，2017 年度後期に全学的に各学部・学科の 1～3 年生を対象に，質問紙調査を実施した．本調査の結果のまとめと考察は，2017 年 12 月に開催された Q-Links の場で報告した．さらに，2019 年 3 月発行の西南女学院大学紀要に紙上発表した. ✓ 2018 年 4 月，西南女学院生自主活動グループ STEP UP の活動の拠点となる 1 号館 11A，通称「WEST:Women’s Empowerment Station」が開設．オープニングセレモニー開催後，いよいよ学生有志約 40 名による自治活動がスタートした．施設運営の在り方について，事務方関係部署(教務課，学生課，等)と打ち合わせの機会を持ち，今後の運営方針を確認した. ✓ 開設後初めての試みとして，看護学科，福祉学科の新一年生を対象に，先輩学生による「履修指導支援」を企画・実施した．教務課との連携を図りながらの実施であったが，開催日の参加学生数は延べ 100 人を超え，初回にしては上々の取り組みとなった．次年度もさらに充実した支援が行えるよう工夫していきたい. ✓ 大学祭では，学生発案の「メーク教室」を企画．プロのメイクアップアーティストにボランティアとして参加いただき，多数の申し込みの中，30 名づつ複数回の教室を開催することができた．参加した学生にも大変好評であった. 【学科役割】 ● 2016 年度より，看護学科入学試験委員を継続して担当している．また，2 年生アドバイザー責任者，認定看護師教育課程検討委員及び助産別科一般入学試験関連業務等，学科で与えられた役割は誠実に遂行した.

※　2016 年度様式から、学部長による評価・改善記入（助手については、学科長による評価・改善記入）は行われません。

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　小野　正子	職名　　准教授	学位　修士（看護学）（Oregon Health Sciences University 2002 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
小児看護学	小児　慢性疾患　　看護用語（臨床）

研　究　課　題
慢性疾患をもつ小児およびその家族の看護について考察する。 小児看護学の教育方法について考察する。 臨床で使用する看護の言葉について考察する。

担　当　授　業　科　目
小児看護学概論（前期）　必須 小児看護方法論（後期）　必須 小児看護学演習（前期）　必須 緩和・終末期看護学（前期）　必須 小児看護学実習（通年）必須 看護総合演習（通年）必須 看護総合実習（通年）必須 子どもの保健Ⅰ（通年）福祉学科　必須 子どもの保健Ⅱ（前期）福祉学科　必須 助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児）（前期）（助産別科）必須

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　小児看護学概論　】 小児看護の対象となる子どもや家族の理解を科目目標の大きな柱としている。少子化の時代で、なか子どもを観察したり子どもと遊ぶ機会の少ない学生に出来るだけ子どもをイメージしやすいようにビデオやDの視聴覚教材を活用した。また、実際の社会の中での子どもがおかれている状況を、子どもの健康という視点られるよう、雑誌・記事の中から探させ、グループ討議を行い自分の考えを発表する機会を設けた。
授業科目名【　小児看護方法論　】 この科目は、健康障害をもった子どもの看護の考え方、方法を理解できるよう，1 年次から学んできた形態機能を復習しながら授業を進めた。また健康障害をもった子どもをイメージしやすいように、ビデオや写真、実物などを見せること等で、学生が理解しやすいよう工夫した。
授業科目名【　小児看護学演習　】 演習では、実習前ということで実習で活用できるよう事例検討と技術演習を中心に行った。事例検討では、乳児、幼児期の各発達段階の子どもを対象として、臨地実習で学生が遭遇することの多い症例（国家試験にもよく出題される疾患）を用いて看護過程の展開を行った。また、全員がグループワークに参加するように少人数によるグループワークで進めることにした。昨年度までは、授業が始まったらすぐにグループワークが始められるように、春休みの課題として事前学習を出して基本的知識を復習しておくようにしたが、今年度からは、できるだけ学期内で工夫をして進めるようにした。はじめに全員で事例の見方、アセスメントの仕方を一通り確認した後、グループワークのメンバーで次の事例を考えていくようにした。また、グループファイルを提出し、その都度コメントを返しながら指導を行った。技術演習においては、実際の実習場面を想定できるような

設定をし、技術の習得が確認できるよう技術試験を行った。習得ができていない学生については、全員一定レベルに到達するまで個別指導を行った。

授業科目名【　小児看護学実習　】
病棟実習では、既習の知識・技術・態度が、実際の患児・家族を通して統合されるように関わった。また、助教の先生方の学生への指導が的確に行われるように、日々の報告やカンファレンス、個人面接を通して相談、検討を行い学生への指導に繋がるように調整を行った。また、必要時病院・病棟側とも調整を図った。

授業科目名【　看護総合演習・実習　　】
看護総合演習では、小児看護学領域を担当し6名の学生を受け持った。看護総合演習に引き続き、看護総合実習が実施されるため、自分自身の目標・テーマを実習に連動できるように指導した。演習の目的としては、小児看護の理解を深めるとともに、実習前準備として、実習場で必要とされる知識・技術の振り返りと，自分の選んだテーマに関する文献検索・検討を行いレポートとしてまとめることで、看護を実践するための基盤づくりを行った。演習の中には、地域での小児救急のワークショップに参加したり、学内での3年生の技術演習に参加してもらい、自分たちの技術の振り返りと確認に役立つよう工夫した。演習の進め方としては実習場別のグループ毎に自主的に計画をたてて進め、進行状況がわかるようにポートフォリオを作成活用した。また、実習終了後は、各自のテーマに基づいて作成していた事前のレポートを追加修正したものを、ゼミの中で発表し、他学生と共有化することができた。
看護総合実習は、大学での最後の実習であり、学生自身が臨地の指導者とのミーティングやカンファレンスを通して実習前・中・後と実習内容を検討しながら、基本的に学生主体による実習展開ができるように調整した。また、実習記録用紙や評価表も自分たちの目標に沿ったものを各グループ（病棟毎）で作成し，目標の達成度が確認出来るようにした。小児は、実習場が３箇所と他の領域と異なり多いため、目標が絞りにくいところがあるが、それぞれの施設に応じた目標を明確に定められるよう，今後も適宜各実習場の目標の見直しや日数調整等をしていく予定である。

授業科目名【　子どもの保健Ⅰ　】
通年の授業で、子どもの発達を基本に、それに基づいた健康生活を理解できるよう、視聴覚教材を用いて授業を進めたり、現代の子どもの生活や健康の状況を自分たちで調べ発表することで、より理解を深められるように工夫した。

授業科目名【　子どもの保健Ⅱ　】
演習科目で、保育園等で使用するであろう子どもの健康に関する技術を修得できるよう、学生たちの要望も踏まえ実践的な内容を多く取り入れた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会		976年4月～1985年、1989年～現在に至る
日本看護科学学会会員		1993年～現在に至る
日本小児保健協会会員		1993年～現在に至る
日本学校保健学会会員		1995年～現在に至る
聖路加看護学会会員		1996年～現在に至る
日本看護学教育学会会員		1998年～現在に至る
日本小児看護学会会員		2002年～現在に至る
九州小児看護教育学研究会	幹事（2003 年～現在に至る）	2001 年～現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学会発表） １．看護師・助産師・管理栄養士国家試験 に含まれる漢字調 査	共著	2018.7	第 19 回日本医療情報 学会看護学術大会論文集,p.137-140	相良かおる,橋本直幸,小野正子 看護師・助産師・管理栄養士 国家試験問題冊子 5 年分のテキストデータに含まれる漢字調査
2. 実践医療用語の語 構成要素抽出の試 み	共著	2018.9	言語資源活用コーパスワークショップ 2018 発表論文集，p.462-466	全 4 頁 内山清子、岡照晃，東条佳奈 ，小野正子，山崎誠，相良か おる 本研究では複数の語からなる 実践医療用語の語構成要素の 抽出を試みる。
3. 実践医療用語に現 れる語構成要素の 辞書構築にむけて	共著	2018.9	計量国語学会第六十二回大会 予稿集，p.7-12	全 4 頁 東条 佳奈，内山 清子，岡 照 晃, 小野 正子,相良 かおる，山崎 誠 本発表では，研究利用のため に 医療機関より提供された医療 記録と，国家試験問題に使わ れている実践医療用語を登録 した ComeJisyo および現在構 築中の構成要素辞書を言語資 源として紹介し，複数の語か らなる実践 医療用語の語構成要素抽出の方法を提案する
4.「UTF 版実践医療 用語辞書 ComeJisyo1.0 の作 成」	共著	2018.11	第 38 回医療情報連合 大会,p.508-511	全4頁 相良 かおる,小野 正子，山崎 誠 UTF 版の実践医療用語辞書 ComeJisyo1.0 の作成と公開
5. 実践医療用語辞書 ComeJisyoSjis-1 の 作成	共著	2019.3	言語処理学会 第 25 回年次大会 発表論文集,p.1491-1494	全 4 頁 相良かおる，小野正子 ComeJisyoV5-1 に医師記録に含 まれる用語を約 4 万 4 千語を追 加した Shift_JIS 版の辞書につ いて述べている。
（翻訳）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
研究利用のためのＵＴＦ版実践医療用語辞書の作成と文字コード依存文字の調査	学内共同研究	○相良かおる、小野正子 （山崎誠）	630,000
語形成および意味的情報を付加した実践医療用語辞書の構築	日本学術振興会	○相良かおる、小野正子 （山崎誠）	3,900,000 (全 13,390,000)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市小児慢性特定疾病対策協議会	委員	2015 年 4 月～　現在に至る
北九州市障害支援区分認定審査会	委員	2015 年 4 月～　現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
大学委員会： 　研究紀要委員会 学科役割： 　3 年生アドバイザー 　物品管理係

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　鹿毛　美香	職名　　助教	学位　修士（医科学）（久留米大学 2008.3 月）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
看護学　産業保健学　労働衛生学　環境医学 公衆衛生学　公衆衛生看護学	労働衛生　ワークストレス　雇用不安　疲労蓄積 大学生の健康　現任教育　住 民の健康　保健行動

研　究　課　題
・労働者の雇用不安やワークストレスを中心にして労働と健康の関連について考察する. ・産業保健師の活動実態の把握や産業保健活動展開に必要な能力等を含め現任教育のあり方や学士レベルで備えるべき能力等を考察する. ・行政における母子保健および介護予防について施策の導入も含め考察する.

担　当　授　業　科　目	
生活援助技術論（前期；看護学科),	基礎看護学実習Ⅰ（後期；看護学科),
基礎看護学実習Ⅱ（前期；看護学科),	公衆衛生看護学概論（前期；看護学科),
疫学演習（後期；看護学科),	在宅看護学演習（前期；看護学科),
在宅看護学実習（前期・後期；看護学科),	公衆衛生看護技術演習（前期；看護学科),
地区活動論演習（前期；看護学科),	公衆衛生看護学実習（前期・後期；看護学科),

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　生活援助技術論（演習）　】

１．演習では，目的・目標を学生に適宜に明示し，学生が学習の方向性を見失わないように努めた.

２．看護技術の習得の際には，テクニックだけでなく，その行為の根拠を明確にするとともに行為を提供する相手は「人」であることを意識づけた．また，実習や看護現場で多く観られる事例等を考慮し演習モデルとするなど看護実践能力が身につくよう努めた.

授業科目名【　基礎看護学実習Ⅰ　】

１．実習指導者と密にコンタクトをとり，学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた.

２．実習前に学生の講義・演習内容を確認し，学生の準備状況を理解するよう努め，実習時は，コミュニケーションを通じて患者のニーズを見出せるように発問内容や想起させる講義内容を選択し，個別の学習状況に応じた支援に努めた.

３．患者のニーズに応じた日常生活援助ができるよう，看護形態機能学とヘルスアセスメントなどの基礎看護の講義内容を考慮した内容の発問をし，学生のアセスメントの視点を広げ，学習効果を上げるよう努めた.

４．学生がコミュニケーションを通じて患者のニーズを見出しやすいよう，また臨床指導者と学習状況を共有しやすいよう，ワークシートとは別にペーパーに患者の全体像を絵で描かせるなど視覚的教材を準備した.

授業科目名【　基礎看護学実習Ⅱ　】

１．実習指導者と密にコンタクトをとり，学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた.

２．実習前に学生の講義・演習内容を確認し，学生の準備状況を理解するよう努め，実習時は，基礎看護学実習Ｉで獲得したコミュニケーション技術をどのように生かしていくのかを踏まえ，患者のニーズを見出せるように発問内容や想起させる講義内容を選択し，個別の学習状況に応じた支援に努めた.
３．患者のニーズに応じた日常生活援助ができるように，基礎看護関連および疾病総論・各論の講義内容を考慮した内容の発問をし，学生のアセスメントの視点を広げ，学習効果を上げるよう努めた.

授業科目名【　公衆衛生看護学概論　】
１．産業保健および産業看護について，国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ，図式や画像を用い学生が学習内容を視覚的に捉えることができるようにした．また，産業看護の活動内容をより実践的に捉えられるようにペーパーシュミレーションを取り入れた.
２．産業保健師の活動の一部を実践させることで，ペーパーシュミレーションで学んだ保健師として重要な視点や思考の仕方を定着させるよう試みた．例えば，校内の職場巡視を実施し，3 管理の視点で改善提案書を記録するなど.

授業科目名【　疫学演習　】
１．保健師（主に行政・産業）が実践で活用頻度が高い調査方法や分析方法，また，国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ，ペーパーシュミレーションを取り入れた.
２．協同学習を取り入れ，学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるように以下のことを試みた．協同学習が未体験の学生を考慮し，まず Think-Pair-Share を用い，グループの構成員を学習内容の難易度に合わせ変更した.
３．授業資料の１枚目には，毎回，新人保健師の疑問と先輩保健師の応答をイラスト形式で載せ，今から行う学習が実際の現場でどのような疑問の解決へとつながるのかイメージできるよう試みた.
４．今年度より，保健師課程以外の学生も受講できるようになったため，看護師として働く中で今回の演習内容が役立つのか等も提示しながら，現場との連動を行った.

授業科目名【　在宅看護学演習　】
１．科目責任者と共に，講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ，演習組み立てを行った．演習組み立て時には，演習目標の設定，時間数の配分，協同学習の活用など検討した.
２．実習や看護現場で多く観られる事例等を考慮し，ペーパーペイシェントとするなど看護実践能力が身につくよう努めた．演習の際は，何に向かって学習していくのか，目的・目標を学生に適宜に明示し，学生が学習の方向性を見失わないように努めた.
３．在宅看護の現場では，治療を優先する病棟看護とは異なり必要最低限の情報しかカルテに記載されていない．そのため，療養者の全体像をとらえるために，どのような患者情報が必要なのか，学生自身が疑問に思い，知りたいと思う情報をどのようにして現場で収集するのかを経験させるために，カード形式で教員とやり取りをする方法を試みた．その情報の必要性を明確にさせ思考できるよう発問内容や想起させる場面を選択し，個別の学習状況に応じた支援に努めた.

授業科目名【　在宅看護学実習　】
１．病棟実習とは違い，療養者の生活の場に看護者が伺うということがどのような意味を持つのか，また生活経験が少ない学生に対し，生活に必要なしきたりなども含め学生に対する実習前の指導に時間をかけた.
２．実習指導者と密にコンタクトをとり，学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた.
３．学生の実習目標の到達進度に合わせ，発問内容や提示文献を選択し，個別の学習効果を上げる工夫をした.
４．学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し，実習場面を再構成しやすいようにし，学生がその実習場面から導き出した疑問･学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた.
５．抽象的な事柄を説明する際は，学生自身に身近な具体例を加え，実習指導者自ら考えや体験を語っていただけるよう調整し，学生がイメージしやすいように心がけた.
６．実習目標達成および学生の実習意欲向上を目指した教育的支援のあり方を実習中も時間をとり，在宅看護学領域の教員間で検討を重ね，指導の方向性を調整した.

授業科目名【　公衆衛生看護技術演習　】

1．科目責任者と共に，講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ，演習組み立てを行った．演習組み立て時には，演習目標の設定，時間数の配分，協同学習の活用など検討した．
2．地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ，学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし，共同学習のメンバーを実習グループメンバーにすることで，実習へ繋げるように試みた．
3．家庭訪問技術に関しては，実習で必ず経験する新生児～4 ヵ月児までの母子への訪問を題材とし，電話によるアポイントから次回の訪問の予約まで，一連の流れをロールプレイ形式で行うことで，この科目の学習と実習との連動を図った．
4．母子以外の家庭訪問および保健指導事例に関しては，現場で想定される多問題ケースや困難ケースを題材とし，解決方法・支援方法が一つではないことを意識づけさせるよう試みた．これは，最近の学生が正誤にこだわるところを打破したいための策である．
5．健康教育（集団）では，地区活動論演習と連動させ，学生が実習を行う地域の健康課題から健康教育のテーマを決めるなど，何のために健康教育をするのかを意識づけさせ，教育スキルだけを学習するのではなく，保健活動の一部であることを踏まえた教育ができるよう演習組み立てを行った．

授業科目名【　地区活動論演習　】

1．科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
2．地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、共同学習のメンバーを実習グループメンバーにすることで、実習へ繋げるように試みた。
3．保健師に必要な情報収集能力を獲得できるよう演習に必要な情報については、学生が実習を行う地域を題材とし、この科目の学習と実習が連動するよう試みた。

授業科目名【　公衆衛生看護学実習　】

1．実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。
2．学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。
3．学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場面を再構成しやすいようにし、学生がその実習場面から導き出した疑問･学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。
4．抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけるよう調整し、学生がイメージしやすいように心がけた。
5．公衆衛生看護学実習の実習目標達成および学生の実習意欲向上を目指した教育的支援のあり方を教員・助教間で検討した。その結果、昨年度試みた実習スケジュールおよび行動目標表と実習記録用紙を継続活用した。
6．講義時に作成した教科書・ワークシートを実習時には学生に携帯させ、知識の振り返り先を明確にした。

授業科目名【　看護総合演習・実習（産業看護）　】

1．すべての看護各論実習を修了した学生が，自身の疑問や課題を明確にし，実習と連動できるように指導した．そのために，演習では，産業看護の理解を深めるために文献検討を行いレポートとしてまとめ，それと併せて実習で必要となる知識技術を振り返る機会を設けた．また，産業看護が提供される場面で初めて学生は実習するため，個々の学びを補うことを目的に，演習に関しては 2 グループ（3～4 名/グループ）での集団学習とした．
2．実習終了後は，集団学習ではなく，各自の学びを基に作成していた事前レポートを追加修正し，課題解決に向けるようにした．また，ゼミの中で発表し、他学生と共有化することで思考の広がりを求めた．
3．看護総合実習は、最終学年での看護を統合する実習であるため，学生自身が臨地指導者と実習内容を検討し，実習目標を達成できるように記録用紙や評価指標も学生主体で検討できるように，学生達の思考に合わせて提示する資料や文献等を選んだ．

授業科目名【　その他　】
１．自分自身が看護職として，学生のロールモデルになるよう自己研鑽に努めた.

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本産業衛生学会	代議員（2008 年 11 月～） 倫理審査委員（2018 年 1 月～）	2003 年 4 月～現在に至る 2003 年 4 月～現在に至る
日本産業衛生学会産業看護部会	役員幹事：広報担当（2006 年 4 月～）	2003 年 4 月～現在に至る
日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会		2008 年 4 月～現在に至る
日本公衆衛生学会		2013 年 1 月～現在に至る
日本産業保健師会		2014 年 4 月～現在に至る
日本産業看護学会		2015 年 5 月～現在に至る
日本公衆衛生看護学会		

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 訪問看護師が「急性期看病院の病棟看護師が行う退院支援」に期待すること	共著	2019．3	第 49 回日本看護学会論文集（急性期看護）	①急性期病院と在宅療養の継続看護において，訪問看護師の困りごとと急性期病院の病棟看護師が行う退院支援に期待することを明らかにした．訪問看護師が語った在宅療養上の困りごとは、「治療の継続」「生活の自立」「家族の支援」「認知力」「習慣・価値観」の 5 つに分類された．訪問看護では，新たに開始された治療や退院後に予想される治療上の困りごとの情報を得て退院前に体制を整える必要があるが，その情報を得る仕組みが充分に確立されていない．訪問看護師は，急性期病院の看護師に在宅療養での困りごとを予測した退院指導と情報共有が早期から行える関係を期待している． ②髙木あゆみ，水原美地，鹿毛美香，石井美紀代 ③pp123-126

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表） 訪問看護師が急性期病院の病棟看護師 が行う退院支援に期待すること	共同	2018. 9	第 49 回日本看護学会－急性期看護－学術集会（別府）	①急性期病院と在宅療養の継続看護において，訪問看護師の困りごとと急性期病院の病棟看護師が行う退院支援に期待することをインタビュー調査し，カテゴリー抽出を重ねて明らかにした．訪問看護師が語った在宅療養上の困りごとは、「治療の継続」「生活の自立」「家族の支援」「認知力」「習慣・価値観」の 5 つに分類された． ②髙木あゆみ，水原美地，鹿毛美香，石井美紀代 ③第 49 回日本看護学会－急性期看護－学術集会抄録集 p157
病院の退院調整職・訪問看護師・介護支 援専門員が思う退院調整に関する課題	共同	2018. 9	第 49 回日本看護学会－慢性期看護－学術集会（静岡）	①在宅側と病院側の退院調整職に困り事を聴取し，退院調整の課題を明らかにした．病院の調整職，訪問看護師，介護支援専門員の各職種は各々の立場で課題を抱えており、共通カテゴリーとして①情報共有の体制が不充分（情報が欲しい）②退院調整の時間が足りない（バタバタ感）が抽出され，その対処として，病院の調整職は2カテゴリー，訪問看護師は3カテゴリー，介護支援専門員も3カテゴリーが抽出された． ②水原美地，石井美紀代 高木あゆみ，鹿毛美香 古荘美香 ③第 49 回日本看護学会－慢性期看護－学術集会抄録集 p312

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
九州における産業看護職が担う保健活動の質向上のための支援の在り方	西南女学院大学保健福祉学部附属研究所	○鹿毛美香, 伊藤直子 （住徳松子） （日笠理恵）	232,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
◎（公社）日本産業衛生学会 ・学会員から研究等の遂行に当たり倫理的な要件を満たしているかどうか協議する。また、審査を受けるまでの相談等を受ける。	倫理審査委員	2018 年 1 月～現在に至る
◎（公社）日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会 ・九州地方にて就業する産業看護職に対する研究会および研修会を開催する等、現任教育に努める。また、役員として現場の看護職からの相談等を受ける。 ・産業看護部会本部（全国）と協働し、産業看護職に関係する法改正等がある場合は、現場より意見を集約する。	役員幹事	2006 年 4 月～現在に至る
◎福岡県医師会　外国人看護師候補者資格修得支援事業 ・在宅看護学、社会保障について講義する。	講師	2019 年 1 月（1 日間）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）	
・実習コーディネーター	2016 年 4 月～現在に至る
・生協理事	2012 年 5 月～現在に至る

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　金山正子	職名　　教授	学位　　修士(経済学)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
基礎看護学、看護教育、臨床看護学	看護教育、看護学生、看護実習

研　究　課　題
基礎看護学教育における看護の役割についての学生の学びに関する研究

担　当　授　業　科　目
看護学概論、看護倫理、看護技術論、看護過程論、診療関連技術論演習、生活援助技術論演習、フィジカルアセスメント技術演習、基礎看護学実習Ⅱ、看護総合演習、看護総合実習

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　看護学概論　】 １年次前期の科目であり、「人間」「環境」「健康」「看護」の概念、および、ナイチンゲールとヘンダーソンの看護に対する考え方について、個人学習によるレポート作成とグループ学習を導入し発表会を行い、相互に学ぶ機会を設定した。また、看護のエピソードや看護事例の紹介、DVD の視聴などを導入し、理解を助ける工夫を行った。
授業科目名【　看護倫理　　】 看護者の倫理綱領、看護倫理の原則、倫理的課題、倫理的意思決定の方法などの基礎的知識の講義後に、事例検討の学習を導入し、グループで学習し発表することにより、相互に理解が深まるように工夫した。
授業科目名【　看護技術論　　】 １年次前期の科目であり、初めての実習室使用であり、看護衣の着用、身だしなみチェック、実習室のオリエンテーションなど、具体的に説明を行った。また、ベッドメーキングやシーツ交換、手洗いなどの基礎的な基本技術を実践できるように指導した。早期看護実習では２日間、実習病院に引率し、病院や看護の見学を安全に行い、学生の健康管理と効果的な学習ができるように助言し、病院実習指導者と調整を行った。
授業科目名【　看護過程論　　】 看護過程のグループ学習において、学生の学習内容の把握をし、患者の理解や情報整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案などのプロセスに従って、学習が進むように、助言や指導、提出物へのコメントなどを工夫した。

授業科目名【　診療関連技術論演習　】【生活援助技術論演習】【フィジカルアセスメント技術演習】 基礎看護学の複数の教員とともに、学生の看護技術の演習への指導を行った。 看護技術の演習では、手順だけでなく、根拠を考えること、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な助言・指導を行うように工夫した。
授業科目名【　基礎看護学実習Ⅱ　　】 2 年次生の 2 週間の病院実習を 2 クール担当し、実習指導を行った。 実習病院の実習指導者と事前に打合せ、受け持ち患者の選択や実習スケジュールなどの調整を行った。 受け持ち患者に対しては、実習説明と同意書を得た後、学生と患者のコミュニケーションがとれているかどうかを確認した。また、学生の学習については、受持ち患者の情報収集と整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案、実施、評価のプロセスに従って、実習が円滑に進むように、助言を工夫した。
授業科目名【　看護総合演習　】【看護総合実習】 4 年生の基礎看護学領域看護技術分野の演習と実習を担当した。看護総合演習では学生のテーマの設定、自己学習、実習計画の作成に対して、助言を行った。また、実習前に学生が病棟指導者と打ち合わせを行い、実習に必要な準備を行う機会を調整した。8 月に看護総合実習を 2 週間実施し、受け持ち患者に対しては、実習説明と同意書を得た後、学生と患者・家族のコミュニケーションがとれているかどうかを確認した。学生がテーマにそって実習を行うことができるように、実習指導者と打ち合わせを行った。実習終了後はレポートを作成し、実習成果発表会を行うことができた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護研究学会 日本看護科学学会		1990 年～現在 1990 年-2012 年　2014 年～現在

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
学生委員会委員 キャンパス・ハラスメント防止・対策委員長 看護学科　教務担当 4年生アドバイザー

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　財津倫子	職名　　講師	学位　学位　修士（看護学）（広島大学　2005 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
・看護教育学→ ・成人看護学→	看護大学生、臨地実習適応感、アタッチメントスタイル 医療システム、退院調整、医療提供システム

研　究　課　題
看護教育学に関して、看護大学生のアタッチメントスタイルと実習の適応感との関連について研究を進めている。看護大学生へ対し、アンケートを実施し、分析した結果をまとめ、実習適応感については論文をまとめて投稿した。続いてアタッチメントスタイルと実習適応感の関連について論文をまとめ投稿する予定である。 成人看護学（急性期）に関して、入院・治療・退院・外来・地域における医療提供システムについての研究を進める予定である。

担　当　授　業　科　目
初年次セミナーⅠ（前期：看護学科） 初年次セミナーⅡ（後期：看護学科） 救急・クリティカル看護学（前期：看護学科） 救急・クリティカル看護学演習（後期：看護学科） 成人・老年看護学演習（前期：看護学科） 成人急性期看護方法論（後期：看護学科） 成人急性期看護学実習（後期：看護学科） 看護総合実習・演習（前期・後期：看護学科） リハビリテーション看護学（前期：看護学科） 看護学（後期：栄養学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　初年次セミナーⅠ　】1 年生前期 ① スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の修得は、ミニレポート作成からレポート作成へとレベルをあげ段階をおってすすめた。レポート作成にはグループ学習を取り入れ、学生間でコミュニケーションをとり意見交換しながら取り組むようにした。 ② 毎回の講義の概要や疑問点・調べたことなどを 500 字程度にまとめさせた。また、学修ポートフォリオを作成させ、主体的学習を促すとともに学修の達成状況をチェックした。 ③ 学習修得に向けモチベーションの向上を目指し、学外の実習施設（医療機関）から実習指導者を招き講演をしていただいた。 ④ 科目の評価視点は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示し説明を加えた。各自に印刷物として配布した。 ⑤ 情報倫理や図書・文献の検索法などの講義は、情報課および図書課と連携し行なった。 ⑥ 本科目は 10 名の教員で担当する科目である。詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容及び成績評価に差が出ないようにした。

授業科目名【　初年次セミナーII　】1年生後期

① 初年次セミナーIで学修した基礎的知識・スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。

② 個人ワーク、グループワークを取り入れた演習を行なった。具体的には、グループで一つの課題に取り組み、章立てし、各自が一つの章を担当して一つの冊子づくりを行なった。冊子づくりを行なうことで、各自が全体を把握しながら自分の担当に責任をもち取り組むことができたと考える。

③ さらに、上記冊子にまとめた内容について、レジュメ作成、パワーポイント作成、発表原稿作成を行ない、プレゼンテーションをさせた。課題発見から発表までの一連のプロセスをグループで取り組むことで、他者の意見を聞き、自分の考えを述べる機会となり、スタディスキルズ（聞く、考える、討論する）の強化につながった。また、司会・進行など経験させることで、役割意識をもたせた。

④ 評価は、DPにそって評価指標を作成し、事前に学生に明示して説明を加えた。学生は自己評価を行ない、自己の振り返りを行なうことができていた。

⑤ 本科目は10名の教員で担当する科目である。初年次I同様に詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容および成績評価に差がでないようにした。さらに、プレゼンテーションでは、教員2名～3名で評価を行なうことで、評価に差がでないようにした。

授業科目名【　救急・クリティカル看護学　】3年生前期

1.「クリティカルケア看護の特性」「対象の理解」「生体侵襲・生体反応」「外傷患者」「熱傷患者の救急処置と検査、その初療時の看護」「呼吸・循環障害に対するアセスメントとケア」「IABP/・PCPS施行中の看護」について、解説する際、パワーポイントで図や写真や動画を用いながら、わかりやすいよう工夫した。

2.昨年、レジメの重要なポイントはカッコ抜きとし、記入させることで理解を深めようと工夫したが、学生が記入することに集中し、解説を聞き逃がす姿が多く見受けられたため、今年はカッコ抜きを取りやめた。重要なポイントは、パワーポイントのスライド上で赤字反転とし、学生がマーカーを引きながら、十分に解説も聞けるよう配慮した。

授業科目名【　救急・クリティカル看護学演習　】4年生後期

1.危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題についてのグループワーク発表では、学生同士で質疑応答ができるよう促し、理解が深まるよう努めた。

2. 認定看護師における演習においては、実際に参加し、学生が理解不足である箇所は補いながら、ともに実践し、学生の理解が深まるよう努めた。

授業科目名【　成人老年看護過程演習　】3年生前期

＜講義＞

1. 2年生前期で看護過程の講義を受けてはいるが、再度復習も兼ねて、看護過程の基礎から解説した。事前学習の方法・病態関連図・フェイスシート・データベースアセスメント・フォーカスアセスメント・全体像・問題リスト・計画立案・評価・評価日評価とは何かを説明し、情報の整理の仕方、分析の仕方、計画立案方法、評価方法についても説明する。

＜看護過程＞

1. まず自分で事例を読み、考えるよう促す。その後、どの教科書のどのページに参考となることが記述されているかを示し、事例の読み方、考え方を説明し、再度分析するよう指導した。
2. 講義は行なわれたが、看護過程の展開についてグループ全員に対し再度説明を行い、全員が理解できるよう努めた。
3. グループワークでもあり、他者との意見交換の場もつくり、グループワークでの学びも深まるよう指導した。
4. 個人ファイルも作成するため、個々にできていないところの指摘もするが、できているところも伝え、前進できるよう指導を行った。

＜看護技術：JVACドレーン管理＞

1. JVACドレーンの管理方法・留意点・排液方法の説明を行い、管理方法・排液方法のデモンストレーを実施する。その後、実際に学生にJVACドレーンの管理方法・排液方法を実践させる。その際、手技を確認し、出来ているところできていないところを伝え、理解しやすいよう指導した。

2. 擬似血清排液を JVAC に何度も注入し、再度接続することを繰りかえし、学生全員が排液の実践を必ず経験できるようした。

＜看護技術：周手術期の看護＞

1. 術直後の観察の実際をわかりやすくデモンストレーションしながら、観察の根拠やポイントを説明した。学生が、ベッド毎（4 人）に別れて、技術練習を実施する際、学生のできているところできていないところをタイムリーに伝え、理解しやすいようした。または、実際に実演し、わかりやすいよう配慮した。

授業科目名【　成人急性期看護方法論　　】2 年生後期

1. 消化器、循環器の構造と機能の説明から、その検査・治療と術前術後の看護を、パワーポイントを用いて説明する際、図や画像を用いてわかりやすく解説した。
2. レジメの重要なポイントは赤く反転させ、学生が重要な個所を自身でチェックできるよう工夫した。

授業科目名【　成人急性期看護学実習　　】3 年生

1. カンファレンスにおけるコメントを伝える際は、まず良い点を伝えてから、注意を要する箇所をコメントするよう心掛けた。先に注意をすると、その後のコメントは頭に入ってこない様子が見受けられ、良い点を伝えてから、重要なポイントを伝えるよう努めた。
2. 実習終了後の面接においては、学生自身に出来たことと出来なかったことを考えさせ（自身で気づかない学生にはこちらからコメントする場合もある）、できなかった項目について、なぜ出来なかったのかを、ともに考えるようしている。そして、今回出来なかったことを、次の実習でできるようになるためには、具体的に何をするべきかを考え、今後の行動目標および課題を明確にしている。

授業科目名【　看護総合実習・演習　　】4 年生

1. 総合演習においては、総合実習前に「12 誘導心電図」「気管挿管の介助」「気管挿管時のチューブ固定」「心電図モニター」の装着方法と「輸液ポンプ」の使用方法とその看護の演習を実施した。学生の事前学習をもとに、当日は物品準備から学生に実施させ、準備から実践そして後片付けまで体験することで、考えて動きそして学びとなる演習を心がけた。保清の技術演習に関しては、患者そして看護師を必ず体験し、学生同士で気づきを相手に伝えることで、お互いの学びとなるよう支援した。
2. 総合実習においては、看護部との調整のみ教員が行い、その後の病棟との調整は学生に任せた。実習計画書の作成・記録用紙の検討を学生自身で進められるよう支援する。
3. 実習終了後のレポート作成においては、構成・参考文献の示し方・図や表の挿入・参考文献リストの記入方法・倫理規定などについて解説し、学生自身でレポートを進められるよう支援する。
4. レポート作成終了後、パワーポイントで（10 分）発表できる資料を作成させ、発表会を開催する（質疑応答 5 分）。相手に分かりやすく伝える資料を作成する難しさ、相手に伝わりやすい話し方、質問の仕方、質問に対する答え方等を学ぶことのできる機会を設けることで、就職してからの研究発表につながるよう支援した。

授業科目名【　リハビリテーション看護学　】3 年生前期

1. 「心臓に障害のある患者のリハビリテーション」「呼吸リハビリテーション」について解説する。重要なポイントは、パワーポイントのスライド上で赤字反転とし、学生がマーカーを引きながら、十分に解説も聞けるよう配慮した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護管理学会		2004 年 12 月～現在に至る
日本運動器学会（日本整形外科看護研究会より改名）	査読委員(2009 年 4 月～現在に至る)	2005 年 6 月～現在に至る
日本看護科学学会		2007 年 3 月～現在に至る
日本看護学教育学会会員		2015 年 12 月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 看護学生の認知や感情に焦点を当てた臨地実習適応感の検討	共	2019 年１月予定	日本看護学教育学会誌28巻２号 ｐ39～45	①実習場面における看護学生の認知や感情に焦点を当てた実習適応感因子４つを抽出し、考察した。 ②財津倫子　吉村匠平　秋本慶子
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
日本運動器看護学会	日本運動器看護学会査読委員	2009 年４月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

4年生ゼミアドバイザー（2018年4月1日～2019年2月20日）

1. 2016年3月には1年間の年間計画を立て、4月に担当ゼミメンバーへ配布する。
2. 4月の上旬に個人カードの記載事項の確認および面接を実施する。
3. 就職活動中は、学生の履歴書の確認、推薦書の作成を行った。
4. 看護師国家試験の模試後は面接を行い、勉強方法について確認する。過去の問題集を購入していない学生には購入させ、どのように解いていくかは学生に計画を立てさせ、その計画の確認を行った。
5. 1月に入り、模試後の結果で強化学習メンバーにゼミメンバーが3名入っていたため、学生が毎日大学に来て勉強することを目的とし、問題を作成し、毎朝10時に必修問題10問のテストを実施した。

1年生ゼミアドバイザー（2018年4月1日～2019年3月31日）

1. 前期及び後期に1回ずつ全メンバーに面接を実施。
2. 保護者懇談会では、1年生の保護者の方々が情報交換できる場を設けた。その後、希望する保護者の方と面談し、質問に答えていった。
3. 休学中の学生に対し、個々の学生と約束した日付にメール送信あるいは電話連絡を行い、近況の確認を行った。メールでの質問に対しては、その都度わかりやすく返答した。

実習コーディネーター（2018年4月1日～2018年9月30日）前任者へ11月より引き継いだ（産休・育休復帰）。

1. 4月の学年別オリエンテーションにて、実習コーディネーターとして全学年に対しオリエンテーションを実施した。
2. 4月から指導者会議の日程調整を開始し、メンバー確認、レジメ作成、メール連絡を行った。
3. 2018年度各病院の実習配置を最終確認した。
4. 8月には実習前のオリエンテーションを2回開催する（司会進行）。
5. 施設別オリエンテーションの日程調整を行い、掲示し学生へ通達する。
6. 製鉄病院・ＪＣＨＯ九州病院・製鉄記念八幡病院の施設別オリエンテーションの引率を行った。
7. ＪＣＨＯ九州病院・小倉記念病院・製鉄記念八幡病院の2019年度実習配置表を作成し、それぞれの施設と調整を行う。

教育経費予算配分委員会（2018 年４月１日～継続中）

1. 当該年度予算について
   1）5 月 8 日に、5 月 1 日現在の学生数によって決定した確定シーリング額を会計課よりメール報告を受ける。
   2）6 月末までに確定予算を会計課に提出した。
   3）学科内の予算執行は、実習関連以外は可能な限り 11 月末までに終了するよう 8 月の学科会で依頼した。
   4）1 月の「購入伺い書」提出期限の前に会計課に予算執行状況の概算を確認し、追加購入を検討した。
2. 翌年度予算について
   1）2019 年度の暫定シーリング額を 10 月上旬にメールで報告を受けた。
   2）8 月の学科会議で翌年度の予算計上の依頼をした。
   3）提出された予算を確認して、暫定シーリング額内に収まるように調整した（調整する際は、前年度と購入物品の相違や金額を確認し、大幅に違いがある場合、予算作成者へ直接確認をおこなった。消耗品については、文具は定価の 7 割、医療・実験用は定価の 9 割がけで購入可能であるため、実質金額は、それぞ

れ×0.7、×0.9で計算しているはずであるが、そのように計算されていないものに関しては、再計算した。
4) 10月下旬までに調整し、暫定シーリング内におさまった翌年度の予算書を会計課へ提出
3. 委員会の開催について
4月・7月の2回の開催であった。

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　笹月桃子	職名　　准教授	学位

研　究　分　野	研究内容のキーワード
小児緩和ケア 小児の生命倫理・臨床倫理 医療プロフェッショナリズム・医学教育	小児、生命、倫理、緩和ケア、医学教育、プロフェッショナリズム

研　究　課　題
1.　「命に関わる治療方針決定に際しての小児科医の思考過程と葛藤」 2.　「看護・福祉・栄養学科の学生のプロフェッショナル アイデンティティ形成に関する調査研究」 3.　「地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究」 4.　「乳房切除術を受けた患者の初回外来日までの就労に対する想いと支援ニーズの検討」 5.　「重篤な病態を抱える子どものきょうだいに対するパフォーミングアーツを活用した支援の検討」 6.　「協同学習を導入した公衆衛生看護の倫理の授業研究」

担　当　授　業　科　目
● 看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ ● 疾病学各論：小児科 ● 遺伝看護学 ● 緩和・終末期看護：小児緩和ケア ● 初年次セミナーⅠ・Ⅱ

- こどもの保健（福祉学科）1・2

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　看護形態機能学　　】 身体の構造と機能について断片的な個別の事象や名称の暗記科目にならないよう、 生命の神秘、命の尊厳についても意識しながら、相互作用や因果関係、連携など流れを把握できるよう 日常生活や医療現場での話も交え、マクロとミクロの視野にて講義を行った。 復習の促しと知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。
授業科目名【　疾病学各論：小児科　】 範囲が膨大なので、疾患名と特徴的な症状の説明を一疾患一枚のスライドにて提示。適宜写真なども 使用して視覚的に捉えやすくなるよう配慮した。対象として、成人との違いも意識させた。 知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。
授業科目名【　遺伝看護学　　】 外部講師２名を迎えてのオムニバス講義であった。臨床、実戦からの話が多いことが予想されたため、 それらの話が理解できるよう、基礎的な遺伝学の知識の予習と復習ができるよう配慮した。また、倫理的 な思考や心理的葛藤を経験する分野であり、負担にならないよう、表出の機会を設けた。
授業科目名【　緩和・終末期看護学：小児緩和ケア　　】 子どもが亡くなる、という事実に向き合う学習体験の峻烈さに配慮し、前向きなケアの在り方を紹介 し、さらにこのような分野における看護師としての役割ややりがいについても紹介した。

授業科目名【　　初年次セミナー　I・II　　】

初年次セミナーI

① スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の修得は、ミニレポート作成からレポート作成へとレベルをあげ段階をおってすすめた。レポート作成にはグループ学習を取り入れ、学生間でコミュニケーションをとり意見交換しながら取り組むようにした。

② 毎回の講義の概要や疑問点・調べたことなどを500字程度にまとめさせた。また、学修ポートフォリオを作成させ、主体的学習を促すとともに学修の達成状況をチェックした。

③ 学習修得に向けモチベーションの向上を目指し、学外の実習施設(医療機関)から実習指導者を招き講演をしていただいた。

④ 科目の評価視点は、DPにそって評価指標を作成し、事前に学生に明示し説明を加えた。各自に印刷物として配布した。

⑤ 情報倫理や図書・文献の検索法などの講義は、情報課および図書課と連携し行なった。

⑥ 本科目は10名の教員で担当する科目である。詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容及び成績評価に差が出ないようにした。

初年次セミナーII

① 初年次セミナーIで学修した基礎的知識・スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。

② 個人ワーク、グループワークを取り入れた演習を行なった。具体的には、グループで一つの課題に取り組み、章立てし、各自が一つの章を担当して一つの冊子づくりを行なった。冊子づくりを行なうことで、各自が全体を把握しながら自分の担当に責任をもち取り組むことができたと考える。

③ さらに、上記冊子にまとめた内容について、レジュメ作成、パワーポイント作成、発表原稿作成を行ない、プレゼンテーションをさせた。課題発見から発表までの一連のプロセスをグループで取り組むことで、他者の意見を

聞き、自分の考えを述べる機会となり、スタディスキルズ（聞く、考える、討論する）の強化につながった。また、司会・進行など経験させることで、役割意識をもたせた。

④ 評価は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示して説明を加えた。学生は自己評価を行ない、自己の振り返りを行なうことができていた。

⑤ 本科目は 10 名の教員で担当する科目である。初年次Ⅰ同様に詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容および成績評価に差がでないようにした。さらに、プレゼンテーションでは、教員２名～3 名で評価を行なうことで、評価に差がでないようにした。

授業科目名【　　こどもの保健１、２　　】

１：こどもにみられる代表的な疾患について、画像や動画などを用いて、なるべくわかりやすく、なじみやすいように工夫をした。

２：緊急時の対応について、特に食物アレルギーへの対応については実際の医療機器を使用して実践実習を行い、知識の定着を強化した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本小児科学会	日本小児科学会専門医	
日本小児神経学会	第５８回日本小児神経学会学術大会　実践教育セミナー企画責任者 第５９,６０回日本小児神経学会学術大会　実践教育セミナー及びシンポジウム企画責任者	
日本重症心身障害学会		
日本小児血液・ガン学会	緩和ケア等事業委員会委員（教育研修委	

	員）	
日本緩和医療学会	「小児科医のための緩和ケア教育プログラム CLIC」ファシリテーター	
	将来構想委員会 小児緩和ケア WPG 員	
日本生命倫理学会	第２９回日本生命倫理学会年次大会　シンポジウム企画	
日本臨床倫理学会	臨床倫理認定士	

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				

（学会発表）（講演） 1. 命に関わる治療方針の決定に際する小児科医の意思決定の過程と葛藤 2. 子どもの最善の利益をめぐる家族と医療者の協働意思決定について再考する（シンポジウム「重篤な神経疾患を抱える子どもの緩和ケア～終末期を見据えて話し合いについて～」） 3. 小児緩和ケア総論「小児科医が知っておきたい緩和ケアのエッセンス」 4. 小児緩和ケアからのメッセージ～非がん疾患への関わりとこれからのありかたについて～（シンポジウム「発展する高度医療の中で緩和ケアが果たす役割」） 5. WHY から始める（シンポジウム「子ども、家族とともにある医療―視点がかわれば、医療がかわる！？」） 6. 小児医療と倫理 7. 小児緩和ケア～高度医療の中で果たす役割～ 8. 共に歩む医療　～5つの役割～「利用者と家族に寄り添うケア」 9. PICU における終末期の話し合いと看取		2018.4.22 2018.6.1 2018.6.2 2018.6.16	第１２１回日本小児科学会学術集会 第６０回日本小児神経学会学術大会 第６０回日本小児神経学会学術大会 第 23 回日本緩和医療学会学術集会	

りについて共に考える 10. 臨床倫理コンサルテーションの制度化に向けた取り組み：その課題と展望 11. 小児医療現場における代理意思決定を支える～話し合いのガイドラインの活用を通じて～　（シンポジウム「人生の最終段階における医療とケアの意思決定支援 ― ガイドラインの活用の実際と課題」） 12. 重篤な心疾患を抱える子どもの緩和ケア 13. 小児医療と倫理 CLIC-T 14. 小児緩和ケア　～小児医療の明日に向けて～ 15. 重症心身障害児（者）の緩和ケアについて考える 16. 臨床倫理とはなにか		2018.6.21 2018.7.14,15 2018.9.9 2018.9.10 2018.10.14 2018.12.7	第28回日本小児看護学会学術集会 小児科医のための緩和ケア教育プログラム CLIC 小児血液がん学会、小児血液・がんセミナー in 九州・山口 久山療育園職員研修会 第26回小児集中治療ワークショップ 第３０回日本生命倫理学会年次大会 一般口演	

		2018.12.8	第３０回日本生命倫理学会年次大会	
		2018.12.15	第５回初心者のための小児循環器セミナー	
		2019.2.3	日本緩和医療学会緩和ケアチームのための小児緩和ケア教育プログラム CLIC-T	
		2019.3.6	筑波大学小児科講演	
		2019.3.9	第 41 回九州地区重症心身障害研究会	
		2019.3.27	福岡市立こども病院	

			臨床倫理カンファレンス	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.　「看護・福祉・栄養学科の学生のプロフェッショナル アイデンティティ形成に関する調査研究」	本学附属研究所研究費	○笹月桃子、通山久仁子、高橋甲枝、手嶋英津子、（濱田裕子、松岡真里）	201,600 円
2.　「地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究」	本学共同研究費	○谷川弘治、今村浩司、吉原悦子、樋口真己、笹月桃子	
3.　「乳房切除術を受けた患者の初回外来日までの就労に対する想いと支援ニーズの検討」	本学附属研究所研究費	○高橋甲枝、笹月桃子、大嶋満須美、（後藤元子）	307,600 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
倫理審査委員 研究推進委員 看護学科一年アドバイザー

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　新谷　恭明	職名　教授	学位　博士（教育学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
教育学	道徳教育　教育会研究　人権教育

研　究　課　題
道徳教育のあり方についての歴史的・理論的研究。 帝国教育会の歴史的な研究 人権教育のあり方についての歴史的・理論的研究

担　当　授　業　科　目
教育方法論（前期）（看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科） 教職概論（前期）（看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科） 人権と社会（前期）（人文学部） 教育課程論（後期）（看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科） 教育原理（後期）（看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科） 事前事後指導（通年）（看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科） 教職実践演習（後期）（看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　　】
授業科目名【　　】
授業科目名【　　】
授業科目名【　　】

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　隅田由加里	職名　　講師	学位　　修士（看護学）（産業医科大学 2017 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
看護管理 基礎看護学	看護実践能力、相互支援、 看護技術、シミュレーション教育

研　究　課　題
・看護管理：急性期病院における看護師の看護実践能力習得に影響を与える要因の一つに相互支援が抽出さえた。今後は相互支援の何が看護実践能力に影響を与えているのかを研究し、臨床現場における看護師教育の向上を目指す。 ・基礎看護学：シミュレーション演習が看護学生の思考に与える影響について研究し、よりよい基礎看護学教育の示唆を得る。

担　当　授　業　科　目
＜前期＞ ・診療関連技術論 ・看護技術論 ・看護過程論 ＜後期＞ ・生活援助技術論演習 ・看護基礎マネジメント論 ・フィジカルアセスメント技術演習

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　診療関連技術論　】 講義の時間を可能な限り減らし、演習室でのアクティブラーニングに切り替えている。また演習内容も実習病院が使用している物品等と可能な限り同じにし、リアリティの追及を工夫した。さらに振り返りシートや国家試験問題集を活用して事後課題を作成し、複数の方法で学びが深まるようにした。
授業科目名【　看護技術論　】 急きょ主担当から役割移譲され、この科目の中の「環境」と「早期看護学実習前の感染予防策」を担当した。このため同領域の教授と相談の上、授業構成は考えた。特に環境を整えるという点においては演習室に「仮想病室」を作成し、環境整備する視点を抽出できるようなアクティブラーニング形式とした。
授業科目名【　看護基礎マネジメント論　】 看護管理は経営学などの要素も入っているため、まずは用語理解に努めること、マネジメントとは何かという導入から開始し、今の医療現場の状況を踏まえて授業を展開した。医療安全に関しては実際の過去の事例を活用して危険予知トレーニングをグループワークし、医療事故の発生機序、改善策を考えることに視点を置き授業を展開した。
授業科目名【　生活援助技術論　】 講義の時間を可能な限り減らし、演習室でのアクティブラーニングに切り替えている。演習では、基本を大切にしつつも、各論実習や臨床現場で実践されている内容ともかけ離れないように注意した。 導尿の実技試験を行っているが、学生が全員合格できるよう自主練習時は極力参加し、個別指導を継続した。振り返りシートや事後課題用紙は診療関連技術論同様に実践した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護技術学会 日本看護学教育学会 日本看護科学学会		2017年4月 2017年4月 2017年4月

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 経験年数1～3年における看護師の看護実践能力習得過程に関わる要因の検討	共著	2018年12月16日	第38回日本看護科学学会学術集会（愛媛県）	地域の中核的病院の一般病床で1～3年の経験をつんだ看護師の看護実践能力習得過程において影響を受けた要因を，看護実践能力自己評価尺度との関係性から調査を行った結果、「相互支援の雰囲気」「看護師経験年数」「やりがい」などが抽出されたため、これらを分析に報告した。 共同発表者名：林田賢史

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・国家試験対策担当 ・２年生アドバイザー ・公開講座委員 ・認定看護管理者教育課程教育運営委員

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)

氏名　　髙橋甲枝	職名　　准教授	学位　修士（看護学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
急性期・回復期の技術教育 がん看護 運動器疾患を持つ患者の看護 家族看護	・　看護技術教育 ・　乳がん患者の就業支援 ・　運動器疾患を持つ患者の QOL

研　究　課　題
・がん患者の就労支援ニードについて文献レビューを行い、協力病院の倫理審査の結果、調査を実施する。 ・笹月准教授を中心に看護・福祉・栄養学科の学生のプロフェッショナリズム形成に関する調査研究のために、インタビュー結果の検討を行っており、今後、学生を対象に調査を行う予定である。 ・急性期看護技術教育研究を行う予定で、文献レビューを行っていく予定である。

担　当　授　業　科　目
初年次セミナーⅠ（前期） リハビリテーション看護学（前期） 救急クリティカルケア看護学（前期） 成人・老年看護学演習（前期） 看護研究の基礎（前期） 看護総合演習（前期） 看護総合実習（前期） 初年次セミナーⅡ（後期） 成人急性期看護方法論（後期） 成人・老年看護学実習（後期） 救急・クリティカルケア看護学演習（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【初年次セミナーⅠ】前期 15 コマ，30 時間 副担当として、シラバス作成、シート作成、評価表作成を行った。 ①　スタディスキルズ(聞く、調べる、読む、書く、考える)の修得は、ミニレポート作成からレポート作成へとレベルをあげ段階をおってすすめた。レポート作成にはグループ学習を取り入れ、学生間でコミュニケーションをとり意見交換しながら取り組むようにした。 ②　毎回の講義の概要や疑問点・調べたことなどを 500 字程度にまとめさせた。また、学修ポートフォリオを作成させ、主体的学習を促すとともに学修の達成状況をチェックした。 ③　学習修得に向けモチベーションの向上を目指し、学外の実習施設(医療機関)から実習指導者を招き講演をしていただいた。 ④　科目の評価視点は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示し説明を加えた。各自に印刷物として配布した。 ⑤　情報倫理や図書・文献の検索法などの講義は、情報課および図書課と連携し行なった。 ⑥　本科目は 10 名の教員で担当する科目である。詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容及び成績評価に差が出ないようにした。

授業科目名【リハビリテーション看護学】前期　15 コマ，30 時間（13 コマ，26 時間担当）

リハビリテーション看護学は、3 年次前期開講科目である。2 名の教員で担当している。2 年次までに学んだ疾病論、急性期看護学方法論、慢性期看護学方法論、老年期看護学方法論と密接に関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に上記科目と密接に関連する科目であること、範囲が広いことを伝えている。
昨年度の課題であった外部講師との講義内容の重なりを精選して、講義のゆとりを確保したことで、学生への講義内容の充実につながった。さらに、今年度よりストマケアの演習を導入し、より実践を考えた構成とした。

授業科目名【救急・クリティカルケア看護学】前期 15 コマ，30 時間（5 コマ，10 時間担当）

救急・クリティカルケア看護学は、3 年次前期開講科目である。2 名の教員で担当している。集中ケア看護認定看護師の講義を取り入れ、学生が興味・関心を持てるように工夫を行った。救急・クリティカルケアの場面では、尊厳死、倫理的な葛藤について考える機会が多いため、事例をもとに展開を行い、倫理的要件について考える機会とした。

授業科目名【成人・老年看護学演習】前期　30 コマ，60 時間

成人・老年看護学演習は、看護過程と看護技術の演習である。3 年前期に看護過程演習および看護技術演習を行っている。看護過程演習は、昨年度までは慢性期事例と急性期事例の 2 例であったが、実習への繋がりを考慮し、本年度は急性期事例（胃がん）、慢性期事例（肝硬変）、老年事例の 3 例を展開した。今年度も看護過程演習の講義・演習の担当を行い、演習計画立案、事例検討および模範解答の作成を領域教員と行い教員の指導に違いがでないように調整を行った。学生から課題が多いという指摘を受けた。しかし、実習では在院日数の短い患者の看護過程の展開は演習よりも速いことを伝え、そのための基盤づくりであることを最初に強調したい。

看護技術演習は、食品交換表、ADL、ドレーン管理、血糖測定、手術後の観察演習の 5 項目からなる。手術後の観察演習はシミュレーション演習を行っている。演習回数を 2 回に増やし、学生がゆとりを持って演習ができるように変更を行った。また、実際臨地で使用している物品等を使用し、模擬患者を用いて臨場感を持たせた演習を行った。4 年生の模擬患者の導入と実際の物品を使用することは学生の興味関心を引き学びに繋がると考えられる。

授業科目名【看護研究の基礎】前期 15 コマ、30 時間

主担当として講義・演習を行った。今年度よりテキストを導入し、卒業後も研究は必要であり、その際に戻る場所となるようにと考えた。3 名の教員で講義を行い、さらに、教員 5 名で演習を担当し、2 グループの指導を行った。リサーチクエスチョンを見いだすところから、そのための文献検索指導を行い、看護研究計画書作成指導を行った。さらに、今年度は計画書にそった、質問紙作成、同意書作成を行い、実際に対象者に説明を行い、調査、集計という一連を体験する試みを行った。

授業科目名【看護総合演習】前期　15 コマ、30 時間

看護総合演習では、5 名の学生を担当した。個々の学生の課題達成のために、消化器外科、循環器外科、手術室、胸部外科で実習を行った。事前に実習計画書の指導および技術指導を行った。また、学生が事前に実習指導者と調整を行うなどの経験を通して社会人としての対応も学ぶことができるように病棟との調整を行い、学生にも指導を行った。

実習終了後、ケーススタディとしてまとめることができた。まとめた論文をもとに発表を行い、評価を行うことができていた。

授業科目名【看護総合実習】前期　2 週間（臨地 7 日間）

看護総合実習では、5 名の学生を担当した。個々の学生の課題達成のために、消化器外科、循環器外科、手術室、胸部外科で実習を行った。事前に実習計画書の指導および技術指導を行った。
学生は積極的に実習を行っており、事前学習を活かして実習に臨むことができていた。
実習終了後、ケーススタディとしてまとめ評価を行うことができていた。

授業科目名【初年次セミナーⅡ】後期 15 コマ，30 時間

主担当として、シラバス作成、シート作成、シラバスに相当する評価表の作成と運営を行った。

① 初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。

② 個人ワーク、グループワークを取り入れた演習を行なった。具体的には、グループで一つの課題に取り組み、章立てし、各自が一つの章を担当して一つの冊子づくりを行なった。冊子づくりを行なうことで、各自が全体を把握しながら自分の担当に責任をもち取り組むことができたと考える。

③ さらに、上記冊子にまとめた内容について、レジュメ作成、パワーポイント作成、発表原稿作成を行ない、プレゼンテーションをさせた。課題発見から発表までの一連のプロセスをグループで取り組むことで、他者の意見を聞き、自分の考えを述べる機会となり、スタディスキルズ（聞く、考える、討論する）の強化につながった。また、司会・進行など経験させることで、役割意識をもたせた。
④ 評価は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示して説明を加えた。学生は自己評価を行ない、自己の振り返りを行なうことができていた。
⑤ 本科目は 10 名の教員で担当する科目である。初年次Ⅰ同様に詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容および成績評価に差がでないようにした。さらに、プレゼンテーションでは、教員 2 名～3 名で評価を行なうことで、評価に差がでないようにした。

授業科目名【成人急性期看護方法論】後期 15 コマ，30 時間（7 コマ担当）

成人急性期看護方法論は，2 年次開講科目である。2 人で講義を担当した。本科目はこれまでに学んだ形態機能学、疾病論、成人老年看護概論などの科目と関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に既習の科目の復習を行い、講義に臨むように説明を行った。急性期看護の概論では、手術を受ける患者の身体侵襲時の生体反応についての解説、手術を受ける患者の心理面について事例をもとに解説を行った。他に呼吸器、婦人科疾患で手術を受ける患者の看護について解説を行い、モデル人形を用いるなど、視覚的・感覚的に学習する機会を取り入れた。

授業科目名【成人・老年看護学実習】前期 3 週間 2 クール　後期 3 週間 4 クール

成人・老年看護学実習は従来の 2 週間実習に ICU および手術室見学実習を導入し 3 週間実習とした。
病棟実習では、既習の知識が、実際の患者を通して知識が統合されるように関わった。助教の先生の学生への指導が的確に行われるように、看護診断、関連因子、徴候の確認や看護計画の目標、計画、根拠について確認を行い、学生への指導に繋がるように調整を行った。実習中に問題がある学生については、面接を行い、助教の先生方と教育の方向性を統一するように心がけた。また、最終日には個人面接を行い、個人の課題を明確にすることで次の実習に繋げるように努めた。ICU および手術見学実習では、事前課題の提出を求め、学内オリエンテーション時に気管挿管の説明や滅菌ゴム手袋の装着演習を取り入れた。実際の物品をもとに説明を行うことで目的や方法についての理解に努めた。

授業科目名【救急・クリティカルケア看護学演習】後期　15 コマ 30 時間

3 名の急性期の教員で演習を行った。演習では救急・クリティカルケア領域における倫理的な問題についてグループワーク、発表を行い看護師のジレンマについて考える機会とした。また、集中ケア認定看護師による実際の人工呼吸器を用いた説明および拘束性肺疾患の体験と人工呼吸体験を行い、患者の苦痛の理解と看護を深めるように努めた。

授業科目名【看護総合演習】前期　15 コマ 30 時間

看護総合演習では、急性期・回復期 6 名の学生を担当した。演習では学生の実習に対する目的を明確にし、主体的に学ぶように心掛けた。実習前には、自分たちで実習に必要な事前課題を明確にさせ、学生同士でミニ講義を行い、学習の共有を図った。また、実習に必要な基本的な技術（清潔の援助、点滴管理）や消化器病棟、手術室、救急部で必要な技術演習（観察、心電図など）を行い、実習に備えた。さらに、実習後は論文形式でレポート作成の指導を行った。

４年生は就職および国家試験を控えているため、学習支援と就職活動の相談・指導を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員		1987 年 4 月～(現在に至る)
日本公衆衛生学会会員		1995 年 5 月～(現在に至る)
日本看護研究学会会員		2004 年 7 月～(現在に至る)
日本看護科学学会会員		2004 年 7 月～(現在に至る)
日本看護技術員		2011 年 4 月～(現在に至る)
日本運動器看護学会員		2015 年 2 月～(現在に至る)

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開	西南女学院大学共同研究費	1,067,000円	○田川辰也、 近江雅代、 境田靖子、手嶋英津子、 石井愛子、 田中貴絵、 浅野嘉延、髙橋甲枝、 稲木光晴、 日高勝美、辻澤利行
看護・福祉・栄養学科の学生のプロフェッショナリズム形成に関する調査研究	西南女学院大学附属保健福祉研究所		○笹月桃子、 谷川弘治、通山久仁子、髙橋甲枝、 松岡真里（高知大学）、 濱田裕子（九州大学）

乳房切除を受けた患者の就労に対する支援ニーズの検討	西南女学院大学附属保健福祉研究所	307,600円	○髙橋甲枝 大嶋満須美 笹月桃子 後藤元子（製鉄記念八幡病院）

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
・西南女学院大学は、「食べ物と健康」の立場から、九州歯科大学は、「口腔保健」の視点から、公開講座を開講時に学生ボランティア募集および血圧測定・酸素飽和度測定支援 ・「ゆめみらいワーク」にて、学生とともに企画・運営を行った。		

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
就職委員：2018.4.1～2019.3.31 1年生アドバイザー：2018.4.1～2019.3.31 4年生（ゼミ）アドバイザー：2018.4.1～2019.3.31

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　中原　智美	職名　　講師	学位　　修士（保健学）（山口大学 2011 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
成人看護学 ， 遺伝看護学	慢性期看護 ， 糖尿病教育・看護 ， 生活習慣病 ， 多因子遺伝 ， 遺伝看護

研　究　課　題
・慢性疾患をもつ患者・家族への看護に関する研究 ・遺伝医療用語に対するイメージ分析 ・2 型糖尿病の遺伝に関する知識が患者の自己管理行動および看護に及ぼす影響についての研究

担　当　授　業　科　目	
成人慢性期看護方法論	（看護学科）
成人慢性期看護学実習	（看護学科）2018 年度後期～2019 年度前期
初年次セミナーⅡ	（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　成人慢性期看護方法論　】 　機能障害によっておこる身体面への影響、疾病のなりゆきを予測してアセスメントする力が身に付くよう、代表的疾患を例に挙げ観察項目やアセスメントの視点を具体的に示した。また、慢性疾患をもつ成人やその家族の心理・社会面の特徴をふまえ、QOL をより高め、その人らしく生きるために必要なセルフケア支援についても、看護目標、看護のポイント、症状・苦痛の緩和やコントロール方法、心理・社会面への支援方法を具体的に示し、根拠立てて理解しやすいように講義の流れを組み立てた。 　全体を通して、病態の理解などは既習科目の復習を本科目の予習として課し、講義中に指名して問いかけながら知識を確認することで学習への動機づけができるように意識した。また、病態の理解をもとにアセスメントの視点や看護の方法を思考するトレーニングができるように、意図的に問いかけ、思考を促す機会を増やすように工夫した。
授業科目名【　成人慢性期看護学実習　】 　実習中のカンファレンスや学内日、最終面談において、次の 2 点を意識して直接的・間接的に指導を行った。 ①患者を全人的に捉えたアセスメントを行い、治療を継続するためにこれまでのライフスタイルや価値観に基づいた個別性のある看護実践ができるように指導を行った。 ②アセスメント、看護診断(PES)、看護の方向性(目標・計画)、看護実践、評価、という看護展開のなかで論理性・整合性のある思考ができるように、全体の流れとそれぞれの位置づけの関係性を意識できるように指導を行った。 特に指導を要す学生に対しては実習前・中・後に個別面談を行い、実習目標が達成できるよう個々の問題に応じた指導・支援を行った。 また、実習施設との指導方針の調整を行い、実習がスムーズに運ぶように働きかけた。

授業科目名【　初年次セミナーⅡ　】
①初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。
②個人ワーク、グループワークを取り入れた演習を行なった。具体的には、グループで一つの課題に取り組み、章立てし、各自が一つの章を担当して一つの冊子づくりを行なった。冊子づくりを行なうことで、各自が全体を把握しながら自分の担当に責任をもち取り組むことができたと考える。
③さらに、上記冊子にまとめた内容について、レジュメ作成、パワーポイント作成、発表原稿作成を行ない、プレゼンテーションをさせた。課題発見から発表までの一連のプロセスをグループで取り組むことで、他者の意見を聞き、自分の考えを述べる機会となり、スタディスキルズ（聞く、考える、討論する）の強化につながった。また、司会・進行など経験させることで、役割意識をもたせた。
④評価は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示して説明を加えた。学生は自己評価を行ない、自己の振り返りを行なうことができていた。
⑤本科目は 10 名の教員で担当する科目である。初年次Ⅰ同様に詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容および成績評価に差がでないようにした。さらに、プレゼンテーションでは、教員 2 名～3 名で評価を行なうことで、評価に差がでないようにした。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護研究学会		2007 年 4 月～現在に至る
日本糖尿病教育・看護学会		2007 年 5 月～現在に至る
日本遺伝看護学会		2007 年 5 月～現在に至る
日本看護科学学会		2012 年 7 月～現在に至る
日本看護学教育学会		2013 年 7 月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
・ギラヴァンツ北九州 一次救護ボランティア（学生）	コーディネーター および指導，引率	2019年2月～現在に至る

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
・実習コーディネーター （実習施設間との連絡・調整，各領域間との連絡調整，実習計画，会議・オリエンテーション日程の調整など）

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　原山　裕子	職名　　助教	学位　修士（看護学） 日本赤十字九州国際看護大学大学院　2009 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
新生児看護　　小児看護　　遺伝看護	カンガルーケア　プラダーウィリー症候群

研　究　課　題
カンガルーケア研究においては、近年になり安全性についての議論が高まっており、その根拠や効果、方法論について考察する。 プラダーウィリー症候群研究においては、プラダーウィリー症候群児のケアと児と家族の QOL の向上につながるような養育の指針について考察する。

担　当　授　業　科　目
小児看護学実習・小児看護学演習・小児看護方法論・ 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・生活援助技術論・診療関連技術論・成人・老年看護過程演習

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　　小児看護学実習　　】 看護学科３・４年生の学生に対し実習指導に関わった。学生の実習目標の到達状況に応じて、実習が効果的に るよう病棟師長・臨床実習指導者とともに環境調整に努めた。小児看護の実習では、小児期の患児との関わりに さを感じる学生も多く、実際に患児やその家族との関わりを見せながら、学生が児の成長発達に合わせたコミュ ーションが図れるように関わるようにした。また、受け持ち患児とその家族への理解を深め、健康問題を明確に 看護展開させて援助を実施していく上で、既習の知識を活用できるよう、主体的に学習できるように努めた。学 習得した技術を受け持ち患児に提供できるように支援した。NICU 見学実習では、事前に基本的な知識の確認を た上で実習に臨めるようにし、見学した看護場面について振り返りの場を持つよう努めた。実習中の学生のカン レンスでは学生が体験した看護場面をグループの学生同士で共有し、問題意識を持ち、自らの考えを発展できる 学習が効果的に進められるように関わった。
授業科目名【　　小児看護学演習　　】 看護学科３年生の学生に対して、紙面上患児を元にグループワークによる看護過程展開を指導した。臨床の看護場面で直面する可能性の高い事例の看護展開するため、実際の場面がイメージしやすいように具体的に助言し、グループ内での討議を促すように努めた。さらに、既習の知識の活用ができるように工夫した。また、技術演習においては、臨床での場面を想定し指導した。技術習得には根拠を明確にすると共に、対象者の健康状態・児の成長発達に合わせて関わるよう指導し、技術の習得を促した。技術の習得が十分でない場合は、個別に指導し、一定レベルの技術を習得でるようにした。技術の習得の確認のため、技術試験を行った。
授業科目名【　　小児看護方法論　　】 看護学科２年生の学生に対して、低出生体重児の看護について講義した。早産児・低出生体重児のイメージができるように、具体的な例を用いて、児だけでなく家族を含めた看護を解説した。また、NICU の環境や実際の看護が具体的にイメージできるように、写真を多用した。低出生体重児の生理学的な特徴や発達を促す看護、保育器の機能や使い方についても解説し、実際の臨床経験も取り入れた内容の講義とし、新生児の看護の基本となる基礎的知識を習得できるように講義内容を工夫した。

授業科目名【　　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ　　】 基礎看護学実習Ⅰでは、看護学科１年生の学生に対して実習指導を行った。学生の学習状況を確認し、学生個学習状況に応じた支援に努めた。学生は学内での演習場面と臨床現場での実際の看護場面の違いに戸惑うことたため、個別に具体的に助言し、受け持ち患者との看護場面を通して、学生が自己の関わりを振り返り、自らの課気づけるように支援した。 基礎看護学実習Ⅱでは、看護学科２年生の学生に対して実習指導を行った。学生の学習状況を確認し、学生個々の学習状況に応じた支援に努めた。臨床現場での実際の看護場面において、学生に具体的に助言し、受け持ち患者との看護場面を通して、学生が自己の関わりを振り返り、自らの課題に気づけるように支援した。また、患者のニーズに応じた日常生活援助を導き出し、個別のケアが実施できるように支援した。
授業科目名【　　生活援助技術論　　】 看護学科１年生に対して、日常生活の援助を習得できるように演習で関わった。患者役となった学生の体験を学生間で共有し、患者の立場もイメージできるような声かけを心がけ、必要時、具体的な説明を行った。さらに、アセスメントの視点を示し、学生が各自で考えることができるよう支援した。また、安全・安楽への配慮や環境への配慮などもできるよう助言した。学生が技術習得だけでなく、既習の知識を活用できるように指導することを心がけた。
授業科目名【　　診療関連技術論　　】 看護学科２年生に対して、呼吸を楽にする技術を習得できるように演習で関わった。患者役となった学生の体験を学生間で共有し、患者の立場もイメージできるよう具体的な説明を行った。また、事前に学習してきた既習の知識を活用し、技術習得できるように支援した。
授業科目名【　　成人・老年看護過程演習　　】 看護学科３年生に対して、手術直後の看護を習得できるように演習で関わった。事前課題を元に、臨床の看護場面で直面する可能性の高い手術直後の観察技術を習得するため、実際の場面がイメージしやすいように具体的に助言し、グループメンバー間での学びが深まるよう、学生が各自で考えることができるよう支援した。また、演習内でADL援助の技術テストに関わった。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護科学学会 日本小児看護学会 日本新生児看護学会 遺伝看護学会		2009年4月～現在に至る 2010年4月～現在に至る 2010年10月～現在に至る 2010年10月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
プラダーウィリー症候群児の養育に関する日本版ガイドラインの作成とその妥当性の検証	文部科学省科学研究費　若手研究Ｂ 研究課題番号：24792532	1,500,000	2012年4月～2020年3月

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
国家試験対策委員

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　樋口　由貴子	職名　　助教	学位　修士（看護学）（産業医科大学　2017 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
小児看護学	子ども、ワクチン、感染症、発達障がい児、家族支援

研　究　課　題
・　小児看護に関して、子どもの権利を尊重した看護の実際について考察する。また、入院中の患児とその家族の健康管理について考察する。 ・　大学における感染症予防対策として予防接種勧奨のガイドラインについて検討する。 ・　一保育園をモデルに感染症予防の具体的方策を検討実施し、その効果について検証する。 ・ 発達障がい児とその家族への支援について考察する。

担　当　授　業　科　目
小児看護学演習（前期）、小児看護学実習（通年）、基礎看護学実習Ⅱ（前期）、小児看護学方法論（後期）、生活援助技術論(後期)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　小児看護学演習　】 　ペーパーペイシェントを用いた看護展開と実技演習を行った。事例検討では小児看護の現場で遭遇しやすい事例を作成し、看護展開をおこなった。実際の患児や家族がイメージできるように発問し、看護展開を理解できるように工夫した。 　実技演習では、学生が小児の特徴を理解し、援助技術の根拠と工夫することの重要性について説明し実践することで、学生が習得できるよう援助した。また、実技習得に向けて学生が練習する際にも指導を行った。
授業科目名【　小児看護学実習　】 　臨床実習中は、患児と家族のベッドサイドに一緒に行き、コミュニケーション方法や技術の提供方法等を行った。臨床側にも、それぞれの学生の課題を伝え、達成できるよう支援を求めた。 臨床実習の中で、学生がもった「疑問」・「気付き」から明日の看護に結びつける課題を見出せるよう援助した。看護師以外にも医師、保育士などの他職種と学生が関わりを持てるよう調整し、他職種間連携の重要性について学べるよう工夫した。
授業科目名【　小児看護学方法論　】 　「検査・処置を受ける子どもの看護」の講義を担当した。子どもの権利や子どもの発達を踏まえ、子どもの理解の仕方を学生が考えることで、検査・処置時における看護の工夫の必要性を実感し、学生一人一人が看護を考える事が出来るように発問しながら講義を行った。また、実習中に学生が実施した事例などを、画像を用い説明することで、小児医療現場を見たことがない学年の学生もイメージが出来るように工夫した。
授業科目名【　基礎看護学実習Ⅱ　】 　臨床実習では、学生としての身なり・行動や、個人情報取り扱いの注意について指導した。 また、患者さまを実際に見て触れて感じたことから、患者さまに必要な看護を導きだすよう指導した。カンファレンスを用い自分の意見をまとめて相手に伝えることの大切さ、グループの学びとして共有し、自己に還元することの大切さについて指導した。学生が、実習の中で自己の強みと課題を見出せるよう工夫した。

授業科目名【　生活援助技術論　】
技術の根拠と患者さまの状態に合わせて工夫することの重要性について説明し、学生が援助技術の根拠を考えながら実施できるように発問した。 また、実際に臨床で出会いやすい場面や状況について補足説明することで、臨床をイメージできるように工夫した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員 日本小児看護学会会員 日本小児保健協会会員 日本環境感染症学会会員 日本看護科学学会会員		平成 14 年 4 月（現在に至る） 平成 21 年 1 月（現在に至る） 平成 21 年 4 月（現在に至る） 平成 22 年 10 月（現在に至る） 平成 25 年 6 月（現在に至る）

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） 1.看護学生を対象としたジフテリア・破傷風・百日咳（DTaP）ワクチン接種後の抗体持続状況	共	2018.6	西南女学院大学保健福祉学部研究所報告書	①看護学生を対象に小児用 DTaP ワクチンを接種し、接種から4年後までの抗体価推移を調べワクチンの効果について検討した。 ②共著者名　○目野郁子、樋口由貴子、植田浩司、岡田賢司、山口優子、諸熊一則 ③（p17～p18）
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				著書　1　（内訳　単0, 共1） 学術論文　0 翻訳　0 学会発表　0（内訳 単0, 共0）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし （科学研究費を申請したが2018年度不採択）			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・保健福祉学部１年生および助産別科１年生への感染症予防／予防接種手帳配布と抗体検査後の予防接種勧奨 2011 年６月～現在に至る ・親子遊びの会（ほほえみの会）（2016 年４月～現在に至る） ・キャンパスハラスメント委員（2018 年４月～現在に至る）

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　前田　由紀子	職名　　教授	学位　修士（教育学）（九州大学　2004 年） 博士（教育学）（福岡大学　2010 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
精神看護学、看護教育学	精神科看護師、現象学、コンピテンシー、看護継続教育、キャリア、リカバリー、ストレングス

研　　究　　課　　題
精神科看護師のキャリア形成に関する研究 精神科看護におけるリカバリーに関する研究

担　　当　　授　　業　　科　　目
精神看護学概論（後期）（看護学科） 精神看護方法論（後期）（看護学科） 精神看護学演習（前期）（看護学科） 精神看護学実習（通年）（看護学科） 看護教育論（後期）（看護学科） 看護総合演習（前期）（看護学科） 看護総合実習（前期）（看護学科） 初年次セミナーⅠ（前期）（看護学科） 初年次セミナーⅡ（後期）（看護学科） 看護教科教育法Ⅰ（前期）（看護学科） 看護教科教育法Ⅱ（後期）（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【精神看護学概論】 心の健康を保持・増進するための援助法の基礎を教授した。人との関わりがケアの基本となる精神看護を理解し、精神疾患を持つ人に限らず精神的援助のあり方を強調した。学生の能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について考察させ、精神の発達について理解を図った。学生の反応として、メンタルヘルスに関心が深まったという感想が多く聞かれた。国家試験対策を兼ねて、精神看護学概論に関する問題の解説を記述させポートフォリオの作成を行った。
授業科目名【精神看護方法論】 精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら，精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を教授した。精神障害は、イメージがしにくいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材 DVD は、マイナスのイメージのみが、先行することがしばしばあるため、テレビドラマやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。また、実習における看護学生と患者との良好なかかわりの具体例を示した。精神疾患を持つ人に対する先入観が完全に払しょくされることはないが、出席カードに記入されている内容から見て、精神科看護に興味を持つ学生は増えていると感じる。国家試験対策を意識したノート整理の課題を出し、基礎的な知識を確実にするように努めた。課題として国家試験問題を解かせ、解説を記述させポートフォリオの作成を行った。

授業科目名【精神看護学演習】

精神疾患、症状、治療など基礎的知識を確認後、統合失調症の事例をグループで展開した。精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウッドの理論とストレングスモデルを用い、精神障がい者やその家族のケアについてグループで十分にディスカッションを行った。今年度は昨年度に引き続き実習病院の指導者 4 名が演習に参加し、ディスカッションに加わった。実習指導者にストレングスモデルを使った研究発表をしていただき、理論が臨床でどのように活用されているのか学生の理解が深まった。さらに対話の練習にも指導者に参加していただき、学生は精神科看護のイメージが捉えやすくなったと思われる。ディスカッション後は、グループごとに発表させ、その後、事例に沿って精神科看護のポイントの資料を作成し解説した。課外においては、うつ病の事例を用い、個人ワークにて看護過程を展開させた。実習に必要な基礎力の定着および向上を目的にワークブックを作製し手書きでまとめさせた。

授業科目名【精神看護学実習】

実習前は、事前学習（精神疾患、精神看護、精神科リハビリ等の基礎知識）の徹底を図り、学習不足の学生には課題を与え指導を行った。精神科の実習では不安・緊張が強い学生がいるため、学内演習に指導者に参加してもらっていることが緊張の緩和につながっている。今年度の演習では対話の練習を重ね、学生は患者のストレングスを引き出すために対話を活用した効果的な実習をすることができた。帰校日にロールプレイを取り入れることで、自らのコミュニケーションの方法を振り返り、コミュニケーション技法の向上を促した。PSW の講義やデイケア実習を取り入れ、精神に障がいをもつ人の社会復帰について考察を深めさせた。国家試験対策として、実習期間中に国家試験問題を数問課題とし、解説をしている。

授業科目名【看護総合演習】【看護総合実習】

5 人の学生を担当し、精神看護領域の総合演習、総合実習に取り組んだ。今年度は、精神障がい者の訪問看護と精神科デイケアを総合実習の施設として展開した。精神障がい者の地域生活の理解が深まったと考える。4 年間の統合の科目となるため、学生の自主性を重視し、学習を進めた。演習では、精神障がい者の在宅看護や就労支援、デイケアに関する文献検索を行い、当番制で文献クリティーク、ディスカッションを行い、思考を深めることに努めた。学生の問題意識に沿ったテーマでレポートを作成し、研究的思考が反映されるように支援した。レポート完成後は、パワーポイントを作成しゼミで発表会を行った。

授業科目名【看護教育論】

日本の看護教育制度、看護教育カリキュラム、看護職の生涯教育を取り上げた。日本の看護教育の変遷と戦後数回行われたカリキュラム改正について解説した。その後に現在の看護教育制度の課題、准看護師問題、大学のカリキュラム、看護継続教育についてディスカッションし、今後の看護教育のあり方を考えさせた。4 年生後期の授業であり、国家試験の勉強が忙しくなる時期になるため、希望者が少ないが 4 年間の看護教育を振りかえりディスカッションは充実していた。

授業科目名【初年次セミナーⅠ】

① スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の修得は、ミニレポート作成からレポート作成へとレベルをあげ段階をおってすすめた。レポート作成にはグループ学習を取り入れ、学生間でコミュニケーションをとり意見交換しながら取り組むようにした。
② 毎回の講義の概要や疑問点・調べたことなどを 500 字程度にまとめさせた。また、学修ポートフォリオを作成させ、主体的学習を促すとともに学修の達成状況をチェックした。
③ 学習修得に向けモチベーションの向上を目指し、学外の実習施設(医療機関)から実習指導者を招き講演をしていただいた。
④ 科目の評価視点は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示し説明を加えた。各自に印刷物として配布した。
⑤ 情報倫理や図書・文献の検索法などの講義は、情報課および図書課と連携し行なった。
⑥ 本科目は 10 名の教員で担当する科目である。詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容及び成績評価に差が出ないようにした。

授業科目名【初年次セミナーⅡ】

① 初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。
② 個人ワーク、グループワークを取り入れた演習を行なった。具体的には、グループで一つの課題に取り組

み、章立てし、各自が一つの章を担当して一つの冊子づくりを行なった。冊子づくりを行なうことで、各自が全体を把握しながら自分の担当に責任をもち取り組むことができたと考える。

③ さらに、上記冊子にまとめた内容について、レジュメ作成、パワーポイント作成、発表原稿作成を行ない、プレゼンテーションをさせた。課題発見から発表までの一連のプロセスをグループで取り組むことで、他者の意見を聞き、自分の考えを述べる機会となり、スタディスキルズ（聞く、考える、討論する）の強化につながった。また、司会・進行など経験させることで、役割意識をもたせた。

④ 評価は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示して説明を加えた。学生は自己評価を行ない、自己の振り返りを行なうことができていた。

⑤ 本科目は 10 名の教員で担当する科目である。初年次Ⅰ同様に詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容および成績評価に差がでないようにした。さらに、プレゼンテーションでは、教員 2 名～3 名で評価を行なうことで、評価に差がでないようにした。

授業科目名【看護教科教育法Ⅰ】

「講義」形態の授業ができることを目的に授業を展開した。まず、学習指導要領に基づき、高等学校看護科教育の目標・教育課程を理解できるように、教育方法論・学習理論について図書を利用し、学びを深めさせた。模擬授業の展開においては、教材研究及び教材開発に積極的に取り組み、授業案の作成に取り組ませた。模擬授業の練習を重ね、実際に模擬授業を展開し、自身の授業について客観的に評価でき、自己の課題を明確にすることができた。

授業科目名【看護教科教育法Ⅱ】

看護教科教育法Ⅰの学びを活かし、看護基礎教育における「演習」「実習」の学習形態の特徴等について関連する本を読むことで広い視野で考えることができるように指導した。現役の高等学校教員の「講義」「演習」の授業を観察する機会が得られたので、講義と演習の一体的な授業設計について意見交換をすることができた。臨地実習の経験後であったため、臨地実習における指導計画・指導方法について、実習の特性、指導法について具体的に考えさせることができた。模擬授業は、「演習」の授業形態について授業案の作成を指導し、実習室における練習を重ねた。模擬授業の展開では、現役の高等学校教員を観察者に招き、その授業を客観的に評価するとともに、授業研究の必要性の理解にもつながった。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学会		1984 年 4 月～現在に至る
日本看護科学学会		2003 年 4 月～現在に至る
日本看護研究学会		2003 年 4 月～現在に至る
日本精神保健福祉学会		2007 年 10 月～現在に至る
日本医学看護学教育学会		2007 年 10 月～現在に至る
日本精神科看護技術協会		2008 年 4 月～現在に至る
日本看護学教育学会		2008 年 4 月～現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） iOS/Android アプリケーション e-learning N プラス（国家試験対策用 e-learning） 監修：安酸史子（関西医科大学看護学部教授）	共	平成 30 年 4 月	メディカ出版 iOS/Android アプリケーション	第 107 回看護師国家試験問題についてメディカ出版より依頼を受けた。今回は精神看護学分野の全7問について解答とその解説をした。 共著者：前田由紀子、安藤愛、後藤有紀

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 精神科病棟看護師の精神疾患患者へのストレングスに焦点をあてた看護の特徴に関する文献研究〔示説〕	共	平成30年12月	第38回日本看護科学学会学術集会（徳島）	精精神科病棟看護師の精神疾患患者へのストレングスに焦点を当てた看護の特徴を明らかにするために文研研究を行った。 ストレングスに焦点をあてた看護の特徴において、レジリエンスを育てる支援では看護師主体のストレングスに着目した看護が行われ、退院に向けた意思表出後の支援では患者主体の退院へ向けた患者の思いや行動を支えるストレングスを活かした看護が行われていた。 本人担当部分：分析を担当する。 共同発表者：安藤愛、後藤有紀、前田由紀子 第38回日本看護科学学会学術集会抄録集

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
看護実践者のコンピテンシーと大学教員に求められるコンピテンシーの関連性の究明	文部科学省科学研究費補助金	○（立石和子）、前田由紀子、（有澤舞）	4,550,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
西南女学院大学,看護キャリア支援センター、看護協会認定看護管理者教育課程「ファーストレベル」	講師	2018年7月28日
西南女学院大学,看護キャリア支援センター、看護協会認定看護管理者教育課程「セカンドレベル」	講師	2018年8月4日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
〔大学委員会〕 教務委員会 2018年4月1日～現在に至る 〔学科役割〕 １年生アドバイザー　2018年4月1日～2019年3月31日 〔模擬授業〕 福岡県立青豊高等学校　2018年7月

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　丸山　泰子	職名　　助教	学位　修士(保健看護学)　川崎医療福祉大学　2011 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
老年看護学	認知症ケア

研　究　課　題
・認知症高齢者の生活機能の維持･改善に効果的なケアのあり方を探求する。

担　当　授　業　科　目
成人･老年看護学演習（前期） 老年看護学実習Ⅰ（前期・後期） 老年看護学方法論（後期） 生活援助技術論（後期） 基礎看護学実習Ⅰ（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　成人･老年看護学演習（前期）　】

１．看護過程演習

3 人の教員で 4 グループ（17 名）を担当した。2 年次の看護過程論で学んだことを想起させ、それを土台に疾患を踏まえたアセスメントが学びとして上乗せされるよう意識して関わった。特に、各パターンで考えるべき視点、疾患のメカニズムを踏まえた分析がなされているかに重点を置き、助言を行った。また、急性期、慢性期、老年期と事例が変わるごとに患者の病期を押さえ、回復の経過を踏まえた展開となるよう指導に努めた。

２．技術演習（ADL 援助）

事例を読み込み、アセスメントを踏まえての技術実践になっているか確認をしながら指導を行った。また、患者に対し精神的配慮はできているか、安全・安楽・自立の原則に則って行えているかなど、途中問いかけを行い、学生が自らのケアを振り返り、行動を修正しながら演習できるように配慮した。

（担当：嚥下障害のある患者のアセスメントと食事介助について、片麻痺患者のトイレ移乗介助の技術テスト）

授業科目名【　老年看護学実習Ⅰ（前期・後期）　】

老年看護学実習Ⅰでは、回復期・維持期にある高齢者に対する看護を学ぶ。患者のこれまでの人生、生活に目を向け、患者の望む今後の安全な生活を念頭に、生活機能を中心とした患者の全体像を捉えることができることを重要課題と位置づけ、臨地指導を行った。世代の違いから学生は高齢者の思い、悩みに気づき辛い。身体と心の課題に学生が自ら気づけるように問いかけ、その気づきがアセスメントと提供するケアにつながるよう指導に心がけた。

また、チーム医療、協働に関する理解が深まるよう臨床指導者と調整をはかり、多職種でのケアカンファレンスなど多職種連携に関する学びの場を設けた。臨床指導者とは日々学生の実習状況を確認し合い、指導の方向性の統一に心がけた。

授業科目名【　老年看護学方法論（後期）　】 高齢者の安全に関する回を担当。有害事象、環境をキーワードとし、発症要因と事故予防の視点について解説した。知識として覚えるだけではなく、実際に３年次の臨地実習でこの知識がケアとして生かせるように、臨床での実際の取り組みや、現３年生が臨地実習で高齢者の安全に関しどのようなケアを展開しているか、具体例を出し、イメージしやすいよう工夫した。
授業科目名【　生活援助技術論（後期）　】 排泄を促す技術（おむつ使用、陰部洗浄等）を担当。適切な手順のみでなく、精神的配慮はできているか、安全・安楽・自立の原則に則って行えているかなど、途中問いかけを行い、学生が自らのケアを振り返り、行動を修正しながら演習できるように配慮した。
授業科目名【　基礎看護学実習Ⅰ（後期）　】 １年生にとっては初めて受け持ち患者を担当しての本格的な臨床実習であり、患者との関わりを通し、自己のコミュニケーションの傾向に気づく事を目標のひとつとしている。患者の発した言葉をどのように受け止め、解釈するか、そのコミュニケーションが学生主体になっていないか、自分の関わりが患者に与える影響や自分の傾向・課題に自ら気づいていけるよう問いかけた。学生の気づきをもとに、共に検討していく姿勢での指導を心がけた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本在宅ケア学会 日本看護研究学会 日本老年看護学会 日本看護科学学会 日本認知症ケア学会		2008 年 7 月～現在に至る 2010 年 3 月～現在に至る 2010 年 5 月～現在に至る 2011 年 6 月～現在に至る 2012 年 5 月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 認知症高齢者の生活機能の維持・改善に関する研究： デイサービスにおけるケア効果についての一考察	共	2018年11月3日（土）	日本看護研究学会第23回九州・沖縄地方会学術集会 （於：長崎大学医学部坂本キャンパス）	① 認知症高齢者の生活機能の維持・改善に向けた支援のあり方について示唆を得ることを目的に、デイサービスの介護者に対し面接調査を行った。分析の結果、介護者は行動・心理症状の要因を探り対応を検討すること、また、自己決定できる機会を意図的につくり、認知症高齢者が自分から動き始めるよう工夫していること等、認知症高齢者が安心できる環境を創りに努力していることが明らかになった。 ② 共同研究者：丸山泰子、楢直美 ③ 日本看護研究学会 第23回九州・沖縄地方会学術集会抄録集 p40

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・看護学科研究推進担当　　2018 年 4 月　～　現在に至る ・実習コーディネーター　　2018 年 4 月　～　現在に至る

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　溝部 昌子	職名　教授	学位　博士（保健学）東京大学　2003 年

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
看護技術 高齢者看護 循環器疾患の看護	看護技術、循環器看護、血管看護、老年看護学

研　　究　　課　　題
末梢血管に障害のある患者あるいはその健康を促進するための看護を専門とする血管看護師 Vascular Nurse の役割拡大や教育を研究課題としてこれまで JSPS 挑戦的萌芽、基盤 C を通して 6 年間にわたって取り組んできた。本年度はその最終年度にあたり、20 名ほどの医師・看護師の実践家の協力を得て Web サイト上に血管看護師教育用教材を作成、公開し実際の看護に役立てられるよう取り組んだ。 外国人患者への看護師の対応に端を発し、JSPS 基盤 A の共同研究者として 4 年目となり、今年度は多様な患者ニーズに対応できる看護師の文化能力発達のための教材開発に取り組んだ。

担　　当　　授　　業　　科　　目
成人・老年看護学演習（前期） 成人・老年看護学概論（前期） 総合看護学演習（前期） 総合看護学実習（通年） 老年看護学方法論（後期） 国際看護論（後期） 老年看護学実習Ⅰ（通年） 初年次セミナーII（前期） 初年次セミナーII（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【成人・老年看護学概論】 ①高齢者を取り巻く環境、制度、価値観、生活が変化すること、老年医学の進歩に伴い、老年看護学は固定した知識や技術では対応できないことを前提として、将来にわたって老年看護を実践するための基盤となる知識や態度を育むことを目的に、実際の課題を提示し、基盤となる知識、課題への取り組み方を関連させて講義を展開した。 ②7 回の講義は、講義をメインとして、教室内での少人数ディスカッションや家族へのインタビュー、レポート作成など、いずれかまたは複数の能動学習スタイルを取り入れた。いずれの学生も、普通から十分の内容、量の参加態度であったと思われる。 ③教科書とプリントを用いて個人で復習できる、教科書を超えて発展的に学習できることを目的に、書き込み式配布資料、教科書、参考資料にそって講義をすすめた。 ④講義資料は翌週分を配布し、学生が予習できるようにした。授業前に教科書の該当箇所をみてプリントの空所補充をしている学生が 1 割ほど見受けられた。 ⑤講義ごとに Web フォームを利用して学生の興味、理解、感想、意見を聴取した。学生の興味関心を知ることに役立った。学生にこの結果を何らかの形でフィードバックする方法について検討したい。 ⑥7 回で老年看護学全般に触れたことや、成人看護学との合同科目であるため、全体として提供した情報量が多く、学習成果が散漫になっている可能性があると考えられた。カリキュラム上、他大学に比べ老年看護学領域科目数・時間に制約があるため、2019 年度より高齢者の暮らしや老年看護観、看護理論の展開についての能動学習を中心として、老年看護学の基盤となる知識や価値観に特化した概論科目内容

を再構成して展開予定である。

⑦プリント内の引用図表の文字が鮮明でないことがあり、学生からはkanameからのダウンロードの要望が多く聞かれたため、後期老年看護方法論から対応することとした。

授業科目名【総合看護学演習・実習】

①総合看護学演習、実習の進め方の段取りが不案内ながらも、学生と協力して進めることができ学生に助けられた部分も多かった。前任者の方法に則って進めていたが、年度の進行等を考慮すれば、実習時期や進め方など次年度の計画で改善したいところが明確になった。

②テーマの選定や情報検索については、学生の興味・関心に沿い、それぞれのペースで進めることができたことはよかったと思われる。

③学生それぞれが自身で作成した実習計画を実践できたことの満足感や達成感は、実習が終わり、まとめ、発表会を経て高まった。今年度から始めた実習後の発表会、報告書集の製本、実習施設への報告は、学生にとっても、実習施設にとっても学習成果を確認できるもので効果的であった。

授業科目名【老年看護学方法論】

①前期学生から講義資料をkanameから取り出せるようにしてほしい旨要望があり、初講で意見を聴取、確認し、講義の2週間前を目安にPDFファイルを掲載した。これにより、カラー印刷、予習、復習への利便を感じた学生は多かったように思われる。当該科目では、診療・看護ガイドライン、文献資料が多く、このほか、業者に協力を得てパンフレットを提供していただき、学生個々に配布したりなど、臨地実習においても活用可能な重要な資料を提示し、学修の発展に結びつくもので、過不足はなかったと考える。

②教科書とプリントを用いて個人で復習できる、教科書を超えて発展的に学習できることを目的に、書き込み式配布資料、教科書、参考資料にそって講義をすすめた。

③全学生に24時間排泄日誌を作成させ、排泄アセスメントを実践的に学ぶ事が出来た。全体で4回課題提出があり、全てにコメントして遅滞ない時期に返却した。他のテーマはICFモデル、肺炎の要因、褥瘡予防ケアで、資料を見てまとめるなど方法を提示し、能動的学習と発展的に学ぶ体験ができ、臨地実習の準備状態の形成に役立ったと思われる。

④老年看護学において創傷管理技術は現在外せないテーマであるが、本学には褥瘡ファントムがなかったため、血管看護でつながりのあるスミスアンドネフュー社の協力を得て、褥瘡ファントム、局所陰圧療法システムの貸与、消耗品の提供、パンフレット120部の提供を受け、講義内で教員がデモンストレーションを行った。創傷ケアの専門性を紹介する機会を作ることができた。

⑤カリキュラム上、老年看護技術を実習する時間に制約があり、2コマを土曜日集中としてABI測定、体圧測定を実習した。携帯型ドップラー血流計は血管看護でつながりのある九州大学薬学研究院より8台の貸与を受け、2台は科研費整備品を利用した。教員3名が担当し、学生はワークシートに沿って実習を進めた。学生は様々な場面を想定し、新しい技術を試み、老年看護に必要な高度な技術を体験できたと考える。

⑥老年看護学では、既習の基礎看護学とは異なる複雑なアセスメント方法、記述が求められる場面が多く、その詳細を完全に記憶することは困難であるものの、様々なツールや基準を駆使する必要があるため、定期試験は自作のまとめA3紙1枚を持ち込み可として、記述式で行った。まとめ作成にあたり、定期試験1か月以上前に通知し、全ての学生は全回の学習目標に沿ってまとめを作成した。

⑦定期試験では、平均点81.9±8.9点、不合格者は4名、2名が再試験を受験し合格した。最終的に目標達成度は80%以上の学生は9割以上となった。持ち込み試験であったが、10名は75点未満であり、学修方法に問題があると認識し、3年生の臨地実習指導にあたり注意を要すると考えている。

⑧授業評価では、項目全般に4以上で、1・2の否定的評価がゼロであった。想像以上に教育内容・方法全般が受け入れられていると感じた。2019年度は褥瘡ファントム、膀胱容量計が新規購入されたので、排尿自立支援で、実習技術項目を増やし、なお一層内容の充実が図れると考える。

授業科目名【国際看護論】

①選択科目で、66名が履修した。学修活動への参加を評価対象としたところ、出席、受講中の態度、グループワークへの取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加、リフレクションフォームへの記入などすべての活動で積極的に学ぶ姿勢を確認できた。

②指定教科書の筆者を外部講師としてご出講頂いたことは、学生にとっても印象に強く、稀有なご経験をお

話し下ったことはこの科目へのモチベーションを高めたと思われる。
③北九州国際交流協会からの外部講師２名は北九州市における外国人居住や医療機関を受診する外国人への対応について具体的に示してくださり、卒業後看護師として勤務する際に活用できる情報が得られた。
④国内外の健康と環境、国や文化と看護の関係など実践例や研究成果を提示することができた。
⑤様々な情報を得たうえで、学生は自身の興味と感心に基づいて１つの国の歴史、社会情勢、衛生状態、健康状態、言葉、食文化などを調べてプレゼンテーションした。
⑥科目の性質上、海外の写真や資料を用いたが、学生が自身のプレゼンテーションで同様のテクニックを用いているものが散見され、興味を持って吸収し、発展的に学べている成果があった。
④文化多様性や文化能力について学ぶ当該科目は、ベースとなる知識と課題解決方法について知ることが目的であり、看護に限定せず、大学で学ぶリベラルアーツとしての側面を持ち、国家試験や理論に制約を受けずに学ぶ楽しさを体験できる科目であると考えており、学生の学ぶ姿からもそれは実践できていたと考えられる。
⑤授業評価で、4 未満の項目は、自分が学ぼうとしている専門分野について的確に判断する力を得ることができた、必要となる技術を身につけることができた、コミュニケーションや表現力を高めることができたであった。2019 年度は、看護英語や文化の異なる患者への対応など具体的な方法について単元を確保する予定とした。

授業科目名【老年看護学実習Ⅰ】
①学生が臨地実習の終わりに作成するまとめを、評価項目に沿ったものから症例を通して実践したこと、学んだことに変更した。自身の学びを具体的な体験から抽象化する学修活動につなげられ、病院ともそれを共有できたことはよかった。
②毎週木曜日を学内実習日に変更した。老年看護においてチャペル活動に参加することも目的の一つとしていたが、学生は記録作成に忙しく、実際にチャペルに参加した学生はいなかった。高齢者看護にチャペル活動を活用する方法については今後も検討したい。
③欠席がのべ 21 人あった。オリエンテーションで、実習は原則欠席が認められないことを学生に明確に伝えると共に、自己の健康管理、学修の管理を指導する必要がある。これらのことは、厳しさだけでなく、教員の愛情と心遣いや忍耐により教育されてこそ成果につながることを助教・助手・臨地実習指導者に伝えていきたいと考える。
④臨地実習指導者との事前会議で、学生の準備状態として学内での履修状態の説明、学生インシデント事例の報告、意見交換をおこなった。老年看護学自体が新しい科目であり、基礎教育で修得すべき内容がそれなりに多く、高度で実践的であることを知っていただくために今後も継続していく。
⑤2019 年度は作成する記録物の種類を減らす。データベースアセスメントを廃止し、フォーカスアセスメントのみとし、作業の重複を避ける。老年看護学実習Ⅱとの関連性を持たせること、教員指導体制の充実を図るため、Ⅰ,Ⅱを 3 週間連続で実習する計画としている。このための実習指導者との打ち合わせを 4 月から取り組む予定にしている。また、リハビリテーション病院という特殊な療養環境であり、学生全体に施設概要や特殊性をオリエンテーションしていただくように計画している。

授業科目名【初年次セミナーⅠ】
①スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の修得は、ミニレポート作成からレポート作成へとレベルをあげ段階をおってすすめた。レポート作成にはグループ学習を取り入れ、学生間でコミュニケーションをとり意見交換しながら取り組むようにした。
②毎回の講義の概要や疑問点・調べたことなどを 500 字程度にまとめさせた。また、学修ポートフォリオを作成させ、主体的学習を促すとともに学修の達成状況をチェックした。
③学習修得に向けモチベーションの向上を目指し、学外の実習施設(医療機関)から実習指導者を招き講演をしていただいた。
④科目の評価視点は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示し説明を加えた。各自に印刷物として配布した。
⑤情報倫理や図書・文献の検索法などの講義は、情報課および図書課と連携し行なった。
⑥本科目は 10 名の教員で担当する科目である。詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容及び成績評価に差が出ないようにした。

授業科目名【初年次セミナーII】

①初年次セミナーIで学修した基礎的知識・スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。

②個人ワーク、グループワークを取り入れた演習を行なった。具体的には、グループで一つの課題に取り組み、章立てし、各自が一つの章を担当して一つの冊子づくりを行なった。冊子づくりを行なうことで、各自が全体を把握しながら自分の担当に責任をもち取り組むことができたと考える。

③さらに、上記冊子にまとめた内容について、レジュメ作成、パワーポイント作成、発表原稿作成を行ない、プレゼンテーションをさせた。課題発見から発表までの一連のプロセスをグループで取り組むことで、他者の意見を聞き、自分の考えを述べる機会となり、スタディスキルズ（聞く、考える、討論する）の強化につながった。また、司会・進行など経験させることで、役割意識をもたせた。

④評価は、DPにそって評価指標を作成し、事前に学生に明示して説明を加えた。学生は自己評価を行ない、自己の振り返りを行なうことができていた。

⑤本科目は10名の教員で担当する科目である。初年次I同様に詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容および成績評価に差がでないようにした。さらに、プレゼンテーションでは、教員2名～3名で評価を行なうことで、評価に差がでないようにした。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本血管外科学会	チーム医療推進委員会委員	2014年～現在に至る
日本血管看護研究会	代表世話人	2015年～現在に至る
日本リンパ浮腫治療学会	評議員	2016年～現在に至る
日本看護科学学会		1999年～現在に至る
日本看護管理学会		2003年～現在に至る
日本看護評価学会	編集委員会委員	2011年～現在に至る
日本循環器看護学会	学術委員会循環器看護ワーキンググループメンバー	2014年～現在に至る
日本看護理工学会		2016年～現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） 血管看護との出会いとこれまで	単著	2018年11月	血管外科 Metropolitan Vascular and Endovascular Surgery ,Vol.37 No.1, 2018	自身の実務経験を通して血管障害患者、看護の特殊性を示し、血管看護師としての働き方や看護教員としての使命を示した。 A4版 総224頁、p135-136 著者：溝部昌子
（報告書） 看護学教育における FD マザーマップの開発と大学間共同活用の推進 平成29年度看護学教育 FD マザーマップ・コンテンツ開発	共著	2019年3月	看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター	看護基礎教育におけるカルチュラル・コンピテンス教育に関する科目運営の方法について教育内容、教材、方法を提示し解説を示した。 A4版　頁数:全27頁 著者: 野地有子、溝部昌子、近藤麻理、小寺さやか、野﨑章子

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
「10 年後を見据えたグローバル人材育成・国際交流の推進　コンテンツ報告書 Vol.3				、相原綾子、炭谷大輔、米田 礼担当:「看護基礎教育におけるカルチュラル・コンピテンス教育の進め方」p22-27
科研事業中間報告書 FY2017-2018 国際シンポジウム・セミナー	共著	2019年3月	JSPS（A）17H01607「世界をリードするインバウンド国際展開に向けた看護国際化ガイドライン」 研究代表者　野地有子	分担研究者である当該研究において実施した、4つの国際シンポジウム、セミナーについて要旨、資料をまとめたもの ①「診療ガイドラインの軌跡と未来形」、②「グローバルヘルスの新たな展開-メディカルツーリズムのトレンドと挑戦-」、③米国および台湾における看護職の異文化対応能力セミナー、④「グローバルヘルス＆ナーシング-シャリテ医科大学病院における取り組み-」 A4版　頁数:全116頁 著者: 野地有子、野﨑章子、溝部昌子、飯島佐和子、近藤麻理、小寺さやか、炭谷大輔
（学会発表） 血管看護としてのスキル・ケア・コンピテンシー -実践者によるフォーカスグループディスカッションでの検討-	共著	2018年5月	第3回日本血管看護研究会 （於　山形）	第1回日本血管看護研究会において実施した「血管看護師に必要な技術や知識」についてのフォーカスグループディスカッションについて、当日モデレーターを務めた人と協働でまとめた。 血管看護師には、解剖や治療に関する知識、ABI測定や創傷管理技術、圧迫療法などの技術と患者指導を行う能力が必要である。 発表者：溝部昌子、大久保縁、菊池絵里、田中理子、伊藤清恵、武内龍伸、岩倉真由美
Difficulties in delivering nursing care to international patients among Japanese nurses ：A qualitative approach	共著	2018年6月	The 7th Global Congress for Qualitative Health Research （於　ソウル）	日本国内19病院の看護師に対する質問紙調査で得られた7494人の自由記述回答から、外国人患者への看護ケア提供に関する困りごとについて分析した。コミュニケーション、日常生活支援、看護技術、生と死に関する看護、看護管理が抽出された。 Ariko Noji, Akiko Nosaki, Eiko Otomo, Manami Sakamoto, Mari Kondo, Sachiko Iijima,Sayaka Kotera, Akiko Mizobe, Koji Kobayashi, Daisuke Sumitani

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
＜インフォメーションエクスチェンジ＞『病院の国際化における外国人患者への質の高い看護提供を目指して-看護管理の視点から-』	共著	2018年8月	第22回日本看護管理学会学術集会（於　神戸）	一般参加者7～8人からなるグループに一人のモデレーターを当て、ワールドカフェのスタイルで意見交換を行った。医療機関での外国人への対応、看護管理者としての現状に関する情報交換、課題の共有が主なテーマで、結果は別途報告書としてまとめる予定としている。発表者：野地有子，野崎章子，近藤麻理，飯島佐知子，小寺さやか，溝部昌子，大友英子，坂本眞奈美，小林康司，浜崎美子
医療における職員ダイバーシティーでの文化の調整・適応の一例 - カンボジアA病院での調査より -	共著	2018年12月	第38回日本看護科学学会学術集会（於　松山）	カンボジアA病院における日本人とカンボジア人が働く職場環境における課題と、課題解決法に関してて日本人、カンボジア人の管理者、看護師、理学療法士、医事課職員へのインタビューにより明らかにした。日本式医療提供をカンボジアにも普及させ、なおかつビジネスとして成功させるという基本理念による強い結びつきを基盤として、他者への理解やコミュニケーション、働き方を適応させていた。発表者：溝部昌子，野地有子，近藤麻理，小寺さやか
外国につながりのある人たちへの看護ケア-異文化との出会い42病院マップ開発と活用-	共著	2019年3月	第9回日本看護評価学会（於　東京）	病院内で遭遇する文化背景の異なる人への看護をイラストで例示したマップを用いたカルチュラル・コンピテンス教育の成果について示した。看護師62名、看護学生57名を対象としたアンケート調査の集計により、具体的な看護場面を想起しやすく、外国につながりのある人々への関心が高まったという結果であった。発表者：野地有子，野崎章子，溝部昌子，近藤麻理，小寺さやか，飯髙佐知子
（シンポジウム）特別企画「血管看護の多様性」血管看護の多様性と専門化	単著	2018年10月25日	第59回日本脈管学会総会（於　広島）	血管看護師のコンピテンシーを米国SVN,AHAのScope of Practice,自身が行った調査、文献を基に概説した　発表者：溝部昌子

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
「浮腫を再考する」看護師が扱う浮腫、浮腫認定看護師制度に向けて 血管看護の立場から	単著	2019 年 2 月 16 日	第17回日本フットケア学会年次学術集会（於　名古屋）	血管看護における浮腫看護技術、浮腫看護における対象患者、浮腫看護の定義づけに関する可能性について概説した 発表者：溝部昌子

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
「血管看護領域における包括的患者アセスメント方法とその教育モジュールの開発（16K12052）」	文部科学省科学研究費補助金 基盤（C）	研究代表者	4,2,90,000 円（H27-30）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
「世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン（17H01607）	文部科学省科学研究費補助金 基盤（A）	代表：野地有子 （千葉大学） 研究分担者	分担研究者 1,000,000 円（H29-33）

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター 西南女学院大学 認定看護管理者教育課程	共同研究員 教育運営委員 検討委員	2015 年～1 年毎に継続更新中 2018 年度より

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
国際交流委員会委員

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　布花原　明子	職名　教授	学位　看護学（修士）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学教育（授業及び実習方法） 保健師のキャリア形成 地域組織活動

研　　究　　課　　題
公衆衛生看護学に関して、住民主体の組織活動を中心にして考察する。地域の健康課題の解決をめざす組織活動のあり方や、その発展要因との関連、支援課題についても考察する。 保健師の専門職育成に関して、公衆衛生看護学教育およびキャリア形成の双方から、考察する。

担　　当　　授　　業　　科　　目
＜2 年次＞ 公衆衛生看護技術論 ＜3 年次＞ 地区活動論 ＜4 年次＞ 地区活動論演習　公衆衛生看護技術演習　看護総合演習　　公衆衛生看護学実習　看護総合実習

授業を行う上で工夫した事項（※ 助教については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【公衆衛生看護技術論】 ２年生後期保健師必修・看護師選択科目である。初回に授業への要望を聞き、参加型学習を取り入れて、授業を展開するよう工夫した。各回の授業の中では、基本的事例を提示し、個人で思考する時間→小グループで議論する時間→全体で意見共有し、最後に教員からの補足説明を加える方法である。学生の思考を促し、コミュニケーション力を促進できるよう配慮した。その結果、授業の質評価に関して、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」では、平均値4.1、中央値5.0とこれまでで最も高かった。
授業科目名【地区活動論】 保健師課程３年生前期の必修科目である。アクティブラーニング教室を使用して授業を行っている。毎年、学生からの好評を得ている地域のフィールドワークを行って地域の生活環境と健康を５感で考える機会を設けた。フィールドワークのポスター発表では、口頭での意見交換では発表者が限定されがちであるため、全員がコメントをホワイトボードに書き込み、参加意欲を高める工夫をした。学生からは、現場での実際の保健師活動について、もっと知りたいとの要望があり、次年度は外部講師の検討を行う。
授業科目名【公衆衛生看護技術演習】 保健師課程４年生前期の必修科目であり、公衆衛生看護学実習に備える看護技術の習得を目指している。 新生児家庭訪問と、実習地域で実施する健康教育の演習を行い、準備する。いずれの技術も、各自、できている点とできていない不足点に気づき、実習に向けて自己の課題を明確化することをゴールにしている。 学生は看護師課程の臨床看護学実習を終えている。従って、紙面上で家庭問計画は大方できる。しかし、援助項目を、家庭訪問のロールプレイ場面で、対象者に応じて、どのように提供していくのかという点が課題である。ロールプレイ場面を、スマートフォンで撮影し、見直す時間をとり、不足している知識や技術に気づけるよう、また実習までの備えを自覚できるよう工夫した。

授業科目名【看護総合演習】

最終評価となるレポートでは、文献を活用して看護総合実習で計画した看護技術に関する文献を引用して考察を行い、各自レポート作成を行うことができた。また、演習への参加態度も良好であった。授業評価結果より、平均値は改善、それ以外は維持していた。学生が習得したと回答した項目では、「新たな知識の獲得」「事象を理解する視点や考え方の習得」「課題の検討力」に比べ、「専門分野で必要となる技術力」が低かった。次年度は、保健指導技術・企業就業者集団のアセスメント技術などの習得を強める必要がある。

授業科目名【地区活動論演習】

保健師課程４年生前期の必修科目であり、6 実習施設の地域診断を行う。4 月から 6 月上旬公衆衛生看護学実習開始前までに集中講義形式で実施した。毎回、事前学習として既存資料からの統計情報の収集及び分析が必要になるため、連続授業は避けてほぼ隔日で時間割を作成し、自己学習時間を確保できるよう配慮した。

また、シラバスをベースに、演習の進め方のガイドブックや統計データのアクセス方法の資料等を配布し、学生が効率的に情報を収集できる方法を提示するなどの工夫を行った。教員間では随時グループの進捗状況を共有し、全体講義が必要な内容は随時説明して、全体の習得状況を調整できるよう配慮した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本公衆衛生学会	一般会員	1994 年４月～現在に至る
日本看護科学学会	〃	2001 年３月～　〃
日本地域看護学会	〃	2001 年４月～　〃
日本看護教育学学会	〃	2003 年４月～　〃
日本公衆衛生看護学会	〃	2014 年４月～　〃

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) (学会)			第７回 日本公衆衛生看護学会学術集会	座長

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市保健所運営協議会	委員	2009 年 4 月～現在に至る
日本私立看護系大学協議会	広報委員	2017 年 4 月～現在に至る
認定看護管理者教育課程ファーストレベル	講師	2012 年 4 月～現在に至る
北九州市介護保険認定審査会	審査委員	2017 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
1. 学生募集委員会 1) 高校模擬授業および進路ガイダンス（県立若松高校・県立直方高校西南女学院中高・美萩野女子高校）にて実施した。また、学生募集委員での対応が難しい日時については、学科内教員への依頼を行い、できるだけ多くの高校へ出向くことができるようにした。 2) 看護学科オープンキャンパスの企画、担当教員との調整及び当日の運営を行った。 3) 入試説明会をはじめ、学生募集に係る本学の PR（パンフレット等）などを作成した。 4) 在校生の高校訪問の依頼学生の選抜を行い、訪問前後の準備を整えた。 2. 3 年生アドバイザー アドバイザー責任者として、年間のアドバイザー活動方針を示し、4 名のアドバイザー体制のもと計画された支援計画に沿って、全て実施することができた。 1) 個別面談 新年度に個別面談を行い、その後は、必要な学生に、個別面談を実施した。成績不良者や、臨床看護学実習の履修に問題が生じる場合など、個別対応が必要な場合には、学科長や実習指導者と連携しながら、随時、面談を実施した。 2) 保護者懇談会について 今年度、新たに、キャリア支援を重視した保護者懇談会を実施した。2 年生保護者との合同懇談会も初めての試みであった。就活に関する情報企業からの講演「病院から選ばれる人になるために」をテーマに、求人・就活の傾向と対策について、保護者への情報提供の機会を提供し、好評であった。

3)学習ポートフォリオファイル作成指導

2 年次から 3 年次にかけて、正規科目以外での学習内容（模試結果及びやり直しノート・臨床看護学実習の課題学習など）を、各自が学習ポートフォリオとしてファイルづくりを行うよう指導した。そのファイルが、3 年アドバイザー支援が終了した後に、4 年次の国家試験対策として活かされるよう、新年度の国家試験対策委員に引き継いだ。

4)業者模試の実施（2 月 3 月）

3.保健師国家試験対策

保健師課程学生を対象に、8 月～2 月にかけて、業者模試、結果分析に基づく対策の検討を行った。今年度は、学生との企画会議をもち、学生の主体的な保健師国家試験体制を整えるよう工夫した。業者模擬試験の実施，結果分析に基づく補講を計画した。疫学保健統計など、基礎科目補講の調整と、公衆衛生看護学の補講を実施した（補講は全 18 コマ）。結果は、15 名受験者数のうち、14 名合格・1 名不合格。

学部長による評価・改善記入欄（助手については、学科長による評価・改善記入欄） ※この欄は、一切公表いたしません
１．教育活動について ２．研究活動について ３．その他

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　吉原悦子	職名　　講師	学位　修士（看護学）大分大学 2007 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
老年看護学	排便ケア 認知症ケア 認知症高齢者グループホーム

研　究　課　題
・認知症高齢者の排便ケア ・地域貢献活動に参加した学生の学び

担　当　授　業　科　目
（前期） ・初年次セミナーⅠ ・成人・老年看護過程演習 ・在宅看護学 ・在宅看護学演習 ・看護総合演習 ・看護総合実習 （後期） ・初年次セミナーⅡ ・老年看護方法論 ・老年看護学実習Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　初年次セミナーⅠ・Ⅱ】 初年次セミナーⅠ：①スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の修得は、ミニレポート作成か ポート作成へとレベルをあげ段階をおってすすめた。レポート作成にはグループ学習を取り入れ、学生間でコ ケーションをとり意見交換しながら取り組むようにした。②毎回の講義の概要や疑問点・調べたことなどを 50 度にまとめさせた。また、学修ポートフォリオを作成させ、主体的学習を促すとともに学修の達成状況をチェ た。③学習修得に向けモチベーションの向上を目指し、学外の実習施設(医療機関)から実習指導者を招き講演 いただいた。④科目の評価視点は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示し説明を加えた。各自に として配布した。⑤情報倫理や図書・文献の検索法などの講義は、情報課および図書課と連携し行なった。 ⑥本科目は 10 名の教員で担当する科目である。詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容及び成績評価に差が ようにした。 初年次セミナーⅡ：①初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書 える）の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテ ンをする機会を設けた。②個人ワーク、グループワークを取り入れた演習を行なった。具体的には、グループ の課題に取り組み、章立てし、各自が一つの章を担当して一つの冊子づくりを行なった。冊子づくりを行なうこ 各自が全体を把握しながら自分の担当に責任をもち取り組むことができたと考える。③さらに、上記冊子にま 内容について、レジュメ作成、パワーポイント作成、発表原稿作成を行ない、プレゼンテーションをさせた。 見から発表までの一連のプロセスをグループで取り組むことで、他者の意見を聞き、自分の考えを述べる機会と

スタディスキルズ（聞く、考える、討論する）の強化につながった。また、司会・進行など経験させることで、意識をもたせた。④評価は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示して説明を加えた。学生は自己評行ない、自己の振り返りを行なうことができていた。⑤本科目は 10 名の教員で担当する科目である。初年次Ⅰ詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容および成績評価に差がでないようにした。さらに、プレゼンテーシは、教員２名～3 名で評価を行なうことで、評価に差がでないようにした。

授業科目名【成人・老年看護過程演習】

２年次の看護過程論を基盤とし、看護過程の演習を進めた。胃がん患者の事例を基本とし、慢性期、老年期と看護過程を進めていった。急性期の事例では、術前と術後の患者の状況が変化を学生が理解できるように行っていった。慢性期や老年期においても各々のアセスメントの視点が十分に理解できるようにグループ全体に投げかけながらグループで共通理解が進むことを促した。特に進行度が違う学生がいる場合には個別の指導を取り入れた。他の教員と事前に打ち合わせを行い、進行度や学生が困難に感じていることをその都度確認し、共通して指導を行った。

授業科目名【在宅看護学】地域包括ケアの部分を担当した。病院内の連携や多職種との連携についてはイメージができる学生がいるが、地域においてフォーマル、インフォーマルなサービスを組み合わせながら在宅で生活を行うことをできるだけ具体的にイメージできるように例を用いながら講義を行った。ご本人ご家族のニーズに沿った生活に向けてを意識できるように関わった。

授業科目名【在宅看護学演習】地域包括ケアの部分を担当した。在宅看護学を踏まえながら、事例に基づいてサービスを図式化していった。その中でも斬新な切り口でまとめていたり、さまざまなサービスを丁寧に洗い出し図にまとめたグループについては講義の中で発表を行い、補足した。また、資料として配布しほかの学生の参考になるようにした。単にサービスを羅列するのではなく、その人の人生という長いスパンの中で必要なサービスも変化していくことの意識付けを行った。

授業科目名【老年看護学方法論】

３回を担当した。本科目は直接実習において必要となる。そのため、高齢者を理解するために必要な知識を習得することを目指す。患者さんを観察する際にはどのように観察するのかを実習場面を例にだし概説した。また、写真などを見せることで、学生が理解しやすいよう工夫した。

授業科目名【老年看護学実習Ⅱ】

施設実習で１週間と短いため、その中でいかに療養者の全体像を捉えられるのかを意識して指導した。特に学生と療養者とのかかわりの場面を逃さずに確認し、その中から何がつかめたのかを確認するように心がけた。認知力が低下している高齢者とのかかわりになるため、言語だけを聞くのではなく、その人の持つ背景を鑑み、受け持ち療養者さんのメッセージをくみ取るように指導した。また、今年度から受け持ち療養者のライフストーリーを聞き取る課題を提示し、全体像の把握を促進するように努めた。

授業科目名【看護総合演習・実習】

看護総合演習については、関心のある分野の論文を読み、ゼミのメンバーと意見交換を行った。実習につながる演習であるため主体的に学ぶ方向に助言を行った。

看護総合実習については、学生自ら取り組む実習として演習に引き続き実習内容を確認し、臨床側と調整を行った。また、実習終了後は個別にレポート指導を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学教育学会		2001.4～現在に至る
日本老年看護学会		2003.4～現在に至る
日本老年社会科学会		2003.4～現在に至る
日本認知症ケア学会		2006.4～現在に至る
日本看護科学学会		2008.6～現在に至る
公益社団法人「認知症の人と家族の会」		2016.5～現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学び	共	2019年3月	第49回日本看護学会論文集ヘルスプロモーション	①研究者とともに子育て世代の母親に対して乳がん検診・自己検診法の啓発活動行った、看護学生の学びを明らかにした。学生は、人々を生活の中で捉えることができ、参加者とのやり取りの中で成長を実感し、自ら実践することで自己効力感も感じていた。課題として実践の学びを学生同士共有する場を設け、実践の継続など場の提供の工夫が必要である。 ②共同発表者名：吉原悦子、古賀玉緒、穴田和子、山田恵、前田幸、井手裕子、久保田千景、笹月桃子 ③第49回日本看護学会論文集ヘルスプロモーション （P99-102）
（翻訳）				
（学会発表） 乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学び	共	2018年9月	第49回日本看護学会ヘルスプロモーション学術集会 （於：岡山コンベンションセンター）	①研究者とともに子育て世代の母親に対して乳がん検診・自己検診法の啓発活動行った、看護学生の学びを明らかにした。学生は、人々を生活の中で捉えることができ、参加者とのやり取りの中で成長を実感し、自ら実践することで自己効力感も感じていた。課題として実践の学びを学生同士共有する場を設け、実践の継続など場の提供の工夫が必要である。 ②共同発表者名：吉原悦子、古賀玉緒、穴田和子、山田恵、前田幸、井手裕子、久保田千景、笹月桃子 ③第49回日本看護学会ヘルスプロモーション学術集会抄録集　（P106）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究	平成 29 年度西南女学院大学共同研究費	○谷川弘治 今村浩司 笹月桃子 吉原悦子 樋口真己 （石丸美奈子）	1,370,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・国家試験対策委員（2018. 4～2019. 3） ・1 年生アドバイザー（2018. 4～2019. 3） ・学生募集委員（2018. 4～2019. 3） ・シニアサマーカレッジ　講師 ・キャンパスハラスメント相談員 ・模擬授業　：西南女学院（2018 年 10 月）、門司学園高校（2018 年 10 月）、北筑高校（2018 年 10 月）、八幡高校（2019 年 3 月） ・地域貢献活動：学生と共に乳がん検診・自己検診法の啓発活動を行った。　（於：井堀市民センター、2018. 9）

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　目野　郁子	職名　　教授	学位　博士（医学）（九州大学 1994 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
病原微生物学　　免疫学	微生物　　感染症　感染対策　　予防接種　　抗体

研　　究　　課　　題
・ワクチンで予防可能な成人感染症、特に百日咳について成人女性を対象にジフテリア・破傷風・百日咳（DTaP）ワクチン接種後の百日咳抗体の持続状況について長期に渡る縦断研究を実施している。

担　　当　　授　　業　　科　　目
感染と免疫（前期）（看護） 生物と生命科学（前期）（看護） 生物と生命科学（前期）（福祉） 初年次セミナーI（前期）（看護） 生活と環境（前期）（福祉） 生活と環境（前期）（栄養） 初年次セミナーII（後期）（看護） 微生物学（後期）（福祉）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【感染と免疫：看護】 ① 看護師国家試験受験資格を得るための必須科目であり、学ぶ内容も多く１年生にはかなり難しいである。そのため科目の狙い・到達目標を丁寧に説明した。 ② 学習準備を早期から促し学習量を増やすため、講義回数半ばで小テストを導入した。 ③ 興味関心を持たせるため、タイムリーな話題の感染症事例やトピックススを教科書の内容にプラスし説明を行った。 ④ 講義途中に学生に質問をし、挙手により反応をみた。理解度が不十分な箇所は繰り返し説明した。また、講義終了後には質問を受ける時間を設けた。 ⑤ 実習には国家試験を意識した内容を含めた。
授業科目名【生物と生命科学：看護】 ① 学生の学習量（復習を重視）を増やし、講義内容の理解を確実にすることが専門科目につなぐために必要と考え以下の取り組みを行った。 ② 本試験前にミニテストを３回実施した。1、２回目のミニテストは、テスト終了後に正答を導くまでのプロセスをパワーポイントで示し解説した。解説モデルを提示した後、３回目のミニテストを行い、成績評価を行なった後、その解説をレポートとして提出させた。 ③ 評価項目は、講義途中に繰り返し説明した。特に、解説レポートの作成については、他科目の教科書や参考図書を使うよう指導した。また、提出期限が他科目の提出物と重ならないよう配慮した。

授業科目名【生物と生命科学：福祉】

① 興味関心をもつことを一番とした。特に講義では〝生活のなかで気づく体の正常なしくみと異常(疾患)〟に焦点をあて説明した。

② 今年度から、学習準備を早期から促すため講義回数半ばで小テストを導入した。

③ 学生の講義内容の習熟を図るため講義の最初に前回の講義の復習を行なった。また、講義中に項目ごとに質問を投げる、受ける機会を作った。

④ レポート課題は、事前に講義を行った後、調べ学習をし、グループディスカッションにより知識の定着を図った。

授業科目名【初年次セミナーI：看護】

① スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の修得は、ミニレポート作成からレポート作成へとレベルをあげ段階をおってすすめた。レポート作成にはグループ学習を取り入れ、学生間でコミュニケーションをとり意見交換しながら取り組むようにした。

② 毎回の講義の概要や疑問点・調べたことなどを500字程度にまとめさせた。また、学修ポートフォリオを作成させ、主体的学習を促すとともに学修の達成状況をチェックした。

③ 学習修得に向けモチベーションの向上を目指し、学外の実習施設(医療機関)から実習指導者を招き講演をしていただいた。

④ 科目の評価視点は、DPにそって評価指標を作成し、事前に学生に明示し説明を加えた。各自に印刷物として配布した。

⑤ 情報倫理や図書・文献の検索法などの講義は、情報課および図書課と連携し行なった。

⑥ 本科目は10名の教員で担当する科目である。詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容及び成績評価に差が出ないようにした。

授業科目名【生活と環境：福祉・栄養】

① 福祉学科では、受講生の75%が3年生であり、実習で講義を欠席することがある。その補てんとして講義の最初に前回までの講義の復習を行う時間を設けた。また、習熟度に差が出ないよう、重要な箇所は繰り返し説明し、その際に質問を受ける時間を設けた。

② 栄養学科では、受講生全員の受講動機が単位を確保するためであった。いかに興味関心を持たせるかを課題に、従来の内容に食料問題など栄養に関する内容を新たに含め講義を行った。

③ 講義内容の理解を深めるために、グループ学習を行い、意見交換をさせた。

授業科目名【初年次セミナーII：看護】

① 初年次セミナーＩで学修した基礎的知識・スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。

② 個人ワーク、グループワークを取り入れた演習を行なった。具体的には、グループで一つの課題に取り組み、章立てし、各自が一つの章を担当して一つの冊子づくりを行なった。冊子づくりを行なうことで、各自が全体を把握しながら自分の担当に責任をもち取り組むことができたと考える。

③ 初年次セミナーＩで学修した基礎的知識・スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。

④ さらに、上記冊子にまとめた内容について、レジュメ作成、パワーポイント作成、発表原稿作成を行ない、プレゼンテーションをさせた。課題発見から発表までの一連のプロセスをグループで取り組むことで、他者の意見を聞き、自分の考えを述べる機会となり、スタディスキルズ（聞く、考える、討論する）の強化につながった。また、司会・進行など経験させることで、役割意識をもたせた。

⑤ 評価は、DPにそって評価指標を作成し、事前に学生に明示して説明を加えた。学生は自己評価を行ない、自己の振り返りを行なうことができていた。

⑥ 本科目は10名の教員で担当する科目である。初年次Ⅰ同様に詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容および成績評価に差がでないようにした。さらに、プレゼンテーションでは、教員2名～3名で評価を行なうことで、評価に差がでないようにした。

授業科目名【微生物学：福祉】

① 本科目の該当DP、授業概要、達成すべき行動目標と達成目安については、パワーポイントを用い、印刷物を配布し説明した。また、養護教諭免許取得のための必須科目であるため、科目のカリキュラム上の位置付けについても丁寧に説明した。

② 資格取得に必要な科目のため講義の内容量が多い。そのため今年度から講義回数半ばで小テストを導入し学習意欲とモチベーションを持続させる工夫をした。また、学生の理解度の把握に役立てた。

③ 基礎的な事項から始め学校現場を想起できるよう感染症事例を展開し講義を実施した。また、将来の就職先にもつなげるよう子どもや高齢者の感染症について最近のトピックスを中心に講義を行った。

④ 質的・量的にかなり重たい講義のため、講義内容を整理するために講義進行にそって数回重要ポイントを提示し自主学習を促した。

⑤ 講義の理解度を測るため、講義中に教員側から積極的に質問をした。学生の理解度が低いと思われた箇所は繰り返し説明した。また、学生にも声かけし質問をうける体制を作った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本細菌学会		1987年4月～現在に至る
日本感染症学会		1996年4月～現在に至る
日本小児保健協会		2000年4月～現在に至る
日本環境感染学会		2004年4月～現在に至る
日本ワクチン学会		2016年4月～現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表）				教育研究業績 （2018.4.1－ 2019.3.31日現在） 著書 0　（内訳 単 0　共 0） 学術論文 0（内訳 単 0　共 0） 報告書　0（内訳 単 0　共 0） 学会発表 0（内訳 単 0 共 0）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし	なし	なし	なし

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
・福岡県食品安全・安心委員会 福岡県知事の附属機関である「福岡県食品安全・安心委員会」において，食品の安全・安心の確保に関する基本計画等について調査審議する。	委員	2017 年 5 月 1 日～2019 年 4 月 30 日
・北九州養護教諭のための勉強会 養護教諭を対象に「小児感染症とその予防-予防接種について-」というテーマで講演・研修を行なう。		2018 年 10 月 27 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・ 人事委員会委員　2017 年 4 月 1 日～ 現在に至る ・ 動物実験委員会委員　2016 年 4 月 1 日～ 現在に至る ・ 保健福祉学部付属保健福祉学研究所運営委員 2003 年 4 月 1 日～ 現在に至る ・ 公的研究費内部監査部門担当者　2017 年 2 月～ 現在に至る ・ 西南女学院 100 周年記念誌出版委員会委員 2018 年 7 月～現在に至る ・ 学生の健康支援 保健福祉学部、人文学部、および助産別科の各 1 年生を対象に、毎年学科毎にワクチンで予防可能な感染症について感染症予防の説明を行ない（予防接種手帳配布・抗体検査結果配布）、予防接種が必要な学生には個別に面談し接種勧奨を行なっている（2011 年～現在に至る）。 2018 年 5 月～2018 年 12 月、5 回実施 ・ 看護学科 1 年生アドバイザー責任者 2018 年 4 月～2019 年 3 月 ・ 保健福祉学部福祉学科 2 年生講義：学外実習前に「感染症および感染症予防対策」について講義を行なう。 2018 年 12 月 6 日、講義 1 回

福　祉　学　科

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　荒木　剛	職名　准教授	学位　（社会福祉学）（熊本学園大学 2002 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
高齢者福祉、ソーシャルワーク、実習教育	高齢者福祉、ソーシャルワーク、社会福祉士養成教育

研　究　課　題
・高齢者福祉領域におけるソーシャルワーク実践のあり方について検討する。 ・社会福祉士養成教育における実習教育のあり方について検討する。

担　当　授　業　科　目
基礎実習（1 年次通年）、福祉入門（1 年次通年）、高齢者福祉論（2 年次通年）、介護技術演習（1 年次後期・2 年次前期）、相談援助実習指導Ⅰ（2 年次通年）、相談援助実習指導Ⅱ（3 年次通年）、相談援助実習（3 年次通年）、相談援助演習Ⅱ（2 年次前期）、相談援助演習Ⅲ（2 年次後期）、高齢者支援学Ⅰ（2 年前期）、相談援助演習Ⅳ（3 年次前期）、相談援助演習Ⅴ（3 年次後期）、社会福祉特講Ⅱ（4 年次後期）、専門研究Ⅰ（3 年次通年）、専門研究Ⅱ（4 年次通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【基礎実習】 本科目は、学生が対人援助のフィールドで体験型学習を行うものであり、1 年次開講の福祉基礎科目に位置づけられる。講義は学生を 3 グループに分け、担当制により実施した。実習前には、対人援助職への理解や実習への動機が高まるよう個別指導を実施した。また、自己学習により実習先を理解させ、実習への準備性を高めた。実習後には、個別面接や実習報告会を通じて、実習体験から得た学びや気づきの振り返りを行った。
授業科目名【福祉入門】 本科目は、本年度に新設された１年次開講の福祉基礎科目（必修）である。学生の社会福祉への動機・関心を高めること目的としている。講義では、初学者である１年生が福祉課題の現状や対人援助職の魅力・やりがいを理解できるよう、統計資料や DVD 等を活用した。また、教授内容の検討や外部講師との日程調整など授業全体のマネジメントを担った。
授業科目名【高齢者福祉論】 本科目は、社会福祉士指定科目である。講義は教科書を中心に展開するとともに、毎回レジュメを作成することで学生の内容理解を助けた。また、新聞記事やＤＶＤ等の活用を通じて最新情報の提供を行った。毎回の講義後にはコメントカードを提出させ、学生の理解度の把握にも努めた。
授業科目名【介護技術演習】 本科目は介護現場に従事する外部講師２名による実技指導を主な内容としている。講義では外部講師との連携を図り、使用物品の準備や講義環境の整備等を行った。また、単元ごとにレポートを提出させ、技術面だけでなく介護者と しての視点や考え方の習得度を把握した。 なお、カリキュラム構成や履修状況等を踏まえ、本年度より１年次後期の開講とした。

授業科目名【相談援助実習指導Ⅰ】
本科目は相談援助実習（3 年次）に向けた準備学習を主な内容としている。高齢者福祉領域及び地域福祉領域を担当した。講義ではグループ学習やＤＶＤ等の視覚教材、高齢者体験セット等を活用し、実習領域・施設及び利用者理解が深まるよう工夫した。また、見学実習により実習内容のイメージ化と動機づけを行った。

授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】
本科目は本学（福祉、看護、栄養）、九州歯科大学、西日本工業大学の 3 大学による合同講義である。内容はアクティブ高齢者の支援について講義とＰＢＬ（事例検討）を行うものである。講義では、他大学・学科の学生が理解しやすいよう内容や資料を工夫した。また PBL においては、3 大学の学生が多職種連携の視点から議論を深められるようファシリテートを行った。

授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】
本科目は相談援助実習（3 年次）の事前・事後の指導を主な内容としている。高齢者福祉領域及び地域福祉領域を担当した。実習前には、実習計画書、個人紹介票、誓約書等の作成指導を通して学生の動機を高めた。実習後には、個別面談やケアプラン報告会、実習報告会を通して実習体験の学び・気づきを深めさせた。また、実習期間中は巡回訪問や帰校日を通じて、個別指導及び実習状況の確認を行った。

授業科目名【相談援助実習】
本科目は社会福祉士受験資格取得のために学外実習（180 時間）を行うものである。高齢者福祉領域及び地域福祉領域を担当した。実習を実施するにあたり実習指導者との連絡調整を行い、実習環境の整備と教育効果の向上に努めた。また、新規実習施設の開拓や実習指導者協議会（9 月）による実習指導者と連携にも努めた。

授業科目名【相談援助演習Ⅱ】
本科目は社会福祉士指定科目の１つである。講義では、ソーシャルワーカーとしての基本的視点、姿勢、支援過程、面接技法や記録について教授した。毎回の講義において必ず各人に意見発表の機会を与え、主体的な態度を引き出せるよう心がけた。また、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ等を積極的に取り入れ、体験・参加型の講義となるよう努めた。

授業科目名【相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ】
本科目は社会福祉士指定科目の１つである。講義では高齢者への支援事例を用いてケアマネジメントの手法や権利擁護のアプローチを教授した。また、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れ、学生同士で様々な視点から事例検討が進められるよう工夫した。
※相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴはオムニバス形式のため講義内容・方法は同じ。

授業科目名【社会福祉特講Ⅱ】
本科目は４年次の開講科目であり、社会福祉士の国家試験対策としての位置づけもある。講義では高齢者福祉を担当し、国家試験で出題が予想される制度改正部分や学生の理解度が十分でないと思われる内容を中心に教授した。
なお、本科目は教員５名によるオムニバス形式であり、授業運営の調整役を担った。

授業科目名【専門研究Ⅰ】
本科目ではゼミ全体で研究テーマを設定した上で、学生が個別の課題について自己学習を行った。学生指導においては、できる限り研究への関心を高め、自主的に取り組めるよう努めた。

授業科目名【専門研究Ⅱ】
本科目では個々の学生が研究テーマ・課題を設定し、調べ学習及びレポート作成に取り組んだ。学生指導においては、各人とのコミュニケーションを密に図り、進捗状況に応じた個別指導を心がけた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉士会 日本社会福祉学会 日本地域福祉学会 日本介護福祉学会 日本ケアマネジメント学会		1998 年 4 月～現在に至る 2002 年 3 月～現在に至る 2007 年 3 月～現在に至る 2007 年 3 月～現在に至る 2008 年 1 月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） コメディカルのための社会福祉概論　第 4 版	共	2018 年 12 月	講談社	① コメディカルを目指す人に対して、社会福祉や対人援助について基礎から解説した教科書。 ②編者：鬼﨑信好、本郷秀和 共著者：今村浩司、片岡靖子、永田千鶴、畑香理、古野みはる、松岡佐智、村山浩一郎、渡辺暁 ③担当部分：第 13 章　社会福祉を担う人々 （P171～P180）
（学術論文） 地域包括支援センターの社会福祉士に期待される実践と課題－先行文献からの検討－	共	2019 年 2 月	『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 27 巻第 2 号	① 地域包括支援センターの社会福祉士に求められる実践及び課題について、文献・先行研究から論考したもの。 ② P99 - P111
（学術論文） 地域包括ケアシステム構築に向けた政策展開と課題	単	2019 年 3 月	『西南女学院大学紀要』Vol. 23	① 地域包括ケアシステムに関する政策動向を整理するとともに、その構築に向けた課題を考察したもの。 ② P37 - P46

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
地域包括支援センターにおける地域のインフォーマル資源の主体形成を図る実践（2016 年度～2018 年度）	文部科学省	○荒木剛 （本郷秀和）	1,000,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市社会福祉協議会 （権利擁護・市民後見センター運用委員会）	委員	2009 年 4 月～現在に至る
北九州市社会福祉協議会 （福祉人材バンク事業運営委員会）	委員	2012 年 4 月～現在に至る
北九州市社会福祉協議会 （総合企画委員会）	委員	2018 年 4 月～現在に至る
社会福祉法人兼恵園 （評議員会）	評議員	2017 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生募集委員（2016 年 4 月～現在に至る） 地域連携室室員（2016 年 8 月～現在に至る） ＣＯＣ＋3 大学連携講義検討部門・公開講座部門（2015 年 11 月～現在に至る）

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　稲木　光晴	職名　　教授	学位　博士（体育科学）（筑波大学，1994年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
運動生理学	筋疲労，持久性パフォーマンス

研　究　課　題
持久性競技パフォーマンスの向上に関する研究

担　当　授　業　科　目
運動と健康（前期）（看護学科） 運動と健康（福祉学科） チームスポーツ（前期）（看護学科） チームスポーツ（前期）（福祉学科） チームスポーツ（前期）（栄養学科） チームスポーツ（前期）（英語，観光文化学科） 生涯スポーツ（後期）（看護学科） 生涯スポーツ（後期）（福祉学科） 生涯スポーツ（後期）（栄養学科） 生涯スポーツ（後期）（英語，観光文化学科） 運動処方論（後期）（福祉学科） 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科） 母性の運動科学（前期）（助産別科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【運動と健康】 1. 生理学的メカニズムなど、理解に時間を要すると思われる事柄については、繰り返しモデルの提示を行った。 2. 授業の終わりに、授業内容に関する質問がある場合には紙に書いて提出してもらい、次回の授業で質問に答えるようにした。
授業科目名【チームスポーツ】 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 2. チームで練習をしたり、試合内容などについて意見交換したりすることによって、十分にコミュニケーションを図れるようにした。
授業科目名【生涯スポーツ】 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 2. 学生主体でラケットスポーツの練習や試合を行わせることにより、自分たちにあった練習の仕方や試合の進め方を考えさせた。

授業科目名【運動処方論】 1. 机間指導や質問をすることによって、学生の理解度合いをチェックしながら授業を進めた。 2. 授業の最初に小テストをすることで、授業の復習ができ、内容を理解しているかのチェックを行った。
授業科目名【母性の運動科学】 1. 妊婦運動の効果について、最新の情報を提供するように努めた。 2. 授業の終わりに、授業内容に関する感想や質問を紙に書いて提出してもらい、質問については次回の授業で答えるようにした。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本体力医学会 American College of Sports Medicine	評議員（1999 年～）	1988 年 4 月～現在に至る 1993 年 4 月～現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
1.　シニアサマーカレッジ からだと頭を使って「活き活き長寿」	講師	2017年7月28日（本学）
2.　だいすきにっぽん―子どもたちに伝えたい「食」と「あそび」と「ことば」	スタッフ	2018年8月21日、11月3日、12月22日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
福祉学科長 人事委員長 保健福祉学研究所　運営委員 陸上部顧問

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)

氏名　今村　浩司	職名　教授	学位　修士（福祉社会）（福岡県立大学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
メンタルヘルス（精神保健福祉）領域におけるソーシャルワーク	ソーシャルワーク、臨床実践、メンタルヘルス（精神保健福祉）、生活支援、権利擁護、成年後見、触法障害者、更生保護

研　究　課　題
精神障害者の地域生活支援に関しての研究 精神科病院からの長期入院者の退院支援・地域移行に関しての研究 精神保健福祉士の専門性向上に関しての研究 精神障害者の成年後見に関しての研究 触法精神障害者の地域定着に関しての研究

担　当　授　業　科　目
相談援助の基盤と専門職（福祉学科１年通年必修４単位） 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ（福祉学科３年前期選択４単位） 精神保健学（福祉学科３年後期選択４単位） 精神障害者地域生活支援論（福祉学科４年後期選択２単位） 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ（福祉学科３年通年選択２単位） 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ（福祉学科４年通年選択２単位） 精神保健福祉援助演習Ⅰ（福祉学科２年後期選択１単位） 精神保健福祉援助演習Ⅲ（福祉学科４年後期選択１単位） 精神保健福祉援助実習Ⅰ（福祉学科３年選択４単位） 精神保健福祉援助実習Ⅱ（福祉学科４年選択４単位） ヒューマンサービス基礎演習（福祉学科１年前期必修１単位） ボランティア概論（保健福祉学部の看護学科・福祉学科・栄養学科１年前期選択１単位） ボランティア概論（人文学部の英語学科・観光文化学科１年前期選択１単位） 専門研究Ⅰ（福祉学科３年通年必修２単位） 専門研究Ⅱ（福祉学科４年通年必修２単位）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【相談援助の基盤と専門職】 福祉学科１年で開講される、相談援助実践に不可欠な社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の基盤的要素と、その実施者の専門職であるソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の現状や課題の理解を深める、本学科における最も重要な講義科目の一つである。毎時間最初に導入材料として現代社会の状況をマスメディア等の資料を使用して状況を把握させ、特段専門職としての視点の形成に努めた。よりリアリティに学ぶために、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ、刑務所福祉専門官やスクールソーシャルワーカーの現任者をゲスト講師に招聘し講義を展開した。また、リアクションペーパーにより理解度を確認するとともに、予習、復習にかけた時間、利用した教材等々も記載させ、学んだことと感想の他に、本日の学生自己への点数も記載させ、次回の講義につなげるように工夫した。後期は、本講義において重要語句であるキーワードを設定し、毎時間の最初に確認テストを行い理解を深めた。
授業科目名【精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ】 精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目であるため、可能な限り国家試験を意識づけるように教授した。

また、精神保健福祉士受験をしない受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神障害者に対しての援助技術全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、視聴覚教材等も利用して、より理解の促進に努力した。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

授業科目名【精神保健学】
精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な必修科目であり、また教職も必修である。可能な限り臨床的な状況にし、国家試験をも意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士受験をしない受講生や教職以外の受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神保健学全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、理解の促進に努力した。更には精神保健学の実際を、視聴覚教材導入して理解を深めさせた。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

授業科目名【精神障害者地域生活支援論】
精神障害者の地域生活の現状と課題について、具体的実践事例を交えながら解説した。4 年後期に開講することから、精神保健福祉全般に対しての総まとめ的講義内容となるよう、これまでに学習して理解をしてきたことの整理整頓を促すために、振り返りを中心として理解を深めた。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅰ】
精神保健福祉士レーン担当の 3 人の教員合同で行うもので、事前にそれぞれの役割の分担を行って実習に対しての理解を深めさせた。特に実習前及び実習後それぞれに学生の疑問に感じていることを整理させ、そのことについて調査をして学習できるよう工夫した。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。

授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】
上記同様 3 人の教員合同で行い、実習Ⅰを踏まえた上で、更なるステップアップを目指していけるよう疑問点の整理や到達目標の具体的な設定などの詳細な指導を行って理解を深めさせた。より実践的な理解が深まるように、実習後の報告会を設定して、受講生全員で理解を深める努力をした。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。

授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅰ】
精神保健福祉士としての導入の演習としての位置づけであり、先ずは精神障害者とのかかわりの重要性を中心に理解を深めた。精神障害者のイメージやその家族の思い、地域社会での状況、精神科病院での場面設定等々を行い、グループ化して具体性を持って検討を深めた。また、グループ別に北九州市内の精神保健福祉に関する社会資源マップ作成を行い、実践に生かせる知識を深めた。次年度への、より専門的知識と実践での実習に対してのイメージも膨らませるよう心掛けた。

授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅲ】
精神保健福祉士として現場実践を行う時に、必要と思われる技術の習得を中心に行った。特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて開設を行い、理解を深めさせた。さらには、学生に役割を持たせてロールプレイを行い、それぞれの観点からの体験させる講義の展開に努力した。また、4 年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。

授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】
対人サービスを行う専門職養成のために、5 名の教員で統一テーマに沿ってコミュニケーション、自己表現、チームワークの 3 つの技能の習得を目指して、特にグループ化しての授業を中心に展開させた。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

授業科目名【ボランティア概論】
新カリキュラムの中の、地域創生分野の講義であり、ボランティアや地域貢献活動の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアや地域貢献活動に参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的とした。社会の中で実際にボランティアや地域貢献活動を実践している 5 名の方をゲストスピーカー（外部講師）として招聘し、さまざまな角度からのリアリティーにあふれる具体的な講義を展開し、その現状と魅力が伝わるよう心掛けた。

授業科目名【専門研究Ⅰ】
9 名のゼミ生に対して、精神保健福祉士として現場実践力の重要性を考えて、できる限りの現場中心の話題提

供を行った。それに対して感じた点や疑問点を言語化や文章化し、理解を深めさせた。よりリアリティを高めるため、積極的に精神科病院や刑務所等の施設見学を行って、具体的現実感を習得させることに努力した。また、精神保健福祉士、社会福祉士の具体的イメージを抱かせるために、専門職団体が開催する研修会等々の案内を常に行い、参加を促進した。さらには、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験との関連性を、常に意識付けるように指導した。
授業科目名【専門研究Ⅱ】 専門研究Ⅰを踏まえた上で、具体的に実践的な精神保健福祉士としてのイメージを持たせるように指導を行った。また、学生それぞれに「卒業研究（ゼミ論）」のテーマを与え、学術的実践的アドバイスを行い、総まとめができるように指導を行い、研究成果を報告会で発表させ、報告集としてまとめた。また、社会福祉士、精神保健福祉士ダブル合格と、医療や福祉の業界への就職という２つの目標を定めて活動をした。結果、ゼミ生14名全員の就職が内定し、精神保健福祉士は12名合格、内10名が社会福祉士と精神保健福祉士にダブル合格をした。昨年度は、ゼミ生９名全員ダブル合格であったので、次年度に向けて取り組みたい。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本精神保健福祉士協会（精神保健福祉士学会）	理事（2001年～現在）	1994年～現在
日本社会福祉士会（社会福祉士学会）	代議員（2010年６月～2012年６月）	1996年～現在
日本社会福祉学会	代議員（2013年～現在）	1996年～現在
日本病院・地域精神医学会		2006年～現在
日本精神障害リハビリテーション学会		2008年～現在
日本精神保健福祉学会		2012年～現在
九州精神神経学会		2012年～現在
日本更生保護学会		2013年～現在

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） １．地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーク実践テキスト	共	2018年９月	日総研出版	①　日本医療ソーシャルワーク学会が編集した、社会福祉士養成の保険医療サービスの内容を踏まえ、さらに一歩踏み込んだ臨床実践家の医療ソーシャルワーカー向けのテキストである。 ②　日本医療ソーシャルワーク学会編集　代表　村上須賀子 ③　第5章社会資源の活用と権利擁護、3更生保護　114頁から116頁を執筆 総頁数・215頁 Ａ４判

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
2、よくわかる成年後見制度ハンドブック～精神障害や認知症などのある人の意思決定支援のために～	共	2018年10月	中央法規出版	①　精神障害や認知症のある人の成年後見制度に係る意思決定支援のために作成された、社会福祉士や精神保健福祉士で成年後見活動を行う専門職のためのハンドブックである。 ②　監修　日本精神保健福祉士協会、編集　岩崎香、田村綾子 ③　第3章成年後見制度の活用第2節成年後見制度を活用する理由～そのメリットとデメリット　64 頁から70頁を執筆 総頁数　184頁 Ａ４判
3、コメディカルのための社会福祉概論（第4版）	共	2018年12月	講談社	①　コメディカルに対して社会福祉全般の概要を解説したものである。執筆担当部分は「低所得者への福祉」であり、貧困と低所得の関係性、生活保護をはじめ公的扶助の制度的サービス全般にわたり解説して述べている。 ②　編集　鬼崎信好・本郷秀和 ③　第1部社会福祉とその分野第8章低所得者福祉　103頁から1116頁を執筆 総頁数　216頁 ④　Ａ４版
（学術論文・総説　等） 1、これからのメンタルヘルス～精神保健福祉士に期待すること～	共	2019年1月	「精神保健福祉」VoL.50　№.1　通巻116号	①　第54回日本精神保健福祉士協会全国大会第 17 回日本精神保健福祉士学会記念企画シンポジウムの発言要旨の内容を整理したものである。 ②　発行　日本精神保健福祉士協会 ③　15頁から21頁を執筆

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2、メンタルヘルスソーシャルワーク実践の深化～パラダイムの再考～	単	2018年7月	「PSW通信」№. 215	① 日本精神保健福祉士協会構成員向けに、精神保健福祉士の置かれている状況やメンタルヘルスソーシャルワーカーの実践の深化へ向けての再考をまとめたものである。 ② 発行　日本精神保健福祉士協会 ③ 12頁を執筆

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究	西南女学院大学　共同研究費	○谷川弘治、今村浩司、吉原悦子、樋口真己、笹月桃子、石丸美奈子	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
日本精神保健福祉士協会	理事	2001年4月～
福岡県精神保健福祉士協会	副会長	2001年4月～
福岡県精神科病院協会精神保健福祉士会	顧問	2012年7月～
北九州地区精神保健福祉士協会	会長	2002年9月～
北九州地区社会福祉専門職5団体連絡協議会	代表世話人	2006年4月～
北九州市手をつなぐ育成会	苦情解決委員長	2005年10月～
北九州成年後見センター	理事	2006年3月～
北九州市障害福祉ボランティア協会	理事	2005年4月～
北九州精神保健福祉事業協会	評議員	2001年4月～
福岡地方裁判所	精神保健参与員	2005年7月～
北九州市保健福祉局	オンブズパーソン	2012年4月～
北九州市精神保健福祉審議会	委員	2005年4月～
北九州市障害支援区分認定審査会	委員	2006年4月～

北九州市教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008 年 4 月～
福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008 年 4 月～
北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会	委員（地域包括支援部会兼務）	2006 年 4 月～
北九州市要保護児童対策地域協議会	委員	2008 年 7 月～
福岡県精神保健福祉審議会	委員	2013 年 4 月～
福岡県精神医療審査会	委員	2013 年 4 月～
厚生労働省（社会福祉振興・試験センター）　精神保健福祉士国家試験委員会	委員	2014 年 4 月～ 2014 年 6 月～
北九州市障害者差別解消法委員会	委員長	2016 年 8 月～

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
地域連携室　副室長 入学試験　委員 西南女学院大学精神保健福祉研究会　顧問（精神保健福祉士養成レーンの卒業生と在学生の会） 福祉学科精神保健福祉士養成レーン　担当 教員免許状更新講習会学内開催分　講師 　「発達上の問題を抱える子どもやその保護者に対する連携および支援について」（養護教諭） シニアサマーカレッジ学内開催分　講師「メンタルヘルスとコミュニケーション」 北九州市民カレッジ学内開催分　高等教育機関提携コース　講師「現代社会とコミュニケーション」 北九州市民カレッジ学外開催分　大学連携リレー講座　講師「意思決定支援について」

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　上村　眞生	職名　　准教授	学位　博士（教育学）（広島大学 2012 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
保育学 幼児教育学	保育の質 保育士のストレス・メンタルヘルス 保育士の労働環境 幼児期の食育

研　究　課　題
・保育士のメンタルヘルスに関する国際的状況 ・保育士の労働環境、社会的地位について、科学的根拠を基に改善について考察する。 ・教育効果に関する研究 ・幼児の言葉に関する研究

担　当　授　業　科　目
保育原理（前期） 保育内容　環境（前期） 保育内容　総論（前期） 保育内容　言葉（前期・後期） 保育内容　表現（前期） 保育の表現技術Ⅳ（後期） 保育実習Ⅰ（3 年前期～4 年前期） 保育実習Ⅱ（通年） 保育実習指導Ⅰ(3 年前期～4 年前期) 保育実習指導Ⅱ(通年) 保育実践演習（通年） 専門研究Ⅰ（通年） 専門研究Ⅱ（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育原理】 保育の原理・原則を教授するに当たり、知識の提示に留まることがないよう、関連する例題、ディスカッションを事前に行い、学生の中でイメージや考え、関心が喚起されてから、教授活動を行った。毎年受講人数の増減があるため、授業進行においてグループ化等に配慮している。
授業科目名【保育内容環境】 保育における環境構成の重要性に加え、保育内容「環境」の構成・展開方法を教授した。実践的な知識・技術の獲得のため、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。各授業前後に各回の目的を提示することによる学習効果が見られた。
授業科目名【保育内容総論】 保育内容に関する最終的な演習科目としての位置付けから、学外での演習や演習内容の充実を図った。そのため、実体験に基づく理解の促進が見られるようになった。

授業科目名【保育内容言葉】 保育場面における言語環境の構成、子どもの言葉の発達を促すための保育方法について教授した。実体験を基にした学びを構築するためｂに、言葉の発達を促す教具の製作等を行い、それを実際に使用する演習を中心に授業を進めた。
授業科目名【保育内容表現】 表現活動の意味や学生自身の表現を豊かにすることだけでなく、そのための方法論を学生自身が導くことができるよう、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。授業評価アンケートからは、目的を持って参加した姿が伺われた。
授業科目名【保育の表現技術Ⅳ】 保育者として必要な身体表現に関する知識と経験を蓄積することと、乳幼児の身体表現を引き出す保育環境の構成、指導上の注意点について、演習後に解説し、理解を深めるよう工夫した。学生の身体活動の経験不足による課題達成困難を訴える者もいたが、授業評価アンケートからも概ね目標は達成できたと考える。
授業科目名【保育実践演習】 　保育実践力を養うために総合的な演習を実施した。4 年間の学びの集大成という位置づけであり、内容的に非常に多岐・多様に渡っていたため、授業評価アンケートや学生の話から有用性は一定程度感じているものの昨年同様、「課題の量」については課題である。
授業科目名【専門研究Ⅰ】 研究とは何かということを教授すると共に、学生の関心を引き出すために、毎時間ディスカッションを行った。また、毎回課題を設け、プレゼンテーションを課した。
授業科目名【専門研究Ⅱ】 個人で研究テーマを決め、テーマに即した研究活動を支援した。研究の実施に加え、ゼミ内でのプレゼンテーションを課し、物事を客観的に捉え、他者に伝える力を養うことを心がけた。
授業科目名【保育実習指導Ⅰ・Ⅱ】 保育実習を行うにあたり、必要な知識・技術だけでなく、社会人として、専門職としての振舞い等についても教授を行った。また、実習指導案や日誌については、演習を通して実践的な指導を行った。実習後の振り返りでは、個別指導に加え、全体報告会を実施し、実習内容を再確認するとともに、個別に必要な指導を行った。
授業科目名【保育実習Ⅰ・Ⅱ】 実習先との連携をとった上で、保育実習中の巡回指導において個別の課題を抽出し、適宜指導・助言を行った。また、1 日の実習終了後に学生個人が感じた課題については、その日のうちに助言するよう指導体制を採った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会	特になし	２００５年６月～現在に至る
日本小児保健協会	特になし	２００６年７月～現在に至る
日本保育園保健学会	特になし	２００７年８月～現在に至る
日本ウェルネス学会	特になし	２００９年５月～現在に至る
日本乳幼児教育学会	特になし	２０１８年５月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） 西南女学院生のキャンパスニーズに関する調査	共	2019.3	西南女学院大学紀要 Vol.23	①西南女学院大学に通う学生の大学に対する満足度向上を目的として、学生が大学に対してどのようなニーズを持っているかを調査した。1年生をのぞく全学生を対象とした質問紙調査で、学生生活の質的向上を目的として活動する学生グループSTEP UPのスタッフとの協働調査である。本編はその調査の報告である。 ②共著者名　上村眞生、小田日出子、天本理恵、塚本美紀、高橋幸夫、篠木賢一 ③担当部分　研究の計画、実施、分析、執筆の全てを主導した。 ④P.47-P.60

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
社会人基礎力養成のための「意図的な Hidden Curriculum（潜在的カリキュラム）」構築に関する研究	西南女学院	○上村眞生 小田日出子 天本理恵 塚本美紀 高橋幸夫 篠木賢一 藤川信幸 三宅利佳 小川 尚 伊藤 直子 横溝 紳一郎 五十嵐 勝	1,388,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
・福岡県青少年アンビシャス運動 砂山アンビシャス広場	ボランティア委員	2001 年 4 月～現在に至る
・福岡県保育協会遠賀中間地区	研修コーディネーター	2018 年 4 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・情報システム管理運用委員　2017 年 4 月 1 日～現在に至る ・PHOTO 部　顧問　2010 年 12 月 14 日～現在に至る ・FD 委員　2018 年 4 月～現在に至る ・WEST 管理責任者　2018 年 4 月～現在に至る

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　岡　田　和　敏	職名　　教　授	学位　修士（社会学）（佛教大学　1984 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
社会福祉学	医療福祉、保健医療福祉制度

研　究　課　題
医療ソーシャルワーク実践における障害者、高齢者、難病患者の諸問題に関する研究

担　当　授　業　科　目
地域福祉論　(2 年前・後期) 医療福祉論　(2 年前期) 福祉行財政と福祉計画（3 年前期） 社会福祉特講（4 年後期） 相談援助演習　Ⅰ（1 年後期） 相談援助演習　Ⅱ（2 年前期） 相談援助演習　Ⅲ（2 年後期） 相談援助演習　Ⅳ（3 年前期） 相談援助演習　Ⅴ（3 年後期） 相談援助実習指導　Ⅰ（2 年前・後期） 相談援助実習指導　Ⅱ（3 年前・後期） 相談援助実習（3・4 年） 専門研究　Ⅰ 専門研究　Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　地域福祉論　】 社会福祉の動向において「自立支援」「連携」「地域福祉」などが強く求められている時代であることを強調し、地域で暮らす人々の生活をいかに支援していくかについて講義した。また、新聞記事などの活用を図り、講内容が理解できるように解説した。
授業科目名【　医療福祉論　】 身近な問題であるが、国家試験での正答率が低い。その為、基礎的な理解ができ、医療が身近な問題で誰しもに共通するものであることを説明し、医療保険制度の仕組み、年金制度、社会福祉との関係性についてと医療機関における専門職としての社会福祉士の役割について講義した。

授業科目名【福祉行財政と福祉計画】

社会保障制度を構築するうえで、必要になるのが財源である。福祉行財政の実際と実施体制について解説し、福祉行政の骨格や法制度、社会福祉の基礎構造改革、支援体制の実際を取り上げて解説した。

また、各種福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について説明し、計画策定の実際を解説した。

授業科目名【社会福祉特講　Ⅱ】

最新動向を理解できる

社会福祉の領域、特に福祉行財政と福祉計画における制度・政策の最新動向について複数の講師とともにオムニバス方式で講義を行った。『福祉行財政と福祉計画の動向』『保健医療施策の動向』『地域福祉論』を担当し講義した。

授業科目名【　相談援助演習　Ⅰ】

社会福祉士に求められる、自己覚知、コミュニケーション技術、個人・家族・集団・地域社会などへの支援を行う際に必要な基本的な面接技術についてロールプレイ、グループワーク、グループ討議などを交え、体験的に学ばせた。また、現在生じている福祉的課題・問題についてグループで調べさせ発表させた。

授業科目名【　相談援助演習　Ⅱ】

　ソーシャルワークに関するテキストの事例をもとに、ソーシャルワークの展開過程について学び、ソーシャルワーカーが持たなければならない視点や援助の実践について考えさせる形で学ばせた。

授業科目名【　相談援助演習　Ⅲ・Ⅳ　】

　問題の実情、社会的把握、援助の過程、アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発など相談援助の方法、技術について、医療ソーシャルワークの事例を用い、何を考え、調べ、援助をどのように展開して行くかについて学生の考えを聞きながら解説した。

授業科目名【　相談援助演習　Ⅴ　】

　地域福祉の問題の実情、社会的背景、援助のプロセス、地域住民へのアウトリーチ・ニーズ把握、地域福祉計画、サービス評価についてを地域福祉の基盤と開発に係る実践事例をもとに学ばせた。

授業科目名【　相談援助実習指導　Ⅰ　】

　医療領域を担当。他の領域と指導内容は同じであるが、特殊性と専門性をもつ医療領域において、ソーシャルワークを如何に展開していくかイメージ出来るよう資料やビデオを活用し講義した。

授業科目名【　相談援助実習指導　Ⅱ　】

　他の社会福祉領域と実習する上では特別ではないが、医療機関の特殊性から、現場実習であってもより実践場面で活動が出来るよう、興味、疑問、不安などに対して個別に指導した。配属実習については一人ひとりの特性に応じ配属に繋げた。

授業科目名【　相談援助実習　】

　学生の希望を聞くとともに適正に配慮しながら配属先を決めた。また、各医療機関のソーシャルワーカーとの調整を行い、実習生の個別的な指導を行った。

授業科目名【　社会福祉特講　Ⅱ　】

　本講義は、6名の教員によるオムニバス方式で、「保健医療施策の動向」を2コマ担当した。保健医療機関に社会福祉士国家資格を持つ医療ソーシャルワーカーがいる意味と実践活動する際に必要となる知識の習得を目指した講義を行った。

授業科目名【　専門研究　Ⅰ　】 　病気やケガを中心に据え、各自が考え、気付き、そして、人々の生活課題から研究してみたくなったことを見つけられるよう指導した。
授業科目名【　専門研究　Ⅰ　】 　専門研究Ⅰから各自が気づき研究していくテーマについて個別に指導している。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会		1990 年 10 月～現在に至る
福岡県医療ソーシャルワーカー協会		1985 年 4 月～現在に至る
佐賀県医療ソーシャルワーカー協会		1998 年 6 月～現在に至る
日本医療社会社会福祉協会		1998 年 4 月～現在に至る
福岡県社会福祉士会	外部理事（2010 年 4 月～2019 年 3 月 4 日総会まで）	2010 年 4 月～現在に至る
日本キリスト教社会福祉学会		2001 年 4 月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表） （その他） 地域活動について 介護職員初任者研修	 単 単	 5/15　9/14 11/8　2/20 5/17　5/21 5/24　5/28 5/31　6/4 6/11　7/16 9/11	 北九州市立年長者研修大学校「穴生学舎」	 研修講師 教育研究業績　総数（2017. 3. 31 現在） 著　書　0（内訳　単　共　） 学術論文0（内訳　単　共　） 翻訳　0（内訳　単　共　） 学会発表0（内訳　単　共　） その他　13（内訳　単　13　共　）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
北九州市民生委員推薦委員会	委員	2017 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日
北九州市福祉有償運送運営協議会	会長	2005 年 8 月～現在に至る
北九州市小倉南区社会福祉協議会評議員	評議員	2017 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日
北九州市民カレッジ企画運営委員会	運営委員	2017年 12 月 1 日～2019 年 11 月 30 日
北九州市社会福祉協議会ふれあいネットワーク第三者委員会	委員	2019 年 5 月～2020 年 3 月 31 日
公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会	理事長	2013 年 5 月～現在に至る
社会福祉法人　北九州精神保健福祉事業協会評議委員会	評議員	2017年 4 月1日～2021年 3 月 31 日
社会福祉法人孝徳会苦情解決委員会	第三者委員長	2003 年 4 月～現在に至る
入所判定委員会	委員長	2003 年 4 月～現在に至る
社会福祉法人　敬寿会	理事	2019 年 6 月～2021 年 6 月
特定非営利法人　生活支援館「パートナー」	理事	2002 年 3 月～現在に至る
社会福祉法人　療養介護事業所「ひなた家」	理事	2019 年 6 月 15 日～2021 年 6 月 14 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
①　就職委員会委員　副委員長 ③　学生支援においては、これまで通り介護職員初任者研修（ホームヘルパー２級）の資格を取得出来るよう外部事業所との調整と講義の担当を行っている。

※　2016 年度様式から、学部長による評価・改善記入（助手については、学科長による評価・改善記入）は行われません。

２０１９ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2019)）

氏名　　梶　原　浩　介	職名　講師	学位　博士（社会福祉学）（熊本学園大学大学院 2017 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
社会福祉学	家族福祉、子ども福祉、ファミリーソーシャルワーク、ソーシャルワーク

研　　究　　課　　題
社会福祉学に関して、地域で生活する家族が抱える生活課題(不登校・ひきこもり、子育て、虐待、介護、精神疾患など)に各当事者(家族１人ひとり、家族、地域の支援機関・施設の支援者等)に取り組む上でのみえてくる語りを対象として、主に質的研究・量的研究を用いて考察する。家族が抱える生活課題の現状及び傾向、家族支援における視点、援助技術の生成などについて研究している。

担　　当　　授　　業　　科　　目
精神保健福祉に関する制度とサービス（前期） 地域福祉論（通年） 精神障害者の生活支援システム（後期） 相談援助演習Ⅰ（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【精神保健福祉に関する制度とサービス】 メンタルヘルスの課題を抱える当事者(精神障害者など)を取り巻く法制度の詳細についての理解を深めるとともに、相談援助活動を展開する精神保健福祉士の役割について捉えることを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって、学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した.。
授業科目名【地域福祉論】 地域福祉を捉える視点を学ぶとともに、地域福祉の主体や地域福祉の推進のための制度・仕組みについて理解することを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した.。
授業科目名【精神障害者の生活支援システム】 精神障害者の生活支援の意義と特徴およびそれに関する制度と施策、さまざまな活動領域における精神保健福祉士の相談援助活動について理解することを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した.。
授業科目名【相談援助演習Ⅰ】 当事者や支える家族が抱える苦悩や取り巻く社会状況への理解、ソーシャルワーカーとして求められる知識・技術・価値の習得を図った。具体的には、当事者や支える家族が抱える苦悩や地域の中で孤立していった過程や社会的状況等、学生がメディアを通して知識を得る必要性を述べた。グループ討議の中で言語化作業をすることで、学生１人ひとりの自己覚知・他者理解を促した。当事者支援に求められる援助技術(コンサルテーション、アサーショントレーニング、ソーシャルスキルトレーニング等)を適宜取り入れた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会	九州地域部会事務局員（2018年6月～現在に至る）	2014年6月～現在に至る
日本地域福祉学会	正会員（2019年6月～現在に至る）	2019年6月～現在に至る
日本ソーシャルワーク学会	正会員（2014年7月～現在に至る）	2014年7月～現在に至る
日本学校ソーシャルワーク学会	正会員（2012年5月～現在に至る）	2012年5月～現在に至る

２０１８～２０１９年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） １「不登校とひとり親家庭― 家族支援における語りに焦点をあてたソーシャルワークの取り組み ―」	単　著	2014年 3月	熊本学園大学大学院社会福祉学研究科・『修士論文(社会福祉学)』・1-171頁	本論文は,様々な地域で不登校の課題を抱える家族の語りに焦点をあて,ファミリーソーシャルワークの実践モデルの構築を目的とした.本論文では,課題を抱えるひとり親家庭との関わりを通して,不登校の背景として多様かつ複合的な生活課題が包含され,地域の福祉課題が潜在していることを明らかにした.また,家族が地域の支援者と語り合うということは,家族が語れなかった語りに寄り添うことに繋がり,孤立した家族が地域と繋がる機会をもつことも示した.(213字)
２「不登校の課題を抱えるひとり親家庭に対するソーシャルワークの取り組み ― 人の語りと課題解決に向けたエンパワーメントの発達段階 ―」	単　著	2014年12月	熊本学園大学社会関係学会・『社会関係研究』・第20巻・第1号・1-32頁	本論文は,不登校の課題を抱える家族に対するソーシャルワーク実践に焦点をあて,子ども,家族,学校教職員の語りを通して家族支援の在り方を明らかにすることを目的とした.結果,家族とのソーシャルワーク実践を通して,生活課題に取り組むプロセスにおいては,エンパワーメントの発達段階があることが明らかにできた.地域の一員である当事者の語りを通して,不登校の課題に取り組むプロセスにおいて,家族が失敗と成功を繰り返しながらも乗り越えていく傾向があることを示した.(224字)(※査読有)

２０１８～２０１９年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
３「ハイリスク家族と家庭教育力 ― 人の語りからみえる生活課題と家庭状態に対する家族保全 ― 」	単　著	2015 年 3 月	熊本学園大学社会関係学会・『社会関係研究』・第 20 巻・第 2 号・25-52 頁	本論文は,家族支援から生じた語りに焦点をあて,家族が抱える多様かつ複合的な生活課題に対する家族支援の在り方を明らかにすることを目的とした.ひとり親・ふたり親家庭へのソーシャルワーク実践を通して,家族が地域の中で生活課題を抱え,孤立していく要因及び過程について明らかにした.地域を構成する教育・福祉・医療・行政の支援者の専門性を活かした協働的な実践は,課題を抱える家族にとって独創性と活動力をもった支援に繋がることを示した. (211 字) (※査読有)
４「不登校と慢性疲労症候群 ― 人の語りからみえる生活障害,学校に行く意味,休む意味の一考察 ― 」	単　著	2015 年 3 月	日本社会福祉学会九州部会・『九州社会福祉学』・第 11 号・11-23 頁	本論文は,家族支援から生じた語りに焦点をあて,家族が抱える多様かつ複合的な生活課題に対する家族支援の在り方を明らかにすることを目的とした.ひとり親・ふたり親家庭へのソーシャルワーク実践を通して,家族が地域の中で生活課題を抱え,孤立していく要因及び過程について明らかにした.地域を構成する教育・福祉・医療・行政の支援者の専門性を活かした協働的な実践は,課題を抱える家族にとって独創性と活動力をもった支援に繋がることを示した. (211 字) (※査読有)
５「『相談援助実習ガイドライン』からみた相談援助実習の学習意識 ― 福岡県立大学『相談援助実習』履修生の学習課題 ― 」	共　著	2015 年 9 月	福岡県立大学人間社会学部・『福岡県立大学人間社会学部紀要』・第 24 巻・第 1 号・33-53 頁	本論文は,福岡県立大学の「相談援助実習」履修生の学習意識に焦点をあて,「相談援助実習ガイドライン」の 50 の小項目に対する相談援助実習履修生の学習意識に関する課題を明らかにすることを目的とした.結果,相談援助実習ガイドラインの学習項目に対して,実習履修生の実習先の主な対象者やサービス利用形態の違いにより,学習できる内容に違いがある

２０１８～２０１９年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				ことを明らかにした.(175字)(※ 査読有) （著者）本郷 秀和 , 梶原 浩介 , 田中 将太 （担当頁）3～8 頁,11～12 頁を担当.
6「生活課題を抱える家庭の現状に関する研究 ― 母子家庭の現状からみた家庭が抱えやすい生活課題に関する一考察 ― 」	単　著	2015 年 12 月	熊本学園大学社会関係学会・『社会関係研究』・第 21 巻・第 1 号・45-63 頁	本論文は,地域で生活課題を抱える母子家庭の現状に焦点をあて,母子家庭の現状から,地域の中で家庭が抱え込みやすい生活課題の傾向について明らかにすることを目的とした.先行研究をもとに,母子家庭の現状を整理した結果,(1)生活課題を抱える家族の傾向として 4 つの要因があること,(2)生活課題を抱え抜いた結果,精神疾患,児童虐待等といったこころの健康問題へと家族が抱える生活課題が地域へと顕在化していることなどを明らかにした.(209 字)(※査読有)
7「学校ソーシャルワークにおける子ども家庭支援の展望 ― 子ども家庭支援の在り方と促進者としての援助技術 ― 」	単　著	2016 年 12 月	日本学校ソーシャルワーク学会・『学校ソーシャルワーク研究』・第 11 号・15-29 頁	本論文は,学校ソーシャルワークにおける子ども家庭支援に焦点をあて,教育・医療・福祉・行政の地域の支援者の語りを通して,コンサルテーションの在り方について明らかにすることを目的とした.結果,地域の支援者がもつ専門性を家族の生活の実情に合った支援とするためには,コンサルテーションにおいて,言い換えや伝達方法の工夫が求められることを明らかにした.(171 字)(※査読有)
8「義務教育制度を採用する国における不登校問題に関する研究 ― 中国・韓国・ドイツと日本の義務教育制度における不登校問題 ― 」	単　著	2017 年 3 月	熊本学園大学社会関係学会・『社会関係研究』・第 22 巻・第 2 号・1-22 頁	本論文は,中国・韓国・ドイツ(以下「諸外国」と記載)と日本における義務教育制度に焦点をあて,日本と諸外国の不登校問題の違いを明らかにすることを目的とした.先行研究をもとに,義務教育の場,不登校概念の位置づけ,不登校問題の背景,諸外国の対応策,家庭状態について整理した.結果,諸外国も日

２０１８～２０１９年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				本と同様に,不登校の問題は社会的な状態を示すものであり,不登校支援の視点として家族支援が共通の課題としてあることを考察した.(204 字)(※査読有)
９「不登校事例へのファミリーソーシャルワーク実践からみえる家族の智 ― 固有の『私』を生きるまでの系譜 ― 」	単　著	2017 年 3 月	熊本学園大学大学院社会福祉学研究科『博士学位論文』1-144 頁	本論文は,様々な地域における不登校の課題を抱える家族(ファミリー)の語りに焦点をあて,家族と地域の支援者との関係性から生じる語りの分析を通じて,ファミリーソーシャルワークの実践モデルを明らかにすることを目的とした.質的調査を通して,不登校という地域福祉の課題に対する子どもの語り,家族の語り,地域の支援者の語りを整理した結果,地域の支援者による家族支援の視点,促進者としての援助技術,固有の「私」を生きるまでの過程について明らかにした.(218 字)
１０「ハイリスク家族に対する要保護児童対策地域協議会の専門性と限界性に関する研究 ― 子ども家庭支援における対話活動の場 ― 」	単　著	2018 年 11 月	日本学校ソーシャルワーク学会・『学校ソーシャルワーク研究』・第 13 号・35-46 頁	本論文は,要保護児童対策地域協議会(以下「要対協」と記載)の実務者の対話活動に焦点をあて,要対協を構成する地域の支援者の専門性とその限界を明らかにすることを目的とした.インタビュー調査を通じて,専門性には「対話を創る場」が重要であるが,「事実の把握」「情報の整合性」という点で限界があることを明らかにした.多様かつ複合的な生活課題を抱える家族を支援する上で,要対協内での医療・教育・福祉・行政領域の実務者間の対話の積み重ねが有効であることを示した.(224 字)(※査読有)
(翻訳)				

２０１８～２０１９年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学会発表） １「家族支援における語りに焦点をあてたソーシャルワークの取り組みに関する一考察 ― 不登校の課題を抱えるひとり親家庭との取り組みからみえてきたもの ― 」	単　著	2014 年 6 月	日本社会福祉学会 九州部会 第55回研究大会,口頭発表(会場：鹿児島国際大学)	不登校の課題のある家族に対するソーシャルワーク実践に関する報告を行った. 主な目的は, 課題を乗り越えるまでの過程, 家族支援の在り方について明らかにすることである. 約5年間における地域支援によって捉えられた当事者の語りをもとに, 生活課題を乗り越えるまでの発達段階について概念を示した. 不登校の生活課題を抱える家族において, 家族を中心においた教育・医療・福祉・行政の専門性をもった支援者による地域支援の在り方を示した. (206字)
２「ハイリスク家族と家庭教育力 ― 人の語りからみえる生活課題と家庭状態に対する家族保全 ― 」	単　著	2015 年 6 月	日本社会福祉学会 九州部会 第56回研究大会,口頭発表(会場：九州保健福祉大学)	ハイリスク家族に対するソーシャルワーク実践に関する報告を行った. 主な目的は, 生活課題に対する支援の在り方について検討するものである. 不登校の課題を抱える家族を対象に地域支援の結果, 地域の教育・福祉・医療等の支援者の力を活かし協働的に取り組むことで家族のもつ力の保全に繋がると考えられた. 地域の支援者がもつ知識と技術を結集することは, 家族の多様な課題に対応できる独創性と活動力をもった実践になることを示した. (203字)
３「不登校事例を通してみた家族支援におけるファミリーソーシャルワークに関する一考察 ― 生活課題を抱える家族との取り組みから生じる語りからみえてきたもの ― 」	単　著	2016 年 6 月	日本社会福祉学会 九州部会 第57回研究大会,口頭発表(会場：長崎ウエスレヤン大学)	不登校事例を通してみた家族支援におけるファミリーソーシャルワークに関する報告を行った. 主な目的は, 家族と支援者との関係性から生じる語りから乗り越え方を見出すことである. 家族への支援を通して「子育てに苦悩している」等の「私」という概念を越えた先にある本来の「私」の生成に繋がったと考えられた. その背景には, 語りに含まれるストレングスの要素に着目し, 家族のもつ可能性を増幅・拡大した実践が捉えられた. (198字)

２０１８～２０１９年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
４「学校ソーシャルワーク実践を通してみえる子ども家庭支援に関する研究 ― 促進者としての援助技術に関する一考察 ― 」	単 独	2017 年 5 月	日本社会福祉学会 九州部会 第58回研究大会,口頭発表(会場：九州看護福祉大学)	家族保全を視点においた学校ソーシャルワーク実践に関する報告を行った. 主な目的は地域の支援者の語りから27組の家族を対象に家族支援と支援者へのコンサルテーションについて明らかにすることである. その結果, 地域の支援者の語りから(1)支援者の専門的な知識や技術を家族の実情に合った方法へと変換する視点, (2)円環型コンサルテーション・プロセスのモデルについて示した. (180字)
５「要保護児童対策地域協議会実務者が捉える子ども家庭支援の現状と課題に関する研究 ― A 地域の取り組みを通してみた対話活動の場に関する一考察 ― 」	単 独	2018 年 6 月	日本社会福祉学会 九州部会 第59回研究大会,口頭発表(会場：沖縄国際大学)	要保護児童対策地域協議会の対話活動に関する報告を行った. 主な目的は, 実務者1人ひとりの専門性と限界について明らかにすることである. 27人の実務者を対象にインタビュー調査を実施した結果, 23人の回答を得た(回収率85. 2%). その結果, 子ども家庭支援やサービス等の創造の場等の専門性, 情報の出所の正確さ等の限界性が明らかになった. 教育・医療・福祉・行政といった地域の支援者同士の対話活動の意味を示した. (200字)
６「要保護児童対策地域協議会による家族支援の対話活動の在り方に関する研究 ― A 地域における家族支援の対話活動の構成過程についての一考察 ―」	単 独	2019 年 6 月	日本社会福祉学会 九州部会 第60回研究大会,口頭発表(会場：北九州市立大学)	要保護児童対策地域協議会の対話活動に関する報告を行った. 主な目的は, 担当者の家族支援における課題と対話活動の構成過程について明らかにすることである. 個別ケース会議に参加する担当者27人を対象にインタビュー調査を実施した結果, 23人の回答を得た(回収率85. 2%). その結果, 「対話を創る場」等の課題が捉えられ、【共有】【明確化】【探求】【統合】【創造】【具体化】といった対話活動における構成過程が特徴として捉えられた. (209字)

２０１８～２０１９年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				教育研究業績 総数(2019. 6. 17現在) 著　　書　0(内訳　単0，共0) 学術論文　10(内訳　単9，共1) 翻　　訳　0(内訳　単0，共0) 学会発表　6(内訳　単6，共0)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
福岡県社会福祉士会	研究誌 査読委員	2018 年 10 月
熊本県精神保健福祉士協会 SSW 委員会	調査研究班	2014 年 11 月～現在に至る
日本精神保健福祉士協会	会員	2014 年 5 月～現在に至る
大木町要保護児童対策地域協議会	実務者委員	2013 年 5 月～2017 年 3 月
広川町要保護児童対策地域協議会	実務者委員	2013 年 5 月～2017 年 3 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
宗教委員会　委員　2019 年 4 月 1 日　～　現在に至る 学生アドバイザー　2019 年 4 月 1 日　～　現在に至る

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　金谷めぐみ	職名　講師	学位　修士（芸術学）（日本大学　2003 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
キリスト教音楽 西洋音楽の歴史 子どもの音楽表現	モーツァルトのソルフェージュ 音楽表現

研　究　課　題
モーツァルトのソルフェージュとオペラのアリアの関連について文献学的に考察し、ソルフェージュとアリアに共通する旋律を見出し、ソルフェージュにおける声楽上の意義を検討する。

担　当　授　業　科　目
保育の表現技術1（前期）（福祉学科） 保育の表現技術Ⅱ（後期）（福祉学科） 西洋の音楽と文化（前期）（人文学部　英語学科・観光文化学科） 西洋の音楽と文化（後期）（保健福祉学部　看護学科・福祉学科） 保育実践演習（通年）（福祉学科） 保育内容表現（前記） 保育内容総論（後期） 初年次セミナーⅠ（前期）,Ⅱ（後期）（福祉学科） 保育実習指導Ⅰ（通年）（福祉学科） 保育実習指導Ⅱ、Ⅲ（通年）（福祉学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育の表現技術Ⅰ】 音楽理論では、昨年度、独自に作成したテキストを用いて授業を行った。学生に到達目標（試験範囲）を具体的に示すことで、学習意欲の向上をはかった。復習課題として練習問題を配布し、内容の理解を深めた。また、ピアノの実技指導では、今回新たに作成した練習ノートに課題を達成するための具体的な練習方法を記入させ、各自が明確な目標に向かって課題に取り組めるよう工夫した。
授業科目名【保育の表現技術Ⅱ】 歌唱では曲の歌詞について具体的に説明し、学生自ら音楽を表現することができるよう、実践的な指導を行った。幼児唱歌の弾き歌いにおいては保育の現場を想定した伴奏の体験をさせることで演奏技術の向上を図った。
授業科目名【西洋の音楽と文化】 キリスト教音楽について録音やパワーポイントによる資料を用いて解説した。学生が西洋音楽の歴史について理解するだけでなく、西洋の音楽文化と日本の音楽文化との接触について深く考えることができるよう授業内容を工夫した。また、讃美歌への関心を高めるため、授業で学生がリクエストした讃美歌について解説し、讃美歌成立の知識をもって讃美できるよう工夫した。

授業科目名【保育実践演習】 音楽劇の創作および発表において、発表後に振り返りの時間を設けることで、協働することについての気づきや反省点をグループおよび全員で共有するなどの工夫をした。練習では舞台における危険性やその対処法、舞台マナー、演じ方、声の出し方などを口頭による説明だけでなく実践することで学生自身が体得できるよう工夫した。
授業科目名【保育実習指導Ⅰ】 実習の現場で行う設定保育を想定し、指導案の作成と手遊びや絵本の読み聞かせの発表を行い、改善すべきところや感想を全員で共有することで、実習での実践力を養うことができるよう工夫した。また、指導案作成においては、練習を重ね、個別の指導を繰り返すことで、一人ひとりの指導案を書く力を養うことができるよう工夫した。
授業科目名【保育実習指導Ⅱ】 「保育実習指導Ⅰ」に引き続き、実習の現場を想定し、指導案の作成および設定保育の発表を行った。実習前に設定保育を想定し、発表することで、その反省から指導案の内容をより深め、保育現場における実践力を養うことができるよう工夫した。また、個別指導において十分な時間を確保し、学生の学習内容を補強するよう努めた。
授業科目名【初年次セミナーⅠ】 レポートの型とレポート作成の手順について解説した。学生の文章を書くことへの苦手意識を取り除くために、レポートを書くために必須となる要約の方法および項目のたて方等について説明し、実際に課題演習を行い、解説と演習による授業展開の工夫をした。
授業科目名【初年次セミナーⅡ】 初年次セミナーⅠで学んだ内容をもとに、日常生活における身近な疑問や問題、課題についてグループで話し合い、テーマについて調べた内容を整理して発表するなど、セミナーⅠとの関連性をもって学習できるよう工夫をした。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本演奏連盟 日本保育学会 日本声楽発声学会 日本音楽療法学会		2009年12月～現在に至る 2012年10月～現在に至る 2013年～現在に至る 2018年3月～現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） モーツァルトの《声楽のためのソルフェージュ Solfeggien für eine Singstimme K.393(385b)》と《後宮からの逃走 Die	共著	2019年3月	西南女学院大学紀要 Vol.21	①モーツァルトのジングシュピール《後宮からの逃走 K.384》作曲の経緯およびコロラトゥーラの発展の歴史とコンスタンツェのアリアにおけるコロラトゥーラの劇的表現について記し、「ソルフェージ

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
Entführung aus dem Serail K. 384》におけるコンスタンツェのアリアの旋律の関係性と声楽上の意義				ュ１」の冒頭６小節の声楽上の意義について文献学的考察を行った。 ②共著者：植田浩司 ③p.29-36
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
苅田キリスト教会 国立音楽大学同調会北九州支部 通所介護施設「和楽庵」 ふたば保育園	奏楽者 役員 音楽講師 リトミック講師	2006年～現在に至る 2011年４月～現在に至る 2011年４月～現在に至る 2018年６月～現在に至る

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
懇親会委員 入学式の讃美指導 大学および短期大学部チャペルの讃美指導 西南女学院中学・高等学校讃美歌コンクール審査員および講評（2018年６月４日） 福祉学科子ども家庭福祉コース・リカレント講師（2018年７月14日） 大学クリスマス礼拝の讃美指揮、聖歌隊指導、独唱（2018年12月15日）

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　木村　茂喜	職名　　准教授	学位　修士（法学）（九州大学　1997年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
社会保障法	社会福祉、責任、児童の権利、触法者等、社会復帰支援

研　究　課　題
福祉サービスにおける各主体の責任分担 権利主体としての児童を対象とする社会的支援のあり方 触法者等に対する社会復帰支援と社会保障のあり方

担　当　授　業　科　目
法学(前期)(看護学科) 法学(前期)(福祉学科) 法学(前期)(栄養学科) 日本国憲法(後期)(看護学科) 日本国憲法(後期)(福祉学科) 日本国憲法(後期)(栄養学科) 社会保障論 公的扶助論(前期) 司法福祉論(前期) 権利擁護論(後期) 初年次セミナーI(前期) 初年次セミナーII(後期) 専門研究 II 社会福祉特講 II（集中）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【全講義科目】限られた時間により多くの情報を学生に提供するため、詳細なレジュメや資料を配布した。レジュメ・資料を配布の際は、あらかじめ power point に枚数等の掲示を行った。講義は主に power point を用いて行い、学生の講義内容の理解の一助のため、写真・図表・グラフ・アニメーション等を多用して講義を行った。また、講義の冒頭においては、講義内容の継続性の確認および講義内容の理解をより確かなものにするため、「前回のおさらい」と題して前回の講義の要点を説明するとともに、学生が当日の講義内容・要点をあらかじめ認識するために、当日の講義内容に関する「本日のキーワード」を掲げた。さらに、やむなく欠席した学生への便宜を図るほか、学生が講義内容を復習・確認するための一助とするため、配布レジュメ・資料については、講義後に本学サーバに.pdf 方式でアップロードし、履修学生および希望する学生が自由にダウンロードすることを可能にした。
授業科目名【法学】講義中に生活に密着した具体的な事例を適宜挙げ、「法」がさまざまな生活の具体的場面において密接に関わっているという、看護・福祉・栄養の各専門職をめざす学生にとって欠かせない認識を持つための工夫を行った。

授業科目名【日本国憲法】抽象的な憲法理論のイメージを具体化するために、特に基本的人権に関する多くの憲法判例を紹介し、学生の理解の一助に努めた。加えて、憲法改正の是非及び改正の内容について議論になっていることなどを踏まえ、毎回の授業後に、学生から講義内容に関する質問・意見・感想を任意で提出する機会を与えた。学生から提出された質問等については、次回の講義レジュメで回答するほか、意見や感想に関する所見を次回の講義の冒頭で述べた。なお、学生からの質問・意見等については、今年度より「授業貢献度」として成績評価に加えた。
授業科目名【社会保障論】非常に複雑な社会保険制度に関する知識を学生がより確実に習得できるよう、試験を２回（前期末・後期末）行った。また、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
授業科目名【公的扶助論】最低限度の生活を守るための最後のセーフティ・ネットとしての役割を担う生活保護制度の重要性を、他の社会保障制度との関連と併せて説明を行った。また、生活保護の申請拒否・保護の停廃止をめぐる問題のほか、近年の生活保護法改正・生活困窮者自立支援法についても触れ、学生の制度に関する関心を高めた。さらに、貧困の実態について紹介するビデオ鑑賞も行った。そのほか、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
授業科目名【権利擁護論】成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要についての講義に先立って、これら各制度を理解するために当然の前提となる憲法・民法・行政法の基礎について講義を行った。また、成年後見制度の理解をより深めるために、成年後見制度に関するビデオ鑑賞も行い、学生が、成年後見制度に関する具体的イメージを理解するための一助とした。そのほか、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
授業科目名【司法福祉論】社会福祉士国家試験の試験科目である「更生保護制度」の内容を踏まえ、更生保護制度に関する説明に重点を置いて講義を行った。また、制度と実際の業務との関連について、学生がより理解できることを目指すため、３名の外部講師（保護観察官・保護司・更生保護施設長）に講義を依頼した。
授業科目名【初年次セミナーI・初年次セミナーII】１年生を対象に、大学での「学び方」を学ぶ授業である。前期は「調べる」ことと「書く」ことに重点を置き、とりわけレポートの書き方に特化した内容で演習を行った。後期は、前期の内容を踏まえて「発表する」「討論する」ことに重点をおき、「論理的思考力」の基礎について、演習を行った上で、１クラスを４グループに分けて「ディベート」を行った。
授業科目名【専門研究 II】今年度は専門研究 I の履修者がいなかったため、専門研究 II を４年生単独で行った。社会福祉士国家試験の受験予定者もいることから、とりわけ社会保障制度を楽しく学ぶことを目的に、専門研究の成果物として「社会保障神経衰弱」の作成を通年で行った。作業の手順は、①基本的なゲームデザインの作成、②カードの組み合わせ案の策定と組み合わせに対応する社会保障制度の確認、③カードの作成、④遊び方説明書の作成、⑤テストプレイの上、修正を加えて完成、であった。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会保障法学会	学会誌編集委員(2009 年 10 月～2017 年 3 月) 企画委員(2018 年 10 月～現在に至る)	1995 年 12 月～現在に至る
日本労働法学会		1998 年 5 月～現在に至る
日本司法福祉学会		2008 年 8 月～現在に至る
日本更生保護学会		2012 年 12 月～現在に至る
日本障害法学会		2016 年 12 月～現在に至る
九州社会法研究会	事務局員（会計監査担当）(2013 年 4 月～2014 年 3 月)	1995 年 4 月～現在に至る
社会法判例研究会		1995 年 4 月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				
（その他） 「触法者等に対する社会復帰法制試論」	単独	2018年11月	第471回社会法研究会（於　九州大学法科大学院）	①社会保障法の学説上において、触法者等を社会保障法における支援の対象とすることについては消極的に捉えられている。しかし、刑事司法と福祉との連携が進んできたことにより、再犯防止ではなく、刑事司法の分野からニーズを抱える触法者が主体的に支援を受ける権利があるとの認識が主流となっている。触法者等は社会参加を妨げられ、生活上の不利益を受ける「従属としての障害者」と近似している状況といえることから、①触法者等の人格的発展の保障に関する法、②触法者等の生存権保障・地域生活支援に関する法、③刑事手続の弊害除去に関する法、④更生保護・医療観察に関する法にそれぞれ分類する「社会復帰支援法」の試論を挙げた。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
放送大学　総合科目「社会福祉と法」第７回～第９回	執筆担当講師・放送担当講師	2016 年４月～2020 年３月
社会福祉法人　全国社会福祉協議会 中央福祉学院　社会福祉施設長資格認定講習課程「法学」	講師	2018 年４月～2019 年３月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
西南女学院大学生活協同組合　理事長　2018 年５月 24 日～2019 年５月 23 日 図書委員会　委員　2018 年４月１日～2020 年３月 31 日 フォークソング部　顧問 KOIKOI 顧問

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　高口　恵美	職名　　講師	学位　修士(社会福祉学)(福岡県立大学　2011 年)

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
1.子どもの「生活力」に着目したグループワーク 2.メンタルヘルス課題に対する集団認知行動療法	メンタルヘルス、グループワーク、子どもの生活力、ストレングス、学校ソーシャルワーク

研　　究　　課　　題
子どもの貧困や虐待環境などが及ぼす様々な行動課題に対し、子ども自身がレジリエンスを高め、対応しうる力を高めるために必要なソーシャルスキルについて考察し、プログラムを作成する。

担　　当　　授　　業　　科　　目
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ(前期・後期) 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ(前期・後期) 初年次セミナーⅠ(前期)　、　初年次セミナーⅡ(後期) 専門研究Ⅰ(前期・後期) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ(後期) 相談援助演習Ⅰ(後期) 精神保健福祉相談援助の基盤専門(後期)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　精神保健福祉援助実習指導Ⅰ　】 精神科病院への実習に向け、支援を行う上で必要な、精神疾患に対する理解や制度サービスに関する知識を深めることが出来るよう指導を行った。また、自分の意見や思いを言葉で発信するスキルを高めるため、グループディスカッションや発表の場を多く設けた。
授業科目名【　精神保健福祉援助実習指導Ⅱ　】 地域実習に向け、精神障害者が地域で生活する上での困難さについて理解し、一人ひとりがその人らしく生きるために、精神保健福祉士として担える役割について、ディスカッションを用いて理解を深めた。
授業科目名【　初年次セミナー　】 学生同士の交流の場面を多く取り入れ、お互いの気づきあいを促す工夫を盛り込んだ。併せて、自己理解を高める、多角的に物事を捉える、といった視点を深める題材を用意して演習に取り組んだ。
授業科目名【　精神保健福祉相談援助の基盤(専門)　】 精神保健福祉士を目指すうえで基礎的な知識を広く身に着ける教科であるため、テキストに沿って知識の共有を図ることを重視しながら、一方で現場に出たときに役立つよう、要約する、見やすくまとめる、などノートを活用した授業展開を行った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会 県立大学社会福祉学会 日本学校ソーシャルワーク学会 心理臨床学会		2009 年～現在に至る 2010 年～現在に至る 2009 年～現在に至る 2017 年～現在に至る

２　０　１　８ 年 度　　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 1.成人注意欠如・多動症の時間管理に焦点を当てた集団認知行動療法の効果の予備的検討	共	2019.3	発達心理学研究 30(1) 23-33	中島 美鈴・高口恵美・稲田 尚子・谷川 芳江・山下 雅子　他
（翻訳）				
（学会発表） 1.分科会「子どもにかかわる」　座長 2.ＡＤＨＤ課題を抱える高校生に対する時間管理に関する取り組み	単	2018.9.15 2018.11.23	日本精神保健福祉士協会全国大会・日本精神保健福祉士学会学術集会 日本認知療法・認知行動療法学会	メンタルヘルス課題を抱えた子どもに関わる各セクションの発表に対するコメント等 発達課題を抱える高校生に対する認知行動療法や環境調整等の実践についてまとめ発表を行う

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
福岡県スクールソーシャルワーカー協会	理事(2012～現在に至る)	2012 年～現在に至る
社会福祉士会		2005 年～現在に至る
精神保健福祉士協会		2018 年～現在に至る
大牟田市地域福祉計画推進委員会	地域福祉推進委員	2019 年～2021 年
北九州市立障害者福祉会館等に関わる指定管理者検討会	検討構成委員	2018 年～2018 年
福岡県教育委員会義務教育課	スクールソーシャルワーカーＳＶ	2013 年～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
ハラスメント委員会　委員　2018 年 4 月～ 学生相談室　アドバイザー　2018 年 4 月～

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　杉谷修一	職名　　准教授	学位　教育学修士（九州大学　1990 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
教育社会学	子ども、遊び、社会化、相互行為、ニューメディア、ゲーミフィケーション

研　究　課　題
(1) 相互行為としての子どもの遊びにおけるシンボルの役割とそれをめぐる秩序形成に関する研究。 (2)教育におけるゲーミフィケーションの社会学的分析に関する研究。 (3)ニューメディアと子どもの社会関係に関する研究。

担　当　授　業　科　目
道徳教育の理論と実践（前期）（看護学科） 道徳教育の理論と実践（前期）（福祉学科） 道徳教育の理論と実践（前期）（栄養学科） 道徳教育の理論と実践（前期）（英語学科） 社会調査の基礎（前期）（福祉学科） 現代と教育（前期）（看護学科） 現代と教育（前期）（福祉学科） 現代と教育（前期）（栄養学科） 現代と教育（前期）（英語学科） 現代と教育（前期）（観光文化学科） 教育原理（後期）（福祉学科） 教育社会学（後期）（看護学科） 教育社会学（後期）（福祉学科） 教育社会学（後期）（栄養学科） 教育社会学（後期）（英語学科） 社会学概論（後期）（福祉学科） 基礎演習（通年）（福祉学科） 教職実践演習（後期） 教育実習Ｉ（福祉学科） 養護実習（福祉学科） 事前および事後の指導三期にわたる）（福祉学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　道徳教育の理論と実践　】 道徳の理論に関する学習にとどまらず、教育現場での道徳教育の実践と結びついた力を養うことを心がけた。次期学習指導要領改訂など現在進行中の道徳教育の改革動向も踏まえ、特に授業としての道徳の観点から、学習指導案の構造と基本的な書き方を身に着けさせ、模擬授業と事後指導を全体で共有した。授業づくりの基本的ルールを具体的な指導案に反映させる工夫を行った。また視聴覚教材をはじめ、児童生徒にわかりやすい教材づくりを具体的に紹介した。

授業科目名【　社会調査の基礎　】 国家試験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、基礎をくりかえし学習することで確実に理解できるよう心がけた。特に統計に関連する分野では、計算をさせるのではなく、統計手法が何を意味し、何の役に立つのかという観点から学習を組み立てた。具体的な例、概念図などについて複数の比較を行うなど工夫して理解を助けた。
授業科目名【　現代と教育　】 現代の子どもの遊び文化の特徴を解説し、それと比較する形で昔の遊びの変遷をたどった。特に社会的・文化的な条件が遊びに与える影響をルール・道具・名称・機能等との関連で整理し、遊び研究が単なる遊びカタログの解説とは違う点に注目させた。その上で、改めて現代の遊びを巡る状況と将来展望について論じた。遊びの様子を理解させるために伝統玩具の製作プロセスのビデオを解説し、玩具の実物を手にとって理解できるよう心がけた。現代の動向についてはＶＲやＡＲなど仮想空間上の遊びと現実の遊びや消費行動との結びつきについて解説した。
授業科目名【　教育社会学　】 子どもの発達社会学というテーマについて、家族・地域・学校といった社会化の場の相互関連をイメージさせながら授業を行った。社会化の場としての学校・地域・家族の関連を近代以降の変遷を通じて解説し、そのための補助教材を工夫した。テキストで不十分な箇所についてはビデオ教材や別資料をもとにしたレジュメ・スライドを作成した。発展的学習として、キーワードを用いて複雑な対象を説明する方法について解説した。
授業科目名【　社会学概論　】 国家試験受験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、社会学の抽象的概念を具体例で考えられるように工夫した。特にモデル図や身近な現象でたとえた具体例を多用したレジュメを準備し、丸覚えではなく理解できることを目指した。 また、途中で復習の授業を取り入れ、キーワードや問の立て方などを示したプリントを配布し、負担を軽減しながら理解を促した。今期は動画の活用なども試みた。授業後の質疑応答なども積極的に活用した。新しい試みとして、抽象的な概念を映画のシーンなどを教材として活用した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本教育社会学会 九州教育社会学会 日本教育学会 九州教育学会 日本社会学会 日本教育方法学会	九州教育学会紀要編集委員（2009 年 4 月～2011 年 3 月、2016 年 3 月～2016 年 12 月）	1985 年 6 月～現在に至る 1985 年 6 月～現在に至る 1990 年 5 月～現在に至る 1990 年 5 月～現在に至る 1990 年 11 月～現在に至る 1997 年 5 月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 1．変動社会と子どもの発達ー教育社会学入門ー（改訂版）	共	2018.4	北樹出版	①　教職課程における教科書として編集されたもので、子どもの社会的発達を軸に現代社会における子どもや教育現象の特徴について解説している。改訂版では担当部部について、データを最新のものにすると共に、ニューメディアの近年の動向がもたらす影響と意味について分析した。 ②　編著者名　住田正樹，高島秀樹 共著者名　住田正樹，杉谷修一，他

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				9名 ③　担当部分　第８章　ニューメディアと子どもたち（P107～P123） 総頁数　P173
（学術論文）				①
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
特定非営利活動法人生涯学習指導者育成ネットワーク	生涯学習指導者育成セミナー講師	2007.9～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教職課程委員　２０１４年4月１日～現在に至る 教員免許更新講習プロジェクト（教育部門担当者）　２０１２年4月１日～２０１８年3月３１日

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　杉本　有紗	職名　　講師	学位　人間環境学（修士）（九州大学 2003 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
認知症高齢者の臨床心理学的援助	認知症、高齢者、施設入所、対人交流、コミュニケーション役割、役割意識、援助的介入

研　究　課　題
認知症高齢者の臨床心理学的援助に関して、個別の実践事例を積み重ね、具体的援助方法を考察する。また、援助対象となる認知症高齢者の心理について、対人交流および役割意識という観点から考察していく。その際、援助プロセスに伴う認知症高齢者の心理的変化プロセスについても考察する。さらに、認知症高齢者の対人交流形成とその効果を評価するため、コミュニケーション役割や役割意識の評価方法についても検討していく。

担　当　授　業　科　目
初年次セミナーⅠ（前期）（福祉学科） ヒューマンサービス基礎演習（前期）（福祉学科） 心理学概論Ⅰ（前期）（福祉学科） 発達心理学Ⅱ（前期）（福祉学科） 発達臨床心理学演習（前期）（福祉学科） 初年次セミナーⅡ（後期）（福祉学科） 臨床心理学概論（後期）（福祉学科） 社会心理学（後期）（福祉学科） 福祉臨床心理演習Ⅲ（後期）（福祉学科） 心理学基礎実験（後期・２コマ）（福祉学科） コミュニティ心理学（後期）（福祉学科） 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　初年次セミナーⅠ　】 本演習では、１年生を対象とし、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。 2018 年度は 12～13 名のグループを１グループあたり６回、全２グループを担当した。課題図書の要約・読解、意見の述べ方、文献の引用、レポートのまとめ方をスモールステップで課題を課し、体験的に理解が深まるよう工夫した。個々人へのフィードバックを重ね、最後に一つのブックレポートを作成させた。学生１人１人がそれぞれの現在の学習スキルへの気づき、成長のヒントが得られるよう指導を心掛けた。
授業科目名【　ヒューマンサービス基礎演習　】 本演習では、新入学というタイミングでヒューマンサービスの基礎となる対人場面でのスキルアップを目指した。12 名前後のグループを１名の教員で担当し、一人ひとりの学生が対人場面における自己のスキルや心理への気づきが得られるよう促した。毎回小レポートを課し、フィードバックを行うなど、学生が積極的に課題に取り組めるよう工夫を行った。
授業科目名【　心理学概論Ⅰ　】 本講義では、発達心理学、人格心理学、臨床心理学、社会心理学の研究方法、基礎となる理論や著名な研究、導き出されたな理論等、心理学の概論について解説を行った。分野が多岐に渡るため、学生の記憶の定着を図るべく、毎回、前回の内容を振り返る時間を設け、前回の授業後に提出された小レポートを踏まえて補足説明を行った。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。試験前には、

積極的に質問を受け付け、研究室での個別指導も行った。

授業科目名【　発達心理学Ⅱ　】

本講義では、青年期から老年期までの人間の発達を、身体的、認知的、心理社会的側面から解説を行った。青年期、中年期の発達を概観し、老年期を中心に据えることで人生後半期における発達的変化を捉えられるようにすすめていった。適宜プリントを配布し、具体的な例を挙げながらテキストを読み深め、パワーポイントにて要点をつかめるように工夫した。小レポートの質問には逐次応答し、学生が質問しやすい雰囲気を作るよう、心掛けた。

授業科目名【　発達臨床心理学演習　】

本演習では、事例論文についての解説ののち、論文講読を行った。発達心理学、臨床心理学に関係する事例論文を学生が持ち寄り、論文講読、学生同士のディスカッションを行うことで、この分野の理解を深めるよう促した。学生の興味に沿って積極的な発言を促したりするなど、学生の参加しやすい雰囲気を作るよう心掛けた。論文の比較についての課題を課すなど、各臨床分野での最新の研究の動向について整理し、理解が深まるよう指導した。

授業科目名【　初年次セミナーⅡ　】

本演習では、１年生を対象とし、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。

2018 年度は 12～13 名のグループを１グループあたり６回、全２グループを担当した。課題図書の要約・読解、意見の述べ方、文献の引用、レポートのまとめ方をスモールステップで課題を課し、体験的に理解が深まるよう工夫した。個々人へのフィードバックを重ね、最後に一つのブックレポートを作成させた。学生１人１人がそれぞれの現在の学習スキルへの気づき、成長のヒントが得られるよう指導を心掛けた。

授業科目名【　臨床心理学概論　】

本講義では、臨床心理学の基礎となる精神分析理論、学習理論、人間性心理学の理論と、フロイト、エリクソン、クライン等の発達理論、またそれらの理論に基づく心理療法、心理アセスメントについて解説を行った。

専門用語などは初めて聞く学生も多いため、テキストに加え補足プリントを配布し、語句や概念の理解を促した。毎回、前回の内容を振り返る時間を設けるようにした。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。小レポートの質問には逐次応答し、学生が質問しやすい雰囲気を作るよう心掛けた。

授業科目名【　社会心理学　】

本講義では、社会心理学の基礎となる理論や著名な研究、社会心理学の概論について解説を行った。
日常生活との接点を考えることが、理論の理解に結び付きやすいため、毎回、紹介した理論が日常生活ではどのような形で現れるかを考えて小レポートにするよう促し、次回始めに授業内にてフィードバックし、知識の定着を図った。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。小レポートのフィードバックを行うことで、学生が質問しやすいやすい雰囲気を作るよう心掛けた。

授業科目名【　福祉臨床心理演習Ⅲ　】

本演習では、高齢者臨床におけるアセスメントや心理面接についての指導を行った。発達的側面からの理解を振り返った上で、臨床場面における高齢者の心理について考えながら、アセスメントの手順、アセスメントの際の配慮、アセスメントのフィードバックのあり方について、演習を行った。また、認知症高齢者の心理についてビデオや文献を通して理解した上で、心理療法の目的、手順、具体的配慮、前後のアセスメントについて、演習を行った。具体的な手続きを学ぶことで、学生が心理的課題への理解を深められるよう工夫した。

授業科目名【　心理学基礎実験　】

本演習では、心理学の具体的な研究手続きについて演習を行った。目的に沿った研究方法、データ収集、データ解析を指導した。また、問題と目的、方法、結果、考察という形式に則った論文レポートにまとめる作業について指導した。学生の理解、課題の進み具合に沿って指導を行った。

授業科目名【　コミュニティ心理学　】

本講義では、コミュニティ心理学の基本的理念と具体的実践についての講義、解説を行った。4 年次開講科目ということもあり、一方的な講義ばかりではなく、疑問提示や質問をする機会を積極的に設けることで、議論しながらこれまで身につけた臨床心理学や社会福祉学の理論と比較する中で、コミュニティ心理学の特徴について理解を深めるよう工夫した。

授業科目名【　専門研究Ⅰ　】 本年度は受講する学生は２名であった。前期は、学生の関心のある領域の研究論文を選択するよう課題を課し、各専門分野における研究の動向と課題についてディスカッションを行った。後期は、学生が関心を有していた調査系論文の読解力を高めるため、心理統計の手法と心理統計を用いた論文の書き方について解説した専門書を読み合わせ、研究手法の理解を深めるよう促した。
授業科目名【　専門研究Ⅱ　】 本年度は受講する学生は１名であった。前期の始めに、学生が関心のある領域から研究テーマを決定するよう促し、１年間を通して研究レポートの作成を指導した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本心理臨床学会	会員	２００１年～現在に至る
日本臨床心理劇学会（2018 年 4 月、西日本心理劇学会より改名）	監事（2012 年 4 月～現在に至る）	２００１年～現在に至る
日本ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｲｼｮﾝ心理学会	会員	２００２年～現在に至る
日本発達心理学会	会員	２００７年～現在に至る
日本心理学会	会員	２００８年～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
(著書) 該当なし				
(学術論文) 該当なし				
(翻訳) 該当なし				
(学会発表) 該当なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
該当なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
該当なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
九州大学大学院人間環境学府付属総合臨床心理センター	研究員	2018年4月～2019年3月（1年間）
大分県中津児童相談所	非常勤心理判定員	2018年4月～2019年3月（月1回）
大分県中津児童相談所	児童養護施設職員研修担当	2018年10月～2019年1月（月1回）
福岡女学院大学	講師（集中講義）	2018年8月28日～30日（3日間）
放送大学	講師（実技講習）	2018年10月27日、28日（2日間）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
（大学） 公開講座委員会　委員 （学科） ヒューマンサービス基礎演習　担当 保護者向けニューズレター　　担当

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　谷川弘治	職名　教授	学位　社会学修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
臨床健康心理学 特別支援教育（病弱児の心理，病弱教育） 医療保育 医療ソーシャルワーク 高等教育論	病気の子ども　小児慢性疾患 小児がん　白血病　先天性心疾患　１型糖尿病 トータルケア　心理支援　心理社会的支援 セラピューティックアプローチ　治癒的遊び 教育支援　社会的支援　自立支援　家族支援 病弱教育　病弱児心理　医療保育　多職種協働 研修システム　多職種研修 大学管理運営　大学評価　地域貢献

研　究　課　題
小児医療における心理社会的支援専門職の専門性向上のシステム構築 小児医療フィールドにおける教師と保育士の言葉の運用に関する研究 小児医療フィールドにおける治癒的遊びの研究 地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究

担　当　授　業　科　目
＜看護学科＞ ①　臨床心理学 ＜福祉学科＞ ②　ヒューマンサービス基礎演習 ③　心理統計学 ④　心理学研究法 ⑤　福祉臨床心理演習Ⅰ ⑥　家族心理学演習 ⑦　保育の心理学Ⅱ ⑧　保育実践演習 ⑨　専門研究Ⅰ ⑩　専門研究Ⅱ ⑪　卒業論文

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
①　授業科目名【臨床心理学】看護学科２年後期選択１単位（8 コマ＋定期試験） ＜準備＞ 下記は常に留意しているところである。 ・　看護師に必要な臨床健康心理学の基礎知識を身につけ，臨床の場での支援の基本を考えることをねらっている。「かかわりながらの患者理解」の方法を論じていくので，関心や学習意欲は高い。 ・　「質問・感想・意見」を回収し，質問への回答，学習を深める上で参考となる感想や意見をまとめたプリントを，次の回に配付した。 ・　看護学生としてなじみのない概念（「非機能的な思考」「自己効力の期待」「機能分析」）などについては留意するようにした。

・　中間テストを配置し，復習を促すようにした。

本年度はさらに，学ぶべき諸概念を整理して，学生に提示するよう心がけた。たとえば，セルフケア及びそれに関連する心理学的諸概念について，整理を行った。

＜評価＞

１．アウトカム

本年度は９割以上の学生が標準的な達成目標以上を達成していた。

２．プロセス

「質問・感想・意見」では，多くの意見が寄せられていた。

全般に参加度は高いものであった。

＜まとめ＞

看護師に求められる標準的な達成目標を概ね達成した。

---

②　授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】福祉学科１年前期　必修１単位

＜準備＞

１．密度の濃い対人スキルの見直しの機会となっているために次を重視してきた。

a. テーマの説明を丁寧に行う

b. 達成感がもてるよう，できたことを評価する

c. 弱点は長所でもあることを指摘する

d. 「いまできないことがあっても良いが，卒業するまでには克服するよう見通しを持たせる

e. 振り返りの時間を大切にする。

２．例年，テーマ毎に２回目の授業の最初にまとめを提示することで視野を広げたり，深めることをねらっていた。その方法では集中できないことが課題となり，昨年度よりその枠をはずしはじめ，今年度は１回完結型で構成した。

３．ルーブリックを用いていることを活かし，毎回のパフォーマンスを得点化するなどを行い，最終的なレポートを書き上げる前までに各自の達成目標別評価を手渡すようにした。達成目標別評価は評価割合及びコメントで構成され，コメントは必ずプラス面を記述の上，必要な場合課題を示した。さらに，補足的コメントをつけ，課題を明確に示すようにした。

＜評価＞

１．アウトカム評価

成績は７割から８割であった。基本的な対人スキルをもち，実行することができていた。

各々の長所，弱点が明らかになったので，上述の個別の評価表に示して手渡すことで意識付けできたと思われる。

２．プロセス評価

対人スキルとして苦手さがある場合であっても，前向きに取り組む姿が多く見られた。

授業内容にかかわらない１年生としての不安や困り事など，いろいろな想いに耳を傾けることで，関係性はスムーズになった。

３．授業の進め方

授業を１回完結型にして双方向コミュニケーションを増やしてきたこともあり，進行についての学生の認知は改善していた。

昨年 ⇒ 今年

✓ 評価基準の明確さ　3.3　⇒　４．１

✓ 課題の明確さ　　3.3　⇒４．１
✓ 理解しやすさ　　3.0　⇒４．３
✓ 参加機会　　4.1　⇒４．３
✓ 質問の機会　　3.8　⇒４．３

＜まとめ＞
学生のサインを捉えて取り組むことで，大きく改善することが明らかである。今後も，同様に取り組んで行くことが望まれる。

③　授業科目名【心理統計学】福祉学科２年後期　選択２単位（認定心理士希望者のみ）

＜準備＞
・ 基礎となる統計量の概念を体験を通して学ぶことができるように，データを処理しながら理解を負変えるようにした。
・ ときどきのやり取りを促して，じっくり取り組むようにした。

＜評価＞
１．アウトカム
記述統計，推測統計，分散分析の基礎について，標準的な達成目標を達成できた。
ノンパラメトリック検定については，時間不足で不十分であった。

２．プロセス
計算が得意でない学生もいたが，得意な学生から学ぶなど，意見交換や支え合いがみられ，基本的に同じレベルに到達できたものと思われる。
全体に協同学習の形態を取ることができたが，これは学生たちの力によるところが大きかった。

＜まとめ＞
・ 思考過程を客観化し，意思決定をする上での統計学の意義をじっくり考える構成を目指したい。
・ 統計量の意味を理解することが中心であるため，計算の習熟よりも，内容理解を確認できるような構成を目指し，もう少し達成感を味わえるように進めたい。
・ 統計量の意味と限界を検討するような演習を入れていきたい。

④　授業科目名【心理学研究法】福祉学科３年前期　選択２単位（認定心理士希望者のみ）

＜準備＞
次の点を配慮して構成している。
① 科学の多様な研究方法を学習する機会は少ないため，できるだけ身近な例をあげながら解説する。
② 実際的な課題を提示し，意見を求めたり，可能な範囲でデータ分析を実施しながら進める。
③ 質的調査，量的調査，実験を簡潔にして，準実験，一事例実験，実践研究の内容を充実させる。
④ 理解の状況を確認しながら進行を微調整する。

＜評価＞
１．アウトカム評価：基本的な知識を得るという点では一定の成果を上げたと思われる。
総合的な成績の平均値は７５．６であった。
学生の到達度評価は下記の通りであった。
✓ 新たな知識：一昨年３．８⇒昨年３．５⇒今年３．８
✓ 理解の視点：　３．８⇒　３．５⇒　３．６
✓ 意欲：　３．８⇒　３．５⇒　３．８
✓ 目標達成：　３．４⇒　３．０⇒　３．２（学科平均３．４）

２．プロセス評価
履修者が５名に増え，学生相互のやり取りが増えたこともあり，昨年度より参加度は向上した。

３．進行
下記授業評価にあるように，学生の参加機会や教員との双方向性確保については認知されていた。

授業評価
- ✓ 評価基準が明らか　４．０
- ✓ 学習範囲や課題が明らか　４．０
- ✓ 理解しやすい説明　３．６
- ✓ 学生の参加機会：　４．６
- ✓ 質問の受付：　４．６

＜まとめ＞
内容の精選（福祉領域での心理学研究のイメージができる内容など），授業中の課題提示，質疑のやり取りなどを通して，参加状況は改善してきた。今後も，学生と双方向のやり取りによって，理解度を向上させることが必要である。

⑤　授業科目名【福祉臨床心理演習Ｉ】福祉学科２年後期　選択２単位

＜準備＞
下記は基本的な留意点としているところである。
- ✓ ソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）と家族療法という２つのテーマについて，理論の基礎をロールプレイや発表を通して学ぶように手順を明確化して取り組んできた。
- ✓ テーマ毎のプロシージャーは次の通りとし，間に体験を挟んで理論への理解を深める構造を作った。
  導入（教員による解説）⇒ロールプレイ・グループワーク⇒理論学習（発表と討論）⇒まとめ

今回は，学校で使われるＳＳＴ教材を，新たに導入してみた。ごく基本的なものであった。2017 年度までＳＳＴの応用について災害時のストレスマネジメントを取り上げてきたが，今回は時間の関係で扱わなかった。

＜評価＞
１．アウトカム
ある程度達成できた。

２．プロセス
学校におけるＳＳＴの教材への食いつきが弱かった。
模擬事例への計画作成と発表について，指導者より，さらに考えを深めるように促すことで，ようやく主体的に受けとめる学生の発言が増え，全体の雰囲気が変わり始めた。
一方，前半のＳＳＴの学習段階で，途中リタイヤした学生があった。
家族療法は２つの模擬家族を作って取り組んだが，途中欠席者があり，家族のロールプレイが思うように進まなかった。

＜まとめ＞
学習動機づけを高めるためには，内容を昨年のものに戻すことから始めること，出発点でのレディネスチェックを行うことが欠かせない。

⑥　授業科目名【家族心理学演習】福祉学科４年前期　２単位　選択

本年度受講者はなかった。

⑦　授業科目名【保育の心理学Ⅱ】福祉学科子ども家庭福祉コース３年前期　必修１単位

＜準備＞

- 保育の心理学Ⅰでの学びを受け，実践的な課題を多く取り入れて，子ども理解と保育の理解を進められるように展開してきている。
- 前回からテキストを用意し，授業回数の約８割をテキストを用いた演習とした。
- ねらい別の評価基準・評価対象・配点を明確にした表を提示した。
- 毎回の流れと作業課題を明確に示して，事前学習を促すようにした。

＜評価＞

１．アウトカム評価：基本的な目標は達成できたと評価できる。

総合成績の平均値は 85.6 点であった。観点別にみると次の通りであった。

- ➢ DP１・２：子どもの発達の姿を捉え，かかわりを構成する視点を説明できる。・・・９０％
  子どもの発達に関する課題を絞り，収集した情報からかかわりを構成するための視点を得ることができる。・・・・・・・・・・・・・・・７５％
- ➢ DP３　：子どもの発達の姿を捉え，かかわりを構成する視点をさらに深めようとしている。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７０％
- ➢ DP５　：遊び活動を企画，実行し，振り返ることができる。・・・・・・・・・・・７７％
- ➢ DP２　：遊び活動を実行する上での安全管理と社会的ルールに則した判断ができる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８３％

授業評価における学習の自己評価は下記のとおりであった。

- ✓ 新たな知識：一昨年度 3.7 ⇒昨年度 4.1⇒本年度 4.0
- ✓ 理解の視点：　3.6⇒　3.9⇒　4.0
- ✓ 課題検討：　3.6⇒　3.7⇒　4.0
- ✓ 判断：　3.6⇒　3.9⇒　4.0
- ✓ 意欲：　3.8⇒　4.1⇒　4.0
- ✓ 技術　3.7⇒　3.8⇒　4.0
- ✓ 表現力　3.7⇒　4.2 ⇒　4.0

２．プロセス評価：積極的な発表，意見交換，遊び活動の展開ができていた。

３．授業の工夫

昨年度より下記を導入しているが，効果的であった。

- ✓ 明確な計画の設定と学生との相談を通しての実行。
- ✓ ポストイットイーゼル® を用いての教員からのプレゼンテーションと，学生のプレゼンテーションの実施。

授業の質に関しては，下記の様に平均的であった。

- ✓ 評価基準の明確さ　4.0（学科平均 3.9）
- ✓ 課題の明確さ　4.0（学科平均 4.0）
- ✓ 理解しやすさ　4.0（学科平均 3.4）
- ✓ 参加機会　4.0（学科平均 4.1）
- ✓ 質問の機会　4.0（学科平均 4.0）

予復習は半数が８回中２回以上実施していた。

４．まとめ

標準的な達成目標は達成された。

⑧　授業科目名【保育実践演習】福祉学科子ども家庭福祉コース４年通年　必修２単位

＜担当のテーマ＞

・ 本科目は担当教員グループが分業と協業によって構成されており，教員は各担当箇所での参加，担当を越えて共通参加での参加を行う。谷川の担当箇所は「保育の現代的課題」というテーマのうち「健康障害」である。学生は，病気の子どもの理解，医療保育に関する基本的知識，病院における日常的遊び活動について学ぶものである。

＜担当箇所業務の評価＞

・ 積極的な参加が得られ，課題に取り組んでいた。教員との意見交換の積極的であった。
・ 死に行く子どもに保育士としてできることには真剣に取り組み，ある病状にある子どもを念頭に置いた遊び活動の素案づくりについては個性的なアイディアも見られた。

⑨　授業科目名【専門研究Ⅰ】福祉学科３年　必修２単位

2018 年度は受講者がなかった。

⑩　授業科目名【専門研究Ⅱ】福祉学科４年　必修２単位

スヌーズレンについて学びを深め，健常児を対象にした実践を行い，レポートにまとめた。

⑪　授業科目名【卒業論文】　福祉学科４年　選択４単位

学生主体に研究作業を進めていった。スヌーズレンの実践的取り組みを手がかりに，在宅の医療ケアが必要な重症児の遊び活動の必要性と課題について，検討を加えた。

重症児とそのトータルケアについて，また，在宅の医療ケア児の実態と課題について，資料整理に手間取ったようで，基本的な状況整理に留まったが，学生なりに問題を探求して事には変わりない。卒論発表会でいただいたコメントは，今後に役立つと思われる。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本医療保育学会	理事　2009 年８月まで 理事　2015 年６月から現在に至る	1997 年６月
全国病弱教育研究会	副会長	1992 年７月
日本特殊教育学会		1992 年２月
日本心理臨床学会		1992 年４月
日本小児保健協会		1995 年４月
日本造血細胞移植学会		1996 年 12 月
Association of Chile Life Professional(Child Life Counci)l		1998 年８月
日本小児看護学会		1999 年４月
日本育療学会		2009 年 10 月

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） 小児医療の現場で多職種が連携・協働していくために保育士に求められること（受理）	共	2019 年 3 月予定	日本医療保育学会『医療と保育』	本研究は、子どもが入院する病棟において多職種が子どもと家族とかかわる中で、保育士・看護師・特別支援教育担当教師(院内学級・訪問学級教師：以下教師とする)がどのように連携・協働を図っているか現状を把握し、その中で保育士に求められることについて明らかにすることを目的とした研究である。小児医療の現場経験が 3 年以上の看護師 3 名、保育士 2 名、教師 6 名の計 11 名を対象にフォーカスグループインタビューを行い、内容を質的に分析した。 小野鈴奈，谷川弘治，濱中喜代
（翻訳） なし				
（学会発表） 病棟保育における実践過程の評価に関する研究 － 対話モデルによる 2～5 歳児のエピソード記録の分析 －	共	2018 年 6 月 23 日~24 日	第 22 回日本医療保育学会第総会・学術集会（帝京平成大学）	幼児期の病棟保育実践記録5報について，対話の質を同定し，保育実践過程を再構成した。 谷川弘治，小野鈴奈
小児がんをもつ患児への病院内教育における教員の関わり	共	2018 年 9 月 22 日~24 日	日本特殊教育学会第 56 回学術集会（大阪国際会議場）	小児がん経験者の学校体験の語りの分析結果の一つである。とくに病院内教育における教員の関わりを分析 永吉美智枝，斉藤淑子，足立カヨ子，高橋陽子，谷川弘治
Difficulties and coping actions of childhood cancer survivors in their life after returning to their School	共	2018 年 11 月 16 日~19 日	SIOP（国際小児がん学会）（京都国際会議場）	小児がん経験者の学校体験の語りの分析結果の一つである。とくに学校生活の困難さに関する語りを分析。 M. Nagayoshi, Y. Saito, K. Adachi, Y. Takahashi, K. Tanigawa

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
病棟保育における実践過程の評価に関する研究	保健福祉学部附属保健福祉学研究所	◯谷川弘治　小野鈴奈　副島賢和	141,840 円
地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究	2018 年度共同研究費	谷川弘治，今村浩司，樋口真己，吉原悦子，笹月桃子，石丸美奈子	1,328,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
なし		

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
1.　保健福祉学部長（2015 年 4 月から，現在に至る） 2.　学校法人西南女学院理事（2015 年 4 月から，現在に至る） 3.　入試会議メンバー（2015 年 4 月から，現在に至る） 4.　倫理審査委員会委員長（2015 年 4 月から，現在に至る） 5.　動物実験委員会委員長（2015 年 4 月から，現在に至る）

6. 公的研究費統括管理責任者（2016 年 9 月から，現在に至る）
7. 保健福祉学部附属保健福祉学研究所長（2015 年 4 月から，現在に至る）
8. 教学マネジメント検討会メンバー（2015 年 4 月から，現在に至る）
9. 地域連携室室長（2016 年 8 月から，現在に至る）
10. 副学長（2017 年 4 月から，現在に至る）
11. 子ども・子育て支援専門職養成の将来構想に関する検討会とりまとめ（2017 年度から，2018 年度夏まで）

※ 2016 年度様式から、学部長による評価・改善記入（助手については、学科長による評価・改善記入）は行われません。

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　通山　久仁子	職名　講師	学位　博士（コミュニティ福祉学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
障害者福祉、地域福祉	障害者家族、親当事者、主体形成、発達障害、地域福祉活動、NPO

研　究　課　題
発達障害のある人の親が行う、発達障害のある人や家族を支援する地域福祉活動に着目し、親としての当事者性（「親当事者」性）を基盤とした自発的な実践活動の生成・展開過程とその活動の意義、またこれらの活動を通した「親当事者」への主体化過程とその意義について明らかにする。

担　当　授　業　科　目
ヒューマンサービス基礎演習（前期） 相談援助演習Ⅰ（後期） 相談援助演習Ⅱ（前期） 相談援助演習Ⅲ（後期） 相談援助演習Ⅳ（前期） 相談援助演習Ⅴ（後期） 相談援助実習指導Ⅰ（通年） 相談援助実習指導Ⅱ（通年） 福祉入門（前期） 就労支援サービス論（後期） 福祉経営論（前期） 生命倫理（後期） 社会福祉特講Ⅱ（集中） 専門研究Ⅰ（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　ヒューマンサービス基礎演習　】 初年次の演習科目であるため、ゲーム性のあるグループワークをできるだけ取り入れ、仲間づくりを促進できるようにした。ワークの内容も学生の希望を取り入れ、企画するようにした。このグループワークの中で、自分の意見を述べる機会を多く設け、自己表現力が養えるよう努めた。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、さらにその個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【　相談援助演習Ⅰ　】 グループワークを通して他者と意見を共有しながら、考察を深めていく機会をできるだけ設けるようにした。学生のふり返りの時間を必ず設定し、さらにその個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。また学生自身が設定した問題意識に基づいてプレゼンテーションを行う機会を設けた。福祉的課題・問題の理解については、難病当事者をゲストとして招き、講話を聴いたり、感想をもとにワールドカフェを実施したりした。

授業科目名【　相談援助演習Ⅱ　】

本演習は相談援助に関わる実践技術を学ぶ演習であるが、技術や技法だけでなく、その基盤にある福祉的理念を同時に伝えられるよう努めた。また教材については、学生の関心が高い虐待などの福祉課題を取り入れるようにした。そして学生がその技術・技法を体得し、実習などの実践現場で活かせるよう、繰り返しロールプレイで練習する機会を設けた。ロールプレイの際には、面接場面を録画し、学生が自身を客観的にふり返られるようにした。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。

授業科目名【　相談援助演習Ⅲ　】

本演習は相談援助実習前の準備段階にある時期に開講される演習であるため、より実践場面を意識し、臨床現場で実際に用いられる相談援助技術・技法に焦点化し、演習を行った。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。ただそれが技術のみの習得にとどまらないように、その基盤にある福祉的理念を十分に説明する機会を設けるようにした。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。

授業科目名【　相談援助演習Ⅳ　】

本演習は相談援助実習と連動して開講される演習であるため、より実践場面を意識し、臨床現場で用いられる相談援助技術・技法に焦点化し、演習を行った。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。実習後の指導では、実習生の自己評価結果をレーダーチャートで示せるようにし、自身の到達度を視覚的に認識できるよう工夫した。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。

授業科目名【　相談援助演習Ⅴ　】

本演習は相談援助技術を学ぶ最後の演習であるため、実習で習得した知識や技術を総合して、学生が創意工夫しながら福祉課題に対する課題解決方法を見出していけるような演習となるよう努めた。また個別支援というミクロレベルのソーシャルワークから、地域というメゾレベルのソーシャルワークへと展開できるような視点が習得できる事例を教材として用いるようにした。その中で、学生の学びとしては馴染みの薄い、地域の組織化や社会福祉調査の視点を習得できるような事例を取り入れた。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。

授業科目名【　相談援助実習指導Ⅰ　】

実習前指導を行う本科目では、実習への動機づけや、福祉実践に臨む視点形成に焦点を置いた講義を展開した。講義にできるだけワークを取り入れ、学生が自身で考える機会を増やすように工夫した。また車いすの使用法や、実習施設で用いられている療法や支援方法を実践する機会を講義内で設けるとともに、基本的知識の習熟度試験を行い、基本的な技術と知識を確認する機会を設けた。見学実習では、施設からのオリエンテーションだけではなく、現場体験の時間を組み入れ、見学実習後のふりかえりとして、まとめのプレゼンテーションを行う機会も設けた。個別指導の際には、それぞれの学生の特徴や傾向をできるだけ把握し、3 年次の実習指導につなげられるよう心がけた。

授業科目名【　相談援助実習指導Ⅱ　】

実習体験から自ら気づき、考察できる力を育成することを目標に実習指導を行った。事前学習では実習に臨む視点形成、考察するための基礎力をつけることに焦点化した。特に実習日誌作成の方法については演習を繰り返し、指導時間を集中的に設けた。また後期実習前には、個別支援計画書の作成について集中的に指導時間を設けた。事後学習では、それぞれの事例についてプレゼンテーションの機会を設け、さらにそれをグループで共有することを通して、学生同士の対話から実習体験を意味づけ、理解を深められるような機会を設けるようにした。

また実習施設と共同で開発した実習プログラムを標準化していくため、各施設との共通認識の形成に努めた。

授業科目名【　福祉入門　】

本科目は 4 人の教員と各領域の実践者によるオムニバス形式の講義である。その中で「社会福祉の担い手」、「地域福祉」の回を担当した。初年次生に対して、福祉への興味関心を醸成することを目的とした科目であるため、福祉が必要とされている現状や、福祉に携わることのやりがいなどを中心に、できるだけ視覚教材などを用いて、わかりやすく伝えられるようにした。

授業科目名【　就労支援サービス論　】

本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習でできるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また実践現場で障害者の就労支援や困窮者支援を展開している実践者の講話を取り入れたり、視覚教材を用いたりしながら、就労支援のサービス内容を具体的に理解できる機会をつくった。

授業科目名【　福祉経営論　】

本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習でできるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また国家試験の受験年度でもあるため、これまで学んだ基礎的な知識を復習する機会も設けた。

本科目は福祉経営という学生には馴染みづらいマクロな視点を必要とする科目であるため、新聞記事等を用いて時事的な問題を扱ったり、学生と年齢が近い若手の実践を取り上げたりなどして、学生が身近にとらえられるような話題を提供するようにした。

授業科目名【　生命倫理　】

本科目では、生命倫理の課題に対して、学生が第三者としてではなく、当事者として考えられるよう、学生も将来的に直面する可能性のある、生殖補助医療や出生前診断といった、身近な話題を取り上げるようにした。またこれらの課題を具体的に理解できるよう、DVD 等の視覚教材をできるだけ用いるようにした。そしてこれらの課題を通じて学生が人間の生死に対する自身の考えを深められるよう、できるだけ学生同士で討議を行う機会を多く設けるようにした。

授業科目名【　社会福祉特講Ⅱ　】

本科目は5人の教員によるオムニバス形式の講義である。4 年次の国家試験対策として位置づけられており、「福祉サービスの組織と経営」、「就労支援サービス論」を担当した。講義では、本試験で出題が予想される内容や学生の理解が不十分な内容を中心に、問題演習を取り入れながら実施した。

授業科目名【　専門研究Ⅰ　】

前期は学生の関心のある文献を取り上げ、その読み方を中心に学習を進めた。後期は学生の関心のあるテーマにしたがって、事例検討などを進め、それをもとにレポート作成の方法を指導した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会 日本発達障害学会 障害学会		2004 年～現在に至る 2005 年～現在に至る 2009 年～現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文） 発達障害のある人の「親当事者」団体による地域福祉活動の生成・展開過程に関する研究―リーダー層の主体化に着目して―〔博士論文〕	単	2019.3	立教大学	① 本稿は、発達障害のある人の親を対象とし、彼らが行う発達障害児者・家族への支援を基盤とした地域福祉活動の生成・展開過程とその意義、そして親の主体化の過程とその意義を明らかにすることを目的とした論文である。 ② 総頁数　229

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
発達障害のある人の「親当事者」組織による「クレイム申立て」運動と発達障害者支援施策の展開	単	2019.3	西南女学院大学紀要 Vol.23	① 本稿では、発達障害者支援施策の展開を、発達障害のある人の「親当事者」の全国組織が行ってきた「クレイム申立て」運動との関わりから分析した。またこれらの経緯から、「親当事者」組織のはたした役割を分析した。 ② pp.15-26

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
発達障害者の「親当事者」組織と多様なアクターの協働による地域生活支援に関する研究	日本学術振興会	1,950,000	

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
特定非営利活動法人 nest 北九州市障害程度区分認定審査会	理事 委員	2008 年 6 月～現在に至る 2013 年 4 月～現在に至る

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
【学生募集委員】 2018 年度より本委員を務めている。リーフレット作成では、4 年間の学びの道筋と、各資格取得後の将来像をわかりやすく示すことに焦点を当て構成した。オープンキャンパスでは、学科で取得できる各資格の説明を中心に、各資格に関わる模擬講義を高校生も楽しめるようなワークを含めながら構成してもらうよう調整した。 【保健福祉学研究所運営委員】 2017 年度より本委員を務めている。講演会や報告会の運営の補助を行った。 【社会福祉士国家試験対策講習会】 オリエンテーション時に国家試験に向かう心構えについて丁寧に説明し、1 年間モチベーションを継続して保っていくことができるよう動機づけを行った。今年度は週 2 コマに国試対策のコマ数を増やし、前期に穴埋め試験、過去問演習、後期に一問一答試験（基礎編、応用編）、過去問 3 年分の問題演習を継続して行い、互

いに競争心を持って学習に臨めるような環境をつくるようにした。また個別面談の回数を増やし、特にフォローが必要な学生について、丁寧に個別指導を行えるようにした。

【高大連携・出前講義】

高校生が福祉の視点に触れ、福祉の仕事の楽しさを感じられることを目標に、福祉の仕事が求められている状況、社会福祉士がどのような仕事かについてわかりやすく伝えられるよう工夫した。また演習などを取り入れることで、大学での授業を体感できるようにした。

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　中島　俊介	職名　教授	学位　博士（学術）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
心理学	メンタルヘルス　　心理教育　　地域精神保健

研　究　課　題
平和・文化的活動における学生のメンタルヘルス向上効果の心理教育モデルの構築

担　当　授　業　科　目
発達心理学（前期）（看護科） 教育心理学（前期）（教職課程全科） 保育実践演習（前・後期）（福祉科） 行動科学（前期）（保健福祉学部・人文学部） 発達臨床心理学（後期）（福祉科） 保育者論（後期）（福祉科） 保育内容（人間関係）（後期）（福祉科）　・保育の心理学１（後期）（福祉科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【発達心理学】 授業学生への講義内容に対する興味と集中力をいかに高めて持続させるかについて努力したが毎年苦慮する。今年度は「質疑を活発にする」に取り組んだが、なかなか困難であった。映像を使った講義は成果があった。講義中にできるだけ発問をして意欲を喚起した。
授業科目名【教育心理学】 これだけは当該科目では知っていてほしいことを板書した。また教員採用試験合格を意識して、必ず「試験問題風の課題」をテーマにするように心がけた。期末の定期試験の内容も採用試験を意識した内容とした。
授業科目名【行動科学】 毎年の課題であるが人数が多く。いかに講義中の学生の集中力が途切れないようにするかに留意した。講義だけでは集中に限界があるので映像を必ず入れるようにした。課題を与えて机間巡視を時々試みた。次年度この点にさらに工夫を加えたい。
授業科目名【発達臨床心理学】 アンケートの結果から「授業の課題以外の取り組みについて何をしていいかわからなかった」の意見がみられた。授業の内容と準備に精力を費やした今年度であったが次年度の課題である。学生のコメントを必ず入れるように工夫したのは高評価であった。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本教育心理学会 日本人間性心理学会 日本心理学会		1982年4月～現在に至る 1998年4月～現在に至る 2018年4月～現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） 平和･文化的活動による学生のメンタルヘルス向上効果の研究５	共著	2018年9月	日本人間性心理学会 第37回大会	① 平和活動の継続的実践による心理･社会的変容を質的研究により明らかにした。 ② 共著者名　福井完児 ③ 第36回　日本人間性心理学会大会論文集所収

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市人権施策審議会委員	委員長	2017 年～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
なし

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　西丸　月美	職名　　講師	学位　教育学修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
養護学、学校保健、健康教育	専門性、養護教諭、多職種連携

研　究　課　題
養護教諭の専門性について、歴史的背景をもとに連携を中心に考察する。また、学校看護婦がどのように、多職種と連携をしていったか考察する。さらに、現在の養護教諭の多職種連携に関する課題等について考察する。

担　当　授　業　科　目
地域保健学Ⅱ、看護臨床実習、事前及び事後の指導、基礎看護技術、養護実習、学校保健教育法、学校保健Ⅱ、教職実践演習、看護学、専門研究Ⅰ、専門研究Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【地域保健学Ⅱ】 本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習（病院実習）、養護実習の履修要件を満たすための科目である。現代社会における心身の問題と医療の動向について学び、養護教諭としての健康相談の具体的な方法・技術および子どもの健康問題の解決支援及び連携の方法を解説した。また、将来、養護教諭として健康相談の実践ができるように、グループワーク（ロールプレイなど）も取り入れておこなう。 授業では、地域保健学Ⅰで学んだ知識を基礎に、できるだけ具体例を示し、グループワーク、ロールプレイ等を取り入れ、関心を高めるように心がけた。また、養護実習での経験したことを事例として、事例検討会行った。
授業科目名【基礎看護技術】 本科目は養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。当科目では、養護教諭として必要な基礎的看護技術、および児童・生徒に身体的健康問題が生じた場合の援助方法に関する知識を養うことを目的とする。感染防御技術を中心とした「健康と環境」、健康状態を判断するための「フィジカルアセスメント」、学校現場で起こりうる状況に対する「応急処置」に関する基礎的知識と看護技術、学校現場で遭遇することの多い健康問題への対応としての「健康問題がある場合の援助技術」について、講義による解説と、現場で役立つ技術の演習を実施した。 授業では、看護の基礎技術をできるだけ理解しやすいように具体的な事例や用具を用いて行った。さらに、養護実習で経験する身体計測についても、学生が計画し実践できるように工夫した。 看護技術については、授業で学んだ知識や技術を学校現場や病院実習で実践できるために、15 コマ目に実技試験を行い、知識や技能の定着を確認した。

授業科目名【看護臨床実習】

本科目は、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の要件を満たすための科目である。机上の学修を実際の医療の現場に参加することにより、より実践的な知識および技術を深めることを目的として実習をおこなう。さらに、医療活動の実態を知ることにより、広く保健医療の一環としての学校保健の在り方について考察し、養護教諭の果たすべき役割を見出せるよう実習をすすめていく。

3 年生の病院実習の経験を踏まえて、学校における養護教諭の実践に生かしていけるよう、グループワーク等を取り入れより具体的な事例を用いて授業を行った。

4 年生の看護臨床実習では、病院実習の経験を踏まえ、学校現場で実際行う保健指導の模擬授業、ロールプレイなどを取り入れ、知識理解の定着を確認し授業を行った。

授業科目名【学校保健教育法】

学校における保健教育の意義及び教育課程基準の改訂の基本方針等について概説し、小・中・高等学校における保健学習、保健指導の位置づけ、目標・方針・内容等について解説する。児童生徒等の発達段階に応じた授業成立の要件を学び、指導計画、指導内容、指導方法、指導案の作成、教材研究、評価法について習得する。小・中･高等学校及び特別支援学校における保健教育の授業を展開できる能力を養うことを目指す。

授業では、保健教育の理論について学び、学習指導要領に基づき指導案を作成した。一人ひとりが、保健指導の指導案、教材を作成し、10 分間の保健指導を行った。模擬授業について、全員で参観し、自己評価・他者評価を行いグループでディスカッションを行った。

教育実習で模擬授業を行うための事前準備の段階ととらえ、実践力をつけることができるように工夫した。

授業科目【学校保健Ⅱ】

学校保健Ⅰの教授内容を踏まえ、養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基本について講義を行った。主な講義内容は、児童生徒等の発達過程や子どもの特性を踏まえた保健室機能と養護教諭の役割、児童生徒等の健康診断、学校感染症予防、疾病管理、学校安全と危機管理、保健指導と健康相談などである。

授業では、養護教諭の具体的な活動例を提示し、グループワーク演習を行った。特に保健室経営についての講義では、「私の理想とする保健室」について、ディスカッションを行い、グループごとに発表を行った。

授業科目【事前及び事後の指導】

養護実習に臨むための準備を整え心構えをするとともに、実習後の整理を追求的におこなう機会となることを意図している。実習前は実習校での学校教育活動と学校経営・運営に参与するにあたって必要となる知識及び技術を身につけることを目指す。実習後は体験を通して修得した事項や課題について学生相互に意見交換させることにより自省的整理や定着化を図ることを期待する。

授業では、養護実習を前に、オリエンテーションを行い人権学習・現職養護教諭の講話などを実施した。また、養護実習前の学習として、救急処置の演習をおこない、グループごとにテーマを決め、演習をおこなった。養護実習後にはグループごとに養護実習についてまとめ、報告会を実施した。さらに、4 年生が養護実習で学んだことを 3 年生に発表できるように時間を設定し、4 年生と 3 年生の交流を実施した。

授業科目【看護学】

看護の概念、看護の歴史及び養護教諭として必要な看護の基礎理論と養護診断について解説する。各論においては、ライフサイクルに応じた、小児看護、思春期看護、耳鼻咽喉科疾患の看護、眼科疾患の看護、歯科保健などについて解説する。また、学校保健と看護との関係について考察を加える。児童生徒等に多く見られる突発的な傷病について､緊急度の判断の方法及び適切な処置･対応を行うために必要な知識と技術についても解説する。

授業では、各論ごとに特徴的な疾患についてグループでプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行った。また、解剖学、生理学の知識の定着が図れるよう、課題を作成し授業内容を工夫した。

授業科目【教職実践演習】

この授業は、これまでの教職課程での学習及び養護実習を振り返りながら、養護教諭としての使命感、保護者や地域への責任、信頼される学校づくり等の課題について考える機会となることを意図している。また、児童生徒等の理解の方法や専門性を高めるためのリソース活用法など、各演習テーマについて、グループ学習や討議・発表といった演習形式で学習し、養護教諭の実践的技能と資質・能力の向上を目指す。

養護実習での課題をグループごとにディスカッションをおこない、課題解決に向けてグループワークを行った。さらに、現職の養護教諭の講話「性に関する指導」、「特別支援教育における養護教諭の役割」について行い、実践力を高めるための工夫を行った。特に「性に関する指導」については、グループごとに指導案を作成

し、模擬授業を実施した。
授業科目【養護実習】 養護実習を通して養護教諭として必要な態度を養い、学校保健の推進と実践力を培うことを意図している。小・中・高等学校において３週間の養護実習を体験する。実習内容は実習校の実状に応じて計画する。養護教諭の職務内容については実習校の重点的な保健活動あるいは実習期間中の行事等を考慮する。但し実習機会のない項目についても可能な限り講話や資料で学習し、実習校における保健活動全体の概要を把握できる養護実習にできるように事前、事後の指導を行った。
授業科目【専門研究Ⅰ】 専門研究Ⅰでは、　テーマを設定し、先行研究等の文献の中から興味のある文献について提示し、グループでディスカッションを行った。さらに、各自が興味のあるテーマを設定し、研究ができるように指導を行った。 また、3 年生と 4 年生の交流を行い、教員採用試験対策等につて情報交換を行った。
授業科目【専門研究Ⅱ】 専門研究Ⅱでは、専門研究Ⅰでの研究をさらに深めるために、各自がテーマを設定し、プレゼンテーションを行った。養護教諭として視点から専門性を深め、さらに、少人数でのグループワークを通して、コミュニケーション能力や表現力の養成にも工夫した。 また、現職養護教諭の保健室を訪問し、保健室経営や救急処置について学び、より実践的な学習ができるようも工夫した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本学校保健学会員		平成 21 年 4 月～(現在に至る)
日本教育心理学会員(現在に至る)		平成 21 年 9 月～(現在に至る)
日本教育保健学会会員（現在に至る）		平成 21 年 6 月～（現在に至）
日本人間性心理学会会員(現在に至る)		平成 22 年 6 月～(現在に至る)
日本教育カウンセラー学会員(現在に至る)		平成 26 年 8 月～(現在に至る)
日本学校心理士会学会員(現在に至る)		平成 27 年 1 月～(現在に至る)
日本アロマコーディネーター協会会員（現在に至る）		平成 27 年 1 月～(現在に至る)
日本養護教諭教育学会　第 23 回学術集会　熊本大会実行委員　事務局		平成 27 年 10 月
日本産業カウンセラー協会学会員(現在に至る)		平成 28 年 2 月～(現在に至る)

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） １．Adler Mates（Ⅰ）	共	１９９５年	ホープエディショナル	①熊本アドラー心理学を日々の生活や人間関係の中で実践し、体験した記録をまとめた。養護教諭としてひとりひとりに応じた対応を行った。その中で、個別の保健指導を通して、生徒の対応について養護教諭としての実践をまとめた。 ②共著者名　柴山謙二他 ③Ｐ73～75
２．Adler Mates（Ⅱ）	共	１９９６年	ホープエディショナル	①熊本アドラー心理学研究会が、６年間毎月出した「アドラー・メイツ・レター」をまとめた研究会誌である。その中で養護教諭として日々の執務の中で、集団・個別の保健指導を実施し、児童生徒に対しての実践をまとめた。 ②共著者名　柴山謙二他 ③P192～P194
（学術論文） １．不登校・教室外登校の児童生徒に対する養護教諭の支援の方法	単	2010 年	熊本大学教育学部紀要, 人文科学 59:34-46,2010-12-03	養護教諭は，学校教育全般を通して児童生徒の健康のみならず人間的な発達も支援していく立場にある。また、養護教諭は、児童生徒の体格、体力、疾病、栄養状態の実態や不安や悩みなどの心の健康に関する実態や保健室で捉えた傷病の実態を多面的に把握する。本稿では、不登校・教室外登校の児童生徒に対する養護教諭の支援の方法について明らかにすることを目的とした。その結果、養護教諭の支援の方法は、漫然とではなく、ある程度段階にのっとって、子どもたちの状態や行動を観察し、その児童生徒に応じた保健指導を行いながら対応していた。

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（共同研究） １．養護教諭の専門性に関する理論的研究	共	2018年	西南女学院大学 保健福祉学部研究所	養護教諭の前身である学校看護婦の組織化と研修活動が起こり始めた歴史的背景を考察した。帝国衛生会が設置した看護部が雑誌「養護」を刊行した。雑誌「養護」は学校看護婦の専門性を確立していく情報雑誌として機能したととらえ、養護教諭の専門性を歴史的に理論づける手がかりとすることを目的とした。
よくわかる！ 教職エクササイズシリーズ 「学校保健」	共	2019年3月	ミネルヴァ書房	教職課程にある学生、現職教員などに学校保健についてわかりやすく解説したテキストである。

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表）				著書　3　（内訳　共3） 学術論文　（内訳　単１）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
（教育上の実績） 1.熊本大学教育学部　養護教諭特別別科 2.玉名市養護教諭部会研修会　講師	非常勤講師 講師	1998.10 2011.7

3.熊本県公立学校新規採用養護教諭研修　講師		2012.7
4.荒尾市養護教諭部会　研修会　講師	講師	2012.8
5.南関町養護教諭部会　研修会　講師	講師	2013.8
6.熊本県公立学校 10 年経験者研修・新規採用養護教諭研修　講師	講師	2014.7
7.長洲町養護教諭部会　研修会　講師	講師	2015.8
8.熊本県公立学校養護教諭（12 年目以上）キャリアアップ研修　講師	講師	2016.10
（職務上の実績） 1. 熊本県学校保健会養護部　理事（運営委員）兼務玉名郡市学校保健会養護部長		1995.4 ～1996.3
2. 荒尾市学校保健会養護教諭部部長 3. 荒尾市学校保健会保健主事部長		2002.4 ～2003.4
4. 熊本県公立学校教員採用試験対策講座（熊本大学）		
5. 玉名学校保健会養護教諭部部長		2008.4 ～2010.3 2016.4 ～2017.3

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
教職課程委員会委員　2017 年 4 月～（現在に至る） 教員免許状更新講習プロジェクトリーダー　2018 年 4 月～（現在に至る） 教員免許状更新講習講師　　2017 年 8 月～（現在に至る） セクシャルハラスメント相談員　2018 年 4 月～（現在に至る） オープンキャンパス模擬授業　講師　2018 年 8 月～（現在に至る） シニアサマーカレッジ講師　2017 年 9 月

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　野井　未加	職名　准教授	学位　修士

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
発達臨床心理学	NICU　ハイリスク児　心的帰属　家族への援助　極低出生体重児の社会性の発達を促進する心理的援助　保育所相談援助　個別支援計画

研　　究　　課　　題
・「NICU 入院中のハイリスク児の母親における心的帰属の傾向とその変容過程に関する研究」 ・「極低出生体重児とのその家族に対する育児支援の成果と長期的な包括支援体制の構築のための調査研究」 ・「保育士との協働による気になる子どもへの個別支援計画立案と実行に関する研究」

担　　当　　授　　業　　科　　目
ヒューマンサービス基礎演習(前期)(福祉学科) 福祉臨床心理学Ⅱ(前期)(福祉学科) 福祉臨床心理演習Ⅱ(前期)(福祉学科) 保育相談支援(前期)(福祉学科) 母子の心理・社会学(前期)(助産別科) 心理学概論Ⅱ(後期)(福祉学科) 心理学基礎実験(後期)(福祉学科) 発達心理学Ⅰ(後期)(福祉学科) 専門研究Ⅰ(通年) 専門研究Ⅱ(通年)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【発達心理学Ⅰ(後期)(福祉学科)】 発達心理学Ⅰでは、胎児期から児童期までの発達段階や発達特性を中心に講義を行った。具体的内容としては、子どもの発達と環境、胎児期の発達、身体と運動能力の発達、知的機能の発達、感情と動機づけの発達、パーソナリティーの発達、人間関係の発達、社会性の発達、性と性意識の発達、脳と発達、発達心理学の理論などについて講義を行った。特に乳幼児期、児童期に現れやすい様々な課題について、事例を交えて説明することで、生涯発達心理学的視座をもった福祉職の育成を目指した。内容的には抽象度の高い理論的な科目であるが、人間発達の不思議さや興味深さを感じたようであるため、今後も両者のバランス(理論的であっても身近なもの)を図っていきたい。
授業科目名【福祉臨床心理演習Ⅱ(前期)(福祉学科)】 児童領域で用いられることの多いアセスメントツールである新版 K 式発達検査・田中ビネーV、WISC-III に関する講義及び実習を行った。それぞれ理論の説明を行った後、受講者各自が検査者役・被検査者役を取り、検査の施行の仕方・留意点について体験的に学ぶ機会を設けた。被検査者役の学生には、検査中に起こりうる子どもの行動を想定し演じてもらうことで、実践場面に近い状況を設定した。また、実習後には各検査のスコアリング・所見の書き方などについても解説を行った。

授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習(前期)】

ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされるスキル(①自分を表現する力を形成する、②コミュニケーションを通じて関係をつくる力を形成する、③人と協力して物事を進める力を形成する)について、小グループに分かれ、参加型・体験型の演習プログラムを中心とした授業を行った。上記の目的を達成するために、各自の意見・感想を率直に述べられるような雰囲気づくり(例：「他者の意見を批判・批評しないこと」を約束事とするなど)に努めた。また、各自の内省力を高めるために、グループ討議だけではなく、振り返りシートを作成し記入させた。

授業科目名【福祉臨床心理学Ⅱ(前期)(福祉学科)】

福祉臨床心理学Ⅱでは、カウンセリングの基本構造、主要なカウンセリングの段階とそのプロセス、代表的な4つのカウンセリングの立場とそのプロセスについて講義を行った。カウンセリングのそれぞれの段階において、どのようなことが主題となりやすいのか、そしてクライエントが解決を導き出していくために、カウンセラーがどのような援助を行っていくのかについて、事例を豊富に取り入れ説明した。技法だけを説明するのではなく、それぞれの技法の意味・期待される効果についても解説し、学生が実践に活かせるように努力した。

授業科目名【保育相談支援(前期)(福祉学科)】

保育相談支援では、学生が保育相談支援の意義と基本的視点について理解した上で、保育相談支援に求められる基本姿勢と相談の内容、保育士の専門性を活かした支援の方法について考えることを目的としている。学生には、保育所保育指針における原則や基本姿勢について具体的行動レベルで考える・様々なニーズを抱えた家族の事例に対する支援方法について考える事を課し、その上でグループ討議をしてもらった。グループ討議の基本的姿勢として、答えは一つとは限らない事、他者の意見を評価せずあらゆる可能性を考慮に入れることをルールとして設定した。回を重ねるごとに学生間のグループ討議の様子に変化が見られ始め、「答えを見つける」ことよりも「あらゆる可能性を考えてみる」といった姿勢が見えてきたため、方法論的妥当性は一定程度担保できているものと捉えている。

授業科目名【心理学概論Ⅱ(後期)(福祉学科)】

福祉領域の専門職を目指す学生が、総合的な人間理解の基盤を確立するための1つの学問領域として心のメカニズムを究明する学問である心理学を学ぶことは極めて重要であると位置づけている。心理学概論Ⅱでは特に、神経心理学、学習理論、認知心理学、感情心理学、発達心理学の概要について解説した。情報提示の仕方(実験内容を体験する等)によっては、理論的なものであっても、身近に感じやすいことが考えられるため、今後も継続して実践していきたい。

授業科目名【心理学基礎実験(後期)(福祉学科)】

心理学基礎実験では、実験を通して心理学の基礎的な方法概念について学ばせることを目的としている。また心理学のレポートの書き方、研究計画の立て方、実験等の具体的手続き、および統計処理の基本について解説した。履修者はすべて心理学の研究を行ったことがないため、実験・実習の進捗状況を適宜確認し、グループ討議を行った上で、各自が実験の目的を明確化し、目的に沿った実験・実習を進めていけるよう指導した。

授業科目名【障害者心理学(前期)(福祉学科)】

第1回目の授業において、障害と障害のある人に関する知識を把握するために、学生に小レポート(「障害とは?」)を書いてもらった。その結果、障害の概念や障害のある人の心理特性・生活に関するイメージが十分にできていない学生も多かったため、それぞれの障害についての定義および概念の整理を重点的に行った。また、障害があることによって生じる生活上の困難、発達上の諸問題について事例を挙げながら説明し、イメージの具体化を図った。さらに障害者を家族に迎える際、家族がどの様な影響を受けるのかについて解説することを通して、障害者の包括的な支援の在り方についての視座が得られるように努力した。

授業科目名【母子の心理・社会学(前期)(助産別科)】

前半の4回で基本的な母子関係・父子関係の形成プロセスについて学習をした後、後半4回を筆者が担当した。4回の授業では、親になる準備の段階としての思春期・青年期について概説した後、若年出産の現状などにも触れた。また周産期における女性と家族の心理プロセスについて説明した上で、その際に援助や配慮が必要となる事例について触れることで、実践力につなげる工夫をした。さらに周産期の母親だけでなく、その家族も援助対象であるという視点を伝えるように努力した。

授業科目名【専門研究Ⅰ(通年)(福祉学科)】 　心理学の研究法に関する知識を深め、論文を批判的に読み、学生自身が論文作成を展開できる力を培うため、文献講読及びディスカッションを行った。ゼミへの参加態度において、学生が主体的に学ぶ姿勢が感じられた。また、曖昧に理解していたことが発表やディスカッションを通して明確になっていくことを実感したようである。本ゼミにおいては、今後も適宜解説を加えながら、学生自身が主体的に学ぶ姿勢、自らの論を展開していく力を培うことを目標にしていきたい。
授業科目名【専門研究Ⅱ(通年)(福祉学科)】 　学生各自がそれぞれ興味のある内容について、レビュー論文を作成した。学生は、3 年次の専門研究Ⅰにおいて論文の読み方を学んでいたため文献検索に優れており、論文を批判的に読む力が見についていたと考えられる。従って、レビュー論文作成にあたって問題意識がはっきりしており、自らの論を進めていく事に意欲的であった。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本臨床心理学会		1998 年 7 月～現在に至る
日本特殊教育学会		1998 年 9 月～現在に至る
発達心理学会		1998 年 2 月～現在に至る
西日本心理劇学会		2001 年 1 月～現在に至る
日本ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｲｼｮﾝ心理学会		1997 年 4 月～現在に至る
九州臨床心理学会	北九州地区委員(2006 年 4 月～現在)	2006 年 4 月～現在に至る
日本心理学会		2008 年 4 月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表）				教育研究業績　総数　(2019.03.25現在) 著　書　0(内訳　単0，共0) 学術論文　0(内訳　単0，共0) 翻　訳　0(内訳　単0，共0) 学会発表　0(内訳　単0，共0)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
九州大学大学院人間環境学府附属発達臨床心理センター	研究員	2004年4月～現在に至る
九州臨床心理学会	北九州地区委員	2006年4月～現在

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
研究紀要委員長

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　納戸　美佐子	職名　准教授	学位　博士（医療福祉学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
高齢者福祉	認知症高齢者

研　究　課　題
・グループホームに入居している認知症高齢者の認知症の行動・心理症状（BPSD）について機能的アセスメントに基づいた対応方法を検討する。さらに、BPSD を把握するためのアプリケーションを試作的に作成し、その有効性について検討する。

担　当　授　業　科　目
相談援助の理論と方法Ⅰ（通年）（福祉学科） 初年次セミナーⅠ（前期）（福祉学科） 初年次セミナーⅡ（後期）（福祉学科） ヒューマンサービス基礎演習（前期）（福祉学科） 相談援助演習Ⅱ（前期）（福祉学科） 相談援助演習Ⅲ（後期）（福祉学科） 相談援助演習Ⅳ（前期）（福祉学科） 相談援助演習Ⅴ（後期）（福祉学科） 相談援助実習指導Ⅰ（通年）（福祉学科） 相談援助実習指導Ⅱ（通年）（福祉学科） 相談援助実習（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科） 高齢者支援学Ⅰ（福祉学科・看護学科・栄養学科・九州歯科大学・西日本工業大学）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　相談援助の理論と方法Ⅰ　】 本講義においては、テキストとともに、関連資料やビデオ等を活用し、相談援助の場面について具体的にイメージできるよう工夫した。ビデオ教材を用いた学習では、ワークシートを作成し、各教材のポイントが分かるようにした。また、確認問題を作成し実施した。確認問題へ取り組むことにより、学生自身が理解度を把握出来るようにした。さらに、講義終了後にコメントカードを配布し、質問等については、次回の講義で説明を行った。
授業科目名【　初年次セミナーⅠ　】 本演習では、「調べる」「聴く」「読む」「書く」「発表・討論する」ことを通して、大学での学びに必要な力を身に付けることを目的としている。2 名の教員が 7 コマずつ担当し、教員が設定したテーマに沿って演習を行っている。担当分においては、教材として新聞を用いた。学生は、自らが関心をもっているテーマに関する新聞記事を調べ、読み、要約することを課題として取り組んだ。また、大学生が新聞を読むことの意義や大学生活における新聞活用の方法について考えることなどについて検討した。個人ワークだけでなくグループワークを行い、自分の意見を他者に伝える力、他者の意見を聴く力を育む機会を提供出来る様にした。

授業科目名【　初年次セミナーⅡ　】

本演習では、「調べる」「聴く」「読む」「書く」「発表・討論する」ことを通して、大学での学びに必要な力を身に付けることを目的としている。2 名の教員が 7 コマずつ担当し、教員が設定したテーマに沿って演習を行っている。担当分においては、教材として新聞を用いた。学生は、自らが関心をもっているテーマに関する新聞記事を調べ、読み、要約することを課題として取り組んだ。また、大学生が新聞を読むことの意義や大学生活における新聞活用の方法について考えることなどについて検討した。個人ワークだけでなくグループワークを行った。グループワークを行うことで、自分の意見を他者に伝える力、他者の意見を聴く力を育む機会を提供出来る様にした。また、プレゼンテーションについても指導した。

授業科目名【　ヒューマンサービス基礎演習　】

本演習では、参加型・体験型のプログラムを用いることにより、ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされる基礎的能力を形成できるよう工夫した。本演習では、個人ワークだけでなく、グループワークを多く取り入れている。そのため、単に「楽しい」だけで終わってしまわないように振り返りシートを配布し、学生自らが学んだ内容について整理できるようにした。また、学生の気づきについては、各演習で共有し、教員が解説した。

授業科目名【　相談援助演習Ⅱ　】

本演習では、ロールプレイなどを用いて、相談援助専門職に必要な相談援助の方法や支援の視点について体験的に学べるようにした。また、事例の活用やグループディスカッションを行うことにより、福祉課題や利用者の状況について理解を深めることができるよう工夫した。ワークシートや振り返りシートを準備し、学生の理解度に応じて、補足説明を行うようにした。

授業科目名【相談援助演習Ⅲ・相談援助演習Ⅳ・相談援助演習Ⅴ】

本演習では、ロールプレイや事例を用いることにより、相談援助専門職の役割や必要な基礎的な技術および知識等に関して、学生が体験的に学ぶことができるよう工夫した。ワークシートや振り返りシートの確認を行い、学生の理解状況を把握するよう心掛けた。また、グループディスカッションやプレゼンテーションを行う機会を設定し、ディスカッションやプレゼンテーションについて継続的に学べるようにした。

授業科目名【相談援助実習指導Ⅰ】

本講義では、3 年次の相談援助実習において高齢者領域で相談援助実習を行う学生を担当した。調べ学習やグループワークを用いることにより、相談援助実習指導の意義・目的、高齢者に関する福祉的課題等について自ら考えることが出来るよう工夫した。

授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】

本講義では、高齢者領域で相談援助実習を行う学生を担当した。実習前の指導では、調べ学習を行い、実習施設について理解出来るようにした。また、実習後の指導では、個別面談を行い、学生の課題や達成した目標などについて学生自身が整理できるようにした。

授業科目名【専門研究Ⅰ】

専門研究Ⅰでは、認知症高齢者や家族が抱える課題について調べ学習を行い、その内容を発表し、ディスカッションを行った。

授業科目名【専門研究Ⅱ】

専門研究Ⅱでは、各学生が関心を抱いた課題についてアンケート調査を用いた研究や文献研究を行った。課題設定や研究方法について適宜助言・指導を行った。

授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】

本講義では、「地域包括ケアシステムの構築と高齢者の社会参加」の一部を担当した。講義では、高齢者の現状や社会参加の意義や社会参加を進めるための支援について解説した。福祉学科以外の学生が受講しているため、基本的な用語の説明を丁寧に行うよう心掛けた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会学会員 日本老年行動科学会学会員 日本行動分析学会学会員 日本地域福祉学会学会員 日本認知症ケア学会学会員 日本福祉心理学会学会員		2000 年 5 月 ～現在に至る 2000 年 6 月 ～現在に至る 2001 年 4 月 ～現在に至る 2002 年 4 月 ～現在に至る 2002 年 7 月 ～現在に至る 2004 年 10 月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 社会福祉士国家試験模擬問題集 2019	共	2018 年 7 月	中央法規	① 社会福祉士国家試験に関する模擬問題を作成した。 ② 編集者名　一般社団法人日本ソーシャルワーク学校連盟 ③ 担当部分「相談援助の基盤と専門職」のうち 3 問を作成した。 総頁数 p232 B5 判
（学術論文） 認知課題ゲームを用いた簡便な認知機能低下の識別方法の検討	共	2018 年 4 月	作業療法ジャーナル 52(4)	① 地域在住高齢者を対象に、認知課題ゲームの実施方法の違いと認知機能別の特徴について検討した。 ② 共著者名 上城憲司, 井上忠俊, 村田伸, 小浦誠吾, 納戸美佐子, 中村貴志 ③ 376-381
Risk factors for falls in terms of attention during gait in community-dwelling older aduits	共	2018 年	Geriatrics & Gerontology International 18(8)	① 地域在住高齢者 82 名を対象に、眼球運動や歩行の変動性を含めた生活機能と転倒との関連要因について検討した。 ② 共著者名 Tadatoshi Inoue, Kenji Kamijo, Kenzo Haraguchi, Akihiro Suzuki, Misako Noto,

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
認知症高齢者の食事拒否に対する応用行動分析を用いた対応方法の検討	共	2019年1月	日本認知症ケア学会誌 17(4)	Yuh Yamashita, Takashi Nakamura ③ 1267-1271 ① 食事拒否のある認知症高齢者を対象とし、食事拒否行動の ABC 分析をもとに、食事拒否行動が生起する要因を推定し、それを軽減する支援計画を作成・実施し、その効果について検討した。 ② 共著者名 納戸美佐子, 平澤紀子, 上城憲司, 井上忠俊, 中村貴志 ③ 726-734
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
情報共有 IT ツールを活用した認知症に伴う行動・心理症状対応プログラムの実践的開発	日本学術振興会	○納戸美佐子 （鈴木明宏	195,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
戸畑区地域ケア研究会	運営委員	平成 27 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
COC＋事業　教育プログラムワーキンググループ　2016 年 4 月～現在に至る 予算委員会　2017 年 4 月～現在に至る

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　古 川 敬 康	職名　　教　　授	学位　博　士（哲　学） (The Southern Baptist Theological Seminary 1994 年)

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
メタファー論、説教のための解釈学と修辞学、喪失心理学	弁証法的メタファー、文学的解釈、悲嘆作業による意味論的癒し

研　　究　　課　　題
現代人が喪失心理学の示す悲嘆作業を経ての癒しを説教への傾聴により体験できるよう、何をどのように説教は語られることを求められているか。 具体的には、１）喪失体験に基づくメタファー的に表現されている聖書の福音の意味を明らかにする文学的解釈を行うこと、２）使信が聴き手にとって癒しの出来事となるように、福音の意味を表現する修辞学的なメタファーの活用法を明らかにすることである。

担　　当　　授　　業　　科　　目
キリスト教学Ⅰ（前期）（看護学科） キリスト教学Ⅰ（前期）（福祉学科） キリスト教学Ⅰ（前期）（栄養学科） キリスト教学Ⅱ（後期）（看護学科） キリスト教学Ⅱ（後期）（福祉学科） キリスト教学Ⅱ（後期）（栄養学科） キリスト教と西南女学院の歩み（前期）（看護学科） キリスト教と西南女学院の歩み（前期）（福祉学科） キリスト教と西南女学院の歩み（前期）（栄養学科） キリスト教と西南女学院の歩み（前期）（英語学科） キリスト教と西南女学院の歩み（前期）（観光文化学科） 宗教と人間（前期）（看護学科） 宗教と人間（前期）（英語学科） 宗教と人間（前期）（観光文化学科） 宗教と人間（後期）（福祉学科） 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科） 卒業論文　（通年）（福祉学科） キリスト教と生命倫理（前期）（助産別科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【キリスト教学Ⅰ】 学生と教員の集中力向上のために祈りをもって始めた。前期と後期の授業内容を１冊の教科書にまとめており、前期後期を問わずに縦横に講義ができた。また学生は、予復習がテキストによりできた。進むに当たっては、学生のほとんどにキリスト教の背景がないため、必要に応じてテーマ毎にレジメを配布し、理解が出来たかを質問し確認することを心掛けた。全体の流れの中で確認できるように、繰り返し目次に戻り、当該授業の講義の位置づけを明示した。板書は、イメージしやすいように図解を心掛けた。 授業内容はシラバスに従って建学の精神である「感恩奉仕」の精神の背景にあるキリスト教を学術的に現代の問題に絡めて説明し、その今日的意義を理解できるように工夫した。天地創造からキリスト出現の予言まで

を扱った。
　学問的な「批判力」の意義と、その基準としての聖書の価値観を説明し、学生自身が自己の存在意義を意味論から理解を深めるように努めて具体的例を取り上げ、学生同士で折々に語りあう機会を持つ工夫をした。
　テストは、問題を予め提示し、学生が共同して準備するように具体的な指導をし、復習を十分して理解した上で自分で表現できる力を具えるように工夫した。１問は、個々人の統合的理解を問うものとした。

授業科目名授業科目名【キリスト教学Ⅱ】
　前期の学びを復習した上で、キリスト教の成立過程、イエス・キリストに対する信仰内容、イエス・キリストの示す神の愛の理解、その愛に照らしての自己理解、及び、奉仕の精神の重要性につき、理解し深めることができるように、前期と同じ方法による工夫をした。すなわち、イエス・キリストの説いた神の国、愛と赦しの教えと癒しの活動、その死と復活と昇天の物語を通して、それぞれの場面で何が大切なこととされているかを、実生活と結びつけながら理解できるように工夫した。
　また、前期のテストの総評、良く理解している答案とはどういうものが具体的に示して、後期の授業を受けるに当たって理解力を向上できるように工夫をした。
　更に、学生の前期の授業評価に鑑み、昨年とは異なり、後期も、授業内容の要点をテキストに沿ってプリントで配布し、学生が自ら要点を把握しながら授業を受けられるような工夫をした。

授業科目名【キリスト教と西南女学院の歩み】
　自校学の科目として、学生が西南女学院大学の学生としての自己理解と帰属意識を自ら育むことができるように、キリスト教に基づく「感恩奉仕」という建学の精神を軸に据え、一方で、その背景と理念を提示するとともに、他方で、本学における象徴的な人物を複数取り上げて、身近なこととして自分と具体的に重ね易いように内容を構成した。特に、人物については、オムニバス方式により、講師を招いて、各人物の実像を浮き彫りにし印象あるものとなるように工夫した。
　また、学生の理解が深まるように、各回の学びのレポート、関心をもつテーマに関する調査レポート、チャペル礼拝のレポートを課題とした。さらに、創設者等の墓地である「西南の森」に行き、本学の歴史を肌で感じる体験ができるように奨励した。

授業科目名【　専門研究Ⅰ　】
　学生が意味論に関する基礎的理解を修得することから始め、続いてＶ・フランクルの意味論の全体像を学ぶことを目指し、その上で、喪失心理学に関する専門書を読むことができるように指導した。後半は、テーマに関する研究書を早く、多く読み、大切な個所を見出す方法を指導した。さらに、学生が学生支援を目指していることに鑑み、カール・ロジャーズの臨床心理学を意味論から研究することも取り入れ、意味論からのその意義を探求した。
　進め方においては、学生が、専門書を深く読み込む力をつけることができように、具体的指導をした。その指導に当たり、ハーバード大学における研究方法に関する書籍を副読した。

授業科目名【　専門研究Ⅱ　】
　専門研究Ⅰで学んだＶ・フランクルの意味論に関する基礎的理解を前提に、学生が全員、養護教諭を目指していたことから、研究テーマを将来、自分が養護教諭になったことを想定して設定するように指導した。そのテーマに沿って専門的知識の習得として、理解を深め、研究論文を完成させるように指導した。その際、独自の研究となるように指導を工夫した。
　ゼミでは、各自がどこまでをどのように論文完成に向けて研究したかを分かち合い、相互に質問をしたり意見を述べたりして、研究内容を深めることができるように工夫した。

授業科目名【　卒業　論文　】
　学生が卒論のテーマにそって、論旨を展開する構成をできるように論理の力を修得できるように工夫した。その論理的思考力をつける具体的方法として、専門研究Ⅱでの成果を卒論テーマにそって必要十分であるかを検討し、研究を自ら深めることができる力を養えるように指導した。さらに、資料の収集に当たっては、テーマとの関連のあるものに絞る能力、資料の中の重要度の判断基準を設定する能力、それを統合して論文に実際に用いることができる能力が培われるように指導した。特に、方法論、先行研究的なものの存在、文献リストの検討、結論がはじめの問題提起に対して適切な応答となっているかという点については、幾度も確認することを指導した。ただ、養護教諭になった時を想定しての研究ではあったが、表題の「養護教諭の視点」ということへの必要かつ十分な言及をなすことへの指導は不十分であった。

授業科目名【キリスト教と生命倫理】 　助産師を目指す学生の多くにとり、初めてのキリスト教であるので、前半はキリスト教の基礎的知識を扱い、その後で、キリスト教から見た生命の尊さ、生命の誕生、死の意味を扱った。続いて、優生学、ＤＶの夫婦関係、離婚などに関するキリスト教の物の見方を解説した。その上で、助産師としての自己アイデンティティ、助産師の直面する死産や五体不満足児のケアの課題なども取り上げるように努めた。プリントを配布して理解と復習がしやすいように工夫した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
Academy of Homiletics		1991 年（平成 3 年）10 月
日本キリスト教教育学会		1993 年（平成 5 年）10 月
日本基督教学会	幹事（2007 年 4 月～現在に至る） 事務局（2016 年 4 月～現在に至る）	1993 年（平成 5 年）10 月
日本キリスト教社会福祉学会		1994 年（平成 6 年）7 月
日本新約学会		1994 年（平成 6 年）9 月
関西新約聖書学会		2010 年（平成 22 年）6 月

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） 「中動相の理解が聖書解釈にもたらす意義の一考察」	単	2019.3	西南女学院大学紀要 Vol.　23	①　新約聖書のギリシア語の動詞の１つの相である中動相の背後にある歴史を振り返り、他の相との比較における特徴を浮かび上がらせ、中動相の固有の意味論的意義を指摘し、それを動作主の受影性であるとする説を支持し、１コリント 9：19－23 を例に、聖書テキストも中動相を理解して解釈するときに、テキストの意味が異なってくることを論じ、中動相の理解の重要性を提示する試論である。 ②　著者名　　古川敬康 ③　総頁数　P．1-12 ④　A4
（翻訳） なし				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
中国の高等教育カリキュラム改革に関する研究　―　教養教育を中心として　―	西南女学院大学	○神崎明坤 古川敬康 （林楽常） （呉雲珠） （張暁鵬）	1,312,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
社会福祉法人北九州ナオミ福祉会	理事	2004 年（平成 16 年）4 月 ～現在に至る

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
（本部関係） 理事、評議会委員、連絡協議会委員、運営協議会委員、 学院宗教主任、拡大宗教委員会議長、宗教主事会議長 キリスト教センター長、キリスト教センター便り編集委員長、キリスト教教育研究会事務局長、 大学・大学短期大学部ハンドベルクワイア顧問 維持会常任幹事、職員研修懇談会職員研修委員会委員、百周年記念事業委員会委員長、 同キリスト教教育功労者委員会委員長

寄付行為変更検討委員会委員
その他、職務上必要的に出席するもの：
幼稚園運営会議・卒園式、中高入学式・卒業式・入試判定会議、後援会役員会・総会、同窓会総会

（大学・大学短期大学部）
宗教主事、宗教委員会議長、運営会議構成員、国際交流委員会委員
非構成委員であるが職務上出席するもの：評議会、点検評価改善会議構成員、
学友会関係：ＩＴＫイラストサークル顧問、映像制作愛好会顧問（本年度限りで解散）、
LOD ダンスサークル顧問

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　文屋　典子	職名　　講師	学位　修士(社会学)（関西学院大学　1994 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
社会福祉学	ソーシャルワーク方法論、子ども家庭支援 ファミリーソーシャルワーク

研　究　課　題
子ども家庭支援における社会構成主義的アプローチの可能性

担　当　授　業　科　目
相談援助の理論と方法Ⅱ（通年） 相談援助実習指導Ⅰ（通年） 相談援助実習指導Ⅱ（通年） 相談援助実習（通年） 相談援助演習Ⅱ（前期） 基礎実習（通年） 保育実習指導Ⅰ（通年） 保育実習Ⅰ（通年） 保育実習指導Ⅲ（通年） 保育実習Ⅲ（通年） 保育の表現技術Ⅰ（前期） 家庭支援論（前期） 専門研究Ⅰ（通年） 専門研究Ⅱ（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　相談援助の理論と方法Ⅱ　】 　ミクロ・メゾ・マクロの多角的視点と相互作用的視点を理解し、問題状況を捉える“視点”を学生の中に涵養することに重点をおいた。ソーシャルワークのアプローチについてはその起源となる社会的背景や基盤理論をふまえてそれぞれの特徴を理解することを重視し、詳細な解説に努めた。アセスメントや介入における各アプローチ特有の“視点”を理解し、各事例の状況に応じて、どのアプローチの視点に立ち、どのように問題を捉えて、解決に向けた支援計画を描くことができるかということに重点をおいた。できる限り多くの視聴覚教材や事例を用いることによって、用語の暗記にとどまらず、臨床的感覚を覚えながら理解を深められ授業を展開した。 　学生には毎回の授業でリアクションペーパーに授業内容を要約して提出することを課し、記述内容から学生の理解度の把握と授業内容や進め方の見直しに役立てた。また、理解が不十分な点や誤りについては添削して返却、補足説明を行った。

授業科目名【　相談援助演習Ⅱ　】

事例学習やロールプレイを通して、困難を抱えた状況にある人をできる限り具体的にイメージし、どうかかわっていくかを実践的に学ぶことに重点をおいた。援助関係形成のためのコミュニケーション技法を実際に用いると同時に、ことばの背後にある専門職としての価値観や倫理観を養うこと、各専門科目の授業で得た知識が見立ての際にいかに用いられるのかを実際的に学ぶことに重点を置き、多様な支援事例を用いて、ロールプレイイング、解説、グループディスカッションにより授業をすすめた。

授業科目名【　相談援助実習指導Ⅱ　】

実習前の事前学習、実習後の振り返りでは個別指導を各学生につき複数回行い、各自の課題を明確にするよう心掛けた。特に、実習後の振り返りでは、実習期間中に経験したこと、感じたこと、学んだことについて学生自身が語ることを促し、個別指導やグループディスカッションを活用して語りをさらに引き出すこと、学びを深めること、自己の課題に結びつけることに重点をおいた。前期実習の終了から後期実習開始までの期間に学生が取り組んだ内容、成長した部分などを実習先の実習指導者と共有することによって、実習指導者よりさらに細やかな指導やサポートをいただき、全員が達成感とともに無事実習を終了することにつながった。

授業科目名【　相談援助実習指導Ⅰ　】

子どもの発達や特性について理論系科目で学んできたことを復習し、子どもの状態を適切な用語を用いて説明できることに重点をおいた。また、見学実習においては、学生が実際に子どもたちとの関わりを体験し、知識理解を深めるきっかけとなること、自己の克服すべき課題に気づき、実習に向けて事前準備に取り組むことをねらいとした。

授業科目名【　基礎実習　】

本科目は福祉の１年次に対人援助の現場で体験型の実習を行い、対人援助の仕事と利用者に対する理解を深めると同時に、福祉への学びの意欲を高めようとするものである。実習前には対人援助職に求められる基本的な姿勢について学び、実習への動機が高まるようグループ学習と個別指導を実施した。また、自己学習により実習先の理解を深めさせ、実習への準備性を高めた。実習後には、個別面接や実習報告会を行い、実習体験から得た学びや気づきの深化を図った。

授業科目名【　保育実習指導Ⅰ　】

本科目は３年次８月の保育所実習、３年次２～３月の施設実習の実習前・実習後指導に当たる科目である。保育の現場において実習生として保育技術を実践できるよう、毎回の授業の中で保育技術を実践的に学ぶことを取り入れた。実習目標の設定や実習計画書の作成、実習記録の書き方の指導においては保育士としての専門性を学ぶということを意識させ、特に施設実習においては社会福祉士としての視点と保育士としての視点が学生の中でも混在する部分を整理して、“社会福祉士としての視点をもちつつ保育士としての専門性を学ぶこと”について学生が理解して実習に臨めるよう実習前指導を行った。実習後は振り返りと実習報告に関する個別指導に重点をおいた。

授業科目名【　保育実習指導Ⅲ　】

本科目は３年次８月の保育所実習、３年次２～３月の施設実習を踏まえ、児童福祉施設における保育実習を希望する学生が履修する科目である。これまでの保育実習、相談援助実習において学んできたことと自身の課題をふまえつつ、実習目標を設定し実習計画書の作成するよう個別指導を強化した。また、福祉専門科目において学んできたことを総合して、実習先での支援の実際、現場の課題、利用者理解を深め、実習に臨めるよう事前学習にも重点をおいた。実習期間中の巡回指導や実習後の振り返りにおいて各学生の学びや課題を整理し、実習のまとめと実習報告につなげた。

授業科目名【　保育の表現技術Ⅰ　】

学生の入学までのピアノの習熟レベルに応じて課題を設定し、各自、個人練習を効率的に行えるよう練習計画を立てて授業に臨むよう指導した。今年度はピアノを弾いた経験のない学生・楽譜を読めない学生が多くいたため、指の動かし方や音感などピアノを演奏するうえで大切となる感覚を養うことと同時に、楽典を理解しつつ、演奏するうえで楽典の知識がどのように役立つかを学生自身が実感できることを意識して指導を行った。“弾けるようになりたい曲”を目標に設定することで、学生一人ひとりが練習に意欲的に取り組むことができ、すべての学生が目標を達成することができた。

授業科目名【　家庭支援論　】

現代の家族をとりまく状況を概観し、子ども家庭福祉領域で家族を支援することの意義と家族の様々なかたち、家族をめぐる価値観の多様性にも触れつつ、家族を理解するための概念と家族をシステムとして捉える理論をふまえ、家庭支援に求められる援助者の多角的な視点を学生が理解できるよう努めた。本科目は知識習得にとどまらず、学生自身が知的好奇心を働かせて学びを深める意欲へとつながれば、卒業後も実践者としてさらに学びを進化させることにつながるものと考える。例年と比較すると、提出されたレポートの内容はよくまとめられたものが多かったが、「何を、どのように」調べ、考察し、レポートにまとめるのかを、評価の観点として学生に提示したことによる効果も加わったものと考える。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会		1992年10月～　現在に至る
日本キリスト教社会福祉学会		2001年3月～
日本ブリーフサイコセラピー学会		1991年11月～
日本家族研究・家族療法学会		1998年11月～
日本小児保健学会		1997年5月～
日本特殊教育学会		1999年8月～
日本保育学会		2011年10月～
日本医療保育学会		2016年5月～

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
社会福祉法人　喜久茂会	評議員	2017 年 4 月 1 日～2021 年 6 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生委員 キャンパスハラスメント相談員 吹奏楽部顧問

２０１９ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2019)）

氏名　　水貝洵子	職名　　講師	学位　専門職学位（臨床心理学専攻）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
思春期における発達障がい児の自己および他者理解の様相	思春期，発達障がい，自己理解，他者理解

研　　究　　課　　題
思春期の発達障がい児を対象としたグループセラピーの実践を通し、これまでは、対象児の自己理解および他者理解を促進するプログラムの在り方について検討を行った。今後は、プログラムで用いられる技法など、より細やかな支援の在り方に焦点を当て、対象児の自己理解を促進する支援の検討を行うことや、グループセラピーへの長期的な参加を通し、対象児の自己理解が他者理解のあり方とあわせ、どのように変容していくのかについての事例的な検討の必要性がある。

担　　当　　授　　業　　科　　目
保育の心理学Ⅱ ヒューマンサービス基礎演習 家族心理学演習

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育の心理学Ⅱ】 発達心理学の事柄について、実践と結び付けられて理解されやすいように、事例を多く上げて実際の子どもの様子を伝えながら講義を行った。 また演習を多く取り入れることで、受講者が子どもの発達や発達段階に応じた対応の在り方について深く考えられるよう工夫した。
授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】 受講者にとっては入学直後のグループワークであるため、受講者同士が緊張せずに交流できるように関係づくりを丁寧に行った。 これまでの経験の中でマンネリ化した他者との関り方やパターン化した役割の取り方とは異なる対人交流が体験できるよう、ペア決めやワークの内容を配慮した。
授業科目名【家族心理学演習】 テキストを用いて家族の発達段階について基礎的な学習を行った後に、ロールプレイグや事例検討を通じ、家族の抱える問題についての体験的な気づきや学びが得られるよう工夫した。
授業科目名【　　】

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本リハビリテイション心理学会	一般会員	2010年
日本臨床心理劇学会	一般会員	2010年
日本心理臨床学会	一般会員	2012年
日本臨床動作学会	一般会員	2015年
日本発達心理学会	一般会員	2016年
日本特殊教育学会	一般会員	2016年
日本心理学会	一般会員	2019年

２０１８～２０１９年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 過敏性腸症候群を呈する大学生への認知行動療法と動作法による支援事例	共著	2018年11月	2018 年日本リハビリテイション心理学会学術大会（高知大会）	大学学生相談における過敏性腸症候群を呈する女子大生との面接過程を報告し、症状改善に効果的であったアプローチについて事例的な検討を行った。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生個人情報保護委員会

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　山根　正夫	職名	学位

研　究　分　野	研究内容のキーワード
障害児保育・発達障害児（者）の援助方法・応用行動分析・保育ソーシャルワーク	障害児保育・発達障害・自閉スペクトラム障害・応用行動分析・保育ソーシャルワーク

研　究　課　題
障害児・者の援助全般について行動分析的視点から考察する。 保育におけるソーシャルワークのあり方に関する検討。

担　当　授　業　科　目
子ども家庭福祉論、障害者福祉論、障害児保育、社会的養護、社会的養護内容、相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、保育実習指導Ⅰ・Ⅲ、保育実習Ⅰ・保育実習Ⅲ、専門研究Ⅰ・Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　子ども家庭福祉論・障害者福祉論　　】 社会福祉士養成のための必修科目であり、レジメを準備しパワーポイントを利用して講義した。レジメや時々のトピックスの論文などを適宜配布し、両科目の理解の深化に勤めた。レジメについては毎年空欄を作って書き込めるようにしてほしいという要望があるが、何が大事か強調されているのかについての認知力を高める事も視野に入れてレジメを作成していることを学生に説明している。
授業科目名【　障害児保育　　】 演習系科目であり、副読本についてノート作成し定期的に提出させ、点検の上返却した。今年の授業の大半のコマは、課題に沿って担当学生を決め、プログラム準備、プレゼンテーション、ディスカッション、教員による解説の流れで授業を進めた。学生にとって自分の担当課題は理解が深まっているがそれ以外の講義内容の理解についてはばらつきが大きい。来年度も学生の主体的学習を深めさせたい。
授業科目名【　相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ　　】 授業の方法はほぼ共通であるが、Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ（Ⅴの後半部分はコミュニティワーク）については、現代の児童家庭の課題を示しそれについて学生が調べ、プレゼンテーション・討議を通して学習を深める方法をとった。学生がやや制度面にだけ焦点が向けられきらいがあり、個々の生活実態の臨床的な側面からの学習の深化を得られなかったのではないかと危惧している。来年度はこの点を踏まえ、授業を進めていきたい。
授業科目名【保育実習指導Ⅰ・Ⅲ、保育実習Ⅰ・Ⅲ　　】 複数教員による合同授業である。保育実践への導入教科であるため、より現場感覚に沿った授業構成とした。 授業科目名【社会的養護・社会的的養護内容】 保育士資格取得のための必修科目であるが、前者はオープン科目で、理論的・制度的な理解を求めた。後者は演習科目であり、実践上必要な内容につて調べ学習や討議を重視して授業を構成した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本特殊教育学会		昭和51年4月～
日本行動分析学会		昭和61年4月～
日本発達障害学会		
日本福祉学会		平成7年9月～
日本保育学会		平成12年11月～
福岡教育大学付属障害児治療教育センター研究部員		平成22年4月～
日本保育ソーシャルワーク学会		平成28年～

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 新修　北九州市史 社会編・福祉編		2018年12月	北九州市	4章5節4項執筆
（学術論文） 特になし				
（翻訳） 特になし				
（学会発表） 特になし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
九州市児童福祉施設等第３者評価委員会委員 北九州市福祉事業団評議員 社会福祉法人福音会評議員 社会福祉法人喜久茂会理事 北九州市社会福祉審議会委員 北九州市社会福祉協議会評議員		平成 28 年 4 月～平成 30 年 3 月 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 平成 29 年 11 月～ 平成 29 年 11 月～ 平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月 平成 29 年 4 月～

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生総合支援室室長 宗教委員会委員 倫理審査委員会委員

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　山本　佳代子	職名　助教	学位　学士（体育学）福岡大学 1996 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
体育学　レクリエーション	障害児・者　レクリエーション　放課後　余暇 きょうだい

研　究　課　題
障害のある子どもを育てる保護者が期待する、子どもの余暇の過ごし方についての考察 スポーツ施設を利用する地域在住高齢者の生活状況と身体状況について 重篤な病態を抱える子どものきょうだいに対するパフォーミングアーツを活用した支援の検討

担　当　授　業　科　目
基礎実習 相談援助演習Ⅰ 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【基礎実習】 ３名の教員で担当。学生を３グループに分け少人数でグループ指導及び個別指導ができる体制を整えた。１年生で初めての実習となる学生も多く、実習前、中間、実習後に個別面談を実施し、それぞれの目的や課題を確認し実習に取り組めるよう指導した。また全体で体験を共有できるようグループワークも重視した。
授業科目名【相談援助演習Ⅰ】 社会福祉士についての興味関心が広がり、福祉の専門職に魅力を感じられるよう具体的な事例や DVD 視聴、当事者を招いての講義などを取り入れた。特に当事者の話から得られたものが多かった様子が伺え、その後の調べ学習や発表にいかされていた。
授業科目名【相談援助実習指導Ⅰ】 実際の現場を撮影した DVD の視聴や見学実習、他に先輩の体験やアドバイスを聞く機会を設け、学生がより身近に実習について考えを深められるよう、また自ら疑問を持ちそれらについて自己学習できるよう工夫した。
授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】 一人ひとりが実習に対し明確な目的を持ち、その目的達成のためにどのように事前学習を進めて行くかを具体的に考えられるよう、個別指導の下実習に関する書類作成を行った。また、巡回や帰校日では、実習先指導者の意見も踏まえ、学生自身の思いも尊重しながらそれぞれの課題達成に向けて取り組んだ。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本レジャー・レクリエーション学会 九州レジャー・レクリエーション学会		2004～ 2013～

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 障害のある子どもときょうだいを対象とした余暇活動支援 -「ちゃれんじ」の実践活動から-		2019.3	九州レジャー・レクリエーション学会	障害のある子どもを対象とし、余暇活動支援を行っている「ちゃれんじ」について、活動の概要、主な取り組み、保護者の声や学生スタッフの学び、また今後の課題についての実践発表。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
重篤な疾患を抱える子どものきょうだいに対するパフォーミングアーツを活用した支援の検討	西南女学院大学	○笹月　桃子 野井　未加 文屋　典子 樋口　由紀子 山本　佳代子	２，００９，０５８円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

障害のある子どもの余暇活動支援「ちゃれんじ」	子どもゆめ基金	１６１，０００円	

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
特定非営利活動法人 日本障害者スポーツ指導者協議会 福岡支部	監査	２００９．４～

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
○学生がボランティア活動に積極的に取り組めるよう、掲示やメール案内の他に、外部機関とのコーディネート、ボランティア講習会などを開催している。 ○福祉学科の学生と共に、障害のある子どもやきょうだいを対象に、スポーツ・レクリエーション活動を通した余暇活動支援を行うグループ「ちゃれんじ」を運営している。

栄　養　学　科

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　青木　るみ子	職名　　講師	学位　修士（栄養学）（神戸学院大学　2004 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
給食経営管理 健康教育学・食教育 栄養学	給食施設・衛生管理・HACCP 青年期・食教育・ライフスキル・ボディイメージ 幼児期・学童期・食育

研　究　課　題
1. 中小規模給食施設における衛生管理体制に関する研究 2. 児童およびその保護者を対象とした食育料理教室の実施と教育効果の検討 3. ライフスキル形成を基礎とするボディイメージ改善教育の検討

担　当　授　業　科　目
栄養学概論（1 年前期） 給食計画論（2 年前期） 給食経営管理論（2 年後期） 給食経営管理実習Ⅰ（2 年後期） 給食経営管理実習Ⅱ（3 年前期） 総合演習Ⅰ（3 年前期） 臨地実習Ⅰ（3 年後期） 管理栄養士演習Ⅱ（４年通年） 卒業ゼミ（4 年通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【給食計画論】2 年前期科目 　後期開講科目である給食経営管理実習Ⅰ（以降、実習Ⅰとする）の基盤となる科目である。 本講義では、給食システムの「栄養・食事管理」業務を重点的に解説している。給食を提供するための栄養・食事管理の内容として、①対象者の栄養アセスメント，②食事摂取基準 2015 年版の給食管理における活用，③献立立案，④栄養・食事管理の評価、改善，について演習を通して理解と実務の習得を促した。講義は、指定教科書を中心に行うが、行政通知などの追加資料および重要ポイントをまとめた PP を活用した。また、実習Ⅰ（後期）の栄養・食事管理の資料とするため、履修学生個人の栄養アセスメントを実施させ、実務に結びつける指導を意識している。得られた情報の秘匿性は十分に説明した上で、教員が情報を集約し、実習Ⅰのアセト情報として活用することとしている。 　本講義では、実習Ⅰに必要な知識として「食材料管理」や「生産・提供管理」，「衛生管理」も詳細に解説している。特に「生産・提供管理」に関しては、給食の品質に大きく影響する管理事項であるため、履修学生には、本講義と当時開講されている給食経営管理実習Ⅱ（3 年前期：以降、実習Ⅱとする）の給食試食および試食に関するレポート提出を義務付けている。試食の回数としては 2 回であるが、「給食」を経営管理する責任者としての管理栄養士の位置づけや、「献立作成」、「生産・提供管理」の注意点、「衛生管理」の重要性を意識する良い機会となっている。「衛生管理」については、厚労省食中毒発生状況調査等のデータを数値化して見せ、さらに実際の食中毒事故の原因や影響等を紹介し、「食中毒」という事故を身近な危険として認識させるようにし、衛生管理への意識向上を図っている。

授業科目名【給食経営管理論】2年後期科目

各種給食施設の特徴及び給食における経営マネジメントを中心に学ぶ科目である。経営学の要素が多く含まれるため、時事ニュースや企業が展開している経営マネジメントやマーケティング、環境分析の実例を挙げ、それに基づいた理解を促している。本講義の中では、同時開講となる実習Ⅰの帳票類全般の解説も行っている。会計・原価管理に必須の「損益分岐点分析」や食材原価の管理に必要な「ABC 分析」等を演習することにより、実務につながる内容とした。特に「ABC 分析」には、前年度の実習Ⅰの食品の総使用量を使用しており実習と講義の連動性を重視している。衛生管理に関しては給食計画論で解説しているが、食中毒事故を防止するためにも重要な内容であるため、「大量調理施設衛生管理マニュアル」に則した帳票の確認も行い、周知徹底に努めた。さらに、3年生後期に控える臨地実習Ⅰの実習先の概要把握に必要な内容として、各給食施設の特徴に関して、各施設の基本事項を重点的に説明し、臨地実習に向けての学習内容として理解を促した。この項目はライフステージ別の栄養学である『応用栄養学』や行政の栄養学である『公衆栄養学』との関連もあるため、これらの科目との関係性も意識した解説を心掛けている。また、各種特定給食施設の内容として、定期的に改定が行われる『診療報酬』や『介護報酬』についても、改定部分を簡略化して説明している。

授業科目名【給食経営管理実習Ⅰ】2年後期科目

給食における対象者の把握、献立作成業務、大量調理の理論と実際を学ぶ実習である。給食施設における食事の提供のために、対象者の栄養アセスメント、栄養管理、献立作成、調理工程管理、提供管理、原価管理等の管理栄養士業務の一連の流れについて実習を通して習得できるよう指導を行った。実習Ⅰでは、「栄養・食事管理」、「食材料管理」、「生産・提供管理」、「衛生管理」を重点的に指導している。1クラスを8班編成とし、4班単位で一連の業務を担当させている。その際、「管理栄養士」班を1班設け、実習全体の管理者としての責務を課した。近年の傾向として、調理技術が未熟な学生が多く、食材の取り扱いの基礎から指導の必要性が増している。また、衛生管理に関しても基本的な理解ができておらず、器具の取り扱いから作業区域の使い分けまでを徹底して指導を行った。給食施設で備える義務のある帳票の説明から書類の書き方の指導、確認を全て入念に行った。さらに、本実習では管理栄養士としてリーダーシップ力を身につけることも目的としているため、実習当日に十分な調理現場指導が行えるよう、作業工程の確認と打ち合わせの時間を別途授業時間外に設け、1班単位で指導を徹底した。

授業科目名【給食経営管理実習Ⅱ】3年前期科目

実習Ⅰに引き続き、1クラス8班編成で実習を実施した。本実習は、「給食計画論」で集約した履修学生の栄養アセスメント情報をもとに、「給与栄養目標量」を算定し、これを基準に各班で「大学生（女性：18～29歳）対象給食献立」の立案を「実習Ⅰ」の課題として行い、献立をもとに提供食数120食の「生産計画」をし、実施・提供をするものである。「給食経営」という特殊分野の理解を深めるため、「給食計画論」～「給食経営管理実習Ⅰ」～「本実習」というように、連動した内容としている。

実習を進めるにあたり、実習Ⅰ同様に、4 班単位で業務を行わせ、「管理栄養士」業務担当班に管理者としての責務を課した。本実習では、実際に給食の食券販売を行い、現金管理を行わせ、食品納入業者との対応を通して、特定給食施設の運営および経営管理を行う上での管理責任者としての意識付けを行っている。近年、事業所給食における栄養管理や栄養情報提供の充実や食環境整備が推進されているため、昨年度より、栄養情報提供の媒体や食環境を充実させることに力を入れている。各実習班が提供する給食献立に沿った栄養教育媒体を作成し情報提供を行うと同時に、行事や季節、郷土色あふれる食空間のコーディネートも自由に行わせている。ただ作って提供する実習と比較して、準備に必要な労力は多くなったが、学生間のコミュニケーションもあわせて増加し、協働の姿勢が身についてと考える。例年、給食を提供するにあたって、提供当日の準備のみでは時間内の終了が難しいため、授業時間外での前日準備や指導を実施している。時間外の準備に関しては、学生の空き時間等を活用し、比較的、負担の無いように配慮を行ってはいる。

以上のように。給食経営管理実習ⅠおよびⅡは連続した実習計画となっている。学生に教授すべき項目も多く、そのため担当教官の指導も授業時間外に多くの時間を割いている。しかしながら、実習を実施する上での十分なサポートが得られていないのが現状で、実習Ⅱの提供時にはアクシデントの発生も起こっている。
助手や学生の能力を考慮し、実習内容の再検討の必要性を痛感している。

授業科目【総合演習Ⅰ】3年前期科目

3 年後期科目である「臨地実習Ⅰ（給食の運営）」のための事前指導を中心とした科目である。学外での最初の実習であるため、一般常識の定着のため外部講師による「マナー講習」を導入している。また、「高齢者施設」、

「児童福祉施設」の現役栄養士・管理栄養士による給食管理業務の実際に関しての講義を行うことで、「臨地実習Ⅰ」への理解を促した。給食施設では食事の提供と同時に健康・栄養情報の提供を行う義務があるため、臨地実習先の施設の対象者に適した栄養教育のテーマを設定させ、栄養教育および媒体計画をし、栄養教育を実施させた。本科目による栄養教育は、同時開講の「栄養教育論実習Ⅰ」の進度に合わせて、担当教員同士の協力体制の下で指導を行った。

授業科目【臨地実習Ⅰ】3年後期科目

学外における「給食の運営」の実際を学ぶための実習である。小学校、事業所、高齢者福祉施設、児童福祉施設を実習先とし、各特定給食施設の仕組みや対象者に対しての栄養・食事管理を学ぶことが目的である。実習に際し、実習先より課せられる事前課題（献立作成、栄養教育計画等）の指導を個別に実施した。また、事後指導として、実習先への礼状の指導および臨地実習Ⅰのまとめを行う報告会を実施した。報告会には、次年度の実習生である2年生の出席を義務付け、次年度対象学生のため導入教育としての位置づけも持たせている。

授業科目名【管理栄養士演習Ⅱ】4年通年

「給食経営管理論」分野の管理栄養士国家試験対策科目である。前期では、特定給食施設関連法規、マーケティング理論、会計・原価管理、生産管理、食材料管理を中心に解説した。また、後期では、病院給食関係する診療報酬、高齢者給食に関係する介護保険報酬、学校給食実施基準、食事摂取基準の給食管理への活用、大量調理施設衛生管理マニュアルの改定内容等を中心に重要ポイントを解説した。診療報酬および介護報酬は近年の改定内容を中心に知識の定着を行った。各項目とも過去約10年間の国家試験問題および業者模試の問題を徹底的に解説し、繰り返し問題を解かせることで、知識の定着に努めた。その際、管理栄養士演習全体の指定教科書としている要点集と給食経営管理論の教科書の該当箇所の見直しを行った。以上の指導方法は例年通りであるが、本年度も得点率は飛躍的に上昇した。

授業科目名【卒業ゼミ】4年通年

①児童対象の食教育を主体とした料理教室の企画・運営を実施させた。企画の段階から、学生の自主性を優先して計画を行わせ、要所での指導を行った。対象者の日常生活上の問題点の把握から行い、計画に反映させていった。教員主体ではなく、学生主体としたことで、学生自身の考える力や問題点の修正能力等が養われたと考える。料理教室の実施回ごとに反省会による振り返りを行い、学生同士で計画、実施内容、当日の進行等の問題点を抽出し、次回の計画へと反映するという一連の流れの定着が確認できた。また、栄養学科 2~3 年生のボランティア学生の指導も学生が行っており、人事管理の難しさや重要性に気づく機会となったようである。

②北九州市に本社を置くスーパーマーケット「ハローディ」との従業員を対象に、約半年の栄養・食事指導の計画および実施を行った。対象者は肥満傾向の男女12名であり、介入指導を実施した全員に体重減少と各種健診数値の低下が認められた。指導計画からゼミ生が主体的に取り組み、担当教員は全体のフォローをするに留めた。実際に人を対象として栄養指導計画や介入を行う機会に恵まれ、対面の面談や食事管理等を実践できる良い機会となった。

③障害者支援施設の給食部門と連携したお弁当の企画・販売を行った。販売店舗の立地、客層、現在の人気商品等のマーケティングリサーチから行い、献立計画・立案を行わせた。今回は夏期（8~9月：5週間）の販売であったことから、夏野菜を多用した野菜摂取が可能な献立内容とした。栄養面はもちろん、衛生面でからも弁当として適しているか、また、給食施設の人事・設備面で生産可能かどうかを考慮し、計画を進めた。今回の実践活動から、献立はただ単に栄養面に着目するだけでは不十分であることを身をもって学ぶことができたようである。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会	正会員	2006.4～現在
日本調理科学会	正会員	2012.4～現在
日本栄養士会	正会員	2012.4～現在
日本給食経営管理学会	正会員	2013.9～現在
日本災害食学会	正会員	2016.4～現在

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 給食経営管理実習 第１版第２刷	共著	2018.4.20	医歯薬出版株式会社	①管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015準拠の第10巻目の教科書である。給食の運営の実際と給食経営管理の総合的理解について纏められている。 ②監修　特定非営利活動法人日本栄養改善学会 編者　富田教代，神田知子，朝見祐也 共著者　青木るみ子，他11名 ③担当部分　第３章　6）p.57～58 第４章　3）～5）p.68～75
管理栄養士講座 三訂給食経営管理論	共著	2017.4.5	建帛社	①管理栄養士養成課程に必要な給食経営におけるマネジメント、マーケティング、食品流通、給食のコントロールに関して詳細にまとめられている。 ②編者　朝見祐也，小松龍史　外山健二 共著者　青木るみ子，他12名 ③担当部分　第16章 p.171～173 第21章 p.221～225
（学術論文） 高齢者対象弁当企画を介した食生活支援活動	共著	2018.3.	西南女学院大学紀要 Vol.22.	①食生活の面から地域高齢者を支援することを目的に高齢者向け弁当の企画のための基礎調査の報告である。 ②共著者名　青木　るみ子、境田　靖子 ③p.101～109
大学連携事業としての地域密着型食育活動の展開―3 年間の取り組みならびに今後の課題―	共著	2018.3	西南女学院大学紀要 Vol.22.	①2014~2016 年度の 3 年間の活動報告と今後の展望を報告した。 ②共著者名　近江雅代、境田靖子、青木るみ子、辻澤利行、秋房住郎、日高勝美、田川辰也

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳） なし				
（学会発表） 児童及び保護者を対象とした日本伝統文化の啓発活動（だいすきにっぽん）の展開と検証	単著	2017.9	日本栄養改善学会 （徳島）	①2014 年度より伝統文化の継承を目的に、地域の児童とその保護者を対象に「食」と「あそび」を組み合わせた活動を行ってきた。開始以降、保護者からは活動中の子どもたちの姿から成長を実感したとの意見も得られている。2016 年度より、活動中の子どもと学生スタッフとがかかわる場面を動画媒体に記録・観察し、統一基準を用いた評価を行い、活動プログラムの評価を行った。本報告では、これまでの取り組みと 2017 年度の活動プログラム評価結果について報告した。 ②発表者　青木るみ子
食中毒統計調査結果を用いた給食施設の食中毒発生の現状分析	共著	2018.11	日本給食経営学会 （埼玉）	①2食中毒統計調査は，我が国における食中毒の発生状況を把握するために厚生労働省が毎年実施している。当該調査結果は，食中毒の原因となった施設や病因物質，患者数等が報告されており，食中毒の発生状況を詳細に知る上で極めて重要な統計資料となっている。本研究は，食中毒統計調査結果を用いて，給食施設の食中毒発生の現状分析を試みた。 ②共同発表者　青木るみ子、山崎正幸、朝見祐也
				教育研究業績総数 （2018年度3. 6現在） 著書　2（内訳　単0　，共2） 学術論文　12（内訳単１，共11） 学会発表　28（内訳単2，共26）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
社会福祉法人北九州市福祉事業団 北九州市社会福祉研修所	平成30年度 保育士キャリアアップ研修会・講師 「食育・アレルギー対応研修」 平成30年度 福祉施設調理員研修会・講師 「ソフト食の動向」	平成30年6月 平成30年2月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
キャンパスハラスメント委員会 管理栄養士国家試験対策委員（栄養学科） だいすきにっぽん食分野担当 料理研究部顧問

学部長による評価・改善記入欄（助手については、学科長による評価・改善記入欄） ※この欄は、一切公表いたしません

１．教育活動について

２．研究活動について

３．その他

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　天　本　理　恵	職名　　准教授	学位　博士　（医学）九州大学 2012 年

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
応用栄養学　分野	小児栄養、母性栄養、栄養代謝（特に葉酸）、生活習慣病（主に癌、加齢性疾患）とミトコンドリア

研　　究　　課　　題
1. 生活習慣病（主に癌や加齢性疾患）とエネルギーおよび栄養代謝（ミトコンドリアを中心に）との関連を形態学、分子生物学的に検討する。また、葉酸とミトコンドリア機能の関連性についても実験、考察する。 2.　極低出生体重児の成長、発達と栄養管理等について考察する。 3.　幼児と保護者の食生活および生活習慣に関する実態調査を行う。

担　　当　　授　　業　　科　　目
応用栄養学Ⅰ　（　2 年後期　栄養学科　）
応用栄養学Ⅱ　（　3 年前期　栄養学科　）
総合演習Ⅰ　（　3 年前期　栄養学科　）
総合演習Ⅱ　（　4 年前期　栄養学科　）
応用栄養学実習　（　3 年後期　栄養学科　）
管理栄養士演習Ⅱ（　4 年前後期　栄養学科　）
臨地実習Ⅰ　（　3 年後期　栄養学科　）
卒業ゼミ　（　4 年通年　栄養学科　）
栄養学概説　（　1 年後期　栄養学科　）
母子栄養学　（　前期　助産別科　）
子どもの食と栄養　（　3 年前後期　福祉学科　担当は前期のみ　）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　応用栄養学Ⅰ,Ⅱ、総合演習Ⅱ、栄養学概説　】 1.　視覚教材に Power　Point を使用して講義を行っている。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。 2.　1 の教材を印刷したプリントと、関連資料を毎回配布し、重要なところをマークさせた。また、Power　Point 教材だけでは不十分なところについては、板書にて図式化し、学生に書き取らせることで理解を深めてもらうようにした。板書＋スライドで大事なポイントはダブルチェックさせ学生の理解を促した。 スライドを印刷したプリントを配布しているが、板書を写すスペースも確保した配布資料の作成を行っている。 3.　毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説して回収し次の講義の時に返却した。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。 小テストに書かれた学生からの質問や感想には、1 人ずつ全員に必ず答えて返却した。 以上のことより今後も出来る限り学年の特性に合わせた、かつ重要ポイントを外さない授業計画に配慮する。
授業科目名【　応用栄養学実習　】 毎年度ではあるが、この実習では、管理栄養士として役に立つ知識や技術を身に付けてもらうために、特殊な食品を使用した献立や、日頃家庭では作ることのないライフステージ別の献立を作製させ印象づけるようにした。実習では、学生に献立を調理させる前に示範をし、調理の際の留意点や栄養管理のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養管理上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容

となるように考えた。今年も書類上の献立作成では不安な料理や製菓に関しては、助手の方たちと一緒に勤務時間外に試作を行うなどして検討した。（この実習は講義時間だけでなくその前後に多くの時間を要してしまう実習であるため、この実習が行えるのは助手の先生方が手伝って下さるおかげだと感謝しています。）学生にとって有意義かつ実践できる実習になるように今後も改善を行っていく。

授業科目名【　総合演習Ⅰ、臨地実習Ⅰ　】

総合演習Ⅰは、臨地実習Ⅰ（小学校、事業所、児童福祉施設、高齢者福祉施設における給食の運営に関わる学外実習）と抱き合わせとなる演習であり、実習前の指導や、課題、媒体作成、プレゼンなど、もう一人の担当教員および助手教員とともに演習時間外も含め、指導に尽力した。特に、媒体作成に関しては、演習時間外の多くの時間をさいて、学生個々に合わせた個別指導、助言を行った。この科目に関しては、今後も個別指導を徹底していく。

授業科目名【　管理栄養士演習Ⅱ　】

管理栄養士演習（国家試験対策）では、毎回項目別に試験問題を作成し、実施した。
その問題の解説を行うために、沢山の関連資料を配布し（わかりにくいところや重要項目はポイント集を作成して配布した。）一緒にチェックしていくことで学生の理解を促した。さらにポイントや解説は出来るだけ板書し、何度も学生に書き取らせることで、理解を促した。毎回のテストの正解率を表にしたものを作成し、正解率の低い問題にはアドバイスやポイントを書いて配布して復習させた。また正規の講義時間以外に行う、学科が開設しているブラッシュアップ講座においても、同様の演習を実施し、学生への理解を促すことに努力した。今後も継続してこの講義形式で講義を展開していく。

授業科目名【　母子栄養学　助産別科　】

視覚教材に Power　Point を使用して講義を行った。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。
母性の栄養補給法に関して、実習先での課題があれば出来る限りのアドバイスを行った。助産別科の学生は食と栄養に関心が深く、熱心であり、私自身も講義、指導がしやすいと感じている。学生たちも、この講義が助産師として活躍していくときに、役に立つと評価しており、今後も将来役に立つと学生に思ってもらえる講義内容にしていきたいと考える。

授業科目名【　子どもの食と栄養　福祉学科　】

福祉学科においても、視覚教材に Power　Point を使用して講義を行った。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。PowerPoint 教材だけでは不十分なところについては、板書にて図式化し、学生に書き取らせることで理解を深めてもらうようにした。板書＋スライドで大事なポイントはダブルチェックさせ学生の理解を促した。
内容は、保育士として知識習得および実践してほしい栄養学・食育を中心に、栄養士との協働に関してもふれた講義にした。栄養学科の講義同様、毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説して回収し次の講義の時に返却した。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。小テストに書かれた学生からの質問や感想には、1 人ずつ全員に必ず答えて返却した。

授業科目名【　卒業ゼミ　】

福祉学科が開いている極低出生体重児の親子遊びの会『ほほえみの会』にゼミ活動の一環として、学生たちを参加させている。提供する間食の作製やレシピの作成、ほほえみの会の親子を支援するための教育媒体の作成など、試作、訂正を繰り返しながら、学生たちが主体的に動けるようにそのサポートを行った。また福祉や看護の学生たちと共に企画から実施、評価を行うことで、学生たちに自然と協働の精神が育まれていると考える。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期

日本栄養士会 日本栄養改善学会 日本栄養・食糧学会 日本スポーツ栄養学会 日本癌学会 日本分子生物学会		2002年4月～現在に至る 2002年4月～現在に至る 2002年11月～現在に至る 2017年4月～現在に至る 2010年6月～現在に至る 2012年9月～現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				
（その他） 1．西南女学院大学生のキャンパスニーズに関する調査　【報告】	共	2019.3	西南女学院大学紀要 Vol.23	①正課外における学生の主体的な学びを促進するための環境作りに必要となる基礎データを得ることを目的にアンケート調査を実施し、その調査結果の報告を行った。 ②上村眞生、小田日出子、天本理恵、塚本美紀、高橋幸夫、篠木賢一 ③p. 47-60
				教育研究業績　2018年度分 著書　0（内訳　単0,　共0　） 学術論文　0（内訳　単0,　共0　） 学会発表　0（内訳　単0,　共0　） その他1　（内訳　単0,　共1　）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
ミトコンドリア異常と代償的葉酸代謝亢進の分子基盤と予防栄養の探索	文部科学省科学研究費補助金（基盤C）	○天本理恵 （内海　健）	3,510,000 （2017年4月-2020年3月）

社会人基礎力養成のための「意図的な Hidden Curriculum(潜在的カリキュラム)」構築に関する研究	西南女学院大学共同研究費	○上村眞生 小田日出子 塚本美紀 他７名	1,388,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
・北九州市食育推進懇話会	構成員（座長）	2017 年 7 月～2019 年未定
・北九州市立保育所給食調理業務受託候補者選定検討会構成員（北九州市こども家庭局）	構成員	2018 年 8 月
・遠賀・中間地区保育士協会研修会	講師	2019 年 3 月 7 日
・健康・スポーツで北九州をぐっと盛り上げる会（NPO）研修会	講師	2019 年 1 月 28 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・地域連携室　室員（子ども・子育て支援分野）　2016 年 8 月～現在に至る ・学生募集　委員　2014 年 4 月～2019 年 3 月 学外：飯塚高等学校　模擬授業　2019 年 2 月 18 日 ・ほほえみの会（主担当　福祉学科　野井　准教授）における栄養相談等の栄養士業務、子どもの遊びの支援 2014 年 4 月～現在に至る ・チアリーディング部（ルーシス）顧問⇒同好会 2002 年 4 月～現在に至る（部員 0 名のため部としては活動休止中）

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　近江　雅代	職名　　教授	学位　博士(医学)(福岡大学 2002 年)

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
臨床栄養学、栄養形態学	全身性エリテマトーデス、食事因子、症例対照研究、低タンパク栄養、生食野菜の殺菌、超微形態学的研究

研　　究　　課　　題
・全身性エリテマトーデスに関する症例対照研究 ・栄養バランスに配慮したお弁当メニューの開発および提案 ・非加熱野菜による食中毒防止のための殺菌方法の確立 ・『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開 ・低タンパク栄養が母親および乳仔ラットに及ぼす影響

担　　当　　授　　業　　科　　目
栄養治療学Ⅰ(前期) 栄養治療学Ⅱ(後期) 臨床栄養学実習Ⅱ(後期)(分担) 臨床栄養活動論(後期)(共担) 総合演習Ⅱ(前期)(分担) 臨地実習Ⅱ(後期)(共担) 管理栄養士演習Ⅱ(通年)(分担) 初年次セミナーⅠ(前期)(共担) 臨床栄養学(後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【栄養治療学Ⅰ・Ⅱ】 本科目は、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目標としている。各回、疾患の成因および病態について、2 年次までに修得した科目と関連付けながら解説した。その上で、各疾患における栄養食事療法の意義と目的を説き、栄養アセスメント、栄養ケア計画・実施、モニタリングが連動していることを理解できるよう、留意した。教科書を最大限使用し、かつ、ノート作成をするために、できるかぎり板書を行い、講義した。教科書での不足に関しては、補足プリントの配布を行った。また、毎回の講義終了後、講義内容を復習するための確認テストを配布した。提出されたテストは次回の講義までに採点し、学生に返却することにより、学生は自身の知識の修得を確認することに繋がったものと思われる。本科目は、臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)と密接に関係した科目であるだけでなく、臨地実習要件科目でもあるため、厳しく、かつ、わかりやすい講義を心がけた。
授業科目名【臨床栄養学実習Ⅱ】 本実習では、各疾患の病態および栄養状態を把握し、調理実習を通して、栄養・食事療法に対応できる知識および技術の修得、ならびに、食事療法を必要とする疾患・病態の症例を提示し、栄養アセスメント、栄養ケア計画の実際、食事療法の調整、栄養指導までの一連の流れについて修得することを目標としている。『栄養治療学Ⅰ・Ⅱ』で修得した知識を活用し、身体状況や栄養状態に応じた疾患・病態別の献立を作成し、調理することのできる能力を養うよう、留意した。各回、1 疾患を挙げ、栄養管理のポイントを説明した後、調理示範を行いながら、調理のポイントや留意点を説明した。調理実習中は、各班をまわり、個別指導を行った。また、献立作成能力を高めるため、全員の提出献立にコメントをつけ、学生は自身の献立内容の振り返りを行い、今後の献立作成への課題を見つけることができたと思われる。さらに、献立作成に必須である食品の目測についての試験(数種類の食品の名称ならびに重量を目測で解答)を行い、食品の目測に対する能力を点数として評価

した。加えて、数種類の症例を準備して、栄養アセスメント、ケア計画および栄養指導の実際としてロールプレイを実施し、栄養管理の一連の流れを体得できるよう、工夫した。本科目は、臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)と密接に関係した科目であるだけでなく、臨地実習要件科目でもあるため、厳しく、かつ、わかりやすい実習を心がけた。また、学生にとっては病院実習ならびに栄養士・管理栄養士業務に向けての、より自主的・意欲的に臨むきっかけになったものと推察する。

授業科目名【臨床栄養活動論】

本科目は、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、これまでに修得した栄養教育の知識や技術を基礎として、栄養ケア計画の作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育について修得することを目標としている。そのため、実務家教員として、医療の現場で活躍されている管理栄養士ならびに医療に関する法律の専門家を招聘し、第一線の臨床の場での管理栄養士の活動ならびにチーム医療での管理栄養士の活動の実際を学び、医療人としての心構えを培った。実際、学生の多くは本科目受講により、職業選択に対し、参考になったと回答しており、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、3 年後学期終了後、学生は臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)での学外実習を控えており、本科目が臨地実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性の気づきにもなったものと思われる。

授業科目名【総合演習Ⅱ】

本科目は様々な症例検討を行い、これまでに学んだ専門的知識を統合して、管理栄養士として、適切な栄養管理ができる能力を養うことを目的としている。各回、1～2 疾患の症例を提示し、まずは学生自身で検討を行った後、症例疾患の成因、病態および治療法について、学生からの解答を導きながら、説明した。その後、詳細な解説を配布して、疾患を総合的に理解し、具体的な栄養管理方法を解説した。また、最終学年の演習であることから、管理栄養士に必要な最新の情報や関連領域のトピックについても、説明した。

授業科目名【臨地実習Ⅱ】

本実習は、臨床栄養の実践活動の場(病院)における学外実習を通して、管理栄養士として必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、具備すべき知識・技能を修得することを目標としている。病院において、2～3 週間の実習を行うため、事前学習として、4 回のオリエンテーションを実施し、実習の目的、実習に対する心構えおよび身だしなみ等について、細かく指導した。実習評価表に記載されている項目に関しては、学生自身の知識を整理するために、自己学習ノートの作成を指示し、実習に対する事前学習の機会を設けた。また、実習施設より出された課題については、時間を問わず、個別に添削指導し、実習をお願いする大学として、できる限りの指導を行った。実習中は、実習施設を訪問し、施設の実習指導担当者の指導等に基づき、学生への指導を行った。また、今後の実習のあり方や事前指導等について、病院管理栄養士の方との意見交換を行い、次年度以降の実習内容の改善や実習先確保に繋げた。実習終了後は、事後指導として、事後報告会を開催した。施設ごとに発表資料を作成し、全実習施設が発表を行った。また、その報告会には新 3 年生を出席させることにより、臨地実習Ⅱへのモチベーションを高めることに繋げた。

授業科目名【管理栄養士演習Ⅱ】

本科目は、管理栄養士国家試験教科『臨床栄養学』分野の出題傾向およびポイントを理解することを目標としている。臨床栄養学の問題数は 28/200 問であり、本演習の中で、過去 5 年分を網羅するよう、スケジュールを組んだ。1 回の演習において、学生は 10～15 問の過去問を解き、その後、詳細な解説を配布して、1 問ずつ説明を加えながら解説した。

授業科目名【初年次セミナーⅠ】

大学は、学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり、基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力が求められる。これらの力を獲得するためには、ただ単に基礎的な知識を効率よく覚えるということではなく、自らが積極的に課題を探求していく姿勢をもたなければならない。初年次セミナーⅠでは、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本の強化を図るため、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等の ICT 活用法等、大学で主体的に学ぶ技法の習得を目指す。また、情報倫理に基づくメディア・リテラシーの習熟を図る。管理栄養士を目指して入学した学生同士の交流を図りながら、学びの姿勢を育むため、グループワークを中心とした学修を展開した。また、学生がさまざまな実験実習に対応できるように『栄養学科で使用する計算・単位』『レポートの書き方』等、実際の事例を用いることにより、理解を促した。また、学生が 4 年間の学びを積極的に取り組むために、本学卒業生 2 名(栄養教諭・福祉施設管理栄養士)からの講話

を拝聴し、管理栄養士としての将来像を明確にできるよう、講演会を企画した。
授業科目名【臨床栄養学】 　本科目は、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目標としている。看護師に必要な臨床栄養の知識を理解するために、病院における栄養管理に始まり、疾患別の栄養管理を解説した。教科書を最大限活用し、重要ポイントについては、板書を行った。教科書の不足に関しては、補足プリントの配布を行った。講義では、これまでに経験した栄養管理の実際や栄養に関するトピック等を話題として取りいれ、臨床栄養をより理解しやすくなるよう、努めた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会	正会員	2003 年　4 月～現在に至る
日本栄養改善学会	正会員・評議員	2003 年　4 月～現在に至る
日本病態栄養学会	正会員・評議員	2003 年　4 月～現在に至る
日本給食経営管理学会	正会員	2012 年　4 月～現在に至る
日本臨床栄養協会	正会員	2012 年　4 月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） 1. 抗がん剤治療中のがん患者の食嗜好変化とその対応策	共著	2019 年 1 月	日本調理食品研究会誌 Vol25(1)（査読有）	①抗がん剤治療を進める上で、がん患者の食欲不振の改善は苦痛緩和の導線として重要な役割を担う。食事を提供する側に立ってがん患者と向き合う医療現場においては、化学療法施行中の患者に味覚・嗅覚変化などに起因して嗜好の偏りに特徴的な傾向が確認されており、これらの特徴を理解することで食事による栄養状態・QOL の改善が試みられている。国立病院間においては、研修会や情報公開などによって情報の共有化が図られており、本稿ではこれらの経験的蓄積を簡潔に取り纏め、資料として提供した。 ②長光里奈、近江雅代、甲斐達男
（翻訳） なし				

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 1. 管理栄養士養成課程における実践的食育活動が学生の食生活ならびに学習に対する自己評価に及ぼす影響	共著	2018 月 9 月	第 65 回日本栄養改善学会学術総会 （於　朱鷺メッセ）	①本学では公開講座を開催しており、管理栄養士育成の一環として、学生の積極的参加を促している。そこで、実践的食育活動が学生の食生活および学習に対する自己評価に及ぼす影響について、検討した結果、調理を伴う食育活動に携わることにより、管理栄養士業務の一端を実体験したことは、調理作業能力の向上に加え、専門性に対する意識向上を促し、学習に対する啓発にも寄与しているものと推察された。 ②近江雅代、手嶋英津子、境田靖子、田川辰也 ③第65回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P261)
2. 大量調理業務における総エネルギー消費量、歩数および運動量の実際～実施回数による比較検討～	共著	2018 月 9 月	第 65 回日本栄養改善学会学術総会 （於　朱鷺メッセ）	①大量調理は調理人員が少ないにも関わらず、提供食数が多く、精神的・肉体的負担は大きいが、経験を積むことにより、業務に対する適応性は高まることが予想される。そこで、大量調理業務における身体活動量について、実施回数による比較検討を行った結果、総エネルギー消費量、歩数および運動量は実施回数による変化はみられなかった。一方、時間帯ごとの歩数では第1回と第4回の経時的変化に違いがみられた。これは大量調理の経験により、食材の下処理および調理作業を迅速に行い、盛り付けおよび提供作業がより効率的であったためと推察された。 ②石井愛子、手嶋英津子、境田靖子、近江雅代 ③第65回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P315)

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. 糖尿病患者における食行動の問題点を探る～食行動質問表から見えたこと～	共著	2018年10月	第56回日本糖尿病学会九州地方会（於　福岡国際会議場）	①糖尿病患者の肥満、血糖コントロール不良者には食行動に問題がある場合が多く、糖尿病患者における体重、血糖コントロールおよび食事摂取状況と食行動の関連を分析し、今後の栄養指導におけるアプローチ方法を検討した。その結果、糖尿病患者において食行動と体重・血糖コントロールおよび食事摂取には関連があることが明らかとなり、食に関する認識と食行動の特徴を把握し、それに応じたアプローチを行うことは食習慣の是正に繋がると考える。 ②安永勝代、瀬戸瑠璃、山田沙央理、増田圭子、手嶋英津子、近江雅代、井元博文 ③第56回日本糖尿病学会九州地方会講演要旨集
4. 当院糖尿病教育入院1年間の継続フォローの経過～食行動質問表から見えたこと～	共著	2018年10月	第56回日本糖尿病学会九州地方会（於　福岡国際会議場）	①糖尿病患者において、食行動の問題点を把握し、食習慣を是正することは継続しやすいと考える。そこで、当院糖尿病教育入院患者の継続的フォローにおいて、食行動質問表を用い、体重、血糖コントロールおよび食事摂取状況の推移と食行動の変化の関連を分析し、食行動質問表を用いた栄養指導の有用性を検討した結果、BMI、HbA1c、エネルギー摂取率は退院後6ヶ月で有意に改善し、1年後まで維持していた。このことから、継続フォロー指導は退院6か月後がターニングポイントであると推察される。 ②増田圭子、瀬戸瑠璃、山田沙央理、安永勝代、手嶋英津子、近江雅代、井元博文 ③第56回日本糖尿病学会九州地方会講演要旨集

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
5. 食行動質問表を用いた栄養指導の検討～コントロール悪化を繰り返す症例を通して～	共著	2018年10月	第56回日本糖尿病学会九州地方会（於　福岡国際会議場）	①2週間の糖尿病教育入院受講者に対し、1・3・6・12か月後にフォローを実施しており、血糖コントロール悪化から就労制限を繰り返す症例を報告する。6ヶ月後フォロー時、血糖コントロールは良好であったが、食行動異常が顕著にみられ、仕事に対するストレスが食行動異常に繋がっているものと思われた。即ち、血糖が悪化していない場合も食行動異常がみられた際は食環境やストレスなど、食行動異常の原因を探る必要があり、食行動質問表は早期に療養の乱れを掴みやすいツールであることが確認された。 ②山田沙央理、瀬戸瑠璃、増田圭子、安永勝代、手嶋英津子、近江雅代、井元博文 ③第56回日本糖尿病学会九州地方会講演要旨集
6. 1年後HbA1cが悪化した患者のうち食行動質問表に特徴のあった1例	共著	2018年10月	第56回日本糖尿病学会九州地方会（於　福岡国際会議場）	①入院中に糖尿病型が決定せず特徴的な食行動異常がみられた症例を報告する。フォロー6か月後、1型糖尿病の診断を受けたものの、患者は受け入れることが出来ず、心理的状況が不安定に陥り、代理摂食として現れたものと思われ、食行動質問票は食生活に加え、患者の心理的背景をも反映することが明らかとなった。さらに、食行動異常がみられた際は食環境やストレス等、食行動異常の原因を探る必要があると思われる。 ②瀬戸瑠璃、山田沙央理、増田圭子、安永 勝代、手嶋英津子、近江雅代、井元博文 ③第56回日本糖尿病学会九州地方会講演要旨集

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
7. 大量調理業務における調理歩数の実際ならびに経時的変化	共著	2018年11月	第14回日本給食経営管理学会学術総会（於　女子栄養大学）	①大量調理は経験を重ねることにより、業務に対する適応性は高まると予想される。そこで、大量調理に対する適応性を検討するため、『調理総歩数』の中央値未満を『低値群』、以上を『高値群』に分け、比較した結果、低値群の歩数は時間経過とともに、ばらつきと歩数が減少、大量調理への順応性が速く、効率よく作業を進めたと思われる。一方、高値群は全時間帯を通して、歩数のばらつきが大きく、歩数も同程度、大量調理の要領が掴めず、無駄な動きが多かったと思われ、両群の違いは調理技術・調理の習慣・適応能力等が起因していると推察される。 ②近江雅代、石井愛子、手嶋英津子、境田靖子 ③第14回日本給食経営管理学会学術総会講演要旨集(P49)
8. 献立内容が大量調理業務における自覚疲労度ならびに疲労部位に及ぼす影響	共著	2018年11月	第14回日本給食経営管理学会学術総会（於　女子栄養大学）	①大量調理において、献立内容が自覚疲労度ならびに疲労部位に及ぼす影響について検討した結果、第1回に比し、第4回の切り込みを要す食材・硬い食材の総使用量は多く、硬い食材の比率は第1回約1.5倍、第4回約1.2倍であった。このことから、硬い食材よりも切り込み作業を要す食材の総使用量が自覚症・疲労部位に影響を及ぼすものと思われ、切り込み作業により手元を凝視するため、自覚症として『目がいたい』を訴え、疲労部位として包丁を使用する『右腕』に限局した痛み・だるさを生じることに繋がったものと推察される。 ②石井愛子、境田靖子、手嶋英津子、近江雅代 ③第14回日本給食経営管理学会学術総会講演要旨集(P50)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開	西南女学院大学共同研究費	○田川辰也 栄養学科教員	1,067,000
『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開	一般社団法人全国栄養士養成施設協会助成金	○八木康夫 栄養学科教員	70,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
・福岡大学医学部看護学科『食と生活』	非常勤講師	2008年4月～現在に至る
・株式会社西鉄ストアとのコラボ商品（弁当・惣菜）の開発および提案	責任者	2016年4月～現在に至る 2014年3月～現在に至る
・西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座（4回/年）	給食担当	2014年4月～現在に至る
・高大連携高大連携講座『栄養学科で学ぶこと～栄養士・管理栄養士の仕事って？～』	講師	2018年6月13日
・北九州小倉・糠床糠炊き研究会平成30 年度講演会～滅多に聞けないぬか床発酵の凄いお話～	パネラー	2018年6月17日
・出張講義：ひびき高校『栄養学科で学ぶこと～栄養士・管理栄養士の仕事って？～』	講師	2018年6月22日
・大谷第一社会福祉協議会ふれあいネットワーク活動推進事業『偏らない高齢者の栄養』	講師	2018年6月23日
・戸畑総合病院内北九州タニタ食堂とのコラボメニューの開発および提案	責任者	2018年9月11日～14日
・西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座2018年度第3回シンポジウム『北九州の郷土料理～糠床・糠炊きの魅力発見～』	講師およびアシスタント	2018年10月20日

・2019 年度一般財団法人肝疾患研究会×西南女学院大学栄養学科　学生のための講演会『肝疾患～NAFLD と NASH について～』	企画・献立作成・給食担当	2019 年 1 月 19 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・教務委員（2014 年 4 月～現在に至る） ・就職委員（2018 年 4 月～現在に至る） ・教育の質保障プロジェクト委員（2014 年 6 月～現在に至る） ・管理栄養士国家試験対策委員（2013 年 4 月～現在に至る） ・国家試験対策講座（前期・夏期集中・後期・国試直前）

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　岡部　明仁	職名　教授	学位　博士（バイオサイエンス）（奈良先端科学技術大学院大学　2001 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
神経科学、神経生理学、神経解剖学、自律神経機能、呼吸生理、病態生理	抑制性神経伝達物質（GABA、グリシンなど）、Cl-共輸送体、細胞内 Cl-濃度、呼吸リズム、延髄、摂食・満腹中枢、視床下部

研　究　課　題
１．発達期における細胞内 Cl-濃度の減少に伴う、GABA 作用の興奮性から抑制性へのシフトが呼吸リズム形成に与える影響の検討。 ２．哺乳から食餌行動へ移行する際の、視床下部における GABA 神経回路変化の組織学的検討。

担　当　授　業　科　目
解剖生理学（前期） 人体の構造と機能基礎実習（前期） 初年次セミナーI（前期） 生物と生命科学（前期）（人文学部） 応用生理学（後期） 解剖生理学実習（後期） 初年次セミナーII（後期） 管理栄養士演習Ｉ（通年） 生理学（後期）（福祉学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【解剖生理学実習】 昨年度、人体の構造と機能総合実習にて採用した、バーチャルスライドによる PC 画面上での組織切片観察を解剖生理学実習にも取り入れた。PC 画面を教員と学生が同時に見ることができ、その場で指示できるように工夫した。標本のどの部分に着目すべきかの理解度を高めるよう配慮した。
授業科目名【実習を除くすべての科目】 講義で使用した資料（スライド）を、講義終了後に講義資料配布システムにて全て公開し、いつでもどこでもカラーで確認できるようにした。加えて、そのシステム上で、小テストや定期試験の正解を公開し、自習に役立ててもらうよう配慮した。
授業科目名【　　】

授業科目名【　　】

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生理学会 日本解剖学会 日本神経科学会 北米神経科学会	評議員（2002 年 4 月～現在に至る） 代議員（2019 年 3 月 27 日～現在に至る）	1999 年 7 月～現在に至る 2001 年 10 月～現在に至る 1996 年 7 月～現在に至る 1999 年 11 月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） Modulation of respiration-related activities activated by GABA and Cl^- co-transporters in the perinatal mouse hypoglossal nucleus.	共著	2018年7月7－11日	11th FENS Forum of Neuroscience in Berlin, Germany	哺乳動物は胎児期から呼吸をする準備を行っており、それはGABAにより調節されている。GABAの放出を制御するVGATのノックアウトマウスを用いて検討したところ、ノックアウトマウスでは呼吸リズムがほとんど発生しないことが分かった。
				教育研究業績　総数　（2019.3.31現在） 著　　書　　2（全て共著、査読あり） 学術論文　　35（全て共著、査読あり） 学会発表　　112（全て共著）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
胎児期に完成する呼吸リズムにおける GABA シナプスと細胞内 Cl-濃度の発達変化	日本学術振興会	○　岡部明仁 （清水千草）	1,000,000
発達期のマウス延髄における呼吸リズム形成・維持に関与するＧＡＢＡ関連分子の組織的研究	西南女学院大学共同研究費	○　岡部明仁 近江雅代 笹月桃子 （清水千草） （高山千利） （塩坂貞夫）	1,992,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
動物実験委員会　委員　2017 年 4 月 1 日～ 同上　副委員長　2018 年 4 月 1 日～ 学生募集委員　委員　2018 年 4 月 1 日～ FD 委員会　委員　2018 年 4 月 1 日～

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　尾　上　　均	職名　　教授	学位　博士(医学)

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
生化学 細胞生物学	細胞内 Ca^{2+}動員機構 細胞内 Ca^{2+}恒常性維持機構 タンパク質相互作用 インスリン分泌

研　　究　　課　　題
① 細胞内カルシウム動因機構 ② 細胞内カルシウム恒常性の維持機構 ③ イムノフィリンと細胞内カルシウム放出チャネルとのタンパク質間相互作用 ④ インスリン、グルカゴン分泌に影響をおよぼす食品成分に関する in vitro 研究

担　　当　　授　　業　　科　　目
生活の中の化学(栄養学科) 生活の中の化学(看護学科、福祉学科/福祉・心理・養護教諭コース/子供家庭福祉コース、観光文化学科) 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実習 人体の構造と機能実習 管理栄養士演習Ⅰ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　生活の中の化学(栄養学科)　】 • 栄養学を習得していく上で必須となる化学の基本的知識として、化学結合と電子の関係、酸と塩基、触媒、化学反応論および化学平衡の概念の理解させることを、目標の中心として講義を行った • 本科目、生化学Ⅰおよび生化学Ⅱをとおして共通に使用する化学・生化学の基礎プリントを配布し、私の講義に共通の普遍的概念および基礎知識の修得を促すように努めた • 講義は、スライドを用いて行った。講義時間内に情報を取り入れることに学生を集中させるため、スライドのレジュメは、鍵となる重要なものを特に選んで配布した • 講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた
授業科目名【　生活の中の化学(看護学科、福祉学科/福祉・心理・養護教諭コース/子供家庭福祉コース、観光文化学科)　】 • 専門性や化学という科目の必要度の異なる複数の学科の学生からなる混成クラスに対する講義であったため、栄養学科に対する同名科目に比べて専門性の低い教養科目的な内容の講義を行った。 • テキストとして特定の書籍は指定せず、自作のプリントを用いて行った • 講義は、スライドを用いて行った。 • 講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた
授業科目名【　生化学Ⅰ　】 • 生体分子の構造および化学的特性については、「生活の中の化学」で講義した内容や知識、言葉を用いて説明するように努めた • 代謝に関する講義では、代謝全般に共通する普遍的な法則の理解と知識の習得に力点を置いた。「酸化還元」と「自由エネルギーの出入り」との結びつきの概念を特に強調した講義内容とした

- 講義に用いるスライドにも改訂を加えて使用した
- 講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントに大幅な改訂・増頁(23 頁→51 頁)を加えて配布した
- 講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた
- 学生には暗記よりも論理的に思考して理解することを要求し続けた。試験も基本的には理解を問う問題を出題した。ただし、基本的な生体化合物の構造式については試験にも出題した

授業科目名【　生化学Ⅱ　】

- 本科目は、「生活の中の化学」および「生化学Ⅰ」で講義した知識、概念、用語をつかって、代謝全般の各論、生体内情報伝達機構に関する講義へと発展させた。
- 講義に用いるスライドには改訂を加えて使用した
- 生化学Ⅰで配布した講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントの続きに改訂を加えて配布した。
- 平行して開講した「生化学実習」と本科目の内容に特に関連性が深い項目については、同じ週に行うよう努めた
- 講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた

授業科目名【　人体の構造と機能総合実習　】

- 本科目は岡部教授とのオムニバス科目であり、15 回中 7 回を担当した
- 分子模型を用いた実習、および酵素反応実験や電気泳動実験による基礎的な生化学実験実習を通して、生化学Ⅰ(同時期に開講)で学んだ生体化合物の基本構造、および生体反応の特徴を肌で感じることを目標とした
- 実験ノートの重要性を強調し、毎回の実習後、学生のノートをチェックした
- 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、酢酸、および簡単なアミノ酸の模型を一人で組み立てられるように指導し、特に不斉炭素とは何かを理解させることを心掛けた
- レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した

授業科目名【　生化学実習　】

- 実験を通じて「事実（データ）を有りのままに観察して物事を論理的に理解し、論理的に考察すること」、および「定性性」ならびに「定量性」の概念、センスを身につけることを目標とし、学生にそのことを一貫して要求し続けた
- 実験ノートの重要性を強調し、毎回の実習後、学生のノートをチェックした
- 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、アミノ酸、脂肪酸の模型を一人で組み立てられるように指導した
- レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した

授業科目名【　管理栄養士演習Ⅰ　】

- 生化学ⅠおよびⅡで履修した範囲を主に講義と練習問題を組み合わせた授業内容にした
- 生化学ⅠおよびⅡでは取り扱わなかったトピックとして、免疫、ヌクレオチドの代謝、糖誘導体などややレベルの高いトピックを取り扱った
- 練習問題はオリジナルに作成した

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生化学会		1995 年５月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９（2018））

氏名　甲　斐　達　男	職名　教　授	学位　農学博士（九州大学　1992 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
応用微生物学、食品科学、分子遺伝学、音声学	パネットーネ、パン、穀物、酵母、乳酸菌、ゲノム解析、音声解析、音源修復

研　究　課　題
（1）　パネットーネ乳酸菌と酵母のゲノム解析
（2）　ライ麦に含まれる酵母増殖因子の同定およびその特性解析
（3）　カストラートの音源修復
（4）　声楽家の歌声特性解析

担　当　授　業　科　目

科　目　名		単位数 必修	単位数 選択	開講学期（備考）
微生物学	（栄養学科）×２クラス	2		前期
食品衛生学実験	（栄養学科）×２クラス	1		前期
初年次セミナー	（栄養学科、オムニバス）×１クラス	2		前期（担当コマ数：５）
調理師論	（栄養学科）×１クラス		2	前期
加工食品機能論	（栄養学科）×２クラス	2		後期
食品衛生学	（栄養学科）×２クラス	2		後期
微生物学実験	（栄養学科）×２クラス	1		後期
栄養学概説	（栄養学科、オムニバス）×１クラス	2		後期（担当コマ数：５）
食品の官能評価・鑑別論演習	（栄養学科）×１クラス		2	後期
卒業研究	（栄養学科）　個人別		4	通年
卒業ゼミ	（栄養学科）　個人別		2	通年
管理栄養士演習Ｉ	（栄養学科、オムニバス）×１クラス	2		通年（担当コマ数：４）

授業を行う上で工夫した事項

授業科目名**【微生物学**（3年生対象）**・食品衛生学**（2年生対象）**・加工食品機能論**（２年生対象）**】**

１．定期試験の問題を８年連続で同じ内容と同じ形式（５択問題５０問）にて実施してきた結果、学年ごとの学力特性が把握でき、４年次の国家試験対策への取り組み方を学年ごとに調整するのに役立った。

２．学生の要望により、成績を学生に開示しているので、評価方法に関するクレームは無かった。

３．教科書以外の授業資料はプリントで配布した。併せて、希望者には電子ファイルを配布した。

４．昨年とは異なり、この学年では、私語がほとんど無かった。また、授業中に携帯をいじる学生も見受けられなかった。学年ごとの性格の差なのか、小教室を使用したためなのか、理由ははっきりしない。

授業科目名**【食品衛生学実験**（3年生対象）**・微生物学実験**（2年生対象）**】**

１．例年通り、実験における班構成についてはチームワークが発揮できるよう学生の要望をうまく取り入れ、かつリーダーシップを発揮できるような学生を各班に配置し、学生同士が自由に前向きなディスカッションがしやすい雰囲気作りに努力した。この手法は今年度も成功した。班のメンバー構成は極めて重要であることを再認識した。

２．例年通り、全員参加型の授業（アクティブラーニング）になるよう工夫し、成功したと思われた。

３．一昨年度から実験レポートを、フルレポート形式から書き込み方式に変更した。それによって、上位の特定の学生だけでなく、全学生の質向上が観られた。

授業科目名**【調理師論（1年生対象）】**

1．調理師免許を在学中に取得する学生が増えてきた背景があり、管理栄養士の就職に有利な資格であるためこの資格取得をより推進するためにこの科目を新設した。
2．夏休みの集中講義であったにもかかわらず、60名を超える学生が熱心な態度で受講した。
3．現在、卒業までにひと学年につき８名前後が本資格を取得して卒業しているが、今後、資格取得者が増えることを、他大学との差別化を図る意味で期待したい。

授業科目名**【食品の官能評価・鑑別論演習（2年生対象）】**

1．北九州大学の森田教授の代理として今年度の後期のみ授業を担当した。
2．実験・実習を主体に授業内容を組み立てたため、全員参加型の授業を行った。
3．毎回の実験実習ごとに計 11 回の小レポートの提出を義務付けたが、ほぼ全員が全てのレポートを充実した内容で書いていた。授業直後にフレッシュな記憶のもとに書けたこと、量的に適度な内容であったことがうまくいった理由だと思われる。

授業科目名**【卒業ゼミ・卒業研究】**（４年生対象、卒ゼミ８名、卒研１名が対象）

1．今年度もグループワークではなく、ひとりに１テーマの研究課題とした。卒ゼミは、全員が３年後期までに仕上げて提出した。その内容も充実しており、極めて優秀な学年であった。１名の卒研生は、大学院を目指したため、主に、受験対策の内容で卒研を実施し、見事、合格を果たした。ゼミ生の中からも１名、大学院合格を果たした。
2．受講生を対象にした就職指導を今年度も継続し、９名中、８名が第一志望の進路を決めることができた。残り１名については、卒業後もフォローしたい。
3．９名全員が、管理栄養士国家試験に合格した。

授業科目名**【管理栄養士演習Ⅲ・Ⅷ】**（４年生対象）

1．今年度の学生は補講の出席率が高く、学習量も多く、比較的にやり易い学年であった。
2．一昨年度から国家試験の時期が３月末から３月初めに変わったが、昨年の経験をもとに受験指導を実施した。担当分野である「食べ物と健康分野」の補講（単位とは無関係の補講）の回数は、基礎系の科目であることから、前期と夏期集中構語にウエイトを置いて実施した。前期は初心者向けの「よくわかる管理栄養士合格テキスト」を、夏休み以降は全国で最もよく利用されている「クエスチョンバンク」を用いて、その内容に添って解説することで、学生の理解度の向上を図った。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生化学会	正会員	1991 年４月～現在に至る
日本生物工学会	正会員	1994 年４月～現在に至る
日本農芸化学会	正会員	1995 年４月～現在に至る
米国穀物化学会	正会員	1995 年４月～現在に至る
日本食品科学工学会	正会員	2000 年４月～現在に至る
日本食品衛生学会	正会員	2002 年４月～現在に至る
日本音声学会	正会員	2010 年４月～現在に至る
情報処理学会正会員	正会員	2012 年４月～現在に至る
日本声楽発声学会	正会員	2014 年４月～現在に至る
日本調理食品研究会	正会員・理事	2017 年４月～現在に至る

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文）				
①　小麦粉加工食品への焼酎粕の利用可能性	共著 原著	2018 年１月	日本調理食品研究会誌 Vol.24、No.4、	焼酎粕のより付加価値の高い有効利用を目指して、小麦粉

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
の検討ー蒸しケーキをモデルケースとしてー	論文		162-168、2018 宮原知子、田中貴絵、長光里奈、甲斐達男（Corresponding Author）	加工食品への利用を、今回モデルケースとして蒸しケーキについて検討した結果、加水の 2 割程度まで置き換えが可能であることを見出した。
② 食品成分表の日独間比較研究	共著 原著論文	2018 年 3 月	日本調理食品研究会誌 Vol.25、No.1、2018 印刷中 穴井由美子、長光里奈、甲斐達男（Corresponding Author）	国際食品会成分表を構築するための準備研究として、今回はドイツの食品成分表を取り上げ、先行研究に添って、日本の食品成分表との比較検討を行った。収載項目や分析項目については、日本の方が上回るものの、消費者にとっての利便性についてはドイツでは特筆すべき種々の工夫がなされていた。
③ 抗がん剤治療中のがん患者の食嗜好変化とその対応策	共著 短報	2018 年 3 月	日本調理食品研究会誌 Vol.25、No.2、2018 印刷中 長光里奈、近江雅代、甲斐達男（Corresponding Author）	抗がん剤治療中の患者の食欲減退の実状を医療現場の視点から捉え、食嗜好の変化を観察した結果を報告するとともに、その原因解析と対策を、障害の状況や程度に応じて試行錯誤してきた結果として得られたノウハウを、今回簡潔にまとめ、資料として提供した。
（講演） ① 製パンの科学と技術	単	2018 年 4 月 20 日（金）、10：00-17：00	日比谷記念ホール 8F（東京都江東区南砂 2-1-12） 主催：株式会社テックデザイン	製パンおよび関連分野の一般企業技術者および国公立・私立研究組織に所属する技術者を対象とした基礎学、および、実践的技術に関する講習を行った。具体的には、小麦粉、製パンシステム、使用原材料、食味と食感、最近のトピックスに分けて、詳細な解説を行った。
② 調理師講習「食品学」	単	2018 年 9 月 16 日（日）、10：00-13：00	福岡人材開発センター3F（福岡市東区千早 5-3-1） 主催：職業訓練法人福岡地区職業訓練協会	福岡県調理師試験受験予定者を対象に、食品学分野の受験対策講習を行った。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
③　製パンの科学と技術（入門・初級編）	単	2018 年 12 月 26 日（水）、10：00-17：00	テックデザイン会議室（東京都江東区佐賀 1-9-12）ｻｶﾞﾌﾗｯﾄ 2F 主催：株式会社テックデザイン	製パンおよび関連分野の一般企業技術者および国公立・私立研究組織に所属する技術者を対象とした基礎学、および、実践的技術に関する講習を行った。具体的には、筆者の開発経験に始まり、小麦粉、製パンシステム、使用原材料、食味と食感、最近のトピックスに分けて、詳細な解説を行った。 **研究業績　総数** （2019. 3. 25 現在） **著書　４** （単 0、編者・著者 1、共著 3） **学術論文　５６** （単 11、筆頭 18、責任著者 18、共 9） **国内学会発表　１６** （単 0、筆頭 7、責任発表者 3、共 6） **国際学会発表　６** （単 0、筆頭 5、責任発表者 0、共 1） **国内講演　１０**（単 8、筆頭 2） **海外講演　１**（単 1） **特許　１５** （筆頭発明者 6、責任発明者 9）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
１．バイオインダストリー協会	正会員	1989 年 4 月～現在に至る
２．内閣府食品安全委員会	モニター	2016 年 4 月～現在に至る
３．日本調理食品研究会	理事	2017 年 5 月～現在に至る
４．北九州市食品衛生懇話会	学識経験者会員・座長	2018 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
１．人事委員会委員 ２．教育予算委員会委員 ３．学科初年次セミナーⅠワーキンググループメンバー ４．学科国試対策委員（担当コマ数：前期 15 コマ、夏期 12 コマ、後期 15 コマ） ５．学生の資格取得推進担当

学部長による評価・改善記入欄（助手については、学科長による評価・改善記入欄） ※この欄は、一切公表いたしません
１．教育活動について ２．研究活動について ３．その他

以上

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　銀光	職名　　准教授	学位　博士(医学)（九州大学　2005 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
分子疫学研究 栄養疫学研究	大腸がん　糖尿病　食生活習慣 遺伝子多型　疫学

研　究　課　題
１．症例対照研究における DNA 修復酵素遺伝子多型と大腸がんに関する分子疫学研究 ２．アルコール関連遺伝子多型と 2 型糖尿病に関する分子疫学研究 ３．コーヒー摂取習慣関連遺伝子多型と 2 型糖尿病に関する分子疫学研究

担　当　授　業　科　目
公衆衛生学（前期） 健康管理概論（前期） 栄養疫学（後期） 管理栄養士演習 I（前期） 管理栄養士演習 VI（後期） 栄養学概論（前期） 衛生学（後期） 初年次ゼミナー

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【公衆衛生学】 聞き取れにくい場合があると予想していたので、できるだけきれいなスライドを作成し、授業内容が分かりやすくすることに気をつけた。新しいシラバスに基づいて、予習・復習をすることを勧めた。
授業科目名【　健康管理概論　】 スライドの数を減らし、授業中の演習を増やして、学生の意欲を出そうとしたので、結果的に時間的な余裕を持つことができた。
授業科目名【管理栄養士演習 I　VI　】 国家試験対策の授業で、演習を中心に行った。また解説プリントなど資料をできるかぎり配布し、授業内容を充実させた。
授業科目名【栄養疫学】 公衆衛生学では、スライドを中心にした授業だったが、学生が教科書を読む習慣があまりないことに気がついた。それで、栄養疫学の授業中、学生に教科書の重要な部分を読ませることを取り入れた。また授業中に発表や討論など応用的内容を取り入れた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
アジア太平洋がん予防学会 日本疫学会 日本癌学会 日本がん疫学研究会 日本公衆衛生学会	会員 会員 会員 会員 会員	2002 年　10 月～現在に至る 2003 年　1 月～現在に至る 2003 年　10 月～現在に至る 2004 年　8 月～現在に至る 2010 年　12 月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 健康管理概論 第 3 版 第 8 章	共著	2019年2月	講談社	栄養学 NEXT　シリーズ 教科書 「社会・環境と健康」 健康管理概論　第 3 版 東あかね・久保加織　編
（学術論文） 1. Association of genetic polymorphisms with erythrocyte traits: Verification of SNPs reported in a previous GWAS in a Japanese population.		2018年2月	*Gene*. 2018　5;642:172-177.	①日本多施設共同コホート研究においで、2006 年と 2007 の間で募集された 35―69 歳、4972 人の男女を対象とした。赤血球特性を備えた 7 つの選択されたＳＮＰの連合を分析しました。TERT rs2736100 遺伝子多型と喫煙習慣の間に重要な相互作用が見られた。 ②　共著者　Seiki T, Naito M, **Guang Yin,** 他9名 ③　役割：データ収集、統計分析、P172-177
2. Associations between Dietary Patterns, ADRβ2 Gln27Glu and ADRβ3 Trp64Arg with Regard to Serum Triglyceride Levels: J-MICC Study.	共著	2016年9月	*Nutrients*. 2016 Sep 6;8(9). pii: E545.	①　日本多施設共同コホート研究においで、食事パターンと中性脂肪の関連、及びアドレナリン受容体遺伝子多型ADRβ3との関連を検討したものである。朝食パターンとアドレナリン受容体遺伝子多型ADRβ3 Trp64Argの交互作用により、中性脂肪レベルと関連していたことが示された。 ②　共著者　Hinako Nanri, **Guang Yin,** 他16名 ③　役割：データ収集、統計

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. ALDH2 polymorphism is associated with fasting blood glucose through alcohol consumption in Japanese men.	共著	2016年5月	*Nagoya J Med Sci.* 2016 May;78(2):183-93.	分析、P1−16 ① 日本多施設共同コホート研究における名古屋大学大幸地区横断研究においで、ALDH2遺伝子多型と血清空腹時血糖値との関連を検討した。ALDH2遺伝子多型は飲酒習慣を通じて、空腹時の血糖値と関連していたことが示された。 ② 共著者 **Guang Yin,** Mariko Naitou, 他16名。 ③ 役割：論文作成、データ収集、統計分析 P183−193
4. Associations between vitamin D receptor (VDR) gene polymorphisms and colorectal cancer risk and effect modifications of dietary calcium and vitamin D in a Japanese population.	共著	2015年3月	*Asian Pac J Cancer Prev.*2015;16(5):2019-26.	① この研究では、福岡大腸がん研究において、大腸癌患者 685 例および対照 778 例の比較検討を行った。ビタミン D レセプターである ApaI 遺伝子多型と大腸がんリスク低下との関連が見られた。 ② 共著者：Takeshige N, **Yin G**, 他 12 名 ③ 役割：データ収集、論文作成 P2019-2026
5. Genome-wide association study of clinically defined gout identifies multiple risk loci and its association with clinical subtypes.	共著	2015年2月	*Ann Rheum Dis.* 2015 Feb 2. pii: annrheumdis-2014-206191. doi: 10.1136/annrheumdis-2014-206191.	① この研究は、1994 名の日本人男性痛風患者と 2547 名の健康な対照を用いた Genome-Wide Association Study である。ABCG2 遺伝子と SLC2A9 遺伝子が痛風発症と関連していることが示唆された。 ② 共著者 Mtsuo H **Yin G** 他 38 名 ③ 役割：論文作成、論文作成、データ収集 doi:10.1136/annrheumdis-2014-206191

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳） なし				
（学会発表） 1. 遺伝子多型と赤血球系検査値との関連：既報ゲノムワイド関連解析結果の検証	共著	2016年1月	第 26 回　日本疫学会学術総会（米子コンベンションセンター）。	①対象者はJ-MICC Study（日本多施設共同コーホート研究）静岡地区ベースライン調査に参加した 35―69 歳の男女4995名である。この研究では、日本人における赤血球系検査値と 7 種の SNP との関連を確認した。 ②清木俊雄、内藤真理子、銀光、他9名 ③第 26 回疫学会学術総会抄録集（P150）
2. がん罹患歴とPTPN11遺伝子多型（rs2301756）の関連：J-MICC Study 静岡地区	共著	2015 年 10 月	第 74 回　日本癌学会学術総会（名古屋国際会議場）	①対象者はJ-MICC Study（日本多施設共同コーホート研究）静岡地区ベースライン調査に参加した 35―69 歳の男女5000名である。この研究では、PTPN11遺伝子多型と女性のがん罹患歴との関連が示された。 ②川合紗世、銀光、浜島信之他5名 ③第 74 回癌学会学術総会抄録集（p280)
3. ABCG2 dysfunction causes not only renal urate overload hyperuricemia but also renal urate underexcretion hyperuricemia	共著	2015年1月	第25回疫学会学術総会（於　名古屋）	①J-MICC Study（日本多施設共同コーホート研究）ベースライン静岡地区調査参加者のうち、2267 名を対象とした。この研究では、ABCG2の遺伝子機能障害は高尿酸血症発症に影響を与えていることが示唆された。 ②共同発表者：松尾洋孝、銀光　他18名

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				③第 25 回疫学会学術総会抄録集（P103) 教育研究業績総数 （2019年3月31日現在） 著書　3 （内訳　単 1,共 2） 学術論文　40 （内訳　単　0, 共　40） 学会発表　25 （内訳　単　0, 共　25)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
なし		

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
情報システム管理運用委員会　委員 2013 年～2019 年 保健福祉学部研究所運営委員会　委員　2017 年―2019 年

２０１９ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2019)）

氏名　　久保　由紀子	職名　准教授	学位　修士（学術）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
栄養教育	乳幼児栄養の実際、栄養教育マネジメント 高齢者の栄養改善、栄養ケアマネジメント

研　　究　　課　　題
・2015 年 1 月に実施した幼児期の食生活及び生活習慣調査から、幼児期の栄養の実際と体位との関連を考察する。また小児肥満予防を目的とした食育活動の展開とその効果についても考察する。 ・高齢者施設における栄養管理、経口摂取による栄養改善の方法について考察する。

担　　当　　授　　業　　科　　目
栄養教育論Ⅱ（前期） 栄養教育論実習Ⅰ（前期） 管理栄養士演習Ⅳ（前期） 栄養学概論（前期） 栄養教育論Ⅰ（後期） 栄養教育論実習Ⅱ（後期） 管理栄養士演習Ⅸ（後期） 臨床栄養活動論（後期） 臨地実習Ⅱ（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【栄養教育論Ⅰ・Ⅱ　】 栄養教育の対象となる全てのライフステージ・ライフスタイル・健康度別に、栄養・健康上の特徴と問題点を捉え対処することができるよう、基礎的理論の解説と併せて実際の場面におけるエピソードを交えて講義し、考え判断する力が備わるよう指導した。また、講義開始時には前週の振り返りを行い、終了時には確認テストを行って各自の予習・復習の助けとなるよう工夫した。
授業科目名【栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ　】 栄養教育論で学んだ理論がどのように展開されていくのか、単なるコピーペーストではなく、各自がマネジメントサイクルの過程を理解し実践していくことができるよう授業を計画した。また、栄養教育は人を対象とした行為である。模擬指導を行い実施後の振り返りを議論することで、理論の理解を深め他者とのコミュニケーションのとり方について学び、自分の考えを纏めて他者に伝えることができるよう場面を設定した。
授業科目名【臨床栄養活動論　】 学内の講義及び実習で学習した臨床の場における管理栄養士の活動について、理論と実際を総合的に理解し、臨地実習に向けて課題発見、解決できる力をつけることを目的に、テーマ別に外部講師を招聘し講義して頂いた。臨地実習の事前学習とすることができるよう、復習として講義後の考察、次週の予習として課題レポートを課した。

授業科目名【臨地実習Ⅱ　】
実習先から課せられた課題について、学内で学んだ理論が実践の場ではどのように応用、展開されていくのか理解できるよう、具体的事例を示して添削指導した。また、実習日程表及び課題を基に説明を加え、今までの学習の振り返りを行い、実践に対応できるよう事前学習の指導した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会 日本病態栄養学会		1973年4月～現在に至る 2000年4月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 1．幼児期の食生活及び生活習慣と体位との関連（第3報）	共	2017年9月	第64回日本栄養改善学会　学術総会 （於　アスティとくしま）	①　幼児期の肥満が成人期の生活習慣病の増加の一因になることが指摘されておりまた、幼児期は生活習慣の基礎づくりの時期である。「幼児期の体位、食生活及び生活習慣」の実態を把握し、今後の食育活動の基礎資料とすることを目的に調査し報告した。 ②　共同発表者名 天本理恵 第62回日本栄養改善学会学術総会要旨集p282

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
平成 29 年度　北九州市食育に関する実態調査　調査結果について	北九州市	○天本理恵 久保由紀子	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
第5回北九州市健康づくり活動表彰選考会議	選考審査員	2017年10月11日
北九州市立保育所給食調理業務受託候補者選定検討会	選定委員	2017年10月3・4日
北九州市小児保健研究会	理事	2013年7月1日～現在に至る
北九州市小児口腔保健学会	理事	2013年2月16日～2018年3月31日
第 25 回北九州市小児口腔保健学会総会・学術大会	シンポジウム座長	2017年6月25日
北九州市丸山公民館栄養講座	講師	2017年7月14日

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
就職委員会　副委員長　　2017年4月1日～2018年3月31日

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　坂巻 路可	職名　准教授	学位　博士（医学）（神戸大学 2005 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
メンタルヘルス不調の予防・改善作用を有するポリフェノールの探索と有効性の解析	副腎髄質細胞、カテコールアミン、ポリフェノール

研　究　課　題
「メンタルヘルス不調の予防・改善作用を有するポリフェノールの探索と有効性の解析」 生活習慣病においては、精神的なストレスも疾患を誘発する一因となり、メンタルヘルス対策が重視されている。本研究では、精神鎮静作用やリラックス効果の知られる香草の浸出液（ハーブティー）に含まれる個々のポリフェノールについて、交感神経系機能へ作用を示すものを細胞レベルで同定し、細胞系での作用機序等の解析と動物を用いた系で、生体内での影響の関連性を解析して、最小有効摂取量・許容限界量や作用機序を多角度から検討していくことを目的としている。

担　当　授　業　科　目
栄養学実習（前期）（栄養学科） 総合演習Ⅱ（前期）（栄養学科） 管理栄養士演習Ⅱ（前期）（栄養学科） 高齢者支援学Ⅰ（前期　集中講義）（栄養学科、福祉学科、看護学科） 臨床栄養管理学　（後期）（栄養学科） 臨床栄養学実習Ⅱ（後期）（栄養学科） 管理栄養士演習Ⅱ（後期）（栄養学科） 臨地実習Ⅱ(後期）（栄養学科） 国際栄養論（後期）（栄養学科） 栄養学（後期）（福祉学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【栄養学実習】 　栄養学実習では、対象者の栄養状態を的確に評価・判定し具体的な栄養管理の方法を提案できる知識と技術の習得を目指している。授業で各回に解説したテーマにおいては、学んだ理論・知識が実体験を通し深まるように実習計画を検討した。昨年度に引き続き、第 15 回目に総まとめの時間を組み入れたことにより、其々の授業テーマにおける重要事項の見直しを行うことができ、統合的な理解に繋げた。
授業科目名【総合演習Ⅱ】 　総合演習Ⅱでは、各回に症例を設定し症例検討を行った。症例の病態についての説明後、各自で栄養ケア計画について考えをまとめ、その後グループディスカッションを行った。グループの意見は、ホワイトボードにまとめ、学生の相互理解を図った。また、全体討議及び教員による解説を行い、正しく理解し学習内容が定着するよう努めた。
授業科目名【前期管理栄養士演習Ⅱ、後期管理栄養士演習Ⅱ】 　管理栄養士演習Ⅱでは、関連する国家試験問題を解き、全ての問題について解説を行った。口頭及びパワーポイント資料による説明を行った。各選択肢については、関連事項も併せて解説し、図・表にまとめる等して理解を深めるよう指導した。解説後、正しく理解したうえで、各自で正文を作成できるよう授業を進めた。後期の管理栄養士演習Ⅱでは、受講生が持っている参考書にも配慮した問題作成を工夫し、理解度に応じた、解説の仕方を検討しながら授業内容の充実に努めた。

授業科目名【臨床栄養管理学】
　臨床栄養管理学では、テキストに沿ったパワーポイント資料による講義を行った。授業中にはできる限り学生へ問いかけをし、学生が能動的に発言することで知識の確認、定着を図れるよう授業を進めた。
講義の最後には、学生がポイントを理解しやすいように、毎回小テスト（またはそれに代わるもの）を行い、認を行った。正答できていない問題については、返却時に解説を行い、正しい知識の定着を図った。

授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】
　高齢者支援学Ⅰにおいては、福祉分野、保健医療分野、工学・技術分野の専門性と特徴を活かしつつ、アクティブシニアが活動的に生活し続けるための支援方法等について理解を深めるため、西南女学院大学、九州歯科大学、西日本工業大学の３大学による合同で、夏期集中講義が２日間行われた。本年度も、１日目に講義、２日目に演習が組まれ、３ 大学の学生が交流を図れるよう班編成が行われた。本年度は、受講理由として、昨年度、本科目を受講した先輩から感想を聞いて受講したという声が多く聞かれたように感じ、この流れが次年度にも繋がるよう講義内容の改善に努めたい。

授業科目名【臨床栄養学実習Ⅱ】
　臨床栄養学実習Ⅱでは、各回に設定されたテーマとなる疾患の病態について解説し、献立の示範をしながら、調理操作におけるポイントの説明を行った。グループで実習を行うため、調理の際には、作業工程表を事前に作成し作業内容の確認や作業の負担に偏りがないように作業担当者を記載するよう指示した。また、次週の実習内容について、事前に献立等の資料を配布し、概要を説明し備えた。今後も、実践的な理解が深まるよう、実習内容の充実を図りたい。

授業科目名【臨地実習Ⅱ】
　臨地実習Ⅱでは、医療施設における実習に臨むにあたり、事前オリエンテーション、事前学習が進められた。事前学習では、実習における学びの明確化を図り、また実習施設からの課題においては、個々の学生に対する細やかな指導に努めた。また、実習期間中は、巡回指導を行い学生の実習態度や実習施設の状況の把握に努めた。また、実習終了後は、実習期間中の様々な出来事についての事後指導の強化に努めた。実習報告会では、各医療施設における学びや課題の共有を図り統合的な理解に繋げる。

授業科目名【国際栄養論】
　国際栄養論では、我が国の栄養問題また栄養政策について、十分に理解したうえで世界の栄養問題について理解を深めることができるよう、講義を進めた。昨年度に引き続き、情報収集においては、図書館やパソコン室の利用、JICA 研修施設における体験学習を通して、世界の食生活や栄養問題について多くの資料が得られるよう授業計画をたて進めた。また、それらをまとめて発表を行うことで知識の定着を図った。更に、知識の確認のため、２回の小テストを行った。

授業科目名【栄養学　福祉学科】
　福祉学科の「栄養学」では、日常生活に関連づけて栄養学を身近に感じ、興味をもって講義に臨めるよう工夫した。栄養素は種類が多いため、特徴を整理しながら理解できるよう授業内の充実に努めた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養・食糧学会		2003 年～現在に至る
日本栄養改善学会		2003 年～現在に至る
日本栄養士会		2004 年～現在に至る
日本薬理学会		2006 年～現在に至る
日本公衆衛生学会		2006 年～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） フラボノリグナン類であるシリマリンがカテコールアミン分泌とインスリン分泌に及ぼす影響	共著	2018.7.21 ～22	第 13 回トランスポーター研究会 年会	坂巻路可、豊平由美子、石兼真、高橋富美 ポリフェノール化合物であるシリマリンのカテコールアミン分泌とインスリン分泌に及ぼす影響について検討した結果を報告した。
柑橘類フィトケミカルのカテコールアミン生合成・分泌に及ぼす影響	共著	2018.7.21 ～22	第 13 回トランスポーター研究会 年会	豊平由美子、坂巻路可、石兼真、高橋富美 柑橘類の特融の機能成分のカテコールアミン生合成・分泌に及ぼす影響について検討した結果を報告した。
Flavonolignan である Silybin のカテコールアミン分泌とインスリン分泌に及ぼす影響	共著	2018.11.17	第 71 回　日本薬理学会西南部会	坂巻路可、豊平由美子、石兼真、高橋富美 フラボノリグナンであるシリビンのカテコールアミン分泌とインスリン分泌に及ぼす影響について検討した結果を報告した。
カテコールアミン動態に及ぼす柑橘類機能成分の影響	共著	2018.11.17	第 71 回　日本薬理学会西南部会	豊平由美子、坂巻路可、石兼真、高橋富美 柑橘類機能成分のカテコールアミン動態に及ぼす影響について検討した結果を報告した。
MIN6 細胞からのインスリン分泌に及ぼすフラボノリグナン類シリビンの影響	共著	2019.3.14 ～3.16	第 92 回　日本薬理学会年会	坂巻路可、豊平由美子、石兼真、高橋富美 フラボノリグナンであるシリビンのMIN6細胞からのインスリン分泌に及ぼす影響について検討した結果を報告した。

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究業績　総数　(2019年 4月6日現在) 著　書　7　(内訳　単0，共7) 学術論文　16　(内訳　単0，共16) 学会発表　38　(内訳　単0，共32)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
メンタルヘルス不調の予防・改善作用を有するポリフェノールの探索と有効性の解析	科学研究費助成事業(平成28年度基盤研究C（一般)	○坂巻路可 (豊平由美子)	700,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
産業医科大学訪問研究員	訪問研究員	2004年4月 ～ 現在に至る
福岡県研究教育栄養士協議会	運営委員及び連絡委員	2010年4月 ～2017年6月

学内における活動等　(役職、委員、学生支援など)

研究紀要委員	委員	2016 年 4 月 ～現在に至る

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　相良かおる	職名　准教授	学位　博士（工学）奈良先端科学技術大学院大学

研　究　分　野	研究内容のキーワード
情報科学：自然言語処理	自然言語処理　辞書　データベース　医療用語 日本語学　語彙調査　語彙分類

研　究　課　題
医療文書の分かち書き用辞書ComeJisyoを作成し無償公開している。 実践医療用語を対象とし、語彙調査および語彙分類に関する研究に着手している。

担　当　授　業　科　目
情報処理基礎　（前期）（栄養学科） 情報処理応用　（後期）（栄養学科） 健康情報処理論　（前期）（栄養学科） 健康情報処理実習（後期）（栄養学科） 卒業研究・演習　（通年）（栄養学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　情報処理基礎】 「情報科学演習１」の科目名が「情報処理基礎」に変更された。 本授業では、情報処理に必要な基本的知識、クラウドコンピューティングやSNS等の最新のICTに関する情報、インターネット犯罪の現状および情報倫理などの講義と、Word及びExcelの基本操作の演習が含まれる。タイピング教材には日本国憲法全文と、管理栄養士国家試験に頻出するカタカナ語を用いている。
授業科目名【　情報処理応用】 本授業では、Wordの演習としては、「ネット依存症の予防」等の実用的なパンフレットの作成、Excelの演習としては、銀行およびクレジット会社で使われている利息計算、そして社会調査に必要な知識・スキルを学ぶための教材としてジェンダー統計や生活基本調査等の統計資料を用い、情報の加工と表現法を行っている。また地域社会の一員としての貢献について気付き、学ぶために、自分の住む地域の名物料理、名産の食材とそれらの栄養成分、機能等を調べ、地域活性化事業を提案し、レポートにまとめ、PowerPoint を使ったプレゼンテーションの演習を行っている。パンフレットおよびプレゼンテーションについては、評価票を用いてクラス全員で評価し、成績評価に反映している。 また、人工知能（AI）が身近なところで利用されるようになってきたこともあり、コンピュータとの対話を経験するためにプログラミング言語VB（Visual Basic）を使った実習を行った。

授業科目名【　健康情報処理論　　】 マスメディアやインターネット上で流布している健康情報の信頼性の評価方法と、自分が必要とする健康情報の収集方法、そして科学的根拠を示す上で基本となる推測統計学の基本を教える授業であるが、適切な教科書がなく、毎回資料を配布して授業を行っている。「フードファディズム（Food faddism）」と「3 た論法（飲んだ、治った、効いた）」については、具体的な事例を紹介し、また身近にある事例を見つけて信頼性を評価するレポート課題を課し、問題解決型の授業を行っている。 資格取得のため、膨大な知識を暗記する科目が多いことを踏まえ、本授業では、暗記型、一方向型の講義ではなく、学生自身で情報を吟味し、問題を見付け、意思決定する過程を学ぶ「教えない」授業を心掛けている。
授業科目名【　健康情報処理実習　】 本授業は、「現代社会と統計」、「健康情報処理論」で学んだ知識を前提とし、「栄養疫学（栄養学研究）」や「公衆栄養」に必要な統計的手法を学ぶ必須科目である。管理栄養士として調査研究する際に必要な、食に関わるアンケート調査票の作成、実施、集計、分析、報告書の作成という一連の流れに沿って学生参加型、共同学習型の授業を構成し、成果物が卒業後も活用出来るように、教材（統計分析やグラフ作成用課題の Excel シート等）を作成している。また、評価においてもグループ評価 20%、課題提出 20%、授業貢献 10%とし、毎回の授業の取組を評価するようにしている。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
情報処理学会		1996 年
教育工学会		2000 年
医療情報学会		2002 年
日本看護科学会		2004 年
大学女性協会		2008 年
日本女性科学者の会		2009 年
言語処理学会		2011 年
情報知識学会		2014 年

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 1.　『養生訓』の自動形態素解析における辞書の影響	単著	2018 年	情報処理学会シンポジウムシリーズ Vol.2018.No.1.人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 p.153-160.	全 8 頁 相良かおる、 江戸中期に書かれた「養生訓」の校訂版テキストデータと現代文で書かれた抄訳テキストデータを対象に全 6 種類の辞書を組み合わせて形態素解析を実施した結果について述べている。

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表） １．看護師・助産師・管理栄養士国家試験に含まれる漢字調査	共著	2018.7	第 19 回日本医療情報学会看護学術大会論文集,p.137-140	相良かおる, 橋本直幸, 小野正子 看護師・助産師・管理栄養士国家試験問題冊子5年分のテキストデータに含まれる漢字調査
2.　実践医療用語の語構成要素抽出の試み	共著	2018.9	言語資源活用コーパスワークショップ 2018　発表論文集, p.462-466	全4頁 内山清子、岡照晃，東条佳奈，小野正子，山崎誠，相良かおる 本研究では複数の語からなる実践医療用語の語構成要素の抽出を試みる。
3.　実践医療用語に現れる語構成要素の辞書構築にむけて	共著	2018.9	計量国語学会第六十二回大会　予稿集, p.7-12	全4頁 東条 佳奈，内山 清子, 岡 照晃，小野 正子, 相良 かおる, 山崎 誠 本発表では，研究利用のために医療機関より提供された医療記録と，国家試験問題に使われている実践医療用語を登録した ComeJisyo および現在構築中の構成要素辞書を言語資源として紹介し，複数の語からなる実践 医療用語の語構成要素抽出の方法を提案する
4.　「UTF 版実践医療用語辞書 ComeJisyo1.0 の作成」	共著	2018.11	第 38 回医療情報連合大会,p.508-511	全4頁 相良 かおる, 小野 正子, 山崎 誠 UTF 版の実践医療用語辞書 ComeJisyo1.0 の作成と公開
5.　実践医療用語辞書 ComeJisyoSjis-1 の作成	共著	2019.3	言語処理学会　第 25 回年次大会　発表論文集,p.1491-1494	全4頁 相良かおる，小野正子 ComeJisyoV5-1に医師記録に含まれる用語を約4万4千語を追加したShift_JIS版の辞書について述べている。

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				(2019年4月1日現在) 合計109 学術論文　20 国内会議　49 国際会議　7 テキスト・参考書　3 学位論文（修士・博士）　2 紀　要　6 報告書　2 随　筆　9 図　書　4 招　待　2 特　許　5

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
研究利用のためのＵＴＦ版実践医療用語辞書の作成と文字コード依存文字の調査	学内共同研究	○相良かおる、 小野正子 （山崎誠）	630,000
語形成および意味的情報を付加した実践医療用語辞書の構築	日本学術振興会	○相良かおる 小野正子 （山崎誠）	3,900,000 (全 13,390,000)
電子カルテと連携する音声認識システムのニーズ 把握及び音声認識システムに用いられる医療用語辞書の編纂に 関する研究	厚生労働省 科学研究補助金 臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業	○（野田和敬） 研究協力 相良かおる	7,482,000 (2018 年)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
実践医療用語辞書 ComeJisyo プロジェクト（特定非営利活動法人　言語資源協会正会員）	代表	2012 年～現在
エフコープ　情報開示審査会	審査委員	2017 年 7 月－2019 年 6 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
◆　図書委員 ◆　学科 FD　Excel 講習会講師

２０１９ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2019)）

氏名　　高崎　智子	職名　　教授	学位　博士（医学）（九州大学　2001 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
予防医学	がん検診、乳がん、子宮がん、生活習慣

研　　究　　課　　題
健康寿命の延伸を図るため、一般市民への啓発活動を通じて、学ぶことによる疾病予防を目指す。

担　　当　　授　　業　　科　　目
疾病診断治療学Ⅰ（前期）（栄養学科） 臨床栄養学実習Ⅰ（前期）（栄養学科） 病理基礎医学（後期）（栄養学科） 疾病診断治療学Ⅱ（後期）（栄養学科） 管理栄養士演習Ⅰ，Ⅱ（前期、後期）（栄養学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【 疾病診断治療学Ⅰ】 スライドに図表を多用し、医学知識を視覚的に理解しやすいようにした。また実際に社会で問題となっている事項を取り上げ、学んでいる医学内容との関連を具体的に提示した。 授業の最後に小テストを行い、理解度を確認した。
授業科目名【 臨床栄養学実習Ⅰ】 小グループに分け、全員が発言する機会を持つよう討論形式の実習を行った。 実習内容を発展させた課題を提示し、レポート形式で提出させた。
授業科目名【 管理栄養士演習Ⅰ，Ⅱ 】 演習問題の直接の内容にとどまらず、その回答を導き出す過程や他領域との関連を説明し、多面的に考える習慣付けができるようにした。
授業科目名【　　】

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期

２０１８～２０１９年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
・厚生労働科学研究費補助金 第 3 次対がん総合戦略研究事業「乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験（J-START）」	研究参加施設責任者、コーディネーター	2008 年 7 月～2018 年 3 月
・福岡県医師会 男女共同参画部会	連絡会議委員	2009 年 8 月～2018 年 3 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
倫理審査委員会　委員　2019 年 4 月 1 日～現在に至る

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　手嶋　英津子	職名　　講師	学位　修士（栄養科学）(中村学園大学 2013 年)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
栄養教育	食行動　QOL　食育　ICT 教育

研　究　課　題
・ICT を活用した新しい食育の授業デザインの構築とタブレット端末用教材アプリの開発 ・北九州市における骨粗鬆症の現状ならびに骨密度改善に対する栄養支援の効果

担　当　授　業　科　目
栄養カウンセリング論（前期） 栄養教育論実習Ⅱ（後期）(分担) 学校栄養指導論Ⅰ（前期） 学校栄養指導論Ⅱ（後期） 教職実践演習(栄養教諭)（後期）(分担) 事前及び事後の指導(三期)（分担) 栄養教育実習（通年） 管理栄養士演習Ⅱ(通年) 卒業ゼミ(通年)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【栄養カウンセリング論】 本科目は、人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性や、カウンセリングマインドを持つことの重要性を理解することが目標である。授業は、ワークシートを活用し、テキストとパワーポイントを使用して解説した。パワーポイント資料や、補足資料はプリントして配布した。また、栄養カウンセリングに必要なスキルを身に付けることができるように、多くの事例を提示し、グループワークやロールプレイを実施した。さらに、ロールプレイによる発表を行い、フィードバックすることで多くの気づき(身だしなみ、姿勢、態度、話し方など)を共有できた。今年度の課題は、学生のコミュニケーションスキルを高めることであったため、学生同士で意見を共有する時間を毎時間設けた。また授業の改善・充実のために、授業の最後に振り返りを行い、学生の理解度や課題を把握するように努めた。
授業科目名【栄養教育論実習Ⅱ】 本実習は、栄養カウンセリング論や栄養教育論で学んだ知識と関連付けて、栄養カウンセリングに必要な技術を修得し、疾病別に対応した栄養教育を実践的に修得することを目標とする。個人栄養支援では、主にロールプレイングを実施し、聞き取りによる食事調査や栄養カウンセリングの実際を体験した。また、栄養教育に使用する媒体として、リーフレットやパワーポイントの作成を行った。提出された媒体は、全員に個別指導を行いながら返却し、訂正を繰り返すことで資料作成能力を高めることができたと考えられる。授業での課題や発表時には、必ずフィードバックをする機会を設け、各自の課題を見つけ改善へと繋がるように工夫した。

授業科目名【学校栄養指導論Ⅰ】

本科目は、栄養教諭の使命と役割をよく理解して、児童生徒の食に関する実態を把握し、食に関する課題を解決するための、意識・態度・姿勢を持つことを目標とする。栄養教諭の職務内容や、職務の実態を学ぶ数少ない専門科目である。昨年度は受動的な学習が多かったため、今年度は、グループワークや発表を多く取り入れ、教員として必要である思考力や表現力が身に付くように工夫した。また、ICT 機器を活用できる栄養教諭養成のために、電子黒板やタブレット端末等の ICT 機器を積極的に取り入れた。

授業科目名【学校栄養指導論Ⅱ】

本科目は、学校栄養指導論Ⅰの基礎学習をふまえ、小・中学校の教科における食に関する指導内容や授業計画案を作成し、具体的に指導する実践力を身に付けることを目標とする。授業は、非常勤講師の先生と担当し、主にワークシートを中心とし、重要なポイントが明確にわかるようになっている。さらに、小テストを毎回実施することで、重要ポイントが確認でき、知識の定着へと繋がった。授業計画案～模擬授業は、学生の理解度に合わせて個別指導を行った。また、教員としての表現力を高めるために、毎時間、異なる対象者を設定し、食や健康に関連する内容で１分間スピーチを実施した。回を重ねるごとに話し方や態度が変化することで、学生の自信へと繋がり、大変有益であったと実感した。

授業科目名【事前及び事後の指導】

本科目は、栄養教育実習の事前・事後指導を実践する科目である。非常勤講師の先生と担当し、栄養教育実習を受けるに当たっての心がまえや、予備知識の確認、食の指導に関わる授業研究についての解説を行った。食に関する指導については、模擬授業を繰り返し実施、評価することで、教員としての姿勢や取組について意識を高めた。また、授業外においても個別指導を実施し、指導案の作成や課題の添削等、できる限りの指導を行った。実習中には、全ての実習校を訪問し、校長先生や栄養教諭の先生との意見交換を行い、次年度以降の実習内容の改善に繋げた。実習後は、実習報告書および発表資料を作成し、実習報告会で発表をした。また、その報告会には３年生も参加し、次年度の栄養教育実習へのモチベーションを高めることに繋げた。

授業科目名【教職実践演習(栄養教諭)】

本科目は、教職課程担当者と協力して、これまでの教職課程での学習と栄養教育実習を振り返りながら、栄養教諭としての使命感や、実践的技能と資質・能力の向上を目標とする。将来、栄養教諭となる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能を補うことが必要である。そのために、4 年間の学びの振り返りを行い、課題を解決するための授業を実施した。特に、指導力不足に焦点を当て、模擬授業を実施し課題解決に取り組んだ。また、外部講師として現職の栄養教諭(中学校)を招き、講義後に交流の場を設けることや、小学校への研究授業の参加等、教育現場との積極的な関わりを通して、栄養教諭の職務や意義と役割を再認識し、学びの集大成となるように工夫した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会	正会員	2003 年４月～2013 年３月 2015 年４月～現在に至る
日本栄養改善学会	正会員	2003 年４月～2013 年３月 2015 年４月～現在に至る
日本病態栄養学会	正会員	2008 年４月～現在に至る
日本食育学会	正会員	2015 年４月～現在に至る
日本健康教育学会	正会員	2016 年４月～現在に至る
日本骨粗鬆症学会	正会員	2017 年７月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） 1. The 7th Asian Congress of Dietetics	共著	2018年7月	The 7th Asian Congress of Dietetics （於　Hong Kong）	① In order to promote informatization of education for the 2020's, ICT equipment has been spreading at educational sites. Along with that, there is a demand for the development and provision of teaching materials to support children's new learning, but almost no applications are intended for use in educational classes. Therefore, at our university we conducted development of applications and food education events using applications for students focusing on training administrative nutritionists who can utilize ICT, so report on their efforts.
2. 授業用アプリ「食育の授業ーおやつ編ー」を用いた食育の実践ー小学生を対象とした食育イベントの取り組みー	共著	2018年9月	第65回日本栄養改善学会学術総会 （於　朱鷺メッセ）	①本研究では、2020年からの教育の情報化に向けて食育の授業のためのアプリを開発した。対象は小学生とし、「望ましいおやつを選択すること」を目的としている

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				。今回、本アプリを使った食育イベント実施したので報告をした。今後は教材の作成や小学校での授業実践が課題である。 ②手嶋英津子、領木信雄 ③第65回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集
3. 管理栄養士養成課程における実践的食育活動が学生の食生活ならびに学習に対する自己評価に及ぼす影響	共著	2018年9月	第65回日本栄養改善学会学術総会 （於　朱鷺メッセ）	①本学では地域住民の健康増進に貢献することを目的とした公開講座を開催し、管理栄養士育成の一環として、学生の積極的参加を促している。そこで、実践的食育活動が学生の食生活および学習に対する自己評価に及ぼす影響について、検討した。実践的食育活動は学生自身の食生活や学習に対する意識向上としての教育効果が高いことから、今後は学生が基本的資質を修得できる活動期間や時期等についての検討が必要である。 ②石井愛子、田中貴絵、手嶋英津子、山田志麻、境田靖子、田川辰也、近江雅代 ③第65回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P261)
4.　大量調理業務における総エネルギー消費量、歩数および運動量の実際～実施回数による比較検討～	共著	2018年9月	第65回日本栄養改善学会学術総会 （於　朱鷺メッセ）	①大量調理業務における身体活動量について、実施回数による比較検討を行った。総エネルギー消費量、歩数および運動量は実施回数による変化はみられず、170食/8名での大量調理業務の身体活動量の実際を把握することができた。一方、時間帯ごとの歩数では第1回に比し、第4回は10:00～12:00で増加、10:00～12:00で減少し、経時的変化に違いがみられた。これは大量調理の経験により、食材の下処理および調理作業を迅速に行うようになったことで、盛り付けおよび提供作業がより効率的であったためと推察

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				される。 ②石井愛子、手嶋英津子、境田靖子、近江雅代 ③第65回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P315)
5. 大量調理業務における調理歩数の実際ならびに経時的変化	共著	2018年11月	第14回日本給食経営管理学会学術総会（於　女子栄養大学）	①本研究では、調理中の歩数の経時的変化から、大量調理に対する適応性を検討した。調理開始直後 8：00～10：00の歩数は、両群ともにばらつきがみられた。10：00～12：00では低値群のばらつきは小さくなり、歩数は大きく減少したが、高値群のばらつきおよび歩数の大きな変化はなかった。12：00～14：00では低値群のばらつきは小さいままであったが、高値群ではばらつきが大きく、歩数もほぼ変わらなかった。②近江雅代、石井愛子、手嶋英津子、境田靖子 ③第 14 回日本給食経営管理学会学術総会講演要旨集
6. 大量調理における疲労実態ならびに身体活動に及ぼす影響～第2報：身体活動量の実際～	共著	2017年11月	第14回日本給食経営管理学会学術総会（於　女子栄養大学）	①大量調理における総消費量、歩数および運動量の実際と経時的変化を検討した。対象は大量調理に携わる学生8名、調理当日を含む1週間、生活習慣記録機を装着し、身体活動量を測定した。調理開始時刻は8:00、終了時刻は 14:00、歩数の記録は調理開始から2時間ごとに行った。調理後の総消費量、歩数、運動量のいずれも、有意に高値を呈した。調理後の歩数は前日に比し圧倒的に多く、特に10:00～12:00 までの歩数が著しく上昇した。大量調理作業は日常生活に比較して、1 日の総消費量、歩数および運動量が高くなり、特に『盛り付け～提供作業』において、歩数のピークが認められた。

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				②石井愛子、手嶋英津子、境田靖子、近江雅代 ③第 14 回日本給食経営管理学会学術総会講演要旨集 教育研究業績　総数 (2018. 3. 31現在) 著書 1(内訳：単0、共 1) テキスト 1(内訳：単0、共 1) 総説 1(内訳：単0、共 1) 学術論文 5(内訳：単1、共 4) 学会発表 39(内訳：単0、共33)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
ICT を活用した新しい授業デザインの構築とタブレット端末用教材アプリの開発	西南女学院大学共同研究費	○手嶋英津子 領木信雄	1,245,000
『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開	西南女学院大学共同研究費 一般社団法人全国栄養士養成施設協会助成金	○田川辰也 栄養学科教員	1,067,000 70,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座	「骨密度測定」担当	2015 年 4 月～現在に至る
・北九州市保健福祉局主催　食育キャンペーン 2017	「骨密度測定」担当	2018 年 8 月 22 日
・北九州市企救丘市民センター (食育アプリを使った食育イベント)	責任者	2018 年 12 月 15 日 2019 年 2 月 9 日

・発酵ジャパン	ブース担当	2019 年 3 月 10 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・教職課程委員会（2015 年 4 月～現在に至る） ・学生委員会 ・教員採用試験対策個別指導（一次試験、二次試験） ・教員免許更新講習会テキスト担当、講師

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　田路　千尋	職名　　准教授	学位　博士（学術）（奈良女子大学 2014 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
栄養教育、公衆栄養学	食育、食事調査

研　究　課　題
これまでの研究においては、地域住民に対して、開発した食事調査法を用いた栄養教育と運動教育を行い、減量を目的とした前向き介入研究を実施してきた。今後も食事調査法の近未来のあり方を検討し、栄養教育による効果的なエビデンスの蓄積に努めたい。また、小倉駅商店街で SAT システムを使用した食事診断および学童保育での食育を行うことで地域貢献活動とした取り組みをしていく予定である。

担　当　授　業　科　目
管理栄養士演習Ⅱ・ブラッシュアップゼミ（栄養教育論）、栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ　、栄養教育論Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養活動論、臨地実習Ⅱ、高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　管理栄養士演習Ⅱ（栄養教育論）担当】 「栄養教育論」の分野の講義を担当。国家試験対策の模擬試験受験後に配布される解答・解説書は、解説が簡素すぎることが多いため、「栄養教育論」分野に苦手意識をもつ学生がいる現勤務校では、十分な学習効果が得られないと考えられた。出題された問題の各選択肢について、解答のみにとどまらず、その範囲で系統化して習得しておくべき基礎知識を解説したプリントを作成し、毎回の講義を行っている。
授業科目名【　栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ　担当】 3 回生配当科目「栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ」を担当。対象者の健康・食生活に関する情報収集、優先課題の特定、目標設定、学習計画の立案、実施、評価およびそのフィードバックまでの PDCA サイクルの作業を体験的に学び、活用できるスキルを習得することを目標に、個人・集団を対象とした栄養教育の実践を指導している。
授業科目名【「栄養教育論Ⅰ」「栄養教育論Ⅱ」担当】 管理栄養士国家試験の出題基準における「栄養教育論」分野は、出題範囲が広く、教科書の分量も多い。毎回の講義は、教科書に加えて、パワーポイントによるスライド（ムービー等も利用）とプリント資料（書き込み欄付）を作成・配布し、テキストとして利用した授業により、学生の理解度が深まる工夫を行っている。また、小テストを実施し、学生の理解度を把握しながら授業を進めている。1 回生から履修する科目のため、教科書に記載の内容を習得することに加え、この科目を学ぶ重要性を理解させることもまた必須である。そこで、国家試験に直接関わる内容であるという意識喚起を目的として、国家試験において出題頻度が高い用語や知識についてはその旨を強調するようにしている。時には過去問を示して解説を行うことで、講義で学習する内容が実際に国家試験で出題されているということを理解させるようにしている。

授業科目名【専門科目「臨床栄養活動論」担当（分担）】
「臨床栄養活動論」を分担。傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、これまでに修得した栄養教育の知識や技術を基礎として、栄養ケア計画の作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育について修得することを目標とする。実務家教員として、病院管理栄養士を招聘し、第一線の臨床の場での管理栄養士の活動ならびにチーム医療での管理栄養士の役割をより深く理解する。また、将来、医療の場で活躍する場合に必要な知識を広く深く学ぶとともに、医療人としての心構えを培う。

授業科目名【専門科目「臨地実習Ⅱ」担当（分担）】
臨地実習Ⅱでは、病院へ実習に行く学生の指導を行っている。実習期間中に実施される実習課題や研究授業内容を事前に何度も確認し、より円滑に実施できるように指導している。臨地実習の巡回時には、実習中の学生への助言及び学生の研究授業の講評を行っている。実習報告会では、各施設での実習内容について講評を行い、教員としての立場から実習の効果が最大限に得られるよう努めている。

授業科目名【学部共通科目「高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ」担当（分担）】
西南女学院大学、九州歯科大学、西日本工業大学の 3 大学による合同授業及びチュートリアルを行っている。福祉分野、保健医療分野、工学・技術分野分野の実務家教員が自らの実践経験を踏まえて解説・実技指導を行っている。栄養分野では、高齢者の低栄養・過栄養と高齢者に特有な病態との関連、必要なエネルギー及び栄養素とその食事バランス及び栄養状態の評価・判定について指導している。また 2018 年度高齢者支援学での公開講座(10 月)「わらせせいぞう さん北九州を語る」では、講演会運営における会場設定等を行った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会会員		2003 年 4 月～現在に至る
日本栄養改善学会会員		2003 年 4 月～現在に至る
日本疫学会会員		2005 年 4 月～現在に至る
日本衛生学会会員		2009 年 4 月～現在に至る
日本学校保健学会会員		2013 年 4 月～現在に至る
日本予防医学会会員	第 16 回日本予防医学会学術総会企画運営委員	2017 年 6 月～現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
地域貢献活動として、シニアサマーカレッジ「彩りの講座・学びの夏（2018 年）」では、「大丈夫ですか？あなたの食事バランス（講義）」を担当した。地域住民に対してシニア世代の食事バランスガイドを用いた講義を行った。

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　南里　宏樹	職名　　教授	学位　博士（医学）（九州大学　1983 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
栄養代謝学　生化学　臨床栄養学　細胞生物学	活性酸素　酸化ストレス　抗酸化防御機構 糖毒性　糖化タンパク質　血管内皮細胞

研　究　課　題
栄養が健康に及ぼす影響を、おもに活性酸素による酸化ストレスと高血糖による糖毒性に注目して、生化学・細胞生物学的手法を用いて解析する。特に、高血糖による血管内皮細胞の機能障害を、活性酸素に対する抗酸化防御機能との関連において検討する。

担　当　授　業　科　目
基礎栄養学Ⅰ（旧カリキュラム；2 年生前期）2 クラス 基礎栄養学Ⅰ（新カリキュラム；1 年生後期）2 クラス 基礎栄養学Ⅱ（旧カリキュラム；2 年生後期）2 クラス 臨床栄養学実習Ⅰ(前期；分担)　2 クラス 運動・環境と栄養(後期；分担)　2 クラス 栄養学概説(後期；分担) 管理栄養士演習Ⅰ(通年；分担)　2 クラス 卒業ゼミ(通年)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　基礎栄養学ⅠおよびⅡ　】 基礎栄養学は、化学を苦手とする学生が多いので、生化学と関連づけながら講義した。また、講義の始めに前回の講義内容を簡単に復習して、全体の流れが分かるように留意し、重要事項は繰り返し強調するように心がけた。講義で使用したスライドは、すべて印刷して資料として配布した。また、管理栄養士国家試験の過去問題(2000 年～2018 年)の解説集、基礎栄養学の重要項目の練習問題を早期に配付し、日ごろの予習復習に役立つようにした。
授業科目名【　臨床栄養学実習Ⅰ　】 糖質代謝、脂質代謝、たんぱく質・アミノ酸代謝、エネルギー代謝、貧血に関連する臨床検査指標の測定、数値の解釈について、各種疾患の病態と栄養代謝を関連づけて理解できるように留意した。また、実習内容の栄養学的および医学的意義について考えさせるための課題を出し、レポートを提出させた。
授業科目名【　管理栄養士演習Ⅰ　】 ８人の教員が分担する栄養学科 4 年生のための演習で、「基礎栄養学」分野と「応用」分野を担当した。 2000 年～2018 年の基礎栄養学に関する管理栄養士国家試験の問題について、分野別に分類し、分野ごとに 10～15 年分の問題をまとめて解くやり方で演習を実施した。その際、問題に関連する周辺事項を幅広く理解させるため、問題についての詳しい解説や重要事項をまとめたプリントを配布した。演習と自主講義と併せて、前期 9 回（うち自主講義 7 回）、後期 10 回（うち自主講義 8 回）実施した。また、夏休み期間に集中演習を 2 日間(4 コマ)、後期終了後、国試までの間に集中演習を 4 日間（8 コマ）実施した。

授業科目名【　運動・環境と栄養　】 三人の教員が分担する栄養学科３年生のための講義で、「環境と栄養」を担当した。 ストレス、体内リズム、気温、気圧、重力など５つの環境因子について、その変化と「栄養」との関りを身近な具体例を挙げながら講義した。
授業科目名【　栄養学概説　】 三人の教員が分担する「食事摂取基準」と「食品成分表」に関する栄養学科１年生のための講義で、「食事摂取基準」の基本的な考え方について講義した。
授業科目名【卒業ゼミ】 基礎栄養・応用栄養・臨床栄養に関連するテーマを自分で選択し、それについて主に文献的に調査・検討し、最後にレポート(パワーポイントによる発表とワードによる論文)にまとめるという形式で実施した。文献の集め方、発表の仕方、レポートの作成方法について指導した。毎年、テーマの選択は、自分の興味があるものを選ぶようにしているので、主体的な取り組みができていると思う。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生化学会 日本栄養・食糧学会 日本肥満学会 日本栄養改善学会 2015 年第 62 回日本栄養改善学会学術総会実行委員会	 総務委員会副委員長（2014 年～2015 年）	1977 年 4 月より現在に至る 2003 年 5 月より現在に至る 2008 年 4 月より現在に至る 2014 年 1 月より現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				
				教育研究業績　総数（2019..3.31 現在） 著書　8　（単 0　共 8 ） 学術論文　64　（単 3　共 61 ） （Proceedingsなど5編を含む） 学会発表　97　（単 0　共 97）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
図書館長（2016 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日） 図書委員（委員長）（2016 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日） 研究紀要委員（2016 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日） 教員免許更新講習・講師（2018 年 8 月 22 日） 免許法認定講習・講師（平成 30 年認定講習・栄養学；8 月 23 日・24 日　於・福岡教育大学）

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　船越　淳子	職名　　講師	学位　博士（栄養科学）（中村学園大学大学院 2010 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
食品学	穀類　豆類　抗酸化活性　ポリフェノール プロシアニジン　アントシアニン

研　究　課　題
穀類ならびに豆類における抗酸化活性の比較

担　当　授　業　科　目
食品学Ⅰ、食品学実験、ﾌｰﾄﾞｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ論:1年生 後期 食品学Ⅱ、 食品栄養実習:2年生 前期 食品消費・流通:2年生 後期 管理栄養士演習Ⅰ:通年 初年次ｾﾐﾅｰⅡ:1年生 後期

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【食品Ⅰ】 食品成分の分類、構造、特性を学ぶ教科であり、専門基礎教科にあたる。化学的に理解しなければならない点もあるため、文章や説明だけでなく、視覚的からも理解してもらうよう、テキスト以外の図表を利用した。また、各章において必ず理解しなければならない点を示して、講義を行った。
授業科目名【食品学Ⅱ】 食品ごとの、分類、栄養成分、特性、用途について学ぶ教科であり、専門基礎教科にあたる。食品の種類は多数あるため、板書を中心として学生自身で重要な点をまとめてもらうように授業を進めた。さらに、15 回目のまとめの授業の際に、各章を振り返り、重要な点を再度表示した。
授業科目名【フードスペシャリスト論】 フードスペシャリスト資格を取得するための必須教科であり、1 年前期に開講される。しかしながら資格試験を受験する時期が 3 年後期である。その為、資格試験の勉強の際に、要点を見返すことができるようにという点にも配慮し、まとめのプリントを作成し、学生への課題（レポート）とした。
授業科目名【食品消費・流通】 フードスペシャリスト資格を取得するための必須教科であり、2 年生後期に開講される。しかしながら資格試験を受験する時期が 3 年後期である為、資格試験の勉強の際に、要点を見返すことができるようにという点にも配慮し、まとめのプリントを作成し、学生への課題（レポート）とした。
授業科目名【食品学実験】 食品の性質について実験を通して体得する授業である。実験の基礎的操作を再度確認するため、基礎的実験の項目をおこない、その後に食品成分に関する実験を行った。実験の原理や各実験でのポイントを実験前の講義で開設した。さらに、実験の流れは実際の器具を使って説明を加えた

授業科目名【食品栄養実習】 　加工食品を製造する実習を通して、製造原理やその特徴について体得する実習である。製造原理は実習の前の講義で説明を行い、製造方法についてはデモンストレーションを行った。製造した食品は試食し、官能評価を行うことを取り入れた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本食品科学工学会 日本保蔵科学会		2005年4月～現在に至る 2007年4月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生個人情報保護委員会

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　八木　康夫	職名　　教授	学位　　博士(医学)　(産業医科大学 2003 年)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
運動生理学 生理学 生理心理学	exercise, recognition, information proceeding, event related potentials, P300, reaction time, elderly, supplements

研　究　課　題
高次脳機能に及ぼす運動の効果を、事象関連電位 P300 及び反応時間（RT）を用いて検討する。運動の効果について、一過性の効果、慢性効果、加齢効果、脳血流への効果を検討している。また、高次脳機能に及ぼす歯科咬合の効果についても検討している。その他、運動パフォーマンスに及ぼすサプリメントが代謝経路に及ぼす効果、高次高機能に及ぼす効果についても検討している。近年、アスリートのパフォーマンスに及ぼす栄養素の効果について検討を始めた。

担　当　授　業　科　目
初年次セミナー（栄養学科、１年前期） 保険福祉学入門（栄養・看護・福祉学科、１年前期） 運動と健康（栄養学科、１年前期） チームスポーツ（栄養学科、１年前期） 生涯スポーツ（栄養学科、１年後期） 運動生理学（栄養学科、４年前期） 健康体力評価論（栄養学科、４年後期） 卒業ゼミ（栄養学科、４年通年） 卒業研究（栄養学科、４年通年） チームスポーツ（看護学科、１年前期） 生涯スポーツ（看護学科、１年後期） チームスポーツ（福祉学科、１年前期） 生涯スポーツ（福祉学科、１年後期） 運動と健康（英語・観光文化学科、１年前期） チームスポーツ（英語・観光文化学科、１年前期） 生涯スポーツ（英語・観光文化学科、１年後期） 健康科学（英語学科、観光文化学科、2～４年前期） 健康科学実習Ⅰ（英語学科、観光文化学科、2～４年前期） 健康科学実習Ⅱ（英語学科、観光文化学科、2～４年後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　運動と健康　】 1. PCを用いてプレゼンテーション・ソフトウェアーによる資料提示をおこない、全スライド資料を配布した。 2. 毎講義後に授業の要点をA5提出用紙にまとめさせ、授業の把握と、把握度を出席と同時に確認した。 3. 全授業終了後に、毎講義のまとめと、自発学習ノートを作成させ、提出させ、学生に評価基準を提示し、採点後に返却した。 4. 最終日に本講の振り返りとして、テーマを設け論述説明記述を行わせ、理解の確認を行った。

授業科目名【　チームスポーツ　】

1. 受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。
2. 3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、在学中、学外、将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。
3. 各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。
4. 1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。
5. チームスポーツでは、入学直後であることも考慮し、集団スポーツ種目を実施した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。その結果、受講者は積極的行動へ変容したと思われる。

授業科目名【　生涯スポーツ　】

1. 受講者は、夏休み明け、後期末に体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係を把握できるようにした。
2. 各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させることによって自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。
3. 1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。
4. Ⅱでは職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。

授業科目名【　運動生理学　】

1. パソコンを用いて視聴覚機器による資料提示および配布資料を毎時間行い、最新の資料の提供に努めた。
2. 毎講義後に授業の要点をA5提出用紙にまとめさせ、授業の把握と、把握度を出席と同時に確認した。
3. 全授業終了後に、毎講義のまとめと、自発学習ノートを作成させ、提出させ、学生に評価基準を提示し、採点後に返却した。
4. 最終日に本講の振り返りとして、テーマを設け論述説明記述を行わせ、理解の確認を行った。

授業科目名【　健康体力評価論　】

1. 運動生理学の基礎的知識と基礎的実験測定の定着を前提とした、仮説の立て方、実験の方法、結果の解析方法を演習方式で講義した。
2. 数回の実験測定を実際に行い、結果の分析、統計処理を学生の前で行い、仮説の検証の実例を目の前で行い、全データ、統計処理結果を手渡し、レポートを作成させ、測定および解析の実体験から検証方法の基本的考え方を定着させるようにした。
3. 受講者は、自己のデータ及び受講者のデータから論文形式でレポートを作成し、書くレポートごとに個別的指導を行い、論知的考察方法の道筋を会得できるよう努めた。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本運動生理学会 日本体力医学会 日本生理学会 日本臨床神経生理学会 西日本生理学会 九州体育学会	常任理事（2008.7~至現在） 評議員　（2017.4~至現在）	1992.4 1985.4 1991.4 1997.4 1990.4 1988.4

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				
（その他） 平成30年度 福岡県バスケットボールリーグ戦 準優勝	共	2018.4.21-22,28	福岡県大学バスケットボール連盟 （九州国際大学平野記念館）	福岡県総合選手権の出場権を獲得した。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第23回 全九州大学春季バスケットボール選手権大会 第5位	共	2018.4.28- 5.18-20,	九州大学バスケットボール連盟 （第1ステージ:共立大学、第2ステージ:熊本大津市体育館）	顧問:八木康夫 監督:木村友彦
女子67回 西日本学生バスケットボール選手権大会 二回戦進出	共	2018.6.3-68.10	関西大学バスケットボール連盟 （大阪市内）	顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第68回 九州地区大学体育大会 準優勝	共	2018.6.23-25	九州大学体育連合 （福岡地区：久留米大学、日本経済大学）	顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第25回 九州大学バスケットボールリーグ戦 第6位	共	2018.9.8-11.11	九州大学バスケットボール連盟 （九州各地）	九州地区の大学の順位を決める大会は、一部リーグで全10試合を行い第6位であった。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
平成30年度 福岡県総合バスケットボール選手権大会 準優勝	共	2018.8.26	福岡県バスケットボール協会 （福岡市：日本経済大学）	顧問:八木康夫 監督:木村友彦

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
第54回 三地区大学バスケットボール選手権大会 Aチーム：優勝 Bチーム：準優勝	共	2018.12.14-17	九州、中国、四国大学バスケットボール連盟 主管：中国大学バスケットボール連盟 （松山市）	A・Bの２チームで出場し、参加大学約５０大学の中で、優勝した。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
日本バスケットボール協会 日本体育協会 公開講座シニアサマーカレッジ 福岡共同･教員免許状更新講習	JBA公認C級コーチ バスケットボール指導員 講師 講師	2011.5.25~ 2015.3.26~ ~2018.8 2015.8.18

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
栄養学科長：2018.4.1より至現在 入試委員：栄養学科入試要項等検討 人事委員：全学科人事審査及び昇格審査等 総合人間科学小委員会委員：総合人間科学カリキュラムの検討 管理栄養士国家試験対策委員長：栄養学科内委員 バスケットボール部顧問：AO-B方式入学者指導

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　山田　志麻	職名　　講師	学位　修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
調理学、調理科学、食育、地域開発歯科学 高齢者の栄養、スポーツ栄養	調理科学　食品学　食育　高齢者　嚥下食　咀嚼 低栄養　健康増進　スポーツ栄養　地獄釜献立

研　究　課　題
・スポーツセンターを利用する高齢者の身体状況 ・在宅高齢者の口腔状態と栄養状態 ・地獄釜献立の栄養学的検討 ・部活生の食事指導

担　当　授　業　科　目
・応用調理学実習 ・フードコーディネート論 ・管理栄養士演習Ⅰ ・初年次セミナー ・基礎調理学実習 ・調理学 ・高齢者支援学Ⅰ ・卒業ゼミ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【 応用調理学実習 】 １年前期で学んだ基礎調理の知識や技術を活かし、さらに応用調理の技術を身につけるため、低コストで多数の料理を作れるよう心掛けた。また、少量調理から大量調理へのステップアップのための知識習得のため、食品の重量やカサ、栄養や見た目の彩や盛付など幅広く説明を行った。
授業科目名【 フードコーディネート論 】 フードスペシャリスト認定試験 100%合格のため、ガイドラインにそった講義を行い、過去問で出題頻度の高い問題やキーワードを中心に単元ごとにまとめて講義した。
授業科目名【　調理学　】 調理学の中核として、食材それぞれの特徴、取扱い（保存や調理加工）、それにともなう調理科学について、例をあげながら具体的に説明した。最終的には、単元ごとにまとめた復習プリントを作成し、すべての重要項目や国試出題頻度な高いキーワードについて学習させた。
授業科目名【　基礎調理学実習 】 食や栄養、食文化やマナーなどに関して、知識や理解、経験等が乏しい現代の学生を対象としているため、食品について見る、触れる、切る、調理、盛付、配膳まで一連の流れが理解できるようつとめた。また、食品の取り扱いや食品成分表の使い方、栄養価計算の方法まで次の応用調理で困らないよう周知徹底させた。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 １年次に履修した調理学の復習及びまとめを行い、国家試験問題の基礎固めを行った。

授業科目名【初年次セミナーⅡ 】 　今年度から開講された、初年次セミナーⅡではワーキンググループとして参加し、前期初年次セミナーⅠより、ブラッシュアップした形で、大学生として必要な学習能力を向上するための支援を行った。
授業科目名【　卒業ゼミ 】 　7名のゼミ生に対し、本人の意思に任せ、各自でテーマを決め、1人1テーマを研究課題とした。それぞれのペースや内容にあわせ、指導助言を行い最終的に本人の経験や学習につながるようなゼミとなるよう努めた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会		1997年
日本家政学会		1997年
日本家政学会　九州支部	会計監査（2018年3月～） 2019年九州支部大会実行委員	
日本口腔衛生学会		2013年
日本調理科学会		2013年

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 調理学の基本	共著	2019年3月	同文書院	管理栄養士国家試験に準拠した調理学の基本について、わかりやすく解説したテキスト。
（学術論文） 健康な高齢湯治客向け献立の栄養学的検討	共著	2019年3月	別府溝部学園短期大学紀要第42号(2019)	別府地獄釜を利用した高齢の湯治客向けレシピの開発とその栄養について提案した。
（翻訳）				
（学会発表）	共著			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
2018 グリーンパーク食育事業 （地域貢献活動：さつまいもの苗付け、収穫、調理実習）	食育担当者、調理指導責任者	2018 年　年 3 回
2018 浅生スポーツセンター栄養相談 （地域貢献活動：栄養相談）	栄養相談責任者	2018 年　年 3 回
よしもと×浅生スポーツセンター 爆笑！スポーツ大会	スポーツ飯の紹介 InBody、貧血測定の実施	2019 年　3 月 3 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・ハラスメント相談委員　2016 年 4 月 1 日　～現在に至る ・COC+高齢者支援学　委員　2016 年 4 月 1 日　～現在に至る ・アドバイザー　2016 年 4 月 1 日　～現在に至る ・高齢者支援学ⅠⅡ担当者　2017 年夏期より集中講義　～現在に至る ・宗教委員　2016 年 4 月 1 日　～現在に至る ・キリスト教センター委員　2016 年 4 月 1 日　～現在に至る ・生協委員　2017 年 4 月 1 日　～現在に至る ・フードスペシャリスト認定試験責任者　2018 年 4 月　～現在に至る ・バレー部体組成測定および栄養指導　2019 年 2 月　～現在に至る

人　文　学　部

英　語　学　科

２０１９ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2019)）

氏名　アンデリュー・ジッツマン	職名　講師	学位　修士（言語学）（マクワォリ大学　2008 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
Critical Thinking Sociolinguistics	Motivation Intercultural communication Pragmatics Perceptions

研　究　課　題
Activating critical thinking in an EFL environment. Student perceptions of university learning environments.

担　当　授　業　科　目
英語ディスカッションⅠ 英語コミュニケーションⅠ ライティング基礎 専門演習Ⅰ Advanced English Discussion Ⅰ エリア・スタディⅠ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　英語ディスカッションⅠ　】 The course aims to have students engage in discussion on various social topics. Various opinions are presented to encourage students to discuss in relation to their own opinions. Some topics are more challenging than others and often require more explanation for comprehension.
授業科目名【　英語コミュニケーションⅠ　】 A new course which focuses on communication skills. It aims to move the students away from scripted conversations towards more self-directed conversations using a variety of vocabulary. The course also aims to bring to the students' attention some of the pragmatic aspects that will send the students on to the next level of conversational ability.
授業科目名【　ライティング基礎　】 Even after several years of writing English there are many fundamental elements that the students still have problems with. Steady and supportive assistance is provided to reinforce the basics and to get them prepared for larger writing assignments, such as essays and research reports.

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国語学教育学会	企画担当理事(2004年７月～2006年11月)ビジネス・マネージャー(2006年11月～2010年11月)	1994~現在に至る

２０１８～２０１９年 度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（教科書） Seize the Keys	共	2020	金星堂	このテキストは、TOEICを受験す る学生のためのものである。文法 解説・語句解説などを詳細に行って おり、受験しない学生にとっても英 語力の増強が見込まれるよう配慮し ている。
（著書） Examining Supplementary Online Materials	単	2014年5月	全国語学教育学会第13回Pan-SIG Conference	この論文 は、適切な 資料を選び、学習プログラムにオンライン補助教材を上手く取り入れる 方法に ついて、実用的な提案をするものである。
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市立大学 弟35回青嵐杯通訳コンテスト	審査員	2018年12月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生個人情報保護委員会 委員 2019年4月1日~2020年3月31日

２０１９ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2019)）

氏名　　太田　かおり	職名　　教授	学位　博士（教育学）（国際基督教大学 2007 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
英語学（英語音声学）・英語教育学（英語科教育法）・ICT 英語教育（e ラーニング）	英語の発音とリズムの指導法・小中高連携英語教育・e ラーニング英語教育

研　　究　　課　　題
英語学の分野において、初等中等教育における英語の音声指導の調査研究を行い、その重要性と課題点について考察を行う。また、英語教育学の分野では、小中高大連携を視座においたグローバル時代の英語教育の在り方についてや、e ラーニング英語教育における教師の役割および効果的な指導に関する研究などを行っている。

担　　当　　授　　業　　科　　目
[2019 年度 担当授業科目] 実践英語音声学Ⅰ　（前期）（英語学科） 英語教科教育法Ⅱ　（前期）（英語学科） 英語教科教育法Ⅳ　（前期）（英語学科） 専門演習Ⅰ　（前期）（英語学科） 教育実習Ⅱ　（前期・後期）（英語学科） 事前及び事後の指導　（前期・後期）（英語学科） 実践英語音声学Ⅱ　（後期）（英語学科） 英語教科教育法Ⅲ　（後期）（英語学科） TOEIC 演習Ⅰ　（後期）（英語学科） TOEIC 演習Ⅱ　（後期）（英語学科） 教職実践演習（中・高）　（後期）（英語学科） 初年次セミナーⅡ　（後期）（英語学科） 専門演習Ⅱ　（後期）（英語学科）

授業を行う上で工夫した事項
授業科目名【 実践英語音声学Ⅰ 】 「実践英語音声学Ⅰ」の講義では、音声学を学問として初めて学ぶ学生が大半を占めているため、丁寧でわかりやすい授業を心がけた。英語の母音・子音の調音方法や IPA 表記に加え、文レベルにおける音変化（連結・省略・同化など）についても理論と実践の両面で学ぶ。英語に特有のリズムについては、洋楽などを活用し、学生がより興味をもって楽しく学べるよう工夫した。また、学生ひとり一人が実際に声に出して発音する機会をより多く設けることによって、授業後の英会話や英語学習に活用できるよう、実用的な授業実践を意識した。学生は全体としてたいへん意欲的に授業に参加しており、個別やペア活動における発音訓練にも熱心に取り組んでいる。学生は、毎回の授業の終わりにコメントシートを記入し、学生からの質問に対してフィードバックを行うことによって、双方向型で活気ある授業を心がけた。
授業科目名【 英語教科教育法Ⅱ 】 「英語教科教育法Ⅱ」は、英語科教育に関する理論的な学びに加え、ミニ模擬授業を行うことによって学習指導案の作成方法や授業展開、指導技術の基礎を学ぶ。模擬授業後、学生は相互に評価・講評し合い、良い点や改善点について学ぶ。4 年次の教育実習に備えるため、実践的な指導を心がけた。

授業科目名【 英語教科教育法Ⅳ 】

英語科の教職課程科目で学んできたことの集大成として、教育実習へ行く直前に、中学校・高等学校のグループにわかれて模擬授業を実施する。模擬授業担当学生は、英語科学習指導案、配布資料、板書計画等を事前に作成したうえで模擬授業に臨む。互いに授業を参観し合い、講評することによって、学生たちは相互に刺激を受け、改善点や課題点について学び合う。個別に一人一人丁寧な指導を行うことによって、各々の学生が自らの授業の良い点をさらに伸ばし、改善点を克服し、自信をもって教壇に立つことができるよう指導に力を尽くした。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本音声学会 日本教育学会 国際教育学会 小学校英語教育学会 九州教育経営学会		平成22年12月～現在に至る 平成22年12月～現在に至る 平成23年 4月～現在に至る 平成26年 4月～現在に至る 平成28年 4月～現在に至る

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 1. e-learning 英語教育の学習効果に関する研究－学習者の自律学習へ向けた教師の役割－	単著	平成 24 年 3 月	九州国際大学国際関係学論集第7巻第2号, 51-80.	大学生を対象に、4 ヵ月に亘って実施した e-learning 英語教育の成果報告を行った。また、e-learning 英語教育における教師の役割や、学習者の自律学習へ向けた授業運営の在り方等についても考察を行った。 （総頁数 30 頁）
2. 日本の英語科教育における音声指導の現状－初期英語教育における音声指導の導入及びその教授法の確立を目指して－	単著	平成 24 年 3 月	九州国際大学社会文化研究所紀要第 69 号, 53-73.	日本の大学生を対象に、中学・高等学校の英語科教育における音声指導の実態調査を行い、その結果を報告した。調査結果に基づいて、英語科教育における音声指導の現状と問題点を提示し、さらには、小学校外国語活動も視野に入れつつ、今後の日本における英語音声教育の在り方について論じた。 （総頁数 21 頁）

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
3. 日本の英語教育における盲点－音声教育の現状と課題－	単著	平成 25 年 3 月	九州国際大学国際関係学論集第 8 巻第 1･2 合併号, 37-70.	学校教育における英語の音声指導の実態について調査研究を行い、日本の初等・中等教育において英語の音声指導が充分に行われていない実態を明らかにした。また、音声指導の具体的な内容について詳細な調査を行った結果、子音や母音の音声指導だけでなく、リズム・強勢・イントネーション・連結・同化・省略などを含む超音節的側面についても、学校教育では、調和の取れた指導が十分ではない現状を明らかにした。日本における英語教育の盲点として、音声指導の必要性と重要性を論じた。 （総頁数 34 頁）
4. 学校教育の現場に学ぶ－小学校外国語活動の事例研究－	単著	平成 26 年 3 月	九州国際大学国際関係学論集第 9 巻第 1･2 合併号, 19-38.	小学校外国語活動を論ずるにあたり、外国語活動の授業を参観した。その際の記録および所見について報告を行い、小学校外国語活動の現状と課題について考察した。 （総頁数 20 頁）
5. 教育の本質および教職の意義に関する一考察－全人教育としての教師の教育観・生徒観・指導観－	単著	平成 28 年 2 月	九州国際大学社会文化研究所紀要第 77 号, 23-45.	教育の目的及び教職の意義について考察し、教育の本質とは何かに迫った。教育基本法並びに学校教育法における教育の目的について概観し、全人教育を行う上での教師の教育観・生徒観・指導観、さらには、教師や学校の果たす役割について論じた。また、社会が求める人材について言及し、学校教育が育む人間像と実社会が求める人材像との一貫性について考察を行った。 （総頁数 23 頁）
（翻訳）				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 英語科教育における音声指導のすすめ－学習指導要領(外国語編)は「音声教育」をどう取り扱ってきたか－	単独	平成 24 年 8 月 26 日	日本教育学会 第71回大会 (於 名古屋大学)	日本教育学会第 71 回大会において、『英語科教育における音声指導のすすめ－学習指導要領(外国語編)は「音声教育」をどう取り扱ってきたか－』と題し、音声教育に関する現状報告と問題提起を行った。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
北九州市内の小学校における「外国語活動」に関する研究調査：現状と課題、及び改善策の提案～地域活性化へ向けたグローバル人材の育成強化を目指して～	産業経済局 高度人材育成課	500,000	平成25年度 北九州市学術・研究振興事業調査研究助成事業
北九州市内の中学校における英語教育の小中連携に関する調査研究：現状と課題、および今後の展望～今後の教育改革を見据えた小中連携の在り方を考える～	産業経済局 高度人材育成課	350,000	平成26年度 北九州市学術・研究振興事業調査研究助成事業
小学校-中学校-高等学校の英語教育をCAN-DO リストでつなぐ：「北九州市内高等学校の英語教育に関する調査研究」および「小中高一貫 CAN-DO リスト(試案)の開発」	産業経済局 高度人材育成課	1,000,000	平成27年度 北九州市学術・研究振興事業調査研究助成事業

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
中間市教育委員会 中間市点検評価委員 公益財団法人 日本英語検定協会 東京書籍株式会社 その他、県内外の小学校・中学校・高等学校の英語科教員や生徒を対象に、英語教育に関する講演会や研修会の講師を務める。	教育委員 評価委員 派遣講師 編集協力者	2019 年 7 月 8 日～現在に至る 2018 年 4 月 1 日～2019 年 6 月 18 日 2019 年 4 月 1 日～現在に至る 2018 年～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）	
学生募集委員会	2019 年 4 月 1 日～現在に至る
学生委員会	2019 年 4 月 1 日～現在に至る
教職課程委員会	2019 年 4 月 1 日～現在に至る
研究紀要委員会	2019 年 4 月 1 日～現在に至る

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　大谷　浩	職名　　教授	学位　ＥＦＬ修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
英語教育、第２言語習得	日本の英語教育改革、小中高大連携、英語力評価試験

研　究　課　題
日本の教育システム全体を視野に入れつつ、小規模地方大学が英語教育分野で果たすべき役割を考察し、もって勤務校の発展につながる方策を追究する。具体的には、高校卒業後も英語力向上に意欲を持つ学生に対して、いかにして実際にその力を向上させるかが最大の課題。また、英語を通して視野を広げさせ、自らがどのような社会貢献ができるかを自覚し、それに向け努力する態度を養成するか、などの研究。

担　当　科　目
英語学概論Ｉ、英語学概論 II, Extensive Reading III, Paragraph Writing, Creative Writing, Academic English Writing, 専門演習、卒業研究

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【英語学概論　Ｉ】 教科書で説明されている内容をふまえ、より身近で学生達に馴染みのある事例を交えながら、わかりやすい説明を心がけた。抽象度が高く理解が進まない分野については、予定よりも多くの時間をかけて確実に理解できるまで説明した。毎回の授業でリアクションペーパーを提出させ、自らの学習を振り返る時間を取った。
授業科目名【　英語学概論　II　】 英語学概論Ｉに同じ。
授業科目名【　Academic English Writing　】 教科書にある例題をきっかけに、関連事項を新聞記事から紹介して、その後、各自でリサーチを行わせ、英語でまとめる演習を行った。CreativeWriting までと異なり、引用文献の引用方や、文献一覧の書き方も指導した。また、常に卒業論文の書き方と深く関係することを教示した。
授業科目名【　Extensive Reading III　】 学生のレベルを考慮し、難しすぎない教材を選出した。読むだけでなく、内容が把握できているか、の確認を行えるようにした。
授業科目名【　Paragraph Writing　】 クラス全体への説明では理解できない学生が多いので、個人指導の時間を必要に応じて多めに取った。

授業科目名【　Creative Writing　】 　自分たちが関心のあるテーマを選ばせ、それについて書かせるようにした。書いた内容は尊重しつつその表現の仕方について、クラス全体から意見を求めながら書き方を向上する指導を行った。
授業科目名【　専門演習　】 　前期は、新聞記事を中心に、世の中での出来事が英語でどのように報じられているかを学習することに努めた。後期は、自分が関心を持つテーマに絞って資料を集める活動を行わせ、スクラップブックに保存させてゆくことで、卒業論文の下準備を始めさせた。
授業科目名【　卒業研究　】 　井堀小学校での外国語活動を定期的に見学・参加させることで、有意義な卒業論文の作成に取り組ませることができた。小学校からも感謝して頂いた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国英語教育学会 九州英語教育学会	役員（常任）、幹事（常任）、事務局長（2001-2001）	1995 年 1994 年

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（その他）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
なし		

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
英語学科学科長、教学マネージメント教育の質保証WGメンバー、入試問題作成委員責任者、高校への出前授業担当、英検２次面接対策講座担当、地域連携室室員（女性活躍WG責任者）

学部長による評価・改善記入欄（助手については、学科長による評価・改善記入欄） ※この欄は、一切公表いたしません

１．教育活動について

２．研究活動について

３．その他

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　倉富　史枝	職名　特別契約教員Ⅲ教授	学位　修士（文学）（久留米大学 1995 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
ジェンダー論 家族社会学	ジェンダー構造、企業中心社会 日本型近代家族、性別役割分業

研　究　課　題
ジェンダー論に関して日本の近代化に伴うジェンダーの構造化を中心に考察する。また、ジェンダー意識の形成の過程と現在の意識変容を把握し、今後の女性と男性のキャリア形成連についても考察する。

担　当　授　業　科　目
ジェンダー論　(前期)（英語学科・観光文化学科）(後期)（看護学科） キャリア開発（後期）（保健福祉学部及び人文学部の全学科1年次） 女性史（後期）（保育科））

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【ジェンダー論】 　CM映像やアニメや絵本などを教材として使用し、学生の関心を高めた。その後の授業でも、講義以外の生活の場でも学習の目を向けるよう教材を選んだ。英語学科・観光学科においては、国際的な視野で日本の現状の課題を考えられるように、看護学科においてはケアにおけるジェンダー概念を課題にするなど、学科に合わせて課題を変えた。
授業科目名【キャリア開発】 　多様な分野から外部講師から講師を招き、多角的な視野でキャリア形成ができるよう支援した。 　講義内容を自分のキャリアと結び付けて考えられるよう、毎回コメントシートを記載させた。
授業科目名【　女性史　】 　現在の日本の女性の意識形成のルーツをたどるという趣旨で、主に明治以降と第２次世界大戦後の教育や政治体制を対比させ、さらに、学生の現状と重ね合わせることで学習意欲を高めた。保育科の学生として、今後の雇用者の就労支援としての保育と結び付けられるよう、課題を提供した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
西日本社会学会 日本社会分析学会	会員 会員	1993 年 9 月 1993 年 10 月

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 特になし				
（学術論文） 特になし				
（翻訳） 特になし				
（学会発表） 特になし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
特になし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
特になし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
苅田町男女共同参画推進委員		2001年 4月～現在に至る
福岡家庭裁判所家事調停委員会	家事調停委員	2004年 4月～現在に至る
福岡家庭裁判所参与員		2004年 4月～現在に至る
春日市男女共同参画審議会	会長	2011年 5月～現在に至る
遠賀町苦情処理委員		2013年 4月～現在に至る
福岡県同和問題をはじめとする人権問題に係る啓発･研修講師団		2014年 4月～現在に至る
大木町男女共同参画推進協議会		2015年 3月 ～現在に至る
古賀市男女共同参画審議会	会長	2015年 4月 ～現在に至る
大川市男女共同参画推進協議会	会長	2015年 9月～現在に至る
福岡県人権施策推進懇話会		2016年 4月～現在に至る
志免町男女共同参画推進審議会	会長	2017年 4月～現在に至る
福岡県エイズ・性感染症対策推進協議会		2017年 7月～現在に至る
福岡女子大学ハラスメント等事案に係る第三者調査部会		2018年10月～現在に至る

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
特になし

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　塚本　美紀	職名　　准教授	学位　修士（教育学）（テンプル大学　2005年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
英語教育学	異文化理解教育、異文化理解・対応力の測定、ESD(Education for Sustainable Development)

研　究　課　題
異文化理解教育に関して、異文化理解・対応力の測定について中心に考察する。また、持続発展可能な社会の在り方について、英語教育および国際理解教育の観点から考察を深めたい。

担　当　授　業　科　目
グラマー・コンポジションⅠ(A)、(B)（前期） 小学校英語教育入門（前期） 専門演習Ⅰ（前期） グラマー・コンポジションⅡ(A)、(B)（後期） 小学校英語教育研究（後期） 英語教科教育法Ⅰ（後期） 英語教科教育法Ⅳ（後期） 専門演習Ⅱ（後期） 卒業研究（通年） 事前及び事後の指導（通年）（英語学科） 教育実習Ⅱ（通年）（英語学科） 教職実践演習（中・高）（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【グラマー・コンポジション Ⅰ】 　重要な文法項目や表現に繰り返し触れることができるよう設計されている教材を使用し、学生が予習、授業、復習の流れの中で、学習項目を習得できるようにした。さらに、言語活動の時間をとることができるように、配布資料を活用して解説するなどして解説の時間の短縮化を図った。
授業科目名【小学校英語教育入門】 　グループ討議やプレゼンテーションがしやすい教室を使用し、学生が討議を通して自らの理解を深め、プレゼンテーションの機会を増やすことによって自らの考えをまとめて言語化する力がつくように工夫した。広い教室を使用することで、学生の発表の音声が大きく明瞭になった。
授業科目名【専門演習Ⅰ】 　国際語としての英語の在り方について、学生が理論と実践の両面から理解できるように、さまざまな文献を読んだり、さまざまな国の人々と英語で交流したりする機会が持てるようにした。

授業科目名【グラマー・コンポジションII】 授業で学んだ文法項目や英語表現が定着するよう、身の回りのことや自分が考えていることなどについて、口頭で発表したり、さまざまなテーマで英文エッセーを書く機会を設けた。
授業科目名【小学校英語教育研究】 授業で学んだ学習の理論やメソッドについての理解を深めることができるように、実際の授業のビデオや指導案を見て討論したり、全員に模擬授業をさせたりした。
授業科目名【英語教科教育法I】 学生にとっては、馴染みの薄い用語などが多く出てくるので、学生が理解しやすいよう具体例などもあげながら説明した。また、毎回、授業の内容に関連することについてのレポートの提出を求め、学修したことの理解を深めるようにした。
授業科目名【英語教科教育法IV】 これまで学修した理論を実践に活かせるよう、全学生が模擬授業を実施する機会を設けた。また、学生が実施する模擬授業を録画し、それを見ながら振り返りを行った。
授業科目名【専門演習II】 来年度の卒業論文の執筆に備え、各学生が自分の興味のある分野の書籍や論文についてのプレゼンテーションを実施する機会を設けた。また、それについての質疑応答を通して、テーマ設定が適切であるかどうか考えさせた。
授業科目名【卒業研究】 計画的に卒業論文を執筆できるように、論文の書き方や執筆のスケジュールについてのガイドラインを作成した。また、自らが設定したテーマについての思考を深められるように、定期的に進捗状況を発表してもらい、他のゼミ生から質問に答える機会をもった。
授業科目名【事前及び事後の指導】 英語教科教育法 IV で行った模擬授業で明らかになった課題を克服する形で、模擬授業を行ってもらった。このことによって、模擬授業を実施した学生も、見学した学生も、授業改善のプロセスの一部を体験できたと思う。また、中学校や高等学校の教員を招き、教員の在り方や指導法等について講演してもらった。
授業科目名【教育実習II】 教育実習については、受け入れ校によって対応が大きく異なることもあるので、全体での指導は汎用性のあるものに留め、個別の案件については臨機応変に対応できるよう学生と電子メールや SNS ですぐに連絡がとれるようにして対応した。
授業科目名【教職実践演習】 学生が将来授業を行う際の選択肢が増えることをねらって、ワールドカフェ形式の討論やパワーポイントを用いた発表など、授業のやり方にさまざまな形を取り入れた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期

アクロス「英語教師のための異文化研究会」 日本 ESD 学会 北九州サステナビリティ研究所	副代表理事（２０１６年８月～現在に至る）	１９９０年９月～現在に至る ２０１７年４月～現在に至る ２０１７年６月～現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） Developing Rubrics to Assess the Development of Intercultural Competence of Japanese University Students as a Learning Outcome of Study Abroad	共	2019. 3	四天王寺大学紀要 第６７号	① SNSの利用が日本人大学生の言語及び異文化能力に与える影響についての考察 ② 共著者名 井川好二 塚本美紀 ③ （p. 77 – p. 104 ）
（翻訳）				
（学会発表） Effects of Social Media on the Development of Japanese University Students' Linguistic & Intercultural Competences	共	2019. 2	15th CamTESOL Conference （於 Institute of Technology of Cambodia, Phnom Penh, Cambodia）	① 日本人大学生が海外研修によって身につけた「異文化能力」を検証するためのルーブリック開発に向けた理論的・実践的な基盤についての考察。 ② 共同発表者名 井川好二 塚本美紀
			教育研究業績 総数（2019. 3. 31現在） 著書 1 （内訳 単 0、共 1） 学術論文 10 （内訳 単 6、共 4） 学会発表 9 （内訳 単 0、共 9）	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1） 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
「異文化理解・対応力」ルーブリック開発のための基礎研究	日本私立学校振興・共済事業団	○塚本美紀 （井川好二）	500,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
日本英語検定協会 北九州 ESD 協議会 Zonta International（世界の女性の地位向上を目指す国際的奉仕団体）	面接委員 会員 北九州ゾンタ書記	１９９３年７月～現在に至る ２０１０年４月～現在に至る ２０１８年６月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生募集委員会　委員（２０１８年４月１日～２０１９年３月３１日） 教職課程委員会　委員（２０１８年４月１日～２０１９年３月３１日） 職員研修委員会　委員長（２０１８年４月１日～２０１９年３月３１日） キャンパスハラスメント相談員（２０１４年４月１日～２０１９年３月３１日） ゴールデンＺクラブ　顧問（２０１４年４月１日～２０１９年３月３１日） 教職員懇親会　委員（２０１６年４月１日～２０１９年３月３１日） 学生個人情報保護委員会　委員長（２０１８年４月１日～２０１９年３月３１日）

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　ブラウン馬本　鈴子	職名　　講師	学位　文学博士

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
イギリス文学、イギリス文化	ドリス・レッシング、ジェイン・オースティン ジェンダー、イギリス、

研　　究　　課　　題
主に現代の女流イギリス文学に関する研究を行う。大まかには、女性の精神的・社会的な幸福にフェミニズムがどのように関与しているのかの分析を行う。 現在の具体的な研究課題は､授業でも取り扱っている文学作品を扱った映画に関する研究を進めることである。

担　　当　　授　　業　　科　　目
前期 英検演習Ⅰ、英検演習Ｅ、基礎演習Ⅱ、英米文学入門Ⅰ、英米文学研究、初年次セミナーⅠ、専門演習Ⅰ、卒業研究、人文学入門 後期 英米文学特殊講義、TOEIC 演習Ⅰ、卒業研究、英語文学入門Ⅱ、TOEIC 演習Ｅ、専門演習Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　　英語文学入門Ⅰ・Ⅱ　　】 英語でかかれた文学の入門講座として、欧米人なら誰でも読んだことがある本を読んでいく過程で、文学作品の技法や背景をていった。「英語文学Ⅰ」から「英語文学Ⅱ」に進むにおいて、イギリス人の子供なら大抵最初に手にする絵本である *The Tale o Rabbit* を原文で読む事から始め、次に、英語学習者用に編集されたオックスフォードの graded readers 版のレベルを徐々に上げた。それぞれの作品を原作と比較しながら読み終わる毎に、映像資料（DVD）を見て、小説の理解を深めるように促した。学生たち業で取り上げた英米文学作品をきっかけに、文学作品の魅力に触れ、今後の専門的な文学作品研究の応用力を身につけた。また、速読を進める中で、英語力の向上を図った。
授業科目名【　卒業研究　　】 前期には、専門演習Ⅰ,Ⅱを得て得た文学的読みを更に深化させ、ゼミ内でディスカッションを行った。また前期には、特に卒業論文のテーマ選びを行い、選んだテーマをどのように研究していくかの計画を入念に立てた。夏休みには、実際に卒業論文を書き始め、後期には、個人指導もたくさん行いながら、論文を書き進めた。ゼミ内で、仲間同士で指摘しあう機会を与えたり、ポスターッションの練習会も行った。
授業科目名【　　英米文学特殊講義　　】 小林章夫書作の『イギリスの詩を読んでみよう』(NHK 出版）の本が絶版になったので、学生に好評であったその本に書かれていた詩をベースに、技法説明や、詩の紹介などの内容は更に発展させ、詩の技法や鑑賞法を学習していくことができる書き込み式の学習教材を作成し、毎回の授業で配布した。更に、音やリズムに親しむために欧米のポップソングのリスニング練習用のプリントも作成し、毎回配布した。学期後半にはいくつかの有名な詩を暗唱するテストを個別に行い、リズムや発音の指導も行った。

授業科目名【　　英米文学研究　　】
Lauren Weisberger による The Devil Wears Prada: A Novel というベストセラーの小説のスクリーンプレイを映画と併用しながら精読することで、セリフや文化背景を紹介した。小説とスクリーンプレイの比較の中でフェミニズム的な文学の読みを実践した。学生には毎回プリントを配布し、理解度をモニタリングすると共に、感想を書かせてそれにコメントをつけ返却した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本英文学会九州支部 映画英語教育学会（ATEM）九州支部 日本オースティン協会	支部評議員（なし）	2001 年 10 月～現在に至る 2006 年 10 月～現在に至る 2015 年 11 月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 特になし				
（学術論文） 特になし				
（翻訳） 特になし				
（学会発表） 特になし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

特になし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
特になし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
特になし		

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
倫理審査委員副委員長 教務委員委員 FD 委員 学生募集委員

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　マルコム　ロス スワンソン	職名　　教授	学位　　大学教育部大学院修士課程

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
1. Active learning 2. Technology in the classroom 3. Self-access learning centres	Active learning, student-centered learning, tablet devices, self-access, presentations

研　　究　　課　　題
1. Language study through active learning 2. Digitizing language learning 3. Use of portable technologies as student resources

担　　当　　授　　業　　科　　目
• Advanced English Discussion I & II • English Discussion I & II • English Extension I • Area Studies II • リーディング I • メディア英語 I • Multimedia English • 英語コミュニケーション I & II • English Presentation • アジア文化交流研修 A • 専門演習 • 卒業研究

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【Presentation Skills / English Presentation】 学生が自分のペースで学習可能なプログラムを導入した科目に完全に再フォーマットした。 この方法を導入したことで、学生は自分の学習に責任を持つよう仕向けることが可能になった。更に、学生は自分の進歩を確認することが可能となった。結果、多くの学生が優秀な成果を成し遂げている。 2019 年度は この科目を２クラスに分け、グループ活動による技術向上を目指す。
• 授業科目名【英語コミュニケーション I & II 】 今年度は、毎年お願いしている非常勤講師が半年間授業を担当することができないという事情があり、これまでの方法での授業を行うことが難しかった。そのため、最後まで学生に最高の授業を行うことに終始した。 2019 年度は、コミュニケーション技術の構築を基礎から行うことに焦点を当て、新テキスト及び新しくデザインされた授業を行う予定である。
• 授業科目名【メディア英語 I 】 今年度は、教材ソフトである CHIeru 及び大学のパソコンの技術的な問題が発生したにもかかわらず、学生の進歩が見られた。 2019 年度はアクティビティに焦点を当てた授業及び他のメディアの使用機会を作る予定である。

- 授業科目名【リーディングⅠ】

非常勤講師には１年間授業を担当することを想定されていたのだが、半年間授業を担当させられないという事情が生じた。そのため 2019 年度もまたこの授業を担当する予定である。

2019 年度は、低学力の学生に対してのリーディング力に焦点を当てる。より早く正確なリーディンの仕方について教授する予定である。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国語学教育学会	会員	１９９６年～現在に至る
	第 43 全国語学教育学会　大会研究発表記録集編集長	２０１８年１１月
	Website 編集委員	２０１０年５月～現在に至る
CALICO（コンピュータ支援言語教育コンソーシアム）	会員	２００５年５月～現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） Breathing Life Into Presentations	単著	2018年7月	特定非営利活動法人 ACROSS 大阪	発表では、学究的なプレゼンテーションの上達方法の基礎の部分、特に「パワーポイント」のようなメディアの上達の仕方について報告した。
Attaining presentation competency through independent learning	単著	2018年9月	ILA（Independent Learning Association）Conference 2018	発表では、勤務校において、学生が自主的に学習することを要求する授業において、教員が授業で必要な知識や技術といったリソースについて示した。
Creativity in the classroom	単著	2018年11月	Apple Distinguished Educators Workshop 東京	授業で学生がより創造的になるためことを支援する"iPad"を使用した授業のワークショップを行った。
Creating Self-Paced Moodle Courses	単著	2018年11月	JALT2018 Shizuoka	学生の自主学習のための授業を構築するために、オープンソースのeラーニングプラットフォームである" Moodle"の使用方法についてワークショップを行った。

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
The Blended Classroom: Taking Learning Online	共著	2019年3月	JALT 北九州	発表では、融合した学習プログラムの一部として、オンライン学習を使用した授業の仕方を示した。共同研究者：Paul Collett

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
デジタル教材と伝統的教材の比較研究	西南女学院大学	○マルコム・スワンソン 八尋 春海 樋口 真己	1,280,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
梅光学院大学ＥＳＳスピーチ・コンテスト	ESS Contest 審査員	2018 年 6 月
キャンベル杯ディベート＆スピーチ・コンテスト	西南女学院高等学校ディベート＆スピーチ・コンテスト審査員	2019 年 3 月

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
教育経費予算配分委員 　英語学科の予算委員を担当し、2018 年度副委員長となる。 情報システム管理運用委員会 　英語学科の担当し、2018 年度副委員長となる。 研究紀要委員会 　英語学科の担当し、2018 年度副委員長となる。 ウィンチェスター留学生プログラム総括責任者 　授業コーディネーター、学外活動計画、生活全般ケア、予算についても担当した。

ラグビーワールドカップにおけるボランティア活動のコーディネーター
　北九州市からの依頼により、ラグビーワールドカップにおけるボランティア活動及び市内の公立小学校におけるウェールズの小学校との交流（手紙作成ボランティア）におけるコーディネーターを担当した。
英語学科の各種イベントのコーディネーター。
　English Lectures (ZIONCUP スピーチコンテストを含む), Movie Month, Board Games Night, 国際交流 Party, Halloween Event, Christmas Intensive, 卒論のポスターセッションの運営担当を行った。.
英語学科ウェブサイトの管理
　英語学科のウェブサイト情報をアップデイトするための委員会の責任者となる。
英語学科フレッシュ・キャンプ委員
　プログラムの企画検討を行う。(行き先：大分県住吉浜リゾートホテル)
地域貢献活動「だいすきにっぽん」プログラムの参加
　プログラムの講師となり、Christmas について小学生を対象の体験学習を行った。英語学科学生にもプログラムに参加してもらっている。
大学祭での３年生ゼミの出店

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　横　溝　紳　一　郎	職名　　教授	学位　博士（ハワイ大学大学院　1997 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
小中連携の英語教育、学習意欲と教師の言動の関わり、教師教育者の役割、アクティブ・ラーニング	連携（アーティキュレーション）、学習意欲（モティベーション）、アクション・リサーチ

研　　究　　課　　題
小学校と中学校の英語教育の連携の「あるべき姿」を、協働的アクション・リサーチを通じて調査・分析している。また、教師の言動が学習者の学習意欲にどのような影響を与えるのかについても、包括的な調査を行っている。加えて、「実習生や現職教師に対して、教師教育者がどのように働きかけるべきか」についての、理論的・実証的研究を進めている。また、アクティブ・ラーニングについて、理論・実践の両面で、研究を進めている。

担　　当　　授　　業　　科　　目
日本語教育実習（通年） 卒業研究（通年） 事前及び事後の指導（通年：教職課程） 教育実習 II（通年：教職課程） 異文化間コミュニケーション I（前期） Intensive Reading I（前期） 日本語教育方法論 I（前期） 日本語教育方法論演習 I（前期） 専門演習 I（前期） 英語教科教育法 II（前期：教職課程） 英語教科教育法 V（前期：教職課程） 異文化間コミュニケーション II（後期） Intensive Reading II（後期） 日本語学概論（後期） 日本語教育方法論 II（後期） 日本語教育方法論演習 II（後期） 専門演習 II（後期） 英語教科教育法 III（後期：教職課程） 教育実践演習（後期：教職課程）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【日本語教育実習】 教育実習の教壇実習授業として、(1)ウィンチェスター大学からの留学生相手の授業、(2)北九州 YMCA で と、2 度実施した。昨年同様の実習授業時間を確保した。また、それに付随する形で、事前・事後指導だけで 実際の教壇実習指導の現場でも必ず実習生と行動を共にした。
授業科目名【卒業研究】 卒業論文の完成まで、授業時間だけでなく、授業外の時間やメールを活用して、個別対応の指導を課外授 う形で行った。各履修生が選んだテーマを最大限に尊重することで、卒業論文執筆への意欲を高めた。

授業科目名【事前及び事後の指導：教職課程：集中】
教育実習の前後に、英語の教え方に関する具体的なアドバイスを与えた。

授業科目名【教育実習Ⅱ：教職課程】
教育実習に行く前、学生の教案作成や教材準備等の面で、具体的な指導を行った。

授業科目名【異文化間コミュニケーションⅠ】
この分野についての専門的な知識をほとんど持っていない学生対象の授業であるため、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。また、集中力の維持をめざして、(1) 教科書の使い方の工夫、(2) 画像や映像教材の多用、(3) ふり返りの時間の確保、(4) わたしメッセージの発信、(5) 座席指定と数回の席替え等の対策を講じた。

授業科目名【Intensive Reading Ⅰ】
少人数の授業であったので、よりきめ細やかな個別対応の指導を行った。

授業科目名【日本語教育方法論Ⅰ】
日本語教員養成課程の履修生が一番初めに受ける授業なので、開講時の学生の学習準備は、ほぼゼロである。それ故、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅することに努めた。また、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。

授業科目名【日本語教育方法論演習Ⅰ】
1 年次に学んだ基礎的な知識を日本語授業に活かす方法を体得する演習授業なので、すでに得た知識内容をリサイクルしながら、それを実際に体験するような形で、授業をデザイン・運営した。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。

授業科目名【専門演習Ⅰ】
『社会人基礎力』、すなわち「前に踏み出す力（一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力）」「考え抜く力（疑問を持ち、考え抜く力）」「チームで働く力（多様な人とともに、目標に向けて協力する力）」の 3 つの力を培うアクティビティを、継続して演習形式で行った。

授業科目名【英語教科教育法Ⅱ】
教師の役割、読む・聞く・話す・書くことの教え方、読む・聞く・話す・書くことを統合した教え方等、英語の教え方について、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。そのことにより、英語の学び方も学べる環境を整えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。

授業科目名【英語教科教育法Ⅴ】
少人数の授業であったので、よりきめ細やかな個別対応の指導を行った。

授業科目名【異文化間コミュニケーションⅡ】
日本語と英語の違いに表れた文化的差異に焦点を当て、授業を運営した。視聴覚教材等の使用により、国際平和やことばの力にまでテーマを拡大し、社会的出来事を広く深く考える機会を履修生に与えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。

授業科目名【Intensive Reading Ⅱ】
少人数の授業であったので、よりきめ細やかな個別対応の指導を行った。

授業科目名【日本語学概論】
日本語学についての基礎知識に関する授業なので、日本語の音声から社会言語学までの広範囲にわたって、予習→授業での解説→日本語教育能力検定試験の問題回答、という流れで進めた。

授業科目名【日本語教育方法論Ⅱ】
日本語教育についての入門期の授業なので、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。テーマとして「教室運営」を選び、教師の言動の大切さを伝えた。毎回の授業で、「担当教員による問いか

けに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
授業科目名【日本語教育方法論演習 II】 次年度の日本語教育実習につなげるために、授業観察、教案作成、マイクロ・ティーチング、等を演習形式で行った。マイクロ・ティーチングの直後に、撮影した授業の DVD を作成し、各授業担当者にその日のうちに手渡し、映像による授業のふり返りの機会を与えた。
授業科目名【専門演習 II】 ロジカル・ライティングの能力向上をめざして、演習形式で授業を進めた。
授業科目名【英語教科教育法 III：教職課程】 発音の教え方、「教室運営」のし方、テストの作成方法、アーティキュレーション（連携）の作り方など、英語科教育法 II でカバーしなかった内容に焦点を当て解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。その結果、英語科教育法 II と英語科教育法 III を受講することにより、英語教育に関する基本的な知識を得ることを可能にした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本語教育学会	評議員（2001 年 7 月～2007 年 6 月） 研究集会委員（2006 年 7 月～2011 年 6 月）理事（2007 年 7 月～2013 年 6 月） 言語系学会連合運営委員会委員（2013 年 7 月～現在に至る） 授賞候補選考委員会（2016 年 7 月～現在に至る） 地域ブロック運営委員会委員（2016 年 7 月～現在に至る） 代議員選挙管理委員会委員（2016 年 7 月～現在に至る）	1988 年 8 月～現在に至る
九州日本語連絡協議会	事務局長（2007 年 4 月～2011 年 3 月）	2005 年 10 月～現在に至る
日本教師教育学会		2004 年 4 月～現在に至る
日本教育アクション・リサーチ・ネットワーク	副代表（2010 年 10 月～現在に至る）	2010 年 10 月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 特になし				
（学術論文） 特になし				
（翻訳） 特になし				

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 1. 日本語教育実習は、何を「実習」させ、どのような能力を伸ばすのかー大学の現場の視点からー	単独	2018.9.	平成 30 年度文化庁日本語教育大会	① 西南女学院大学日本語教員養成課程を例として、日本語教育実習をどのようにデザイン・運営すべきかについて、総合的分析を行った。
2. 中学校スローラーナー用のリメディアル教材の開発ー文字と音の結びつきに焦点を当ててー	共同	2018.9	2018 年度日本教育アクション・リサーチ・ネットワーク大会（横浜）	① 中学生のスローラーナー向けに開発された『Sounds and Letters』を使用し、その成果に関する総合的分析を行った。 ② 共同発表者　河村扶美・松田由起子・高橋志成・竹下幸代・原堅吾
				教育研究業績　総数　（2019.3.31 現在） 著　書　26　（内訳　単　3，共　23） 学術論文　38　（内訳　単　30，共　8） 翻訳　1　（内訳　単　0，共　1） 学会発表　66　（内訳　単　33，共　35） （その他） 視聴覚教材　3　（内訳　単　2，共　1） 書　評　1　（内訳　単　1，共　0） 科研成果報告書　4　（内訳　単　0，共　4） 事　典　1　（内訳　単　0，共　1） 文化庁委嘱事業報告書　2　（内訳　単　0，共　2） その他の報告書等　11　（内訳　単　0，共　11） 以上

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
ICT 活用による授業の質向上および業務の効率化を目指した教員研修プログラムの開発	日本学術振興会	○　（山田智久） 横溝紳一郎	1.000,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
小学校高学年における英語の読み書き指導に関する衝動的アクション・リサーチ	日本学術振興会	1,100,000	

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
福岡市立博多小学校外部評価委員	委員長	2007 年 4 月～2018 年 3 月
福岡市立博多中学校サポーター会議	委員	2007 年 4 月～2018 年 3 月
福岡市国際教育礎プラン運営指導委員会	委員	2015 年 4 月～2018 年 3 月
福岡市国際教育懇話会	座長	2015 年 4 月～2018 年 3 月
福岡県立香住丘高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール事業運営指導委員会	委員	2011 年 4 月～現在に至る
福岡市中学英語教育研究会主催 Yoko-Yoko Network	コーディネーター	2012 年 4 月～現在に至る
公益財団法人日本英語検定協会講師派遣	講師	2012 年 4 月～現在に至る
福岡県立香椎高等学校スーパープロフェッショナル・ハイスクール事業運営指導委員会	委員	2015 年 4 月～現在に至る
福岡県立香椎高等学校評価委員会	委員	2015 年 4 月～現在に至る
福岡県教育委員会主催英語教員指導力向上研修	指導助言者	2017 年 4 月～現在に至る
福岡市次期教育振興基本計画策定検討委員会	委員	2018 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生部長　2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日
国際交流委員会　委員長　2016 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日
就職委員会　委員長　2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日
ハラスメント防止委員会　委員　2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日
学生個人情報保護委員会　委員　2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日
大学祭実行委員会　委員　2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

学生募集委員会　委員　2013年4月1日～2018年3月31日
教職委員会　副委員長　2015年4月1日～2018年3月31日
外部資金導入プロジェクト　委員　2015年4月1日～2019年3月31日
就職委員会　委員（代理）　2017年8月1日～2018年3月31日
ハラスメント相談員　2017年4月1日～2018年3月31日

観　光　文　化　学　科

２０１９年度教育研究活動報告用紙（様式９(2019)）

氏名　　池口 功晃	職名　准教授	学位　博士（経済学）（久留米大学 2019 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
観光経済学、観光と経済	日帰り観光、観光の経済効果、産業連関分析

研　究　課　題

観光を通じた地域経済活性化に関する国内のこれまでの研究においては、観光地の「魅力」こそ集客力の核心であると捉えたものが多く、例えば、温泉、食事、レクレーションなどの魅力をいかに高めるかということに焦点が当てられる傾向があった。しかし、近年の急速な高速交通網の発達は人々の目的地への移動を短時間で可能とするため、観光者にも焦点を当て、①観光行動を消費者行動と捉えた消費行動分析や観光地間の競合関係の分析や②観光客の観光消費額をもとに産業連関表を通じた精緻な経済分析を通じて、日帰り観光の経済効果に関する議論を計量的・客観的に行う必要がある。そこで、私の研究では、まず観光の概念を整理し観光者の行動を制約する２つの要素、すなわち「時間」と「費用」に着目し、その費消関係に対して、経済学の効用概念を援用しつつ、観光行動の類型化とその分析を試みた。そして、観光者による観光目的地の選択場面において、これら「時間」と「費用」が意思決定の重要な要素になるとの仮定のもとに、国内の具体的な地域（大分県）を対象に、GIS（地理情報システム）等を用いて、各観光地が取り込む日帰り観光商圏を分析し、さらに観光地間の競合関係を明らかにした。次に、大分県 14 市を事例に大分県産業連関表からそれぞれの産業連関表を作成した上で、観光客の観光消費額をもとに経済効果を測定し、観光がそれぞれの地域経済にどの程度寄与しているかを明らかにした。

このように私の研究は、地域社会の課題を「観光」という切り口で捉え、観光を通じた計量的・客観的な地域経済の分析および評価を主とするものであり、今後の研究の方向性としては、（ｉ）サーベイ法を用いた日帰り観光の経済効果を計測することにより、日帰り観光の経済効果とその当該地域の産業構造の関係についてより精緻な考察を行うこと、（ii）修正ハフモデルを観光地間の競合関係により深く組み込んで精緻な分析を行うこと、（iii）（ｉ）（ii）を含めた手法を大分県以外の地域にも応用し、九州の日帰り観光を総体として研究することを課題としている。

担　当　授　業　科　目

(前期)	(後期)
・インターンシップ　(観光文化学科)	・キャリアデザイン論Ⅰ (観光文化学科)
・国際ビジネス論　(英語・観光文化学科)	・ビジネスファイナンス (観光文化学科)
・初年次セミナーⅠ　(観光文化学科)	・多国籍企業論 (観光文化学科)
・日本経済入門　(観光文化学科)	・地域活性化演習Ａ (観光文化学科)
・ビジネス演習Ａ　(観光文化学科)	・地域活性化演習Ｂ (観光文化学科)
・ビジネス演習Ｂ　(観光文化学科)	・ツーリズム演習 (観光文化学科)
・国際経済入門　(英語・観光文化学科)	・旅行産業論 (観光文化学科)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　インターンシップ　】

本学科は伝統的に学生にまず希望する事業先のアンケートをとり、これに基づいてインターンシップ受入れの可否について各事業先に交渉する方法をとっている。2019 年度においては、私が本授業の担当となったためこの方式を踏襲した。具体的な作業としては、①事業先への交渉、②日程の決定、③学生へ随時連絡、④インターンシップ依頼書および学生の自己紹介書の作成と添削、⑤覚書の作成、⑥起案書作成、⑦学生保険等の手続きなど、非常に煩雑な作業ではあるが、学生の夢実現へ向けて他の学科にはない取り組みをおこなっている。

授業科目名【　国際ビジネス論　】
貿易取引のしくみ、貿易書類の読み取り方についてレジュメを作成し、学生にわかりやすく説明している。また毎回授業前に前回の授業を踏まえたミニテストを実施し、学習の定着を図っている。

授業科目名【　初年次セミナーⅠ　】
毎回授業の最初にディベートの練習をおこなっている。テーマは7月におこなわれる本学科のディベート大会のものであるが、ディベートの手順、進め方や考え方を丁寧に細かく説明している。これにより学生のディベートのスキルが少しずつ上達している。

授業科目名【　日本経済入門　　】
経済学系の科目は金利、株価、貿易、財政、税などマクロ経済学の基礎を理解していなければ、本当の意味での理解はできない。そこで、授業の前半ではマクロ経済学の基礎について図や計算による演習をおこない、理解の定着を図った。その後、戦後の日本経済（GHQ の占領下～高度経済成長期～石油ショック～バブル経済の発生と崩壊～不良債権問題～アベノミクス）についてこれらを踏まえながら順に説明している。この授業では毎回作成されるレジュメを通して実施され、かつ授業前にミニテストを実施しているため、学生は経済用語の単なる暗記でなく、これらを真に理解し、かつさまざまな経済要素が連動していることを理解できるものと思われる。

授業科目名【　ビジネス演習Ａ・Ｂ　】
毎回作成しされるレジュメを通じて、ビジネス社会で必要とされる①仕事への取り組み方や②ビジネスマナー③知っておきたい会計・法律・税金の知識を詳しく丁寧に説明している。また、15 回の授業において 2 回ほど中間テストを実施し、学習の定着を図っている。

授業科目名【　国際経済入門　】
日本経済入門と同様、本授業においても金利、株価、貿易、財政、税などマクロ経済学の基礎を理解していなければ、本当の意味での国際経済の理解はできない。そこで、授業の前半ではマクロ経済学の基礎について図や計算による演習をおこない、理解の定着を図っている。その後、①国際収支、②為替レートの決定や為替介入、③国際通貨、④GATT・WTO、⑤地域統合、⑥貧困問題、⑦環境問題など、広く国際経済を学ぶ上で必要な知識を毎回作成されるレジュメを通じて詳しく丁寧に説明している。

授業科目名【キャリアデザイン論Ⅰ】
大学生の就職・キャリア支援のため、女性活躍推進や WLB 推進に取り組む企業の推進担当者（労務・人事担当者など）を講師役として、「働くことはどういうことか」「職業生活における女性活躍や WLB とはどういったものか」などについて、市内企業へ実際に勤める社会人からリアルな声を聴くための場を講義として設けることで、学生は「就職して働くこ とや自身のキャリア」について自身のこととして考えるきっかけとしている。

授業科目名【ビジネスファイナンス】
ビジネスでは数字（例えば、いくらの利益なのか、あるいは、赤字なのか）が大事である。本授業では、企業財務（ファイナンス）の諸事項を扱う。具体的には企業の資金調達・運用の手法、企業の業績結果および業態を示す決算書の分析（財務分析）など実践的な基礎知識を学ぶ。

授業科目名【多国籍企業論】
経済活動のグローバル化が進むなか、国際ビジネス活動において主要な役割を演じている多国籍企業は、経済・社会・文化などの面で、世界に大きな影響を及ぼしている。このような多国籍企業を理解することを通して、国際ビジネス、（貧困問題を含めた）世界の動き、日本企業、欧米企業などの動向を学ぶ。
　また、多国籍企業はどのように生成・発展してきたのか、進出先の国、世界、および本社が所在する発祥国にどのようなメリット・デメリットを与えているのか、企業として存続し競争力を強める上でどのような戦略と行動（顧客志向の面など）をとっているのかを、多くの事例を通して学ぶ。

授業科目名【地域活性化演習Ａ・Ｂ】 本授業においては地域活性化の重要な担い手である企業等を中心とした生産主体に着目し、企業と学生の共同作業を通じて地域活性化に資する一定の成果を追求することを目的としている。具体的には、企業等の選定～共同作業の提案～成果発表に至る過程でアクティブラーニングの形式をとり、随時企業を訪問し共同作業をおこなっている。
授業科目名【ツーリズム演習】 九州におけるインバウンド観光振興のために、観光マーケ ティング及びインバウンド観光の知識を有するインバウンド対応型の観光人材の育成が求められている。本授業においては、九州と上海を研究事例として、観光マーケティングとインバウンド観光の理論を学ぶ。
授業科目名【旅行産業論】 訪日外国人数が 3,000 万人を超えた昨今において本授業では急増するインバウンドの現況とインバウンドビジネスの基礎知識を学ぶ。また訪日客の約８割はアジア諸国等（韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール）の人々であることから、これらの国々の観光・旅行業界の構造と最新トピックスについて説明している。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本企業経営学会	設立発起人	2018 年 4 月
九州都市学会		2015 年 4 月
人文地理学会		2014 年 4 月
経営行動研究学会		2013 年 4 月
観光学術学会		2012 年 4 月
日本観光研究学会		2008 年 4 月
日本地理学会		2008 年 4 月
福岡地理学会		2007 年 12 月

２０１４～２０１９年 度　　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 『大分学検定完全対応 まるごとわかる大分県 歴史・人物から文化・観光まで』 162-163 頁	共著	2014 年 9 月	明石書店	（担当箇所 162-163 頁　共著者名 大分学研究会会員）　政府は観光振興の成功に導いた人々を「観光カリスマ」と称し、2005 年までに全国で 100 人認定した。彼らに共通して言えるのは地元を愛し、独自のアイデアを胸に、強いリーダーシップのもと地域を一つにまとめたことである。本稿では大分県が誇る 4 人の観光カリスマと彼らの活動を紹介した。
『大分学事始　第１集』 大分学研究叢書　第３巻	共著	2018 年 10 月	一般社団法人大分学研究会	（担当箇所 156-157 頁、164-165 頁 共著者名 大分学研究会会員）「姫島散策」および「天瀬探訪」というテーマのもと、天瀬や姫島の文化・歴史・観光について紹介した。

２０１４～２０１９年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） 「まちづくりと観光の経済効果 －竹田市「農村回帰宣言」等を事例として－」	単著	2014 年 2 月	『別府大学短期大学部紀要』第 33 号(別府大学短期大学部) 95-108 頁	大分県竹田市は、急速な過疎化と少子高齢化が進行し、自治体の存続が危ぶまれる全国有数の地域である。このような状況のもと、平成 21 年に市は地域再生を企図した市政方針を策定した。これには「農村回帰宣言」やその他観光を通じた新しいまちづくりへ向けた取り組みが含まれており、過疎化に直面する全国の地方自治体の注目の的となっている。本稿ではこの新しいまちづくりへ向けた取り組みの竹田市の観光への影響と竹田市産業連関表の作成を通じた経済効果を測定した。
「山間温泉地の産業構造と観光による地域経済への影響　　－日田市天瀬町を事例として－」	単著	2014 年 3 月	『南榮科技大学　2014 異文化交流國際学術研討會論文集』（南榮科技大学）126-139 頁	近年、地域社会維持への活路を観光に求める傾向が強まっている。しかし、観光が当該地域の産業構造を通じて地域経済に及ぼす影響については十分に明らかにされていない。特に、山間地は一般にその地理的要因から他地域に比べて産業が未発達である場合が多く、観光がもたらす経済効果等は不明瞭である。本稿においては、天ケ瀬温泉で知られる天瀬町（大分県日田市）の産業連関表を作成し、観光が産業構造を通じて地域経済に及ぼす影響を分析した。
「市町村合併と人口減少社会」	単著	2014 年 10 月	『地域社会研究』第 24 号（別府大学地域社会研究センター） 24-27 頁	「平成の大合併」と称される全国市町村合併は平成17年から18年にかけて実施され、大分県では58市町村が18市町村へと統合された。これにより自治体の財政力強化と行政の効率化が一段と進んだが、自治体周辺部の中山間地域では、市街地への人口流出による過疎化の進行やコミュニティの崩壊をもたらすなど合併による弊害が指摘されている。本稿では市町村合併後、十年を迎えた大分県日田市を訪れ、市政およびコミュニティの現況を調査した。
「観光による地域経済効果の分析と検証　－大分県日田市および由布市の比較分析を通じて－」	単著	2015 年 2 月	『別府大学短期大学部紀要』第 34 号(別府大学短期大学部) 107-119 頁	地方自治体の観光政策の主たる目的は、国内外から多くの観光客を呼び込み地域に高い経済効果を生み出すことにある。しかし、経済効果は各地域の産業構造に大きく依存するため、入込観光客数の増減の把握のみでは足らず産業連関表の作成を通じた計測が不可欠である。そこで、本稿では大分県日田市と由布市を事例に、両市の産業連関分析を通じたそれぞれの観光による経済効果を計測し、その差異が生じる要因を考察した。

２０１４～２０１９年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
「ワークシェアリングと人々の暮らし―大分県姫島村を事例に―」	単著	2015年8月	『地域社会研究』第 25号(別府大学地域社会研究センター)　27-29頁	大分県姫島村は公共セクターの「ワークシェアリングモデル」や姫島方式と呼ばれる「地域包括医療・ケアシステム」で全国的に知られ、少子高齢化・過疎化対策に真正面から取り組み、独自の自治体経営を実践している。本稿では、同村の調査を通じ、自治体経営や村づくりの在り方を考察した。
「観光客の減少要因に関する一考察―日帰り観光商圏の設定を通じて―」	単著	2018年7月	『経営行動研究年報』第27号(経営行動研究学会)72-75頁	本稿では日帰り観光客の減少要因を探るために、大分県14市を例にWebGISを活用した時間距離に基づく日帰り観光商圏を設定し、日田市と津久見市を例にこれらの変化に伴う競合関係について考察することを目的とした。その結果、北九州～津久見間の東九州自動車道の開通により津久見市の日帰り観光商圏が大幅に拡大したことで、日田市と津久見市が互いに競合関係を有し、その結果日田市の日帰り観光客が減少する可能性について論じ、一定の検証を行った。
(学会発表) 「山間温泉地の産業構造と観光による地域経済への影響－日田市天瀬町を事例として―」	単独発表	2014年3月	2014 異文化交流國際学術研討會(南榮科技大学(台湾))	近年、地域社会維持への活路を観光に求める傾向が強まっている。しかし、観光が当該地域の産業構造を通じて地域経済に及ぼす影響については十分に明らかにされていない。特に、山間地は一般にその地理的要因から他地域に比べて産業が未発達である場合が多く、観光がもたらす経済効果等は不明瞭である。本発表においては、天ケ瀬温泉で知られる天瀬町(大分県日田市)の産業連関表を作成し、観光が産業構造を通じて地域経済に及ぼす影響を分析した。
「観光を通じた地域再生の取り組みとその経済効果の測定-大分県竹田市を事例に-」	単独発表	2014年8月	第 24 回経営行動研究学会全国大会(日本大学)	大分県竹田市は、急速な過疎化と少子高齢化が進行し、自治体の存続が危ぶまれる全国有数の地域である。このような状況のもと、平成21年に市は地域再生を企図した市政方針を策定した。これには「農村回帰宣言」やその他観光を通じた新しいまちづくりへ向けた取り組みが含まれており、過疎化に直面する全国の地方自治体の注目の的となっている。本発表ではこの新しいまちづくりへ向けた取り組みの竹田市の観光への影響と竹田市産業連関表の作成を通じた経済効果を測定した。

２０１４～２０１９年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
「観光客の減少要因に関する一考察―日帰り観光商圏の設定を通じて―」	単著	2017 年 9 月	第 27 回経営行動研究学会全国大会（創価大学）	本発表では日帰り観光客の減少要因を探るために、大分県 14 市を例に WebGIS を活用した時間距離に基づく日帰り観光商圏を設定し、日田市と津久見市を例にこれらの変化に伴う競合関係について考察することを目的とした。その結果、北九州～津久見間の東九州自動車道の開通により津久見市の日帰り観光商圏が大幅に拡大したことで、日田市と津久見市が互いに競合関係を有し、その結果日田市の日帰り観光客が減少する可能性について論じ、一定の検証を行った。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
「輝こう！あまがせ・支援大使」（大分県日田市天瀬町「天瀬公民館まちづくり事業」） 宇佐市まち・ひと・しごと創生有識者会議　審議委員 津久見市まちづくり推進事業審査委員 日田市天瀬農業公園検討委員会	観光に関する助言・指導等をおこなう。 副委員長 会長	平成 25 年 9 月～（現在に至る） 平成 27 年 7 月～（現在に至る） 平成 28 年 8 月～（現在に至る） 平成 30 年 9 月～（現在に至る）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生募集委員会委員 学生委員会委員

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９（2018））

氏名　　神崎　明坤	職名　教授	学位　修士　教育学　九州大学 1995 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
国際比較教育・国際比較社会文化	比較社会文化教育、異文化コミュニケーション

研　究　課　題
①　中日の近代における思想家の道徳修養に関する研究 ②　日中異文化コミュニケーションに関する基礎的な研究 ③ 中国における大学カリキュラムの改革に関する研究

担　当　授　業　科　目			
科　目　名	単位数		授業評価ポイント ※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
	必　修	選　択	
入門中国語会話（前期）		○	
ツーリズ中国語（前期）		○	
中国の社会と文化（前期）		○	
初年次セミナー（前期）	○		
専門演習ＩＡ（前期）	○		
初級日本語（前期）	○		
専門演習Ⅱ（通年）	○		
卒業研究（通年）	○		
初級中国語会話　（後期）		○	
上級中国語（後期）		○	
アジア歴史と文化（後期）		○	
中国語通訳ガイド演習（後期）		○	

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　入門中国語会話　】 １、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。 ２、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。 ３、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。 ４、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。 ５、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。
授業科目名【　初級中国語会話　】 １、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。 ２、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。

３、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
４、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
５、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【　ツーリズム中国語　】
１、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
２、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
３、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
４、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。中国語でプレゼンテーションを作成し、発表させる練習を行った。
５、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【　上級中国語　】
１、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
２、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
３、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
４、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
５、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【　中国の社会と文化　】
グローバリゼーションの時代に異なる文化を持つ諸社会がお互いに理解を深め、共生していく契機ともなりうるものである。このような認識に国際的視野に立って、隣国―中国のことを幅広く学び、考えながら異なる社会文化に触れて行く。お互いを豊かにし合うような関係を模索し、育てて行くことがこの授業の旨である。
１・講義ならびにテレビ、DVD などの補助教材の活用、質問技法などにより、学生の学習能力、研究興味を高め、伝統の中国と最新情報を対照的に紹介しながら、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
２・学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点など学生の能力に対応した個別した学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。
３・講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度まとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
４・中国文化を理解するために、中国のことばかりでなく、中華料理をも実際調理して、その文化の深みを理解する工夫を行った。

授業科目名　【専門演習ＩＡ】
本授業は大学生として必要な基礎学力を養成する授業をする。大学時代にしか学べない基礎教養を学び一生の知的財産とする、論理的な思考と明快な文章表現や発表ができる、受講マナーが身についている、新聞や本を読む習慣が身についている、規則正しい生活習慣が身についていることがこの授業の旨である。
１、　講義並びにテレビ、ＤＶＤなどの補助教材の活用、質問技法などにより、学生の学習能力、研究興味を向上させ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
２、　学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点等学生の能力に対応した個別した学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。

学生に安心、安定に勉強できる環境をいつも心がけている。

授業科目名【　専門演習Ⅱ　】

グローバル化が進行し、国境の垣根が低くなる一方、文化の独自性、多様性への視点の重要性も高まって
る。日本文化の中には中国や朝鮮半島からの伝来文化を受容して形成したものが沢山ある。米やお茶等の食文
や儒教、年間行事、物の考え方等の思想などの伝来文化によって形成された文化や習慣、行事を考え、現代の
化の特徴を探りながら、異文化を理解していくことがこの授業の旨である。

１・この授業は異文化を深く学ぶことにある。まず、分かりやすい日本と中国文化に関する論文を多数読んでも
その相違点の比較研究等を通じて、日本文化の特徴を理解する工夫を行った。

２・日本と中国文化の調査や研究を通じて、学問の面白さを味わって、各自が関心を持ったテーマについての
画の立案方法を学び、先行文献を参考しながら各自のオリジナルのものを作らせる工夫を行った。

３・実際に各自の選んだテーマに関する情報を収集し、分析方法を学び、学生自身の考えをまとめ、口頭発表
作成の方法に必要能力を身に付けさせる工夫を行った。

授業科目名　【　卒業研究　】

卒業研究はこれまでに学んで得た知識とアプローチの仕方を生かしながら、学生各自がそれぞれの専門領
ける学習の中で最大の関心事として選んだテーマを明らかにし、その問題への考察を深め、見通しを持っ
の仮説を立ててみる方法に習熟するのはこの授業の狙いである。

１・上記の狙いに従って、まず、先行する研究の成果を収集する力を養い、国立国会図書館や大学の研究機関
館の使い方、調べ方という文献入手の方法を指導する。

２・それらを批判的に理解する力、仮説を立てる構想力を養うためにゼミ同士や教員とのコミュニケーションを
繰り返し各自の論理を問い直させる工夫を行った。

３・仮説を論文として展開する力等を養い、学生自分らしい論文をかくことを心がけてもらい、最終的に論文
完成させる工夫を行った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本中国学会	会員	１９９８年４月～現在に至る
九州中国学会	会員	１９９８年５月～現在に至る
九州教育学会	会員	１９９４年　　～現在に至る
日本比較文化学会	会員	２０１１年　　～現在に至る
日本比較文学学会	会員	２０１２年５月～現在に至る
日本比較教育学会	会員	２０１１年１１月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻				
（学会発表 中国の大学のカリキュラ、に関する考察 ―教養教育を中心として―	単著	2018 年 6 月 23 日	日本比較教育学会 54 回 広島大学にて	1990年代以降、中国の高等教育カリキュラム改革が幅広く抜本的に進められている。その趣旨は大学生の総合的な能力の育成と素質（資質）教育の重視を理念として掲げ、従来の狭い専門教育偏重から深い教養教育と高い資質教育及び広い専門教育とのバランスを図るカリキュラム、教育内容への方向転換してきたことである。本研究の目的は重点大学と一般大学のカリキュラム調査の内、大学の教育の質的変化をカリキュラム問題に焦点を当てて、教養教育の実態の因子分析を行い、結果を明らかにしたものである。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）
（1）　共同研究

研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
中国の高等教育カリキュラム改革に関する研究 ～教養教育を中心として～	西南女学院大学	○神崎明坤 古川敬康 （林楽常、呉雲珠、張暁鵬）	1,229,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
○ 宗教主事補

学部長による評価・改善記入欄（助手については、学科長による評価・改善記入欄） ※この欄は、一切公表いたしません
１．教育活動について

２．研究活動について

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 （様式９（2018））

氏名　須藤 秀夫	職名　教授	学位　修士（経営学） （米国ペンシルバニア大学ウォートン校　1978 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
国際金融、　国際経済、　国際ビジネス	金融危機、　金融資本主義 企業の社会的責任(CSR)　ESG 投資

研　究　課　題
・金融危機および通貨危機を発生させる要因（企業統治、米国金融規制緩和など）について考察する。 ・企業の社会的責任(CSR)、CSR を基準にする投資(SRI、または E（環境）S（社会）G（ガバナンス）を重視する ESG 投資）について、欧米と日本での動向を考察する。

担　当　授　業　科　目

科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	
国際経済入門（2 学科合同）（前期）		2	
国際ビジネス論（2 学科合同）（前期）		2	
日本経済入門（前期）		2	
インターンシップ（前期）		2	
人文学入門（前期）	1		
初年次セミナーI（前期）	1		
初年次セミナーII（後期）	1		
専門演習 II（前期・後期）	2		
卒業研究（前期・後期）	4		
多国籍企業論（後期）		2	
ビジネス・ファイナンス（後期）		2	
応用日本語（留学生対応）（後期）	1		
前期８科目　後期６科目			

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【国際経済入門（前期）】（観光文化学科と英語学科学生向け２学科合同）

・学生の疑問・質問を「出席票(兼)質問票・感想票」に書かせ、学生にとって授業で分かりにくかった点等を把握しつつ、次の授業で解説して、学生の理解を向上させることに努めた。
・複雑な事象（例えば、通貨危機、世界的金融危機等）の因果関係、仕組みなどをなるべく図示して、また最新のデータや写真を使って解説し、学生の興味を引き出すことに努めた。
・最近の新聞記事を配付して、授業で扱っている国際経済の事項（輸出とアベノミクス、自由貿易協定 FTA/EPA、ドル円為替相場等）が、現在進行中の世界と日本の出来事であることを理解させるように努めた。
・学生の国際経済に対する関心・意識を向上させるために、新聞・雑誌の記事等から得られる情報に関するレポートの提出課題を与えた。
・覚えてほしい語句については、授業で学生を指して予備知識の有無を聞きながら重要性への意識を高めさせたり、また、教材の中で穴埋めの形で学生の注意を促す工夫をした。

授業科目名【国際ビジネス論　（前期）（英語学科学生および観光文化学科学生向け合同】

・学生からの質問を「出席票(兼)質問票・感想票」の形で受け付け、学生にとって分かりにくかった点、知りたいこと等を把握しつつ、次の授業で解説して、学生の理解を向上させること、積極的な受講態度を引き出すことに努めた。

・複雑な貿易取引、対外直接投資の仕組みなどをなるべく図示して解説し、理解しやすくなるように努めた。

・国際ビジネスの現場の状況、考え方を知り、理解してもらうために、商社の中国ビジネスの歴史的事例、多くの学生が関心をもつ日本航空の中国人マーケットでの文化的摩擦の事例を取り上げ、提出課題とした。これによって学生が国際ビジネスの異文化理解および異文化間コミュニケーションの側面に関心を寄せることを狙った。

・貿易・直接投資の取引に関する新聞・雑誌の記事を紹介し、学習していることが現在の世界のビジネス社会で起こっている事例と関係していること、また就職事情にも関係することが理解できるように努めた。

・覚えてほしい語句（例えば、タックスヘイブン）については、授業で学生を指して予備知識の有無を聞きながら重要性への意識を高めさせたり、また、教材の中で穴埋めの形で学生の注意を促す工夫をした。

授業科目名【日本経済入門　（前期）】

・1年生向けなので、経済に関する基本的な用語、考え方に馴染んでもらうことを主眼とした。
馴染んでもらいたい重要な語句（例：需要と供給）を、教材の中で穴埋めの形式にして学生に書かせ、学生の注意喚起を促した。　また、語句の説明などでは、図や写真を用いた。

・日本の経済・社会の情勢等（少子高齢化、子供の貧困、就職環境、女性の社会進出、政府の財政状況、観光と経済など）について、最新のデータを使って解説し、今日的な経済社会問題として学生が身近に感じることを狙った。

・経済事象がこうなると（例：物価が低下すると、金利が低下すると）次にこうなる、という理屈を理解してもらい馴染んでもらうことを重視した。

・「出席票(兼)質問票・感想票」を使い、学生の理解が不十分なのはどういうことか、学生が関心を寄せるのはどういうことかを把握し、それに基づいて次の授業で解説し学生の理解の改善に努めた。

・学生の経済に対する関心・意識を向上させ、経済記事に目が向くようになることを狙いとして、新聞・雑誌の記事等から得られる情報に関するレポートの提出課題を与えた。

授業科目名【インターンシップ　（前期）】

・外部の企業・機関に実習しに行くので、先方に嫌がられることのないように、学生には①学ぼうとする姿勢を示すこと（業務上のどんな小さなことでも意味があるとの意識を持つこと）、②（指示待ちの姿勢ではなく）役立とうとする姿勢を示すこと、③挨拶をすることの3点を再三強調し、念頭に置かせた。

・敬語をきちんと使うことの重要性を認識させるため、問題を毎回出し、学生に口頭で答えさせた。

・実習先とのコミュニケーションを図るため、学生に同行して事前に訪問挨拶した。また、自己紹介とともに学生が何を学ぼうとしているのかを記したメモを、事前に実習先に送付して、実習の効果を上げることを狙った。

・学生と研修先の都合をすり合わせながら、研修日程を決めることに苦労したが、希望者の多いスターフライヤーが7月にも受け入れるとのことで授業のある平日を避けて日程を組み立てたり、海外研修や海外留学予定の学生の都合に注意しながら、日程を決めたりした。

授業科目名【人文学入門　（前期）】

・第二回授業（2018年4月23日）の1コマだけ、「人文学部での学び」と題して講義を行った。

・話の骨組み・筋道を分かりやすくすることを心掛け、大学で何のために学ぶのか、どのように学ぶのか、について、抽象論にならないように、例を挙げながら具体的に述べた。前者については、自分の価値を上げるため、後者については、問いを発したり、質問することを奨励し、知ること、考えること、コミュニケーションを取ることが重要だと強調した。
また、時間が大事であり、今の学生時代でなければできないことをしていこう、目標を持とう、そして、それに向かって小さなことの積み上げが大事であり、それが自分の「強味」になる何かとなろう、と述べた。

授業科目名【初年次セミナーI　（前期）】

・教材として『知へのステップ』を使用、高校と大学での学びの違いを理解させ、自分の意見を分かり易く伝える重要性、なぜ自分はそう考えるのかをきちんと言えることの重要性を理解させることに重点をおいた。そして、実践として、自分でテーマを選び、口頭でプレゼンし、論文を作成する経験をさせた。それにより、発信することの面白さを感じ取ってもらおうとした。
論文作成の課程で、改善するために何をすべきかを学生と個別に面談し議論した。

・学生に漢字の出題をさせ、仲間に答えさせる時間帯を設けることにより、飽きが来るのを避けること、参加意欲を引き出すこと、漢字という基礎学力の重要性に気付かせることを狙った。

授業科目名【初年次セミナーII　（後期）】

・論文作成の過程で、3 回程度、各学生と面談して、追求したいことの「問い」の形での明示、主張したいことを初めに明示、その理由の明示など、論文改善の方向を示して、仕上げの後押しをした。

・論文作成のルール・研究倫理として、引用文献やデータ情報源の適正な表示とその理由（著作権を侵害しないこと、情報の信頼性に関わること）、他人の文章を自分のもののように取り込むことなく、自分の論述とは区別して示すよう強調した。

・各学生が教室で口頭発表するポスターセッションを実施したが、言いたいことが見て聞いている人にはっきり伝わるように、ポイントを示すように見本を示しつつ指導した。

授業科目名　【専門演習 II　（前期・後期）】

・日本と世界の経済社会に関する学生の知識レベルと関心を高めることを 3 年ゼミの狙いとした。

・日本の経済社会（人工知能(AI)、働き方改革、スタートアップ企業等）に関する解説論文（『日経大予測　2018 これからの日本の論点』と『文藝春秋の 2018 年の日本の論点 100』）を輪読し、自分の意見を言わせるとともに、自分で疑問に思ったことを質問として書かせた。これにより、経済社会問題に対する関心と理解を深めさせるように努めた。

・こうした議論、発表に際しては、学生のコミュニケーション能力向上を狙って、自分はこう考える、どうしてそう考えるのかを言うように指導した。

・グループワークとして、ある商品を外国一国で作って売るための海外進出に際して必要な情報を自分たちで考える課題を与え、国際ビジネス展開への理解と関心を高めることを狙った。

・議論においては、こうなったら、次に社会はこうなる、次にこうなると考える・予想することが大事であり、数字や事例・事実で裏付けを示すことが主張を強める大事な要素であることを強調して、気づきを促した。

・就職対策として、自分が関心をもつ企業の研究を取り上げた。企業の社会的責任（CSR）にどう取り組んでいるか、サプライチェーン（何をどこから調達して、何を作り、誰にどのように提供するのか）はどうなっているかを発表させ、議論し深掘りを試みた。

授業科目名【卒業研究（前期・後期）】

・卒業論文作成において、考察・論述の枠組みが筋道立っていてしっかりするように、学生各人との一対一の対話、email 交信などを通して、学生に考えさせた。とくに、何を言いたいのか、なぜ自分はそう考えるのか、という論旨を明確にすること、信頼性のあるデータ・事例などの論拠を明示することを強調した。

授業科目名【多国籍企業論（後期）】

・「出席票(兼)質問票・感想票」を使い、学生の理解が不十分なのはどういうことか、学生が関心を寄せるのはどういうことかを把握し、それに基づいて次の授業で解説し学生の理解の改善に努めた。

・学生にとって馴染みのある企業（P&G、Disney 等）の経営戦略等に関する具体的な事例、新聞記事を数多く提示し、学生が多国籍企業を身近に感じ、もっと知ろうとする意欲が高まるように努めた。

・写真やビデオを用いて、CSR、企業戦略などに関する事例（ナイキ等）を紹介し、書物だけではわかりにくい現場の情景を実感させ、理解を深めるように工夫した。

・学生自身が関心をもつ多国籍企業のホームページ・決算短信などからその企業の中核的生産活動、社会的責任、社会貢献活動などについてのレポートを提出する課題を与えた。その狙いは、その企業の活動に関する理解・認識から、その企業のファンになること、さらには就職先候補として検討するように仕向けることである。

・馴染んでもらいたい語句（例えば、CSR、BoP ビジネス）については、授業で学生を指して予備知識の有無を聞きながら重要性への意識を高めさせたり、また、教材の中で穴埋めの形で学生の注意を促す工夫をした。

授業科目名【ビジネス・ファイナンス（後期）】

・「出席票(兼)質問票・感想票」を使い、学生の理解が不十分なのはどういうことか、学生が関心を寄せるのはどういうことかを把握し、それに基づいて次の授業で解説し、学生の理解の改善に努めた。また、一方通行にならないように、学生とのやりとりを通して理解を容易にするように努めた。

・複雑な外国為替取引の仕組み、決算書の読み方、損益分岐点などの解説に際しては、図を多用した。

・財務分析を理解させ、前向きの受講態度を引き出すため、学生が個々に関心をもつ同業 2 社が実際に発表している数字を比較分析する課題を与えた。また、危ない会社を見分ける方法など、就職活動に役立てられることを狙った。

・EXCEL を十分使わず習い放しにしている嫌いがあると見受けられたので、EXCEL の表計算を使った収支計画の課題を与え、EXCEL の知識・スキルの有用性に気づくことを狙った。

・最近の新聞記事を紹介し、授業で扱っている財務の問題（営業黒字、損益分岐点比率、格付けなど）が今日的な経済問題につながっていることを示し、学生の関心を高めることに努めた。

・利回り計算、為替差損益などは、金融界に就職する際に求められる資格である外務員（金融商品）の試験に必須の項目であることなどを強調し、動機付けを図った。

授業科目名【応用日本語　（後期）】

・中国人留学生が興味を持っているであろう題材を扱う新聞記事などを取り上げ、取り組み易さを図った。
　例えば、訪日外国人、マンガ・アニメ、和食・ラーメン、日本の正月、茶道など

・日本語力向上につなげるため、i)和文レポートを課し、中間テストを実施し、添削して誤りを指摘した。
ディクテーションン（聞き取り）を行い、また、尊敬語も扱った。

・語彙力を高めるため、一つの言葉が出てきたら、関連した言葉を示した。
　例えば、没落から、沈没、　露見から暴露、　勢力から日本勢・中国勢など

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
国際ビジネス研究学会 日本金融学会	会員 会員	2002 年 10 月～現在に至る 2012 年　5 月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
(翻訳)				
(学会発表)				
				教育研究業績　総数 (2019年3月31日現在) 著書　　なし 学術論文　17 (内訳　単15　共2) 翻訳　　なし 学会発表　なし

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 (内　　容)	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・バドミントン部顧問 ・学科の学生募集委員：　宮崎および鹿児島での入試説明会に参加、若干数の高校への訪問 第２回と第３回オープンキャンパスの企画・とりまとめ担当、 市主催のゆめみらいワークに参画、 一般入試（前期）以降の合格者に送付する学科からのアピール・フライヤー作成等

学部長による評価・改善記入欄（助手については、学科長による評価・改善記入欄） ※この欄は、一切公表いたしません
１．教育活動について ２．研究活動について ３．その他

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　高橋幸夫	職名　　准教授	学位　経済学修士（京都大学）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
マーケティング（広告・ブランド） デザインマネジメント	マーケティング・コミュニケーション デザイン・インスパイアド・マネジメント

研　　究　　課　　題
・ IMC(integrated marketing communication)の今日的課題研究 ・ 石炭流通における小倉商人（中原嘉左右）の研究 ・ デザイン重視の経営研究（デザインマネジメント研究） ・ 大学における地域活性化活動

担　　当　　授　　業　　科　　目
初年次セミナーⅠ（前期） 初年次セミナーⅡ（後期） 専門演習ⅠB 専門演習Ⅱ（前期・後期） 上級日本語（後期） マーケティング入門（前期） 消費者行動論（前期） イベント・テーマパーク論（後期） キャリア・デザイン論（前期） 広告宣伝論（前期） ブランド戦略論（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【初年次セミナーⅠ（前期）】 ・ 大学生活の始まりにあたり、大学生としての心構えから授業の受け方、ノートテイキングなど基本的プレゼンテーションなど基礎事項を学科統一の教科書を用い、理解度向上に努めた。
授業科目名【初年次セミナーⅡ(後期)】 ・ 学生生活で必須とされるレポートの必要性と書き方を修得させるために「レポートとは何か」、「レポートの構成とルール」などを最前半回で解説し、それ以降の授業では毎回テーマを与え、書くことに対する「慣れ」と「論理的思考の重要性」を促した。また、レポートに対する学生相互の講評などを取り入れ、モチベーションの向上につなげた。 ・ 初年次セミナーⅡのステップアップ科目の認識のもと「情報検索力」・「発表力」の向上を目指し、毎回ワークシートを取り入れ、修得度の向上を目指した。 ・ さらに、新聞記事に親しむ事を目的に「まわし読み新聞」を導入し、社会の仕組み、動きに興味関心を喚起させる内容とした。

授業科目名【専門演習Ⅱ（前期・後期）】 ・ マーケティング論及びブランド論の基本的文献を輪読、毎回 PPT による発表形式の演習とし、学生の論理的思考とプレゼンテーション能力の向上に努めた。 ・ さらには、就活を控える学生に対して、「自己分析」「適職診断」「面接」などの指導を行なった。 ・ 西日本工業大学デザイン学部建築学科との課外活動「京築ヒノキと暮らすプロジェクト」、北九州市「カナル・ヴィオラ」プロジェクトなどマーケティング関連の課外活動を行った。
授業科目名【　専門演習１B（後期）　】 ・社会人基礎力のうち「考え抜く力」の養成を目標に毎回ケーススタディを読み込み、それに対する自身の考えを明確化させるとともに、全員でディスカションを行なった。 ・また、プレゼンテーション技術では「100 円ショップ商品プレゼンテーション」を行うことにより苦手意識の払拭を狙った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
商品開発・管理学会 日本商業学会 産業学会		2005 年 4 月から現在 2006 年 4 月から現在 2006 年 4 月から現在

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 西南女学院大学生のキャンパスニーズに関する調査 （報告）	共著	2019 年	西南女学院大学紀要 Vol.23,2019	西南女学院大学・大学短期大学部では、各学科において、将来、専門職として働く人材を育成している。そこで協働するための基礎となる社会人基礎力の習得のための体系的な学びを促進するための環境づくりのための基礎資料をえることを目的としたキャンパスニーズ調査結果を報告した。
（翻訳）				

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
平成30年度大学間連携等による共同研究 京築のヒノキと暮らすプロジェクト （産官学及び地域連携による森林資源の有効活用の研究）	文部科学省	○高橋幸夫 （石垣充）	2,000,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
平成30年度「にぎわいづくり認定事業」 カナル・ヴィオラ活性化事業	北九州市にぎわいづくり懇話会	50,000	

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
We Love 小倉協議会 北九州市「平和資料館（仮称）」 北九州市「食の魅力プロモーション」	幹事 展示設計業務委託審査委員 委託業務審査委員	2018年4月～2019年3月 2018年6月 2018年7月

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
就職委員会委員 西南女学院大学生協理事 2018年度地域、企業との協働事業（課外活動）における学生指導 「学び場」プロジェクト学科担当

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　友原　嘉彦	職名　　准教授	学位　　博士（学術）（広島大学　2011 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
観光地理学、観光社会学、ドイツ語圏観光研究	女性と観光、観光と文化資本、鉱工業都市と観光

研　　究　　課　　題
2018 年度は 2017 年度までの科研費の採択課題であった女性と観光の研究を昇華すべく、その部分も活かして、鉱工業都市と観光について研究してきた。端的には観光に注力している福島県いわき市をフィールドとして調査を行ない、観光の歴史と現状、課題等について明らかにした。なお、この成果は論文として公表することができた。

担　　当　　授　　業　　科　　目
・前期：「欧米文化交流研修Ａ」、「専門演習ＩＡ」、「欧米観光文化地理Ｉ」、「初年次セミナーＩ」、「観光学入門」、「比較文化論」、「中級日本語」 ・後期：「欧米観光文化地理Ⅱ」、「フィールドワーク入門」、「観光フィールドワーク」、「観光社会学」、「ツーリズム演習」、「旅行産業論」 ・通年：「専門演習Ⅱ」

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　専門演習Ⅱ　】 ４年次の「卒業研究」にスムーズに進めるよう、文献の探し方、構成、読み方などについて時間をかけて指導し、受講生各自が興味を持った文献について発表もしてもらった。また、学生に関心のあった兵庫県の城崎温泉における「女子旅」を科目共通の研究課題として取り組んだ。後半には「卒業研究」にあたっての構想発表を行なってもらった。再発表となったものもあったが、最終的には翌年度に向けてクオリティーの高いものになった。
授業科目名【　欧米文化交流研修Ａ　】 学内でドイツ語やドイツの歴史、文化、社会等についての知識を深めた上で、実際にドレスデンの大学に行き、語学を始めとした研修を受けた。学生は現地の大学や寮で他国の学生と交流を行なった。また、ドイツやオーストリアといったドイツ語圏の関わりの深いチェコのプラハにも赴き、ドイツ文化圏や旧共産圏のあり方に触れることができた。
授業科目名【　専門演習ＩＡ　】 本科目は１クラス 30 人規模の２年生配当の演習である。この科目から「専門」という名称が付されており、当クラスでは、友原嘉彦編著(2017)『女性とツーリズム』古今書院、を教科書として用い、女性と観光を中心に専門性の基礎の涵養に努めた。
授業科目名【　欧米観光文化地理Ｉ　】 西欧の観光地域、観光都市を取り上げ、それらの観光地としてのあり方・魅力・誘因力について講義を行なった。地図や画像、グラフもふんだんに用いて、理解の定着努めた。定期試験だけでなく、月１回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。
授業科目名【　初年次セミナーＩ　】 本科目は１クラス 7~8 人規模の一年次の演習で、８クラス共通でレポートの書き方などをテーマとしており、教科書も共通のものである。教科書の輪読も行なったが、加えて、関連する新聞・雑誌記事も用いて、理解の定着に努めた。

授業科目名【　観光学入門　】 観光学の入門科目であるため、基礎的なところから人文・社会科学、自然科学に至るまで分野横断的に理論について指導した。終盤にはバックパッカーや「女子旅」など比較的近年における各時代に流行した旅の形態についても触れ、現実感のあるものともした。
授業科目名【　比較文化論　】 日独のポピュリズムの歴史について比較検討した。ポピュリズムが暴発したときどうなるのか。凄惨な事例も例にしたが、受講者はその危険性から目を背けることなく、しっかり参加してくれた。ニーチェやオルテガ、あるいはブルデュー以来、文化における決定的な違いは場所ではなく、所属層の違いに収斂されていることが示されるようになった。次年度もこの辺りについてより深めていきたい。
授業科目名【　中級日本語　】 留学生対象科目である。友原嘉彦編著(2017)『女性とツーリズム』古今書院、を用い、時間をかけて輪読した。これにより、日本語力のさらなる向上はもちろん、観光文化学科ならではの観光学についても考えることができ、議論も活発であった。毎回、漢字の読みや外来語の意味に関する小テストも行なった。小レポートも２度課した。
授業科目名【　欧米観光文化地理Ⅱ　】 東欧の観光地域、観光都市を取り上げ、それらの観光地としてのあり方・魅力・誘因力について講義を行なった。地図や画像、グラフもふんだんに用いて、理解の定着努めた。定期試験だけでなく、月１回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。
授業科目名【　フィールドワーク入門　】 前半はフィールドワークの役割と方法など理論的なことを学んだものの、中盤からは北九州市、および、その周辺地域を対象地としてフィールドワークを行なった。定期試験は行なわず、フィールドワークの前後にそれぞれ2~3人のグループで口頭発表をしてもらった。観光に囚われず、多様な疑問にあたるという上で、この地域で生活する者達として多くの考えるきっかけを付与することができた。
授業科目名【　観光フィールドワーク　】 北九州市、および、その周辺地域を対象地として観光フィールドワークを行なった。定期試験は行なわず、フィールドワークの前後にそれぞれ2~3人のグループで口頭発表をしてもらった。また、フィールドワークを通して各人が興味を持った観光のテーマについて文献を紹介してもらった。
授業科目名【　観光社会学　】 観光社会学の教科書を用いて講義を行なったが、加えて、関連する新聞・雑誌記事も用いて、理解の定着に努めた。定期試験だけでなく、月１回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。
授業科目名【　ツーリズム演習　】 本科目は１クラス30人規模の１年次の演習で、２クラス共通でキャリアの考察をテーマとしていた。担当したクラスでは教科書に都市計画に関するものを選定し、日独の周縁都市の都市計画について比較検討を行なった。中間レポートも２度提出してもらった。
授業科目名【　旅行産業論　】 旅行産業にかかる教科書を用いて講義を行なったが、加えて、関連する新聞・雑誌記事も用いて、理解の定着に努めた。期末レポートだけでなく、月１回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本国際観光学会 日本観光研究学会 観光学術学会		2008年４月～現在に至る。 2008年７月～現在に至る。 2012年７月～現在に至る。

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 「周縁鉱工業都市における観光都市的性格付け　―福島県いわき市を事例として―」	単著	2019年3月	西南女学院大学紀要 23, pp.71-79	観光に注力している周縁鉱工業都市として福島県いわき市を選定し、観光都市的な性格付けの変遷を探った。結果、外部からや外部をよく知っている者からの先進的な働きかけが市の観光に大きな影響を与えたが、そのような環境が整わない限りは特筆すべき状況にはなりにくいことが示された。
（翻訳）				
（学会発表）				
				教育研究業績総数 （2019年3月27日現在） 著書　1　（内訳：単0、共1） 学術論文13（内訳：単13、共0） 翻訳　0　（内訳：単0、共0） 学会発表 9　（内訳：単8、共1）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教務委員会（副委員長）、学生委員、学生募集委員

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　林裕二	職名　教授	学位　修士（文学）（西南学院大学　1993 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
英語学	統語論、会話分析、文体論

研　　究　　課　　題
英語学の領域で、特に会話分析、談話分析を専門とする。ビジネスコミュニケーションにおけるレターや文学作品、映画(脚本) を言語資料として、人間関係をどのように言語が反映するかを考察する。それらの分野の知見を援用した創作活動として、詩・英語俳句等にも取り組む。

担　　当　　授　　業　　科　　目
人文学入門（前期）（英語学科・観光文化学科） 初年次ｾﾐﾅｰⅠ（前期）（観光文化学科） 基礎英語（前期）（観光文化学科） ｸﾞﾗﾏｰ&ｺﾝﾎﾟｼｼｮﾝⅠ（前期）（観光文化学科） Extensive Reading Ⅰ （前期）（観光文化学科） 基礎演習A（前期）（観光文化学科） 応用英語（（後期）（観光文化学科） Oral English Ⅱ （後期）（観光文化学科） Extensive Reading Ⅱ （後期）（観光文化学科） 専門演習ⅠB（後期）（観光文化学科） 専門演習Ⅱ（通年）（観光文化学科） 卒業研究（通年）（観光文化学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【人文学入門（前期）（英語学科・観光文化学科）】 人文学部の専門科目で 2018 年度カリキュラムの新規科目（90 分 8 回）。人文学部の教員がそれぞれ原則として一コマ担当する。人文学部での学びの導入として、先ずは一般的な人文学の枠組み、そして本学における人文学関連の学びの枠組みを知ることを目的とする。語学、文学、キャリア等の幅広い学びの紹介を行う。大学での最初の時期の授業であり、出席や提出物の約束事がシラバス（配布）にどのように記されているかを丁寧に説明した。
授業科目名【初年次ｾﾐﾅｰⅠ（前期）（観光文化学科）】 2018 年度カリキュラムの新規科目。総合人間科学の必修科目。2017 年度までの入学生には、内容的には観光文化学科の専門科目「基礎演習Ａ」に相当する。１回目は学部全体で受講し、2 回目以降は学科の専任教員が担当する。専任教員７人で１学年の学生を均等に割り振りした少人数のクラス編成として、一人の教員が残りの 14 回を担当する。先ずは学生相互の人間関係と作らせる。大学における友人関係の第一歩を確保させることを目指した。そのためには授業の手法として、ペア学習、グループワークを取り入れた。また学年行事として二回の授業を使い、ディベート大会を行った。その際に授業で学んだ文献の探し方の基本、わかりやすい発表のしかたを実践させることで、コミュニケーション能力の高め方を学び、自主的な学習の動機付けを高めた。

授業科目名【基礎英語（前期）（観光文化学科）】

観光文化学科の専門科目で 2018 年度カリキュラムの新規科目。1 年次の学年を二分割したクラスサイズである。この授業ならではの自主的な学習活動として、E-learning の CHIeru の学習と英語の多読がある。両方とも授業外の活動としており、オリエンテーション期間中にそれぞれの活動についての指導を行った。また全体指導ではわかりにくいところは、A、B のクラスを問わずに説明をして対応した。

授業科目名【グラマー&コンポジションⅠ（前期）（観光文化学科）】

転学科生と再履修者の履修登録者 10 名の授業。英語の１年次の必修科目を再履修する授業であり、基本的な文法を学び、伝えたい簡単な内容の英作文ができるようにトレーニングを繰り返した。

授業科目名【Extensive Reading Ⅰ （前期）（観光文化学科）】

転学科生と再履修者の実質受講生 4 名の授業。E-Learning の CHIeru(チエル)を使うマルチメディア教室での必修科目。個々の学生のペースに応じて、リスニング、語彙力、読解力を高めるトレーニングをした。また学習時間を担保できるように、毎回課題を出し、達成度を確認した。ネット環境があれば、どこからでも利用可能であり、学生自身が自分の通算学習時間を知ることができるので、学習マイルの目標（2.500 の達成）を持たせて計画的に取り組めるようにした。

授業科目名【基礎演習A（前期）（観光文化学科）】

転学科生 1 名の授業。テキストは前年度まで使っていた「知へのステップ」を使用した。グループワークができない弱みは、2018 年度入学生のディベート大会をオブザーブさせることで一部補った。

授業科目名【応用英語（（後期）（観光文化学科）】

観光文化学科の専門科目で 2018 年度カリキュラムの新規科目。1 年次の学年を二分割したクラスサイズで、Ｂクラスを担当。語学であり、学習の準備生が学習の成否を握る。準備性を容易に高めることができるように、クラスを二分して、語彙調べを担当させ、提出させた。それを前の週に印刷・配布して、テキスト予習にも使うようにさせた。

授業科目名【Oral English Ⅱ （後期）（観光文化学科）】

転学科生と再履修者の実質受講生２名の授業。グループワークはできないが、ペア学習を多用して、発表の機会を増やした。定型的な会話のパターンはこれまでに十分学んでいるので、授業が進むにつれてコンテント（内容）重視となるテキストを使用した。

授業科目名【Extensive Reading Ⅱ （後期）（観光文化学科）】

転学科生と再履修者の実質受講生２名で開始したが、途中から１名となった。E-Learning の CHIeru(チエル)を使うマルチメディア教室での必修科目。毎回課題を出し、達成度を確認した。学生自身が自分の通算学習時間（学習マイル）を知ることができるので、目標（2.500 マイルの達成）を自覚させて計画的に取り組めるようにした。

授業科目名【専門演習ⅠB（後期）（観光文化学科）】

2 年後期の必修の演習研究科目。一斉授業での説明、シラバスに沿った学生の提出物という細かにステップを繰り返した。大きな提出物は、レポート、ポスターセッション用のポスター、PPT である。れぽーとのついては、特に三段構成と参考文献についての理解を深めさせた。

授業科目名【専門演習Ⅱ（通年）（観光文化学科）】

4 年次の「卒業研究」で卒論を制作する前の年度として、研究の仕方の基礎が理解できているかを確認をし、積み上げを行った。授業では映画「ローマの休日」の多読図書レベルのの輪読をした。映画「ローマの休日」の脚本（英語）を分担して輪読させた。司会も学生にさせて、甘くなり過ぎない限り、学生の自主性に任せるようにした。プレゼンテーション能力を高めるために、また内容のある話題を説得的に話す訓練として、Show & Tell(学生に題材を用意させて説明させること）を毎週させた。知識注入型の講義ではなく、問題発見・解決ができるように、いくつもの機会を提示した。その一つが新聞の読者の声の欄への投稿である。当初は自分で主題そのものを考えて、文章を書くこと自体に抵抗があったが、採用者が出てくるにつれて、意識は高まっていった。知識の枠組みを広げて、論理的な文の構成を体得するために、新聞の社説をペンで手写しをさせた。これに加えて、英語の多読もさせたので、授業外の負担が大きいと感じる学生もいた。

授業科目名【卒業研究（通年）（観光文化学科）】

３年次の専門演習Ⅱに続いて、映画「ローマの休日」の多読図書の輪読をした。続いて現在の東海道を旅す

るアメリカ人の視点からの旅行記(英語多読図書）を輪読した。基礎的な積み上げ（特に、文法、語彙強化）がこの学年でも必要だった。新聞の投稿も 7 月まで継続した。卒論については、既に３年次最初にに卒論製作の 2 年間のタイムテーブルを提示していたが、就職活動の日程も影響してか、なかなかうまく運ばなかった。後期の最初から、全体指導から卒論作成の個別指導へと比重を増やしていった。原則として 11 月以降は全体指導の授業を月一回として、残りは個別の卒論指導とした。質的研究を取り入れた卒論の構成を理解するために、1 年次の基礎演習 A のテキスト（知へのステップ）を再読した。卒論レベルへ高めるために、「よくわかる卒論の書き方」も併用した。最も大切な卒論の知的深みについては、文献を安易に Web から利用することで、論考が深まらないままの学生もいた。卒論作成が終盤を迎えるになる後期の後半でも、個別にあるいは少人数で、文献検索の方法と文献の使い方を繰り返し学ばせて、理解を深めることが必要だった。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
国際ビジネスコミュニケーション学会（旧日本商業英語学会）	九州・山口支部会長　(2010 年 2 月～2018 年 9 月) 本部理事　(2015 年 11 月～現在に至る)	1993 年 6 月～現在に至る
映画英語教育学会	九州支部会計監査　(2006 年 1 月～2011 年 12 月) 紀要査読委員(2010 年 4 月～2012 年 3 月) 紀要査読委員（2018 年 1 月～現在に至る) 九州支部副支部長(2008 年 10 月～2011 年 10 月) 九州支部運営委員（2012 年 1 月～現在に至る)	1994 年 2 月～現在に至る
日本コミュニケーション学会	九州支部紀要編集委員（2011 年 9 月～2015 年 6 月)	1994 年 12 月～2015 年 3 月
日本人類言語学会		2002 年 10 月～2004 年 3 月
英語コーパス学会		2003 年 4 月～2009 年 3 月
日本比較文化学会	九州支部会計監査(2013 年 3 月～現在に至る)	2010 年 2 月～現在に至る
	本部事務局長・理事	2018 年 5 月～現在に至る
万葉学会		2014 年 2 月～現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 俳句(英語）2 句	単	2019.3	朝日新聞英語デジタル欄 Asahi Haikuist Network (http://www.asahi.com/english/haiku/)	①朝日新聞デジタル英語版（The Asahi Shimbun Digital）紙上で、主宰者 David McMurray 氏による選句を掲載するコーナーに掲載。 ②2019 年 3 月 1 日と 3 月 15 日

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				教育研究実績 総数　(2019. 3.31 現在) 著書　2（内訳　単2、共0) 学術論文　0（内訳　単0、共0) 翻訳　0（内訳　単0、共0) 学会発表　0（内訳　単0、共0)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
財団法人　日本英語検定協会	英語検定試験二次試験面接委員	1995 年 8 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
人文学部長　2018 年 4 月 1 日～現在に至る 公開講座委員長　2018 年 4 月 1 日～現在に至る

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　八尋春海	職名　教授	学位　修士（文学）（1993年九州大学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
観光学	観光資源、阿蘇市、公的機関

研　究　課　題
阿蘇市における観光資源の活用

担　当　授　業　科　目
前期 初年次セミナーⅠ、人文学入門、Grammaar&Composition 専門演習Ⅱ、卒業研究 後期 映画で学ぶ世界遺産、映画で学ぶ欧米文化、エアライン英語、ホテル・ブライダル論、専門演習Ⅱ、卒業研究 上記は全て観光文化学科での授業

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【映画で学ぶ世界遺産　】 地理（特に地図）が苦手な学生が多かったため、なるべく多くの地区の地図を活用し、時間をかけて説明を行った。
授業科目名【　ホテル・ブライダル論　】 ホテルに関しては「宿泊産業論」でも学習する機会があるため、ブライダルの方に力点を置いて解説を行った。
授業科目名【　Grammar & Composition　】 再履修の学生のためのものであるため、英語が苦手であることを意識して、ポイントごとに理解ができたかの確認を行って授業を進めた。
授業科目名【　卒業研究　】 人文学部創設以来最大の人数となったため、きめ細やかな授業実施ができるよう、同じようなテーマの学生を集めて、個別指導とグループ指導を兼ねたような指導を行った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本比較文化学会 日本比較文化学会九州支部 余暇ツーリズム学会 映画英語アカデミー学会	会長（2018年～2019年） 九州支部長（2010年～現在） 九州支部事務局長（2014年～現在） 理事・福岡支部長（2015年～現在）	1996年 1996年 2005年 2013年

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 「福岡市におけるホテルウエディングとゲストハウスウエディングの研究」	共	2018年7月	日本比較文化学会『比較文化研究 132号』	ウエディング紹介業者のホームページと雑誌における各施設のアピールの方法について論じたものである。
（翻訳）				
（学会発表） 「映画の中の世界遺産」単独	単	2018年7月	2018年度映画英語アカデミー学会福岡支部大会（於　都久志会館）	映画の中に登場する世界遺産がロケ地ツーリズムに役立っていることを明らかにしたものである。
「映画 *Jack Frost* に見るアメリカ文化」	共	2018年7月	2018度映画英語アカデミー学会福岡支部大会（於都久志会館）	映画Jack Frostに描かれているクリスマスを中心に宗教、親子関係などとアメリカ文化の関係について論じた。

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
「阿蘇市内におけるフードツーリズムの可能性」	単	2018年10月	2018 年度余暇ツーリズム学会九州支部大会（於　都久志会館）	阿蘇市の農業と観光の両方が発展するために、フードツーリズムが果たす役割について論じた。
「日本研究の課題と展望―文学・言語・社会」	共	2018年12月	2018 年度台湾日本語文学会国際学術検討会（台湾日本語文学会・輔仁大学外語学院・輔仁大学日本語文学系主催）（於輔仁大学）	日本文化のうちでこれまで注目されていなかったのの中でも海外で注目されるようになったものを取り上げて論じた。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
デジタル教材と伝統的教材の比較研究	西南女学院大学共同研究費	○マルコム・スワンソン 八尋春海 樋口真己	1,280,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）

観光文化学科長
図書委員
教育経費予算委員
入試委員

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　劉　明	職名　准教授	学位　博士（経営学）〔立命館大学 2011 年〕 修士（観光学）〔桜美林大学 1996 年〕）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
観光学、経営学、ホスピタリティ学	アジア観光、日中観光交流、九州ディスティネーションにおける観光マーケティング、日中ホスピタリティの相違

研　究　課　題
1. アジア観光・特に日中両国の観光交流について 2. 日中観光交流・特に日本におけるインバウンド観光について 3. 九州ディスティネーションにおけるマーケティング戦略の策定と実施について 4. 東洋ホスピタリティ・特に日中ホスピタリティの相違について

担　当　授　業　科　目	
観光学入門	(前期)
ホスピタリティ論	(前期)
アジア観光文化交流論	(前期)
初年次セミナー	(前期)
観光産業論	(後期) ×２
アジア観光文化地理	(後期)
ツーリズム演習	(後期)
旅行商品企画論	(後期)
経営学入門	(後期)
専門演習Ⅱ	(通年)
卒業研究	(通年)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【観光学入門】 「観光学入門」の授業では学生のニーズを把握し、講義内容と学生達の希望を結びつけて、授業を行った。 また、プリント・ＰＣ・ビデオなどの活用により、「観光学入門」を楽しく観光学の勉強ができるというような授業にした。 さらに、学生の皆さんの多くは、将来、観光関係の仕事に従事することを希望していることを配慮し、観光産業（旅行業、宿泊産業、交通運輸業など）の求人情報などを学生達に伝えたり、積極的に授業に参加していただけるように、工夫を行った。

授業科目名【ホスピタリティ論】
　ホスピタリティは今や企業が生き残るために必須の要素になっているのである。お客さま、従業員、地域社会、そしてそのほかの利害関係者に、夢・感動・幸福を提供することこそが企業の存在にとって必要不可欠なのである。つまり、ホスピタリティは企業が存在するための「規範」あるいは「価値」として位置づけられるようになったのだ。この講義では、ホスピタリティとは何かを理論的に学び、企業の事例などを用いてわかりやすく解説し、学生がよく理解できるように工夫した。

授業科目名【アジア観光文化交流論】
　「アジア観光文化交流論」では、日本における観光立国、ビジット・ジャパン・キャンペーン等について論じ、観光マーケティングの視点から、日本や九州におけるインバウンド観光の振興にとっては、重要なターゲットとなるアジア特に中国・上海からの訪日観光客の誘致を事例に講義する。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。

授業科目名【初年次セミナー】
　初年次セミナーⅠでは、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本である『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』の強化を図る。具体的には、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等のITC活用法など、大学で主体的に学ぶ技法を習得することができるように工夫した。

授業科目名【観光産業論】
　「観光立国」と 2020 年の東京オリンピックの影響で、観光産業界に多くのインバウンド対応型の観光人材が求められている。本講義ではこのような状況を背景に、観光産業とはいかなる産業なのか、観光産業の範囲・特徴及び各産業の実情について学ぶ。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。

授業科目名【アジア観光文化地理】
　「アジア観光文化地理」の授業では、学生のニーズを把握し、講義内容と学生達の希望を結びつけて、授業を行った。
　また、映像を通して日本、東アジアをはじめ、アジア各国の観光文化地理を勉強し、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。

授業科目名【旅行商品企画論】
　「旅行商品企画論」では、観光客のニーズの変化を分析し、他地域と差別化できる九州の観光資源及び独特なもの・コトを考察し、九州におけるインバウンド旅行商品の造成プロセスを学ぶ。
　また、演習として学生が自分の馴染みの地域を選んで、そこでのフィールドワーク（FW）活動を通して、観光客のニーズに合った旅行商品の企画をする。さらに、その成果について、発表を行う。

授業科目名【経営学入門】
　本講義では、組織とマネジメントの概念や役割等具体的な内容に触れながら、人の強み・弱み、マネジメントとイノベーションの使命や方法及び戦略について学ぶ。企業の事例などを挙げてわかりやすく解説すし、学生がよく理解できるように工夫した。

授業科目名【ツーリズム演習】
「ツーリズム演習」では、九州と上海を研究事例として、観光マーケティングとインバウンド観光の理論を学び、観光文化学科が実施しているインバウンド観光研修や日本・九州での外国人観光客との異文化交流の具体的な事例をおりこみ、インバウンド観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。

授業科目名【専門演習Ⅱ】、【卒業研究】
「専門演習Ⅱ」と「卒業研究」では、完成度の高い論文が出来るため、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。
また、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本ホスピタリティ・マネジメント学会入会		1994年09月－現在に至る
日本観光研究学会入会		2001年01月－現在に至る
ツーリズム学会（現在の余暇ツーリズム学会）入会		2007年12月－現在に至る
観光学術学会		2012年02月－現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） インバウンド観光の対応型人材の育成について （審査有）	単	2018年10月	2018年度 余暇ツーリズム学会 九州支部会にて	インバウンド観光の対応型人材育成の方法及び効果的なインバウンド観光人材育成をおこなうために、どうすればいいのか、考察を行う。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
国家試験通訳案内士試験委員	中国語面接官 （口頭試問試験委員）	（2010 年 12 月－現在に至る）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
１．国際交流委員 ２．情報システム管理運用委員 ３．懇親会委員

学部長による評価・改善記入欄（助手については、学科長による評価・改善記入欄） ※この欄は、一切公表いたしません
１．教育活動について ２．研究活動について ３．その他

助　産　別　科

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　穴田　和子	職名　　講師	学位　修士（学術）（奈良女子大学　2003 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
助産学　ジェンダー	助産教育　実習指導　ジェンダー

研　　究　　課　　題
・助産学生の分娩介助技術向上に関する研究 ・乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学び

担　　当　　授　　業　　科　　目
〔助産別科〕 総合看護学（前期） 助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）（前期） 助産診断・ケア学Ⅱ（新生児・乳幼児）（前期） 助案診断・ケア学Ⅴ（周産期のハイリスク）（前期　２コマ） 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）（通年） 助産学基礎実習　（前期） 助産管理実習（前期） 助産学実習Ⅰ　（後期） 助産学実習Ⅱ　（後期） 〔看護学科〕 母性看護方法論　（後期） 母性看護学演習　（前期） ウイメンズヘルス看護論（前期） 母性看護学実習　（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）　助産診断・ケア学Ⅱ（新生児・乳幼児）　】 ・実習を視野に入れ、知識と技術ができるだけ統合するよう演習前の課題の提示や資料配布を行い、準備した。 ・妊娠期では、まず妊娠に伴う身体的・心理的・社会的変化を解説し、演習では対象者把握のため、学生自身が妊婦ジャケットを装着し模擬妊婦体験を行った。さらに助産師役も体験してもらい、妊婦体験およびケアの提供者として感じたことなど各自でまとめ、発表することで共有の時間を設け学習効果を図った。 また、模擬助産師外来では、教員が妊婦役、学生が助産師役となり、ロールプレイを取り入れた妊婦健康診査の演習を行った。演習終了後は、自己評価や教員評価だけでなく、第３者の評価として参加した学生にも気づいた点を述べてもらい、学びが深められるよう心掛けた。 ・新生児期・乳幼児では、正常新生児につて講義・演習を担当した。演習では、特に演習においてデモストレーションを行う際、１つ１つの動作については根拠を示しながら説明するように努めた。また、計測やバイタルサイン測定は模型等で演習を行ったが、原始反射等は実際の新生児ではないため、ＤＶＤ視聴を取り入れるなど工夫した。

授業科目名【　助産診断・ケア学（周産期のハイリスク）　】
ハイリスク妊産褥婦のケアについて２コマ担当した。
正常逸脱実習を考慮して症例を選択し、助産計画が立案できるように努めた。「産科診療ガイドライン」を確認することも含め、事例を用いてケアについて考えるなどより実践的な工夫が必要と考える。

授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）　】
健康教育、企画書・指導案作成について解説し、実習で行う妊婦や褥婦への保健指導につなげられるよう心掛けた。演習では、教員が数名の学生を受け持つ担当制とし、学生の企画書や指導案や媒体の工夫について適宜助言した。実施・評価においても、実習で受け持つ対象者を想定して助言した。

授業科目名【　助産学基礎実習　助産管理実習　助産学実習Ⅰ　助産学実習Ⅱ　】
大学での学習・演習で得た技術・知識を臨地実習で実践できるよう支援することを心がけた。施設によって環境（病棟の構造・使用する物品・設備など）が異なっても基本は同じであり（応用する視点を確認）、根拠を踏まえてケアすることを助言した。また、学生の実習が効果的に行えるように実習指導者と相談しながら連携を取った。
学生が注意されたことや疑問点はその都度解決するように努めた。実習で指導された学習の不足に関して知識を補うよう学生に助言したが、限られた実習期間の中で目標達成させるため、学生の指導方法や実習時間の中で効果的に学習できるよう今後も工夫が必要である。

授業科目名【　母性看護方法論　】
産褥期・新生児期について解説した。
ただ単に知識を習得するのではなく、看護（実習）につなげられるよう事例も用い説明した。DVD 視聴やパワーポイントに写真や図を多用し、重要な個所は文字の色を変えるなど工夫した。
また、3 年次の実習を想定し、実際の実習場面を提示しながら説明した。得られた知識が実習でどのように活かされるのか関連付けられるよう努めた。

授業科目名【　ウイメンズヘルス看護論　】
授業の最終目標は、女性の健康に関して、学生の興味・関心のあるテーマについてレポート（単なる報告ではなく、自身の考察も加える）することであり、さらに発表することで学生間の知識の共有ができるよう努めた。授業時間以外にも担当学生と相談できる環境を整え、学習が円滑に進み目標が達成されるよう関わった。

授業科目名【　母性看護学演習　母性看護学実習　】
・看護学科３年生の技術演習を担当した。
産褥の診察、育児技術、授乳について演習を担当し、基本的な母性看護技術が習得できるように模型を使用し説明・実施した。演習する際には産褥の退行性変化・進行性変化を理解した上で、正しい方法で診察した情報からアセスメントすること、新生児の身体的特徴を考慮し実施することなどを助言した。
実習で行うことがある沐浴の技術習得については、演習で実施した上で、各自時間を確保し練習をしてから技術チェックに臨むよう努めた。わからない点は必ず教員に質問し（その日の担当教員を周知）、技術習得できるよう配慮した。
また、ウェルネス看護診断について、事例の情報から全体像を作成し、診断・看護計画立案するまでの過程で、不足していることや不明な点について助言した。
・母性実習では母体の生理的変化だけではなく心理的側面・社会的側面もアセスメントしていくこと、母・児一体でアセスメント・ケアする視点を持つことなど学生に助言した。学生自身も実習日数を重ねるにつれて妊産褥婦および新生児の特性を理解した上で、観察やケアを行うことの大切さに気付いていった。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員 母性衛生学会会員 日本助産学会会員		２００８年12月～現在に至る ２００８年４月～現在に至る ２００９年３月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） １．乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学び （示説）	共	2018．9月	第 49 回日本看護学会－ヘルスプロモーション　－学術集会 （於　岡山コンベンションセンター）	①本研究では、教員と共に行った子育て世代の母親に対しての乳がん検診・自己検診法の啓発活動を通して看護学生の学びを明らかにすることを目的とした。学生は参加者とのやり取りの中で成長を実感し、自ら実践することで自己効力感も感じていた。臨地実習とは違う環境の中で実践の楽しさや新たな気づきを得ていた。 ②共同発表者　○吉原悦子、古賀玉緒、穴田和子、山田恵、前田幸、井手裕子、久保田千景、笹月桃子 ③第49回日本看護学会−ヘルスプロモーション 学術集会抄録集　P106

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・教務委員会　委員（2016 年 4 月～2019 年 3 月） ・看護学科　カリキュラム検討委員会　委員（2016 年 6 月～2017 年 9 月、2018 年 8 月） 2018 年 7 月 15 日　助産別科オープンキャンパスを担当 ・シニアサマーカレッジ（助産別科） 2018 年 8 月 31 日　担当教員の一員として参加

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　古賀　玉緒	職名　講師	学位　修士（医科学）（久留米大学　2009 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
母性看護学・助産学	思春期・更年期・教育

研　　究　　課　　題
若者の性意識を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。 更年期の女性の健康問題を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。 助産学生の教育向上にむけた教授方法を考察する。

担　　当　　授　　業　　科　　目
【助産別科】 女性の健康支援論・助産診断ケア学Ⅱ（分娩期）・助産診断ケア学Ⅲ（産褥期）・助産学基礎実習：(前期) 助産診断ケア学Ⅵ（健康教育演習）・助産診断ケア学Ⅶ（助産過程演習）：(通年)・助産学研究演習（通年） 助産学実習Ⅰ・助産学実習Ⅱ・助産管理実習：(後期) 【看護学科】 母性看護学演習・ウイメンズヘルス看護論：(看護学科 3 年前期)、母性看護学実習・母性看護方法論：(看護学科２年後期)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　助産診断ケア学Ⅱ・Ⅲ　】 助産別科の学生を対象に助産学講義・演習の準備、演習の計画・実践を行った。模型やＤＶＤ教材を使用し形態を立体的に理解しその生理を理解することや体感して身につけられることを意識して演習を組み立てた。さらに、実践に活用できるために演習では模擬患者を用いたロールプレイの時間を設け学生の実践力向上を意図した。
授業科目名【　助産診断ケア学Ⅵ・Ⅶ　】 主に、産褥期、思春期、シニアに関する健康教育実施に必要な指導方法を段階的および系統的に理解し実践に活用できることを目標に講義内容を組み立て実施した。なお、健康教育演習では他教員も加え少人数を受け持ち、個別的な対応を行った。その際、教員間において教授内容を統一し共通理解を得たうえで指導にのぞめるよう準備した。助産過程演習・助産学研究演習では少人数を受け持ち、個別的な対応をおこなった。
授業科目名【助産学実習（基礎・Ⅰ・Ⅱ・管理）　】 実習ごとに施設の指導者と効果的な実習にむけた調整を行ったうえで実習に臨んだ。 実習中も記録の確認や各個人の学習の進捗状況を把握したうえで臨床指導者と適宜意見交換を行い指導方法の共通理解に務め、個々のレベルをふまえて指導方法を工夫した。これらのことが、学生の目標到達につながった要因の一つと考える。
授業科目名【　母性看護方法論・母性看護学演習・看護学実習】 看護学科２年生、３年生を担当し、周産期における女性（胎児・新生児を含む）の生理的変化の理解およびウエルネス看護診断・看護過程の理解を目的に、映像や模型を活用し学生の知識の定着や思考力の向上に努めた。また、看護過程演習や母性看護技術演習では臨床実習を見据え、実践で活用できるよう個人ワークや技術練習の時間を設け技術の向上に努めた。 看護学実習においては、学内での学びを活用し看護過程を展開できるよう、目標達成にむけて指導に取り組んだ。

授業科目名【母性看護学実習】 適宜、指導者と相談し、教員間では定期的に情報交換を行い学生の進捗状況をふまえ効果的な実習指導を心がけた。また、グループダイナミクスや学生の学習進捗状況を確認し、適宜指導体制を変更するなどの工夫を行った。
授業科目名【ウイメンズヘルス看護論】 少人数を担当し、個々の学生がもつ興味から、テーマや課題を引き出し、文献検索を通して考察が深まるよう指導に取り組んだ。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本母性衛生学会		2007年4月～現在に至る
日本看護研究学会		2008年4月～現在に至る
福岡県看護協会		2008年4月～現在に至る
日本あかちゃん学会		2011年4月～現在に至る
日本助産学会		2011年5月～現在に至る
日本看護科学学会		2014年5月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学び	共	2019.3	第 49 回日本看護学会論文集―ヘルスプロモーション―	①研究者とともに子育て世代の母親に対して乳がん検診・自己検診法の啓発活動を通しての看護学生の学びについて分析し実践体験の効果についてまとめた。 ②共同著者 吉原悦子,古賀玉緒、穴田和子、山田恵、前田幸、井出裕子、笹月桃子、久保田千景、 ③共同研究につき、本人担当部分抽出不可能(P99～102)
（翻訳）				
（学会発表） 乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学び	共	2018.9	第 49 回日本看護学会―ヘルスプロモーション―学術集会（於　岡山コンベーションセンター）	① 研究者とともに子育て世代の母親に対して乳がん検診・自己検診法の啓発活動を通しての看護学生の学びについて分析し実践体験の効果についてまとめた。 ② 共同発表者　吉原悦子 古賀玉緒、穴田和子、山田恵、前田幸、井出裕子、久保田千景、笹月桃子 ③ 第49回　日本看護学会―ヘ

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				ルスプロモーション―学術集会抄録集　(p106)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等　(役職、委員、学生支援など)
周望学舎シニアカレッジにおいて、企画・運営 助産別科ホームページの運営 入試委員会・学生募集委員会（2016 年 4 月～現在に至る）、 保健福祉学部研究所運営委員会（2017 年～現在に至る） 乳がん検診・自己検診法の啓発活動実施（井堀公民館）（2019 年 9 月）

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　田中　満由美	職名　教　授	学位　修士　(経済学)(山口大学　1999 年)

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
助産学	就労女性の仕事と子育ての両立、ペリネイタル・ロス、不妊症患者に関する看護、父性の研究、女性の尿失禁、性教育

研　　究　　課　　題

「就労女性の仕事と子育ての両立」を主軸に、**「不妊症患者に関する看護」「ペリネイタル・ロスを経験した母親や父親についての援助方法」「妊娠・分娩・子育て期の看護」「性教育」「父性の研究」「女性の尿失禁」**をテーマに研究をしている。学会発表においては、第 41 回日本母性衛生学会会長賞を受賞し、山口県母性衛生学会奨励賞は 5 回受賞している。特に助産学の研究に力を入れ、助産学の質向上に努めている。「就労女性の仕事と子育ての両立」については、就労女性の疲労度を軽減するにはどのような援助が必要かを明らかにし援助方法を提示している。「仕事と不妊治療の両立に必要な援助方法に関する研究」では就労女性の不妊治療における困難やストレスの内容、就労と治療の調整を困難にしている要因を明らかにし、看護援助や治療環境のあり方を提示している。「助産師がペリネイタル・ロスのケア体験に適応していくプロセス」の研究では助産師がペリネイタル・ロスのケア体験に適応していくプロセスを明らかにし、ペリネイタル・ロスのケアに対する助産師教育の方向性を提示している。

担　　当　　授　　業　　科　　目

基礎助産学Ⅰ（前期)(助産別科)	助産学基礎実習（前期)(助産別科)
助産管理学（前期・後期)(助産別科)	助産学実習Ⅰ(正常)　(前期)(助産別科)
助産診断・ケア学7（前期・後期)(助産別科)	助産管理実習（後期)(助産別科)
助産学研究演習（前期・後期)(助産別科)	母性看護学概論　(後期)(看護学科)
キリスト教と生命倫理（後期)(助産別科)	ウィメンズヘルス看護論（前期)(看護学科)
子育て支援論（前期)(助産別科)	キャリア開発　(後期)(看護学科・人文学部・福祉学科・栄養学科)
総合看護学（前期)(助産別科)	

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

授業科目名【　基礎助産学Ⅰ　】

範囲が広いため、授業にはパワーポイントで展開し、国家試験出題基準も意識し、資料はカラーの使用で覚えるところの強調等をして作成した。限られた時間ではあるが、学生に討議するなどの時間もつくった。

授業科目名【　助産管理学　】

病院・助産所における助産管理に必要な基本的知識を身に着けるため、助産管理の基本的概念と管理のプロセス、業務管理、助産業務に関連する概念や関連法規、周産期管理システム、周産期におけるリスクマネジメント、災害時の看護ケアなどについて臨床経験を活かし、事例を示しながら、国家試験も念頭に授業を展開した。資料は特に覚えなければならないことはカラーを使用するなどの工夫をして作成した。

授業科目名【　助産診断・ケア学7　　】
助産診断過程についての講義は田中が担当し、事例を通して各期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)は学生各人に対して教員の担当を決め、マンツーマンで助産過程の指導を実施し、各期毎に学生の代表者に発表させ、共通認識しながら演習を進めて行った。学生はマンツーマンの指導や他人の発表を聞くことで助産過程をより理解することができた。
実習で助産過程を展開する際、この科目での習得した技術により、助産診断・助産過程が全員出来ていた。
効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。

授業科目名【　助産学研究演習　　】
　前半は研究の講義を実施し、後半はグループ担当教員を決め、担当教員の元、グループでテーマを決めて研究計画書の作成を行い、構想発表会を実施した。
　構想発表会では学生は自分たちで研究計画書作成のプロセスでの教員とのやり取りの中での学びをもとに活発な質疑応答を実施することができた。
　効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。

授業科目名【　キリスト教と生命倫理　】
　8コマ中、4コマ担当している。担当部分に関しては、倫理と助産業務、生命倫理(生殖補助医療、代理出産、人工妊娠中絶、出生診断)などについて講義をするとともに討論した。本科目のコマは受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであることから、そのことを念頭に入れて申請書に沿った授業を展開した。
次年度も受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであることから、この形式で実施する予定である。

授業科目名【　子育て支援論　】
　担当分$コマについては講義は子育て支援全般(子育て支援とは・目的・支援施策の歴史・諸問題と理論・現状・関連3法その他の法律)について概説した。一方的に講義するのでなく、積極的に学習できるように母子保健施策として実施されている様々な子育て支援を日本を数ブロックに分け、担当ブロックを調査し、担当ブロックについて発表しデータを共有するとともにそれぞれの自治体の背景にあった子育て支援がなされている特徴を学生が、発見することができた。自分たちの担当県との違いなどについて討論することができた。
効果的であったため、次年度もこの形式で実施する予定である。

授業科目名【　総合看護学　　】
　担当部分は看護理論であるが、助産別科学生は大学卒、看護学校卒、専攻科卒、5年一貫卒と基礎教育がばらばらであり、それぞれの学校で看護過程を展開する基盤となる主に使用する理論も違っているため、そこを意識し、主たる看護理論を概説した。

授業科目名【　助産学基礎実習　　】
　担当が名古屋市梅坪のクリニックであるため、教員はずっと毎日顔を合わせて指導はできないので、いない間は毎日学生にインターネットでメールで記録物を送ってもらい、記録物をメールで添削、コメント、指導するようにした。
効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。

授業科目名【　助産学実習Ⅰ(正常)　　】
担当が名古屋市梅坪のクリニックであるため、教員はずっと毎日顔を合わせて指導はできないので、いない間は毎日学生にインターネットでメールで記録物を送ってもらい、記録物をテールで添削、コメント、指導するようにした。

効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。

授業科目名【　助産管理実習　　】
　担当は福岡県八幡市の四つ葉助産院と子育てプラザであった。
両施設とも学生は自立して積極的に実習できた。
効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。

授業科目名【　母性看護学概論　　】
　8 コマで教科書 1 冊を教授するという制約の中で、国家試験の意識しながら、ギュウギュウに内容を詰め込んでいるが、学習の理解を助けるため、授業初めに前回のポイントを 5 分程度使用して復習している。時間内に質問は実施しているが、もっとゆっくり考える時間をとりたい。
授業初めに前回のポイントを 5 分程度使用して復習については効果があるので、次年度も継続するが、優先度の低いところを削るという作業を少し実施し、時間的余裕をもって講義を展開したい。

授業科目名【　ウィメンズヘルス看護論　　】
　学生の興味のあるテーマで助産別科担当教員が各人に対してマンツーマンで指導している。担当教員は時間内にすべて指導できるわけではないので、大変ではあるが、学生は指導の中で、研究の基礎となる「調べること」「書く」「まとめる」などの基礎をプロセスとして学習し、学生の満足度は高かった。学生は自分の興味あることを積極的に図書館の利用、医中誌などの利用などを通して調べること、まとめることの面白さが分かったようである。

授業科目名【　キャリア開発　　】
　キャリアを考える場合、大学生活は性についてしっかり考えたうえで、行動することが大事であることから、意義のあるコマを担当させていただいている。授業後のアンケートから大変性感染症について理解していない学生や妊娠について理解できていない学生も中にはいる。アンケートで質問や相談、誤った認識に対しては手紙で返答した。
次年度は基本的なことからより丁寧に説明したい。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本母性衛生学会	2009.4～2016.3 評議員、論文査読委員	1974.4～現在に至る
日本看護学会		1975.6～現在に至る
日本助産学会	学術学会査読委員	1995.5～現在に至る
STTI	2012.7～2014.6 役員	2004.4 現在に至る
NHS		2002.9～現在に至る
山口医学	2003.4～評議員(現在に至る)(2003～2年幹事)	1999.4～現在に至る
山口県母性衛生学会	2003.7～2018.6 理事、2003.7～査読委員(現在に至る)	1984.7～現在に至る
日本母性看護学会	2019 年 3 月～2019 年 4 月学術学会査読委員	2015.10～現在に至る
日本看護診断学会		1995.4～2003.3
日本看護研究学会		1997.4～2003.3

日本解剖学会 日本神経科学学会 日本神経内分泌学会		1999.9～2018.3 2000.5～2018.3 2000.10～2018.3

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 今日の助産 第 4 版改訂版	共	2019.3	南江堂	① 助産学を学ぶ学生には臨床実習で必要となる専門的知識や技術を効率よく学習するための参考書として、臨床助産師には臨床助産の実践や臨床指導の際に重要項目を素早く確認・参照できる実践書としてまとめたものである。多くの助産師学校では教科書として使用されている。 ② **編集者**　北川真理子、内山和美 **共著者**　北川真理子、田中満由美、内山和美ほか 26 名 **③ 担当部分** 第 2 章 C 妊娠経過の診断 1.妊娠に伴う母体の生理的変化 2.初産婦と経産婦の鑑別診断 3.胎児および胎児付属物に関する診断 (P29～P67) 第 4 章 C 社会的側面の診断 (P824～P831) 総頁数 P1195 ④ B6 判
（学術論文） 1 ペリネイタル・ロスを経験した父親の適応プロセスとケアニーズ	共著	2018 年 5 月	山口医学	① ペリネイタル・ロスを経験した父親の適応プロセスとケアニーズを明らかにすることを目的として、妻が死産を経験した父親 12 名に半構成的面接を実施した。分析は M-GTA を用いた。分析の結果、6 つのカテゴリーと 38 概念が抽出された。児の死に直面した父親は

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				《予期せぬ児の死への衝撃》や《妻との心理的距離》を感じていた。自分なりに《我が子を失った悲しみの整理》をつけながら《手探りで妻を支える役割の遂行》をしていた。また、父親役割の遂行を通して《児の父親としての意識の芽生え》がみられていた。父親自身の気持ちの整理がつき、妻の精神的安定を実感したことで、《新たな家族の形の構築》を図り、日常生活に適応していた。 ② 共著者名　河本恵理、田中満由美 ③ 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能(P79～90)
2ペリネイタル・ロスを経験した父親のケアの実態とペリネイタル・ロスを経験した父親のケアに対する助産師の学習ニーズ	共著	2018年5月	山口医学	① ペリネイタル・ロスを経験した父親のケアの実態とペリネイタル・ロスを経験した父親のケアに対する助産師の学習ニーズを昭気にすることを目的として中国・九州地区の総合病院の産科に勤務し、ペリネイタル・ロスのケア経験がある助産師318 名対象に無記名自記式質問紙調査を実施した。9割の助産師が父親へのケアの困難感を抱えていたが、ほとんどの助産師が父親へのケアが必要であると認識していた。また、助産師の96%が父親へのケアに対する学習を希望しており、父親の悲嘆プロセスや父親が望むケア等ペリネイタル・ロスを経験した父親の理解につながる知識の他に、具体的な関わり方等ケア

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				技術に関する学習ニーズがあった。以上から助産師に対して、父親の悲嘆のプロセスや父親のケア・ニーズについて教育する必要性が示唆された。また、妻を支えるためのケアを実践できるような支援が必要であると示唆された。さらに、父親への関わり方等ケア技術向上に向けた支援が必要であると示唆された。ペリネイタル・ロスを経験した父親のケアに対する助産師への教育の充実が望まれる。 ② 共著者名　河本恵理、田中満由美 ③ 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能(P91～102)
3 未就学児をもつ父親の育児困難感の実態と関連要因の検討	共著	2018年7月	母性衛生 Vol.59(2)	① 未就学児をもつ父親の育児困難感の実態と関連要因を明らかにする目的で調査研究をした。こども総研式・父親育児支援質問紙スクリーニング版において領域Ⅰ又は領域Ⅱのいずれかまたは両領域において基準点以上を育児困難感あり群とした。分析対象は 362 名であった。分析の結果、育児困難感あり群の父親は25,4%であった。多重ロジスティック回帰分析の結果、未就学児の父親の育児困難感と関連が認められたのは「父親自身の不安・抑うつ状態」「夫婦関係にフォローアップが必要な父親」であった。 ② 共著者名　亀崎明子、田中満由美、前本京、吉田菜津美

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				③ 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能（P383～389）
4 就労女性が抱える不妊治療に対するストレスならびに支援に向けた今後の課題	共著	2018年7月	産業ストレス研究 Vol.25(3)	① 総説として、女性の年齢と妊孕性、不妊女性のストレス、就労女性の不妊治療における困難やストレスの実態、就労女性が不妊治療を行う上での今後について概説した。 ② 共著者名　田中満由美、亀崎明子 ③ 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能（P315～323）
5 女子大学生における自分の月経のにおいに対する意識と対処行動の実態	共著	2019年3月	山口県母性衛生学会会誌　Vol.35	① 女子大学生における自分の月経のにおいに対する意識と対処行動の実態を明らかにすることを目的として、女子大学生638名を対象に無記名自記式質問紙調査を実施した。自分の月経のにおいが気になるものは 6割、自分のにおいが気になるにもかかわらず 65%は対処行動をとっていなかった。看護職は若い女性に対して月経のにおいに対する保健指導を積極的に行う必要がある。 ② 共著者名　河本恵理、田中満由美、宮川鈴代、村田美貴子 ③ 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能（P5～11）
6 大学生のコンドームに関する知識習得状況およびコンドーム使用に関する自己効力感の実態	共著	2019年2月8日受理	母性衛生 Vol.60(2)印刷中	① 大学生のコンドームに関する知識習得状況およびコンドーム使用に関する自己効力感の実態を明らかにすることを目的に無記名自記式質問紙法でアンケート調査をした。分

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				析対象は 439 名である。性交経験あり群は約 34%であった。避妊法はコンドームが最も多かったが、コンドームについて学校で習ったものは約半数であった。コンドームに関する 20 項目について過半数が知らないと回答した項目は性交経験あり群は 4 項目、なし群は 14 項目であった。性交経験あり群を「大学生用日本語版コンドーム使用自己効力感尺度」得点を分析した結果、「使用スキル」「コントロール」「用意行動」で女性の得点が低かった。 ② 共著者名　亀崎明子、金梨華、河本恵理、田中満由美 ③ 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能
（翻訳） なし				
（学会発表） 1 青年期女性における子宮頸がん予防行動の実態一積極的勧奨の一時中止までの期間にワクチン接種助成対象だった女性を対象として一	共著	2018 年 6 月	第 35 回山口県母性衛生学会	学会奨励賞受賞 ① 積極的勧奨の一時中止までの期間にワクチン接種助成対象だった女性における子宮頸がんに関する知識習得状況、ワクチン接種および子宮頸がん検診受検率を明らかにする目的で無記名自記式質問紙調査を実施した。分析対象は107名である。 ② 共著者名　鈴木万由子、高木大輔、古谷千春、亀崎明子、河本恵理、田中満由美 ③ 共同研究につき、本人担当部

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2 産科における褥婦に対する退院指導の実態	共著	2018年10月	第 59 回日本母性衛生学会 V0l.59(3)	分抽出不可能 ① 産科施設での褥婦に対する退院指導の実態を明らかにすることを目的に3県206施設を対象に無記名自記式質問紙調査を実施した。 児の指導内容は生後1か月までが約7割であり、乳幼児事故については約4割の実施で、乳幼児事故への指導や対応も不十分であることが明らかになった。母親については精神的な支援を充実する必要性が明らかになった。 ② 共著者名吉川友沙、富永千晶、坪井陽子、田中満由美 ③ 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能（p197） 著書　10（ 内訳単1、共9 ） 学術論文　66（ 内訳単6、共60） 翻訳　0 学会発表 125（ 内訳単4、共121 ）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
山口県実習指導者講習会 シニアカレッジ	講習会講師 講師	2018.10.12～10.15 2018.8.31

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
助産別科長、入試委員会委員、学生支援委員会委員、

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　前田幸	職名　　助教	学位　助産修士（天使大学大学院 2006 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
助産学、母性看護学	助産ケア、助産師外来、バースレビュー、子育て支援、保健指導、助産師学生、分娩介助、乳がん検診

研　究　課　題
・分娩体験におけるバースレビューの意義や役割に関して考察する ・妊娠期からの胎児へのコミュニケーションが愛着形成に与える影響について考察する ・助産師学生の分娩介助の習得過程に関して考察する ・乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学びについて考察する

担　当　授　業　科　目
母性看護学演習（看護学科） 母性看護学実習（看護学科） ウィメンズヘルス看護論（看護学科） 助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ（演習）（助産別科） 助産学基礎実習（助産別科） 助産学実習Ⅰ・Ⅱ・管理（助産別科） 助産学研究演習（助産別科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【母性看護学演習・実習】 演習では、実習を考慮し、看護技術習得が行えるように関わっていった。実習に関しては、看護過程の展開を通し、学生個々に合わせたフィードバックを行うことで実習目標の到達できるように関わっていった。 またケアの実施の際には、根拠を考えて実施していくことの必要性を伝えていった。実習を通して周産期におけるケアや退院した後の継続ケアを理解できるような支援を行った。
授業科目名【助産診断・ケア学】 助産診断・ケア学では、各領域の基礎的知識及び助産技術習得ができるように関わるとともに、より実習をイメージした演習ができるように各ガイドラインなどを意識しながら、工夫していった。 特に助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）では、状況を設定した演習を多く取り入れ、学生自身に自ら考え行動できるような工夫をし、支援を行った。
授業科目名【助産学基礎実習】 実習目標の到達に沿って、基本的な助産技術の習得および助産過程の展開ができるように学生の支援を行っていった。特に基礎実習では、対象者を捉えることからはじめ、母子の安全を考え、また科学的根拠に基づいたケアを学生が提供できるように関わった。学生個々の価値観等を考えながら、臨床指導者や他の教員と意見交換し、支援するとともに、学生の実習に対してフィールドバックを行った。
授業科目名【助産学実習Ⅰ・Ⅱ・管理】 実習目標の到達に沿って、助産技術の習得および助産過程の展開ができるように、学生の支援を行っていった。特に助産学実習Ⅰ・Ⅱでは学生が対象者を多角的に捉え、気付き、対象者に寄り添ったケアを提供できるように関わった。また倫理的視点を常に持ち、ケアを行えるよう関わった。臨床指導者や他の教員と連携をとり、意見交換し、支援するとともに、学生の実習に対してフィールドバックを行った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会 日本助産学会 母性衛生学会		2003年4月～現在に至る 2017年3月～現在に至る 2018年4月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 1. 乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学び	共著	2019年3月	第 49 回日本看護学会論文集ヘルスプロモーション	①　子育て世代の母親に対して乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通して看護学生の学びを明らかにした ②　共著者名 吉原悦子、古賀玉緒、穴田和子、山田恵、前田幸、井手裕子、笹月桃子、久保田千景 ③　P99
（翻訳）				
（学会発表） 1.乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学び	共著	2018年9月	第 49 回日本看護学会ヘルスプロモーション学術集会 （於　岡山コンベンションセンター）	④　子育て世代の母親に対して乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通して看護学生の学びを明らかにした ⑤　共同発表者 吉原悦子、古賀玉緒、穴田和子、山田恵、前田幸、井手裕子、久保田千景、笹月桃子 ⑥　第49回　日本看護学会ーヘルスプロモーションー学術集会抄録集（P106）
				教育研究業績　総数 （2019．3．31現在） 著書　0 学術論文　1（内訳　単0　共1） 翻訳　0 学会発表　1（内訳　単0　共1）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
周望学舎　シニアサマーカレッジ　2018 年　　担当教員の一員として参加 研究推進委員会（看護学科/助産別科） 助産師国家試験に関する補佐 クラス担任/アドバイザー

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　山田　恵	職名　　助教	学位　学士（教養）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
助産ケア 女性の健康支援 思春期健康教育	女性の健康　　予防行動　　セルフチェック 母親 思春期　母子関係

研　究　課　題
子育て中の女性の健康に関する意識や予防行動の実際を調査し、健康増進のために必要な支援の効果を考察していく。

担　当　授　業　科　目
＜助産別科＞ ・総合看護学（前期）　　・助産学研究演習（通年） ・助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）（前期）　　・助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）（前期） ・助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期）（前期）　　・助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児期）（前期） ・助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）（通年）　　・助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）（前期） ・女性の健康支援論　（前期） ・助産学基礎実習　（前期）　　・助産学実習Ⅰ（正常）（後期） ・助産学実習Ⅱ（正常逸脱）（後期）　　・助産管理実習（後期） ＜看護学科＞ ・母性看護学演習　（前期）　　・ウイメンズヘルス看護論　（前期） ・母性看護学実習　（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　総合看護学　】 体験学習を通じて学生が気づいた内容を発表させ、他者との視点の違いなどを理解させた。対象をより理解すのために必要な技法について解説したのち演習を繰り返し、技術習得を図った。
授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）Ⅱ（分娩期）Ⅲ（産褥期）Ⅳ（新生児・乳児期）　】 知識を統合させケア実践につながるよう、最終段階で教員が産婦役となりシュミレーション教育を行った。計画はできるだけ詳細に立案し、学生全体で考え意見交換できるよう工夫した。
授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）　】 集団に対する思春期健康教育を実施できるよう中高に依頼した。企画立案から運営まで短期間であったため、事前の調整（高校との打ち合わせや対象の把握）は教員が行い、学生の企画に活かせるようにした。指導内容に関して齟齬がないよう指導案や教材の確認を行い、教育の質の保障をした。全体的には学生の統括チームのサポート役となり、学生が主体性をもって活動できるように心がけた。

授業科目名【　女性の健康支援論　】 学習内容に関して事前課題を提示し、その課題の成果を発言できる機会を設けた。できるだけ現代女性の実状を理解した上で、支援者として何ができるのか常に問いかけた。
授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）　】 母性看護過程展開の経験の有無や、理解度を把握した上で個別対応した。
授業科目名【　助産学実習（基礎）（正常Ⅰ）（正常逸脱Ⅱ）（管理）　】 基礎、正常Ⅰ実習では今年度初めて他校と重複した実習を行った。実習方法の違いから実習施設に負担がかからないよう他校教員と事前の調整を密に行った。実習期間中は両校の学生の学習向上につながるよう事例検討などの場を設けた。また、遠方実習中の学生に対しては常に連絡相談態勢をとり、実習の支援を行った。学生の心身の体調把握に努め、必要時指導者へ連絡し過度な負担とならないよう調整を図った。記録指導はメール上（パスワードかけ）で提出したものを早期に返却し、効果的に実習が進めていけるよう配慮した。
授業科目名【　母性看護学演習　】 看護過程演習では 24 名の学生を担当した。演習資料の作成に関して、学生が理解しやすいよう表記の例文を示した。演習では小グループ活動を取り入れ、学生間の学び合いの場を設けた。成果物の確認後必要時個別指導を行った。2 年次に学習した母性看護学方法論とつながるよう教科書の見直しを一緒に行った。
授業科目名【　母性看護学実習　】 急遽産科入院を中止した施設で１グループ母性看護学実習を行った。入院中の母子の受け持ちはできないため、退院された褥婦への了解を得てもらい、カルテ上から対象を把握し看護過程の計画立案まで行った。実施に関しては教員を褥婦に見立て、保健指導を行い評価した。他の実習施設の学生と学習差が出ないよう、指導者の協力を得て、模擬母親教室体験や外来実習の充実を図った。
授業科目名【　ウイメンズヘルス看護論　】 学習目的が曖昧なまま受講する学生が多かったため学習意欲に差があり、進行に差がみられた。テーマ決定まで頻回に面接を行い、学生が学びたい内容になるよう努めた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本助産学会	会員	1991年4月～現在
日本母性衛生学会	会員	1991年4月～現在
日本不妊カウンセリング学会	会員	2002年11月～現在
日本思春期学会	会員	2005年1月～現在
全国助産師教育協議会	会員	2014年4月～現在

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学び	共著	2018.9	第 49 回日本看護学会ヘルスプロモーション（於　岡山コンベンションセンター）	①看護学生が企画・実践した乳がん啓発活動からの学びを発表 ②共同発表者名　吉原悦子、古賀玉緒、前田幸、山田恵他 ③第49回日本看護学会論文集ヘルスプロモーション （P99～102）
				教育研究業績　総数　(2019.3.31現在) 著　書　4　(内訳　単1　共3　) 学術論文　2　(内訳　共２) 学会発表　17　(内訳　共17　)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）

＜別科学生募集＞
・別科のリーフレット作成
・2018 年度のオープンキャンパス（計 3 回）担当
＜別科業務＞
・実習コーディネーター補佐として施設との調整、実習に関する準備等を行った。
・助産学生 3 名のアドバイザー担当

＜学生支援＞
・看護学科学生、職員の健康相談を、当事者、看護学科教員や保健室職員を通じて受け入れ、関連する病院の紹介や連絡調整を行った。
・看護学生が行う乳がん検診・自己検診法の啓発活動のサポート（井堀市民センター）

大学短期大学部

保　育　科

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　阿南 寿美子	職名　　准教授	学位　修士（教育学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
幼児心理　幼児教育　保育者養成	社会的能力の発達　規範意識　いざこざ　保育観 異年齢保育　子どもの学び

研　究　課　題

幼児期の対人交渉場面において、年齢別保育または異年齢保育の幼児が規範意識や対人関係構築などの社会的能力をどのように獲得していくのかについて考察する。

子どもの遊びの中における学び（育ち）の捉え方について考察する。

保育者養成校の学生が、2 年間の学生生活を通してどのように保育者として保育観や援助観が育まれて行くのかを考察する。

担　当　授　業　科　目

学校法人西南女学院　西南女学院大学短期大学部　保育科

・保育の心理学Ⅰ（前期）（1 年生）
・保育の心理学Ⅱ（後期）（1 年生）
・こどもの発達理解とあそび（複数担当教員）（前期）（2 年生）
・教育実習指導（複数担当教員）（2 年間通年）（1 年生、2 年生）
・教育実習Ⅰ（複数担当教員）（通年・学外）（1 年生）
・教育実習Ⅱ（複数担当教員）（前期・学外）（2 年生）
・教育実習Ⅲ（複数担当教員）（後期・学外）（2 年生）
・保育・教職実践演習（幼稚園）（複数担当教員）（後期）（2 年生）
・こども学基礎演習（通年）（1 年生）
・こども学特別演習（通年）（2 年生）

学校法人弘徳学園 姫路大学教育学部こども未来学科通信教育課程

・保育内容（人間関係Ⅰ）（後期）（2 年生）スクーリング
・保育内容（人間関係Ⅱ）（後期）（2 年生）スクーリング
・こどもと人間関係Ⅱ（後期）（4 年生）スクーリング
・教育心理学（後期）（2 年生）レポート試験
・発達心理学（後期）（3 年生）レポート試験
・発達検査法（後期）（4 年生）レポート試験

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【保育の心理学Ⅰ】

「保育の心理学Ⅰ」では子どもの発達の理解を目的として講義を中心に授業を展開した。その際、スライド等を使用し視覚的に講座内容を理解できるように配慮するとともに、学生のこれまでの保育体験や自身を振り返ることによって、具体的に場面を想起することができるように配慮した。

授業科目名【保育の心理学Ⅱ】

「保育の心理学Ⅱ」では、より実践的な子ども理解と保育者の配慮について講義及び、学生同士のグループワークを中心に授業を展開した。講義の際はスライド等を使用し視覚的に講座内容を理解できるようにした。また、実習日誌を活用しながら事例を取り上げ、各々や保育者の働きかけを学生同士のディスカッションを通

して検討することにより、個々の子ども達の思いや多様な援助方法があることを理解できるように配慮した。
授業科目名【こどもの発達理解とあそび】 共同担当教員の演習で乳幼児の「遊び」を実際に体験し、感じたことを講座ごとに記録・振り返りを行った上で、指導案の作成指導を行った。「遊び」に参加する際、保育者としての視点を持ちながら取組み、子どもの思いへの理解を深めた計画を立てることができるように配慮した。また、他者の指導案を添削することで、自身への気付きが持てるように授業を展開した。
授業科目名【こども学基礎演習】 今年度より「遊び体験」として近隣の保育園または幼稚園で実際に子どもと触れ合う時間を設けた。体験後は振り返りを行い、困ったこと、わからなかったことなどゼミごとに意見を出し合い、グループワークを行った。その後、全体の前で発表した事例についての解説を複数の教員が行うことにより、学生の直接体験による学びを深められるよう授業を展開した。
授業科目名【こども学特別演習】 毎年行っているボランティアを中心とした活動を学生の自主性を重視しながら展開できるよう指導した。2018 年度の主な活動は、学校見学会（模擬授業）、光沢寺まつり（保育ブースでの実技及び全体会での人形劇）、近隣保育園での遊びの実践、その他保育園での子どもとの触れ合いなどである。その他レクリエーションの企画も行った。行事の提供は教員が行ったが、内容決めから台本作成にいたるまで、ゼミ長、副ゼミ長、各行事担当を中心に準備を進め、実践を行っている。
授業科目名【保育・教職実践演習（幼稚園）】 様々な角度から保育をとらえる視点が育まれるように、現場保育者の実践事例検討を行った。また、模擬保育では、これまで授業や実習を通して学んだことを活かしながら、2 人 1 組で指導計画を作成し、準備・実践までを行った。子ども役は保育者が要求する年齢の子どもを演じるために、子どもの姿を表現することが必要になる。観察者は客観的に保育全体を観ることが必要になる。これらを通して、学生自に保育者としての意識が高まるように配慮した。
授業科目名【教育実習指導】 事後の指導において個人指導として個別面談、全体指導として報告会を行った。それにより他者の学びを自己と比較することによって個人の学びをより深め、課題を見出し次回につなげることができるようにした。また、事前指導においては教材発表の時間を設け、子どもたちへの提示の仕方等も含めての指導を行った。実習前の設定保育に関する指導講座を増やし、実習時に保育者の援助への捉え方が主体的になるように配慮した。 報告会は 1、2 年生合同で行い、2 年生よるポスター発表を中心に学生同士の学び合いがなされるよう取り組みを行った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会 日本保育者養成教育学会 日本乳幼児教育学会	会員 会員 会員	2012 年～ 2018 年~ 2018 年～

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 保育者養成における新幼稚園教育要領 領域「言葉」に関する一考察	共著	2019年3月	福岡女学院大学	2017 年度に告示された幼稚園教育要領における領域「言葉」におけるねらい及び内容を基に、子どもの発達の状況や興味・関心に応じた遊びについて検討し、保育者の援助の在り方について論じた。
（翻訳）				
（学会発表） 保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究（3）実習前後の子ども理解の変容	共著	2018年5月	日本保育学会第 71 回大会（ポスター発表）（於 宮城学院女子大学）	2016年度入学生の3期（1年次6月、9月、2年次5月）に渡る質問紙調査において、「子ども理解」に関する分析を行った。その結果、調査①と調査②、調査①と調査③において有意な差が認められた。学生の子ども理解は、調査①の時点である程度高い得点となっており、調査②においては最高点に近くなっていることが分かった。
保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究（4）実習前後における援助間の変容	共著	2018年5月	日本保育学会第 71 回大会（ポスター発表）（於 宮城学院女子大学）	2016年度入学生の3期（1年次6月、9月、2年次5月）に渡る質問紙調査において、「援助観」に関する分析を行った。その結果、返済規範意識について調査①と調査③の調査間の比較で、先行研究と同様に返済規範意識が減少するという優位な変化が認められた。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究 （2018 年度より交付予定）	西南女学院	○阿南寿美子 ・末嵜雅美 ・命婦恭子 ・篠木賢一 ・笠修彰 ・上村眞生 （上原真幸）	38,6000 円

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
九州保育団体合同研究集会	北九州部会副委員長 分科会運営委員	2012 年 4 月～現在に至る 2016 年～現在に至る
光沢寺保育園地域支援事業「光沢寺まつり」ボランティア		2018 年 7 月 28 日
北九州市児童福祉事業第三者評価事業	専門委員	2016 年 4 月～現在に至る
九州市指定管理者制度	選考委員	2018 年 10 月 12 日
NPO 法人あゆみの森共同保育園	第三者委員	2018 年 1 月～

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教職課程委員会 副委員長（2013 年 4 月～現在に至る） 入学試験会議委員（2014 年 4 月～現在に至る） 西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園運営委員（2016 年 4 月～現在に至る） 西南女学院評議員（2016 年 4 月～2019 年 3 月） 教員免許状更新講習コーディネーター（2014 年 4 月～現在に至る）・講座担当補佐（2018 年 8 月 21 日、2019 年 1 月 12 日） 短期大学部第三者評価 ALO（2016 年～現在に至る） キリスト教保育連盟九州部会北九州地区代表（2014 年 4 月～2018 年 3 月） 認定絵本士資格講座責任者（2018 年～） 2018 年度ガイダンス等（5 回）、高校訪問、センター試験監督 他

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　池田　佐輪子	職名　　専任講師	学位　　修士（人間関係学）（北九州市立大学 2014 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
臨床教育学	代替的愛着、行動制御システム、内的作業モデル、自我・社会性の発達、養育者支援

研　究　課　題
臨床教育学に関して、保育所保育士による代替的愛着形成と発達支援を中心に考察する。特に、養育者との愛着に歪みが感じられる虐待的環境にある子ども、発達に偏りが感じられる子どもの育ちを保障するための保育士の関わりと養育者支援について考察する。また保育所での３歳未満児に対する代替的愛着関係が、養育者と子どもとの愛着の修復に有効であることから、養育者支援として応用していく方向を検討・考察する。

担　当　授　業　科　目	
保育者論（前期）	乳児保育Ⅰ（後期）
こども文化（前期）	在宅保育（後期）
乳児保育Ⅱ（前期）	保育・教職実践演習（幼稚園）（後期）
こども学基礎演習（通年）	保育総合表現（後期）
保育実習指導Ⅰ（通年）	
保育実習指導Ⅱ、Ⅲ（通年）	

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　保育者論　】

テキスト、参考書等を使って、専門職である保育士、幼稚園教諭等の資格を取得するために必要な知識・技能、倫理観をもれなく学べるように心がけた。また実務家教員として保育現場での実践を踏まえ、具体的な事例を織り交ぜて説明することで、社会に求められる望ましい保育者についての理解を促した。課題に沿ったグループワークも取り入れ、自分の意見をもち、他者と意見交換することで多面的な思考ができるように仕向けて行った。

授業科目名【　こども文化　】

具体的な子ども文化財の資料を活用して説明し、教員が資料を用いてデモンストレーションを行い、実践のイメージがもちやすいようにした。また、学生が実際に制作、発表することで、実践力が身につくようにした。お互いの評価点や改善点を伝え合うことで、より工夫した作品を作り、実践する意欲が高まるように心掛けた。

授業科目名【　乳児保育Ⅰ　】

３歳未満児のイメージがもちやすいように、写真や実践例が多用されているテキストを用い、まずは、基本的な３歳未満児の発達とその発達を促す望ましい関わりについて講義を行った。また保育人形を使って、着替え、おむつ交換、ふれあい遊びなどの演習も取り入れ、かかわり方の基礎が学べるようにした。

授業科目名【　乳児保育Ⅱ　】

乳児保育Ⅰでの学びを踏まえて学んだ知識に加え、現場での事例を交えてより現場での保育のイメージがしやすいように講義を行った。また実習及び現場での実践につながるように、人形や教材を活用した演習も取り入れていった。

授業科目名【　在宅保育　】 　基本となる保育士としての知識・技能・倫理観等に加え、居宅訪問型保育に対応できる実践力・応用力を身に付けることを重視し、身近にあるペットボトルや牛乳パックなどを利用した玩具作り、子どもの発達に応じた遊びの展開等、学生が主体的に考え、それぞれの意見を交換していきながら授業を行った。
授業科目名【　こども学基礎演習　】 　子どもや保育への理解を体験的に深めることができるように、学生が主体的に考え工夫し、他者と協力しながら活動することを意識しながら授業・演習を行った。また実際に子どもたちとふれあう機会を作り、学んだことを確認したり軌道修正したりしながら、実践力が定着するように心がけた。
授業科目名【　保育実習指導Ⅰ　】 　様々な児童福祉施設の特色を理解したうえで、授業で学んだことが実際の保育実習現場で活かせるように、また実習を通して自分の課題に気付いて次の実習に向けた改善ができるように、それぞれのねらいを明確にする自己課題シートや自己題振り返りシートを活用した演習を行った。
授業科目名【　保育実習指導Ⅱ，Ⅲ　】 　自己課題振り返りシートを用いて保育実習Ⅰでの課題を明確にすることで、次の実習で課題の解決に向けた具体的取り組みができるようにしていった。また学生同士のワークショップを行い、お互いの課題の情報交換をすることで課題を多面的に捉えて解決に向けられるようにしていった。
授業科目名【　保育・教職実践演習（幼稚園）　】 　実際に保育指導計画を作成して模擬保育を行うことで、保育の実践力を養った。また、全員で保育を振り返り、様々な意見を出し合うことで、多面的な視点をもって課題解決ができるようにしていった。
授業科目名【　保育総合表現　】 　これまで学んできたことを総合的に活用し、学生同士でアイデアを出し合って一つの作品を作り上げられるように、また協働していくなかで困難を乗り越えていく喜びを感じられるように心掛けた。教員はできるだけサポートに回り、学生の主体性を引き出しながら発表へと導いた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
保育学会		2018年5月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 保育所における子どもの愛着形成への理解と支援	共著	2019.3	北九州市立大学文学部紀要（人間関係学科）第26巻	①　保護者との愛着形成に問題を抱えた子どもとその保護者に対し、保育所で行う代替的愛着形成と保護者支援について論じた。 ②共著者名　楠凡之 ③（P1～22）

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
・コラボラキャンパスネットワーク親子ふれあいルーム	実行委員 オブザーバー	2009年4月～2015年3月 2015年4月～現在に至る
・特別非営利活動法人チャイルドライン北九州	理事	2013年3月～現在に至る

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
図書委員会（副委員長）　2018年4月～現在に至る 学生個人情報保護委員会　2018年4月～現在に至る

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　笠　修彰	職名　　講師	学位　修士（健康福祉学）（西九州大学　2007年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
社会福祉学	障害者福祉　地域福祉　ソーシャルワーク

研　究　課　題
・精神障害者の地域移行や地域定着支援に関する研究 ・子育て不安等を抱える保護者のメンタルヘルスに関する研究 ・保育者養成校、保育所・児童福祉施設、地域が連携する研修プログラムの構築に関する研究

担　当　授　業　科　目
児童家庭福祉（前期） 社会的養護（前期） 相談援助（前期） 社会福祉（後期） 社会的養護内容（後期） 保育実習指導Ⅰ（通年） 保育実習指導Ⅲ（通年） こども学基礎演習（通年） こども学特別演習（通年） 施設実習Ⅰ（学外実習） 施設実習Ⅱ（学外実習）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　児童家庭福祉　社会福祉　社会的養護　】 専門的知識・技術をより具体的に理解できるよう、クイズ形式の質問などを活用し、不特定多数の学生に発言の場を提供した。また、適宜補助プリントを作成し、配布。プリントは、授業内容の理解を補助するもの、授業内容の理解度が確認できるテスト形式のもの、要点をまとめたものなどを作成し、理解度の把握及び意欲の向上を目指した。
授業科目名【　相談援助　社会的養護内容　】 具体的な事例を用いた個人ワークやグループディスカッションを多く取り入れ、授業での学びをできるだけ実践と関連付けて考えることができるよう工夫した。また、授業内容を補助するプリントを作成し、学生が主体的に学習できるよう支援した。
授業科目名【　　】

授業科目名【　　】

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
一般社団法人日本社会福祉学会 日本看護福祉学会 日本保育学会	会員 会員 会員	2008年7月 2013年4月 2016年9月

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 1．保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究（3）実習前後における子ども理解の変容	共同	2018.5	第71回日本保育学会（於　宮城学院女子大学）	①保育者として必要とされる資質に関連する要素が保育者養成課程の2年間でどのように変容しているのかを明らかにすることを目的とした縦断研究の一部である。保育者に必要とされる複数の資質のうち「子どもの発達理解」に着目し分析を行っている。特に子ども理解尺度の下位尺度「知的・情緒・社会機能の発達」に注目し、入学時から１年間の意識の変容についての分析結果を報告した。 ②篠木賢一, 阿南寿美子, 命婦恭子, 笠　修彰

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. 保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究（4）実習前後における援助観の変容	共同	2018.5	第71回日本保育学会（於　宮城学院女子大学）	①保育者として必要とされる資質に関連する要素が保育者養成課程の2年間でどのように変容しているのかを明らかにすることを目的とした縦断研究の一部である。保育者に必要とされる複数の資質のうち「援助観」に着目し、入学時から1年間の援助規範意識の変容についての分析結果を報告した。 ②笠修彰, 阿南寿美子, 命婦恭子, 篠木賢一

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究	西南女学院大学共同研究費	○阿南寿美子 命婦恭子 篠木賢一 笠修彰 末嵜雅美 上村眞生 （上原真幸）	386,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
公益社団法人日本精神保健福祉士協会	会員	2008年4月～現在に至る
一般社団法人福岡県精神保健福祉士協会	理事	2009年6月～現在に至る
北九州地区精神保健福祉士協会	会員	2015年4月～現在に至る
『保育福祉小六法』（株）みらい	編集委員	2016年4月～現在に至る
公益社団法人日本社会福祉士会	会員	2017年9月～現在に至る
公益社団法人福岡県社会福祉士会	会員	2017年9月～現在に至る
北九州市家庭教育支援事業プロジェクト会議	委員	2018年5月～8月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生募集委員会　副委員長（進学ガイダンス7回，高校訪問１６校）　２０１８年4月１日～２０１９年3月３１日
キャンパス・ハラスメント相談員　２０１８年4月１日～２０１９年3月３１日
児童文化部　顧問　２０１８年4月１日～２０１９年3月３１日
北九州市民カレッジ「子どもに寄り添うコミュニケーション」講義　２０１８年１２月３日

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　篠木　賢一	職名　　講師	学位　修士（体育学　鹿屋体育大学 2001 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
体育方法学	幼児の運動能力 バレーボールの戦術

研　究　課　題
子どもの喫食上の問題行動に関わる要因を、咀嚼能力・運動能力・食生活習慣との関連について考察する。

担　当　授　業　科　目
ｽﾎﾟｰﾂ実技、運動と健康、こどもの運動あそび、こども学基礎演習、こども学特別演習、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、保育所実習Ⅰ・Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　こどもの運動あそび　】 子どもたちのあそびを実際に行うことによって、体験的に運動発達の理解を促している。また、運動あそびの果たしている役割を理解し、「あそぶ力」と「あそびを発展していく力」を身につけるために、指導・補助のポイントや安全管理について解説し、グループワークを通して実践力の向上を図っている。
授業科目名【　こども学特別演習　】 子どもの運動あそびや健康を中心としたテーマを学生の興味・関心に沿って決定し、実践に生かせる研究活動を行っている。まとめた研究結果はオープンキャンパスで展示し、公表する機会を設けている。
授業科目名【　運動と健康　】 運動・スポーツが体に及ぼす効果や、運動によって健康・体力の維持、増進させる方法について学生の理解を深めるために、さまざまな事例を用いて解説している。
授業科目名【　　】

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
九州・体育スポーツ学会 日本保育学会 日本バレーボール学会		1997年4月～現在に至る 2012年4月～現在に至る 2013年12月～現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
西南女学院大学生のキャンパスニーズに関する研究	西南女学院大学	○上村眞生 小田日出子 天本理恵 塚本美紀 高橋幸夫 篠木賢一	1.388.000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
九州大学バレーボール連盟	女子強化委員	2006 年 4 月～現在に至る
附属シオン山幼稚園「運動あそび」	講師	2013 年 6 月～毎月 1 回程度
九州大学バレーボール連盟	競技委員副委員長	2013 年 4 月～現在に至る
第 13 回北九州市精神障害者バレーボール大会	審判委員長	2018 年 9 月
第 19 回西日本大学バレーボール 5 学連女子選抜対抗戦	コーチ	2018 年 12 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
大学キャンパス・ハラスメント防止・対策委員　2017 年度～現在に至る 教育経費予算配分委員　2018 年度～現在に至る 排球部　監督　2014 年度～現在に至る

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　末嵜　雅美	職名　　教授	学位　修士（教育学）（九州大学大学院 1998 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
保育者養成教育	実習指導、環境遊び、体験学習など

研　究　課　題
保育者養成における体験的な学びを通した保育観・子ども観の育成ー環境遊びを中心として

担　当　授　業　科　目
教育実習指導（通年） こども学基礎演習（通年） 教育原理(前期) 保育・教育実践演習（後期） 保育メディア演習（後期） 保育原理（後期） 保育内容「環境」（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育原理】 保育に関わる基礎的な概念や子ども理解のベースとなる授業内容のため、学生にとって出来るだけ分かりやすく、かつ基本的事項を確実に身につけられるような工夫として、テーマ別のノートプリントを作成し、それをもとに授業を進行した。ノートを取る習慣をきちんと身につけるよう、ノートプリントは提出を求めるようにした。
授業科目名【教育原理】 17 年の教育要領・保育指針改定により保育における幼児教育の意義づけや保育者としての新たな役割など、保育をとりまく状況についてできるだけ新しい情報に基づいたものとなるよう、また学生が「教育」に対し日常的に興味関心を深められるような授業内容となるよう改善を行った。
授業科目名【保育内容「環境」】 授業に屋外での体験学習を取り入れたり、アクティブ・ラーニングになるよう工夫した。 また、地域環境と保育活動について、ゲストティーチャー（到津の森公園、獣医師）を招き、園外保育の引率を想定した話をして頂いた。
授業科目名【保育メディア演習】 メディア環境について、学生の関心を高めるためにディベート形式での授業を行い、自身のメディア接触を元に、保育や子育て環境におけるメディアとの付き合い方について実体験から振り返る機会とした。より学生の理解が深まった。

授業科目名【教育実習指導】 「観察実習」「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」と段階的に行われる実習に対し、学生がそれぞれ課題意識を持ちながら臨めるような指導を行った。特に「教材研究」として、一年次には手遊び、二年進級時にはペープサートなどの教材作成と実演、二年後期では現場で継続的に使用できる教材の作成と実演を行った。 また 18 年度は入学直後に、キリスト教にまつわる子ども向けの話を「素話」として実演する授業や、外部講師によるモンテッソーリ教育の講話の前に教材の部屋を訪れるなどの工夫も新たに行った。
授業科目名【教職実践演習】 現場での保育実践を見越したアクティブラーニングの授業を行った。「模擬保育」ではクラス毎に二人一組で指導案作成と模擬保育の進行を行い、他の学生は子ども役・観察者となり実践後には意見交換を行う内容で、学生個々人の学びと実習経験が生きる授業となった。「実践に学ぶ」では、保育の実践記録を読み合い、意見交換を行った。「行事について」では、グループワークを行い園行事への理解を深めた。いずれも、学生が授業への参加意識が高まるような工夫を行っている。
授業科目名【こども学基礎演習】 18 年度より、科目の主担当者となった。前期では「遊び体験実習」と「アフターミーティング」を組み合わせた授業を行い、現場での実習体験と日頃学んでいる専門領域と関連付けながら、早い段階から子ども理解を深める学習を実施した。 後期には「おはなし発表会」をマロリーホールで実施し、ゼミ毎に絵本を題材にした劇・ペープサートなどの発表を行うための準備、指導を行った。なお、この指導には児童演劇を専門とする外部講師を招いて助言してもらうなど、おはなしの技術が身につくような工夫も行っている。
授業科目名【こども学特別演習】 18 年度より科目担当者となった。2 年次のゼミ活動の科目であるが、「だいすきにっぽん」の実施を含めた体験学習や学外研修を中心に行った。学外研修では、2018 年 11 月に北九州市「環境ミュージアム」での幼児向け研修引率体験、2019 年 2 月に長崎県小値賀町野崎島での宿泊野外学習を行った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会		2013 年 5 月～　現在に至る
日本保育者養成教育学会		2017 年 3 月～　現在に至る
日本社会教育学会		1996 年 4 月～　現在に至る
日本生活体験学習学会	理事（2004-2010 年、2018 年-）	1998 年 10 月～　現在に至る
九州教育学会	事務局幹事（1996-1998 年）	1996 年 4 月～　現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1．福岡県保育士等キャリアアップ研修テキスト～幼児教育～	共著	2018 年 4 月	福岡県・公益財団法人総合健康財団	①　福岡県下で行われる「保育士等キャリアアップ研修」に用いるためのテキストとして執筆した。特に、新保育所保育指針に示された「幼児教育を行う施設として共有すべき事項」を解説することを踏まえて、幼児教育の役割と機能、幼児教育の現状と課題、幼児教育と児童福祉の

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				関連についてまとめている。 ② 監修者　福岡県保育士等キャリアアップ研修テキスト検討会（牧野桂一、足立善一郎、上村初美、清水陽子、安元大介） 共著者　鐘ヶ江淳一、清水陽子、他８名 ③ 担当部分　第１章　幼児教育の意義(P.3-P.12) 総頁数　P.136 ④ A5判
（学術論文） １．子ども理解を深める教育実習（幼稚園）・保育実習指導－保育者養成校初年次教育における段階的な実践を通して	共著	2019年３月	筑紫女学園大学教育実践研究第５号、筑紫女学園大学実習センター	① 執筆者２名が所属していた短期大学の保育者養成課程の初年次において行った実習指導についてまとめた。子ども理解を深めるという視点で、特色ある実習及び実習指導を行っており、段階的に理解・実践できるように工夫したことで主体的に学ぶ保育者となることを明らかにした。 ② 共同執筆者名　上原真幸（筑紫女学園大学）　末嵜雅美（西南女学院大学短期大学部）
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究（2018年度交付）	西南女学院大学共同研究費	○阿南寿美子 笠修彰 篠木賢一 命婦恭子 上村真生 末嵜雅美 （上原真幸）	386,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
八女市子ども子育て会議	委員、会長	2016 年 9 月～現在に至る（2020 年 9 月迄）
柳川市保育協会保育士会研修部会	助言講師	2006 年 4 月～現在に至る
八女市子育て支援員講座	講師	2015 年～現在に至る
福岡県保育士等キャリアアップ研修	幼児教育担当講師	2018 年 8 月
唐津市保育士会・新保育所保育指針研修	講師	2018 年 8 月、12 月
九州保育団体合同研究会	分科会運営委員	2018 年 8 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・教務委員会　副委員長　2018 年 4 月～2020 年 3 月 ・人事委員会　副委員長　2018 年 4 月～2020 年 3 月 ・学長候補者選考委員会　委員　2018 年 7 月～2018 年 12 月 ・教員免許状更新講習「保育の質の向上と保育の専門性：保育における遊び環境について」講師　2018 年 8 月 21 日 ・キリスト教保育連盟　西南女学院大学短期大学部保育科代議員・代表者　2018 年 4 月～現在 ・西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園　幼稚園運営委員　2018 年 4 月～現在 ・西南女学院高校との高大連携講座、専門科目模擬講義「環境に関わる遊び」2018 年 6 月 13 日 ・地域連携事業「だいすきにっぽん」遊び担当 2018 年 6 月 30 日 ・オープンキャンパス　模擬授業担当「不思議だなやってみたい」2018 年 8 月 18 日 ・進学ガイダンス下松高校１、2 年生対象「保育・幼児教育の仕事」講師、2019 年 3 月 19 日 他、学生募集のための高校訪問の実施等

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　末成　妙子	職名　　教授	学位　教育学修士（音楽教育学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
・音楽教育学 ・特別支援教育学 ・幼児教育学	・聴覚障害教育（聴覚障がい児の器楽合奏教育） ・こども音楽療育 ・表現（身体・音楽）

研　究　課　題
聴覚障がい児の実態を深く理解し、障がいによりそった音楽教育を展開できる保育者を養成するための研究を深める。同時に「こども音楽療育」に関して、音楽の多様な力を日常の保育の中で生かし、子どもの発達を支援する保育者を育てるために、保育の領域を広く見据え、考察し音楽面の実践力をつける方法を研究する。ピアノ技法的には決して高度ではないものの、こどもの演奏を存分に引き立たせる、保育者にとって演奏しやすい効果的な楽曲を使って、実際の保育の場面で生かし検証する。障がいのある子も、そうでない子も共に活動ができ、発達を促すための配慮を尽くした「音あそび」「表現あそび」について研究する。

担　当　授　業　科　目
こどものうたあそび（後期） 保育内容「表現（身体・音楽表現）」（前期） 保育総合表現（後期） こども音楽療育概論（前期） こども音楽療育概論（後期） こども音楽療育実習（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　保育内容「表現（身体・音楽）」　】 後期の総合表現につなげるために「音楽を用いた身体表現」、「劇あそびと音楽を関連づけた表現あそび」を実体験するように構成した。繰り返しを楽しむ絵本　こぐれけいすけ作「れんけつがっちゃん」「とんねるくん」など実際の本を使って音楽と言葉のかかわりの深い表現を楽しむこと、リズムを身体表現とピアノ以外の楽器の効果を使いながら、幼稚園・保育園で使われる身近な楽器の扱いを学ばせるなど、学生が体を使っての音楽的な活動を体験しながら表現の楽しさを実感でき、さらにお互いの表現活動を考察する授業展開を構築した。。音楽表現を使った劇遊びでは、グループによる協働作業を重視した。末成自作の楽曲と、全音音階を用いた西洋音楽の和声とは異なる響きを十分に体感させた。
授業科目名【　こども音楽療育概論　】 末成の行ってきた実践を多く取り入れて講義を進めた。障がいのあるこどもたちが音楽を楽しんで学び、コミュニケーションの手段を少しずつ手に入れ、ゆっくりだが着実に周りとの関係性を深めていく姿を、実際の映像など見せながら、障がいを持つこどもへの理解を深めさせた。資格習得のために学生も緊張感を持って臨んでいた。24 名の受講生は受講態度もまじめで、向学心を持ち、緊張感を持っていた。音楽の多様な力を持ってする療育的保育ということになじみが薄いので、発達障がいを含めた多様な障がいの実態を知って、現在の重度・重複化の傾向を持つこどもの障がいついて理解を深めるように、できるだけ実際の音や効果、方法、音楽の力を示しながら講義を進めた。

授業科目名【　保育総合表現　】
後期の授業でありながら、保育科全体のまとめと位置づけられている科目である。2019年1月19日に黒崎ひびしんホールにおいて、学生の脚本、演出による「こどものためのミュージカル」を開催した。集客と予算の問題を抱えながらも職場へ出てからの舞台づくりの手順を学んだり、協力して行うことの大切さ、そして表現する充実感を存分に味わうことができた。舞台に立った演技者はもちろん、大道具、小道具、衣装、音響とそれぞれの力を結集し、舞台を作るプロの裏方の方とも綿密な打ち合わせを行い、充実した舞台を作る体験することができた。本年度で4回目ということもあり教員間の共通認識も高まり、また宣伝用のチラシの発行、会の流れなど学生各々が自覚を持って取り組むということができた。大道具の運搬に手間取ることがあったが、これらを次年度に生かしたい。

授業科目名【　こども音楽療育演習　】
学生一人ひとりが音楽療育の曲集「静かな森の大きな木」から、楽曲を選びセッションを実演しながら、お互いを評価し合う授業を行った。スマートフォンの普及で、こどもの「手遊びうた」「うたあそび」は、どこの誰とも知れない個人のアップした映像をまねるという短絡的な資料で行う傾向がある中で、この授業では障がいのある幼児さんがいる保育場面で、実際の曲はどのように自分でアレンジしたらよいかということを末成と個別に検討し、楽譜に書き表し、それを含めたセッションの全体の流れを構築するという手順で進めた。ピアノにとらわれず様々な楽器を使うことや、言葉かけの方法、曲の提示の仕方を末成の助言を参考にしながら、後期の「こども音楽療育実習」につなげることを目指した。

授業科目名【　こどものうたあそび　】
保育園・幼稚園では1日たりとも音楽、歌うことがない日はない、と言っても過言ではない。「うたあそび」つまり、歌いながら手や指先、からだを動かしてあそぶこと、リズムにのってあそぶことが人間関係を深めていくことを学生に十分に理解させた。園生活において保育者は「うたあそび」を積極的に取り入れ、こどもたちに歌いかけ、スキンシップをし、ふれあいながら遊ぶことが集団遊びにつながること、そして保育者や友達と一緒にリズムに乗って軽快に動く遊びの中からこどもの「協調性」や「感性」が育つことを毎回多くの課題曲として練習した「こどものうた」の中で学ばせた。歴史的なわらべ歌から最近のこどもの歌まで、莫大な数のこどものうたから、わずか15回の講義にどの曲を学ばせるかを、末成が20年余り研究してきたこどものうたから選ぶことが授業開始前の多くの時間を費やした部分である。童謡コンクールに携わった経験から、こどもの歌の重要性を様々な場面で実演して講義を進めた。最初はためらいの多かった学生も、回を重ねるごとに各自が持ち前の個性を発揮して、明るくはっきりした歌声で実に楽しく歌い合い、見せ合い、動き、あそび、たくさんの歌を自分のものにしていった。「はじまりとおわりのうたあそび」「指や手の動きを楽しむうたあそび」「体の動きを楽しむうたあそび」「行事や生活のうたあそび」「集団で楽しむうたあそび」などテーマを絞って提示することと、単独の身体表現を含めてのうたあそび・輪唱あそびなど、末成考案のたくさんのこどものうたにふれることを並行して行い、積極的に「うたあそび」を楽しむ姿勢が身についた。

授業科目名【　こども音楽療育実習　】
「こども音楽療育概論」「こども音楽療育演習」を踏まえて実習を行った。実際に「小倉北特別支援学校」「あやめの森保育所」の2か所において障がい児たちとの療育的音楽活動を展開し、その活動を通して、今までの机上の学び、学内での演習をより実践的な知識や技能を深めることにつなげることができた。実習の記録を1冊の冊子にまとめたことで実践（12月のクリスマス音楽会・小学部クリスマス会参加）の準備・指導案の立案・教員からの指導を関係付けながら振り返ることが行うことができた。それぞれの学びの足跡が明確で、他のグループとの比較検討も容易になり、学びを深め合うことができた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本音楽教育学会	正会員	2011年～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
直方市』私立幼稚園教諭研修会	講師「幼児期の音楽活動」	2018年8月9日

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
国際交流委員会　副委員長　留学生選考の面接試験において試験官を務めた。 公開講座委員会　副委員長 10月21日（日）　保育科60周年記念講演会「絵本と音楽の世界～保育科のこれからを旅する」において講演 8月19日（日）　オープンキャンパス　模擬授業「こども音楽療育士をめざして」担当 8月10日(金)　周望学舎シニアサマーカレッジ　「リラックス☆心と体のメディテーション」

以上

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　谷崎　太	職名　准教授	学位　経営学修士

研究分野	研究内容のキーワード
会計学 管理会計論	統合的企業会計、財務報告の変革、 管理会計情報の公開可能性

研究課題
企業会計統合論 ～管理会計情報の公開可能性～

担当授業科目
初年次セミナー（1年前期） 経済学入門（1年前期） コンピュータサイエンスⅡ（1年前期） 子ども学基礎演習（1年前期・後期） 子ども学特別演習（2年前期・後期） メディアリテラシー（1年後期） キャリア開発（1年後期） 保育メディア演習（2年後期AB クラス） 保育メディア演習（2年後期CD クラス）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【キャリアデザインⅡ】 • トピックにマッチした外部講師を依頼し、学生の関心を喚起して学修の刺激とした。 • 自己分析等にかかる各種資料を作成することを促し、学修のアウトプットに務めた。
授業科目名【ビジネスレポーティング基礎／展開】 • 経済主体としての企業の位置付けと役割について概観し、企業の事業報告、財務報告を読み解く視点について解説した。企業の事業報告、財務報告等の様式を参照する場面が多いため、紙媒体の教材のみならずwebベースの資料を提示したうえで、段階を踏んで学生のペースに合わせながら進めた。 • 計算する項目が多い場合は適宜、表計算ソフトを用いて集計表を作成させ、計算項目相互間の関係を理解しやすいよう説明した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期

日本簿記学会		1994年4月
日本会計史学会		1996年11月
国際会計研究学会		1996年11月
日本企業経営学会	監事（2000年～現在に至る）	1997年3月
日本会計研究学会		1997年9月
日本生産管理学会	中四国支部幹事（2001年～2003年）	1998年4月
広島大学マネジメント学会		2000年12月
経営行動研究学会		2008年8月

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
職業能力開発協会 CS 検定	主任試験官	（2018 年 4 月～2020 年 3 月）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生委員（2018 年 4 月～2019 年 3 月） 情報システム管理運用委員（2018 年 4 月～2019 年 3 月） 大学短期大学部一般教育課程委員（2017 年 4 月～2019 年 3 月）

※　2016 年度様式から、学部長による評価・改善記入（助手については、学科長による評価・改善記入）は行われません。

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　戸田　由美	職名　　教授	学位　文学修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
日本近代文学	夏目漱石、文芸額的諸相、言語学的世界観、見立て

研　究　課　題
夏目漱石文芸における「不思議さの究極に在るもの」について、その本質を究明することが研究課題である。漱石が『文学論』において「凡そ文学的内容の形式は（F＋f）なることを要す」という『文学』を研究の対象とした立場を鑑み、その真意を追及し、漱石が世界をどう読んだかについて言及するものである。

担　当　授　業　科　目
文学　(看護学科・福祉学科・栄養学科・英語学科・観光文化学科・　保育科) 日本語表現法 (保育科・英語科) 子どもの文学と物語 (保育科) ゼミ子ども学特別演習 (保育科)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　文学　】 文学という講義の意義の解明をすることからはじめる。文学を学ばなければならない理由、その目的をまず理解させ、上質な文学作品、ベストセラー小説の意義を考えさせる。この社会学的考察は、人の心、時代背景、言葉、表現といった全ての事柄を含むので、自ずと学生が自分自身と照らし合わせながら鑑みる段階まで成長することを念頭に、たえず工夫して取り組んでいる。
授業科目名【日本語表現法】 自分の考えをまとめる力、伝える力、書く力、がどこまであるのか、まず自身の弱点把握から始める。弱点を意識し、訂正し、根気よく、テーマに沿った応答が分かりやすくできるか否か、マンツーマン、あるいは添削をもって講義にのぞんでいる。
授業科目名【子どもの文学と物語　】 保育の専門科目を踏まえて、子どもの成長にかなった教育の仕方、特に児童文学の内容をそこにどのように結びつけて教育するのかという方法論を説いている。したがって児童文学（絵本を含む）における登場人物の意味、子どもの心がどのような点で育まれていくのかなど、事例を掲げながら、また実際の書物をも掲げながら講義している。
授業科目名【ゼミ　子ども学特別演習　】 ファンタジー文学ゼミであるが、保育のプロフェッショナルを目指す学生ならば、一度は考察しなければならぬ登竜門としてファンタジーがある。その意義を解明することは、自身のアイデンテイを究明し、子どもの心を読み解く能力をつけることにも繋がってゆくことを、絵画、ものつくり、文章作成、を通して学ぶことを基本としている。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本文芸学会 日本キリスト教文学会 日本近代文学会 日本語教育学会		1983～ 1983～ 1985～ 1985～

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） 現在進行中	単			
（学会発表） なし その他として、講演、等々。				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市・認定こども園部会	北九州市子ども・子育て会議専門委員	

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
短期大学部学部長 保育科学科長 シオン山幼稚園園長

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　東　彩子	職名　　講師	学位　修士（宣教学）(Fuller Theological seminary)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
①キリスト教と演劇（中世から現代） ②キリスト教音楽と身体表現 ③キリスト教音楽とエクササイズ	キリスト教女子教育、宣教、礼拝、芸術 ワーシップダンス ゴスペル・ピラティス

研　究　課　題
１：中世の神秘劇研究を土台とし、現在も行われているキリスト生誕劇やキリスト教に関する演劇について。中世と現代の比較、演劇のキリスト教教育における意義について研究を進めたい。 ２：礼拝におけるダンスの振付けや実践報告と共に、聖書におけるダンスの神学的意義を探る。 ３：キリスト教音楽に合わせて行うピラティスを、シオン山幼稚園保護者サークルに招かれ実践している。子育て中の保護者にとって心身ともにリラックス効果があるとの声があり、2018 年度は月１回、「ゴスペル・ピラティス」という名で行った。子育て支援の一環として継続し研究につなげたい。 （GP：詩篇の朗読、ゴスペルに合わせて行うピラティス、メディテーション、祈り、の流れ）

担　当　授　業　科　目
＜保育科＞ キリスト教学Ⅰ（１年前期）、キリスト教学Ⅱ（２年後期）、キリスト教保育（１年後期） 保育総合表現（２年後期）、こども学基礎演習（１年通年）、こども学特別演習（２年通年） ＜大学人文学科（英語・観光文化）＞ キリスト教学（旧約聖書）（１年前期）、キリスト教学（新約聖書）（１年後期） キリスト教文学と文化（大学共通） キリスト教と西南女学院の歩み（１コマ）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【キリスト教学Ⅰ・Ⅱ】 アクティブラーニング型の授業を目指し、学生は聖書の輪読、賛美、祈り、ディスカッションや紙芝居・絵本読みなどに参加した。また、視聴覚教材を取り入れて解説し、興味を呼び起こすための工夫をした。 昨年から導入したチャペルポートフォリオにより、通年でチャペルの振り返りが行えるようになった。
授業科目名【キリスト教保育】 　キリスト教保育の本質と目的の理解を深めるため、体験的・実践的な授業をおこなった。 「世界の子ども」の発表では、１２カ国のこどもたちの現状について調べ、グループ発表を行い、世界のこどもたちの現状への理解を深め、自分たちに何ができるかを探る機会を作った。 　聖書劇の創作の回では、シナリオ作成における聖書の理解を深めると同時に、こどもたちにわかりやすく聖話を伝えるための実践により、チームワークやリーダーシップなどについて洞察を深める機会を作った。
授業科目名【保育総合表現】 今年は初めて黒崎ひびしんホールにて「こどものためのミュージカル」の公演を行った。 テーマ決めからシナリオ作成、上演までの全てを学生自らが企画し実施した。学年をランダムに２グループにわけ、各グループに監督をおき、リーダーシップが発揮できるようサポートした。普段交流のない学生の間に関係性が構築できた。今年は４名の新しい教員をお迎えしたこともあり、教員間の信頼関係構築や役割分担がスムーズに行えるよう細心の注意を払い、教育支援職員含め、教員皆で学生を支えるシステムを構築した。

授業科目名【こども学特別演習】 「感恩奉仕」の精神の具現化を目標に、キリスト教保育の学びを生かしたいとの学生の声を踏まえ、「世界のこどもたち」をテーマに活動した。学生の主体性を尊重しつつ、具体的には、北九州 YMCA を訪問し、留学生へのインタビューを行った他、北九州国際交流協会にて多国籍親子支援のボランティア、大学祭にてコーヒーや雑貨のフェアトレード出店を行なった。 クリスマス礼拝では、生誕劇に協力するグループと物品制作・販売を行いクリスマス募金への協力をするグループに分かれ、「感恩奉仕」の精神を具現化する形を目指し活動した。
授業科目名【大学人文学部　キリスト教学（旧約・新約）】 前期の旧約聖書、後期の新約聖書にわけて講義を行う初めての試みであった。 以前、大学の人文学部を担当していた時よりも丁寧に旧新約ともに掘り下げることが可能となり、 視覚教材もあわせて、学生が１年間を通して聖書全体を概観し、「感恩奉仕」の精神の土台となる聖書の知識を身につけられるよう工夫をした。最後には、学生自らが興味を持ったキリスト教に関連する事柄を調べ発表する機会を作り、キリスト教の幅広い世界を発表によって互いに知ることが可能となった。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本基督教学会	会員	2010 年９月～現在に至る
日本キリスト教教育学会	会員	2010 年９月～現在に至る
日本宣教学会	会員	2014 年９月～現在に至る
日本キリスト教史学会	会員	2017 年４月～

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				
（その他） 「キリスト教保育」596 号 p.13 図書紹介		2018.10.1	キリスト教保育連盟	クラウド&タウンゼント博士の 「聖書に学ぶ子育てコーチング」 境界線　～自分と他人を大切にできる子に

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
キリスト教学校教育同盟 全国新任夏期研修会	運営・実行委員	2018 年 4 月～現在（8 月 24-25 開催）
キリスト教保育連盟福岡部会 夏期研修会全体会講師	全体会講師	2018 年 8 月 20 日
日本バプテスト小倉キリスト教会	教会学校青少年担当教師 聖歌隊指揮者 音楽委員 主日礼拝奨励（牧師不在時）	2017 年 4 月 1 日～ 現在（毎週日曜） 2017 年 4 月 1 日～ 現在 2017 年 4 月 1 日～ 現在 2019 年 3 月 17 日
日本バプテスト北九州キリスト教会	主日礼拝奨励	2018 年 7 月 8 日
ワールド・ビジョン・ジャパン 日本 YWCA	会員・チャイルドスポンサー 会員	2010 年 7 月～現在 2010 年 7 月～2018 年 3 月 31 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）	
＜キリスト教関係＞	
西南女学院大学短期大学部宗教主事補	２０１４年４月１日～現在（2013 年度を除く）
キリスト教センター運営委員	２０１０年４月１日～現在（2013 年度を除く）
キリスト教教育研究会委員	２０１０年４月１日～現在（2013 年度を除く）
大学宗教委員会副委員長	２０１０年４月１日～現在（2013 年度を除く）
クリスマス礼拝総監督	２０１０年４月１日～現在（2013 年度を除く）
学科推薦チャペル講師講演会コーディネーター	２０１４年４月１日～現在
新任オリエンテーション聖書学課講師	２０１８年４月３日
地域貢献懇談会礼拝司式	２０１８年４月１８日
大学・大学短期大学部チャペル奨励	２０１８年５月２３日
	２０１８年６月１４日
	２０１８年１１月２８日
西南女学院聖書学課司会	２０１８年６月２１日
	２０１８年１２月６日
保育科同窓会「要の会」礼拝司式	２０１８年７月１７日
西南女学院中学高等学校　礼拝奨励	２０１８年９月６日
地域連携活動のための日曜礼拝司式	２０１８年１２月２日
現代神学を学ぶ会　礼拝司式	２０１９年３月２５日
シオン山幼稚園保護者クリスマス講演会講師	２０１８年１２月３日
シオン山幼稚園保護者ゴスペル・ピラティス講師	２０１７年４月１日～現在
西南女学院月報巻頭言執筆	第 648 号（2018 年 4 月号）
	第 650 号（2018 年 6 月号）
	第 655 号（2018 年 11 月号）
	第 658 号（2019 年 2 月号）
キリスト教センターだより編集	第 101 号～第 105 号
キリスト教センターだより執筆	第 105 号（2018 送別号 P6）
しおんのそののあゆみ巻頭言執筆	２０１８年１２月号執筆

＜キリスト教関係以外＞

学生募集委員	２０１８年4月１日～現在
学長候補者選考委員	２０１８年7月～現在
職員研修懇談会委員	２０１８年度
地域連携室女性活躍ワーキンググループ員	２０１７年4月１日～現在
シニアサマーカレッジ講師	２０１８年8月１０日

＜その他＞

２０１７年度授業表彰	２０１９年2月１４日

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　藤田　稔子	職名　　准教授	学位　修士（看護学）（神戸市看護大学 2005 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
小児看護	感染症（感染症対策、予防接種） 小児ぜんそく

研　究　課　題
【現在取り組んでいる研究課題】 ・子ども達が身体や健康に関心を持つきっかけとなる「絵本」に着目し、発達段階にみた「内容」「(身体や症状を表す）ことば」について調査する。 →現在の国内で入手可能な「むし歯」に関する絵本の内容を調査しまとめ、関連学会で発表した。 【継続していきたい研究課題】 ・感染症対策に関して、乳幼児の身近なものへの一般細菌の付着状況を実験的に調査し、その結果、安全かつ簡易的に実施可能な消毒方法を考察する。 ・慢性疾患、特に気管支喘息を持った幼児が、どのように疾患と向き合い、自己管理をしていくのか、また、スムーズな子ども自身が可能な自己管理方法について考察する。

担　当　授　業　科　目
こども学基礎演習（保育科１年　前期・後期） こども学特別演習（保育科２年　前期・後期） 初年次セミナー（保育科１年　前期） 保育内容「健康」（保育科１年　前期） こどもの保健演習（保育科２年　前期） こどもの保健Ⅰ（保育科１年　後期） こどもの保健Ⅱ（保育科２年　後期） こども音楽療育実習（保育科２年　後期） 在宅保育（保育科２年　後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【こども学特別演習】 今年度も月に１回のペースで井堀市民センターの子育て支援活動に参加しました。今年度の受講生の特性から非常に活発かつ意欲的であったため、学生の間でしかできないような時間をかけた準備を毎回課しました。例えば、「お店屋さんごっこ」では、折り紙等紙類でするところ、敢えて、フエルト等布を使って、個々の素材から選び、１個ずつ丁寧に縫い上げるということをしました。結果、手間をかけて縫うことを厭わなくなり、作業時間も効率よくできるようになりました。今年度の質の高さは、参加者の保護者からもお褒めのことばをいただいています。 また、大学祭への取り組みに際しては、セミナーハウスで２泊３日宿泊しながらおこないました。この３日間の学生達の健康管理、安全管理を徹底して配慮いたしました。結果、何事もなく、また、この宿泊が学生達の短大生活の良き思い出になったようです。
授業科目名【初年次セミナー】 初めての科目であったため、学生の反応を見ながら手探りで進めていきました。野菜やお花を植えるにあたっては、事前の畑の整備が大変でしたが、学生達にはけがもなく、無事に作業ができたことに安堵しています。特に大雨が降ったあと、温室のガラスが畑の中にも入ってきており、学生達が畑に来る前に撤去する等最大限の安全管理に配慮しました。畑の土が肥えていたこともあり、どの野菜も立派に育ち、皆でいただくことができました。

授業科目名【こども音楽療育実習】 今年度は、昨年度のよかったこと・反省点を活かし、保育所においても、特別支援学校においても、受講生全員で「クリスマスコンサート」を企画運営することで、本科目の目的目標を達成できました。 学生の自主性を促し、達成感を味わえるように、企画段階から学生達の「やりたいこと」を実現できるよう随所にさりげなく助言や実際に実践したりしながら学生達がプログラムの内容を決めるように仕向けていきました。
授業科目名【在宅保育】 今年度も産後ケアを中心に可能な限り実技を取り入れ授業を展開していきました。今年度は、昨年度あまり時間を費やすことが出来なかった、病児保育の訪問型について十分な時間をとることができました。医療保育で活躍している卒業生の協力も得て、現場の写真をたくさん用いることができました。また、今から増える医療的ケアのこどもの理解も深めてもらうよう講義内容に含めました。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本小児保健学会		2000年4月～現在に至る
日本小児看護学会		2005年4月～現在に至る
日本保育所保健協会		2009年4月～現在に至る
日本学校保健学会		2009年4月～現在に至る
日本医療保育学会		2010年4月～現在に至る
日本環境感染学会		2010年4月～現在に至る

２０１８年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） 乳幼児のむし歯予防対策で用いたい「絵本」	単	2018.7.21	日本小児看護学会第28回学術集会	国内で出版され、入手可能な歯科衛生に関連する「絵本」99冊の内容を整理分類し、発達段階に応じた「絵本」の選び方や用い方を考察した。
				教育研究業績　総数 （2019.4.16現在） 著書　3（単0　共3） 学術論文　3（単1　共2） 学会発表　12（単2　共10） その他　8（単0　共8）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市開発審査会 保育士会キャリアアップ研修会	委員 講師	2013 年 11 月～現在に至る 2018 年 11 月 15 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）

・委員会
　倫理委員会　副委員長　2010 年 4 月 1 日～現在に至る
　就職委員会　副委員長　2016 年 4 月 1 日～現在に至る
　ＦＤ委員会　2018 年 4 月 1 日～現在に至る
・S.D.C 顧問
・アドバイザー関連
　保育科 1 年ゼミ　アドバイザー
　保育科 2 年ゼミ　アドバイザー
・学生募集関連
　併設校、高大連携講座　2018 年 6 月 11 日
　ひびき高等学校　模擬授業　2018 年 6 月 22 日
　八幡南高等学校　模擬授業　2018 年 6 月 28 日
　下関商業高等学校　模擬授業　2018 年 7 月 12 日
　メディアドームで開催された進路ガイダンス　2018 年 7 月 26 日
　門司大翔館高等学校　進路ガイダンス　2018 年 7 月 27 日
　北九州市立高等学校　高校訪問　2019 年 2 月 12 日
　折尾愛真高等学校　高校訪問　2019 年 2 月 19 日
　九州国際大学附属高等学校　高校訪問　2019 年 2 月 22 日
・附属シオン山幼稚園
　運動会救護担当　2018 年 10 月 8 日
・地域貢献
　井堀市民センター「いきいきチャレンジキッズ」の開催　2018 年 12 月 15 日
　「音楽会」の開催　2018 年 11 月 24 日
　「だいすき　にっぽん」　2018 年 6 月 30 日
　8 月 21 日
　11 月 3 日
　12 月 22 日
　番外編　2018 年 8 月 24・25 日
・卒業生支援
　医療保育専門士取得のための最終論文指導者　2017 年 9 月～
　（2018 年度　医療保育専門士　取得）
　現在、学会発表（2019.6.22-23 開催「日本医療保育学会」）のため所属病院より協力依頼あり、支援中

２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　村上　里絵	職名　　教授	学位　修士（福岡教育大学　1995年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
発達心理学、応答的保育	乳幼児の言語発達、応答的保育、幼児の考える力

研　究　課　題
発達心理学を通して、乳幼児の育ちと保育を考察する。特に、乳幼児のことばの発達と人的環境（特に母親を中心とする養育者や保育者）との関わりについて考察する。

担　当　授　業　科　目
・保育内容総論（前期） ・こどもの発達理解と遊び（前期） ・保育の計画と評価（教育課程を含む）（後期） ・こどもの生活と遊び（後期） ・教育実習指導（前期・後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育内容総論】 保育は、領域別に活動するのではなく、総合活動であり子どもが主体であること、また、5領域の視点は保育の振り返りに必要であり、バランスよく活動に組み込まれていることが必要であることを保育実践事例を基に説明をする。また、子どもの姿が分かるように現場でのエピソードを用いる工夫をしている。
授業科目名【こどもの発達理解と遊び】 乳幼児の発達を理解しながら、子どもにとって必要な遊び（活動）を体験できるようにする。また、シートを用いて、授業中に話した「配慮事項」や「援助」などを記載する時間を作り、それが学生自身の指導計画に生かされるように指導している。
授業科目名【保育の計画と評価（教育課程を含む）】 目の前にいない子どもについて想像力を働かせながら、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園保育要領から各幼稚園・保育園（所）・認定こども園の保育計画（教育課程・保育課程）に繋がっていることを理解できるように講義する。また、実際の保育の計画を提示して、実践記録、評価のPDCAサイクルについて説明する。
授業科目名【こどもの生活と遊び】 小学校の生活科に繋がる乳幼児期の生活と遊びが、子ども自身の学びにつながることを理解し、より保育の学びを深められるように、実践事例やこどもの姿を基に授業を展開している。また、実際に子どもが日常生活における遊びの種類の知識を増やせるように、遊びの体験をする時間を作っている。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会 保育教諭養成課程研究会		1985年4月～現在に至る 2017年4月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市児童福祉施設第三者評価委員	委員	2012 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　命婦　恭子	職名　　准教授	学位

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
臨床心理学	学校臨床　子育て支援　ストレス　メンタル・ヘルス ソーシャルスキル

研　　究　　課　　題
研究課題は大きく３つある。一つはソーシャル・スキルの向上を目的とした親子参加型のプログラムを構築し、実施することである。もう一つは、スクールカウンセラーの実践と中学生の学校ストレスの現状とその支援策につて、数量的データを用いて検討することである。2016 年度から保育者養成校の学生を対象に学外実習の前後に保育者としての資質の変容があるかについての質問紙調査を実施している。

担　　当　　授　　業　　科　　目	
障がい児保育Ⅰ（後期） 障害児保育Ⅱ（前期） 保育相談支援（後期） 臨床心理学(カウンセリングを含む)（後期） こども学基礎演習（通年） こども学特別演習（通年）	保育実習指導Ⅰ（通年） 保育実習指導Ⅱ（通年） 保育実習指導Ⅲ（通年） 保育所実習Ⅰ（学外実習） 保育所実習Ⅱ（学外実習）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　障がい児保育Ⅰ　】 小グループをつくり、それぞれにトピックスを割り当て、学生が調べた内容をプレゼンテーションしたものに教員が解説を加える方法で授業を行った。担当した学生がそのトピックスに興味を持ち、理解を深めることができることを目指した。発表の評価はルーブリックを用い、評価基準を学生に開示することで、達成目標を明確にしている。
授業科目名【　臨床心理学（カウンセリングを含む）　】 心理臨床の技法と心理アセスメント技法を体験的に学ぶことができるように、ワークや実際の心理検査を取り入れて授業を展開した。また、それらの技法は言語発達が未熟な幼児にも適用できるものを選択し、保育者を目指す学生にとって、自分の将来像と直結しやすい内容になるように工夫した。
授業科目名【　保育相談支援　】 これまでの臨床経験をもとに、架空の事例を作成し、それについて学生自身が自分に出来る対処法を考える授業を実践している。考えた内容については、それぞれの個性が反映されているととらえ、学生の意図を尊重した上でよりよい対処法をさらに考えるような講義内容になるようにコメントを工夫している。
授業科目名【　　】

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本健康心理学会		1997 年 4 月～現在
日本心理臨床学会		1998 年 4 月～現在
日本心理学会		2000 年 4 月～現在
日本行動医学会		2001 年 4 月～現在
日本ストレスマネジメント学会		2002 年 4 月～現在
日本こども健康科学会		2009 年 4 月～現在
日本健康支援学会		2010 年 4 月～現在
日本保育学会		2014 年 4 月～現在
日本生活体験学習学会		2018 年 11 月～現在

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
状況的学習をもちいたソーシャルスキル向上プログラムの提案と効果検証	平成 28 年度科学研究費助成事業 （学術研究助成基金助成金） （基盤研究(C)）	○　命婦　恭子 （竹川　大介）	1,430,000
保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究	学内共同研究	○阿南　寿美子 命婦　恭子 篠木　賢一 笠　修彰 末嵜　雅美 上村　眞生 (上原　真幸)	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
日本臨床心理士会会員	会員	2002 年 4 月～現在
福岡県臨床心理士会会員	会員	2002 年～2007 年、2014 年 4 月～現在
北方シネマ運営委員会	会員	2017 年 2 月～現在

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
研究紀要委員 地域連携室室員 教職員研修委員 内部監査委員 キャンパスハラスメント相談員

２０１８ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2018)）

氏名　　山路 麻佳	職名　特任講師	学位　修士（教育学）（福岡教育大学 2013 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
ピアノ演奏学	ピアノ演奏表現、音楽科教育、保育者養成ピアノ教育 幼児の音楽表現、器楽アンサンブル(合奏)

研　究　課　題
保育者養成のためのピアノ教育における指導法について、童謡の弾き歌いにおけるピアノ伴奏を中心にして考察する。また、保育者養成のためのピアノ教育が幼児の音楽表現にどのように関わっていくのか、ピアノ演奏表現も関連させながら考察する。 幼児の音楽表現に関して、器楽アンサンブル(合奏)を中心にして考察する。 ピアノ演奏表現について、ピアノ作品の作曲家や時代背景を中心にして演奏解釈を考察し表現を深める。

担　当　授　業　科　目
こどものためのピアノⅠ（前期） こどものうたと伴奏法Ⅰ（前期） 音楽の基礎（前期） こどものためのピアノⅡ（後期） こどものうたと伴奏法Ⅱ（後期） 器楽アンサンブル（後期） こども音楽療育実習（後期） 保育総合表現（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【こどものためのピアノ】 ピアノの基礎的な演奏技能を学んでいく上で、学生に応じた進度で技術を向上していけるよう複数教員のもと個人レッスン形式で進めた。正しい奏法(姿勢、手のフォーム、ポジション、リズム、運指等)をより正確に伝えるため、模範演奏を示しながら授業を進めた。また、レコーダー等の視聴覚機器を利用することにより学生が自ら演奏の振り返りをして課題が見つけやすくなり、教育・保育現場で活かせる演奏技術の習得に効果的であった。
授業科目名【こどものためのピアノⅡ】 担当教員のもと個別レッスンを進める中で、学生を１回ずつ科目担当者のレッスンを受けるように回していく「ローテーション」という方法を導入した。これにより学生の気が引き締まり、その機会を各々の目標達成時期の目安として計画的に課題に取り組むことができた。また発表の場を設けることで実践を意識してピアノに取り組めるよう工夫した。
授業科目名【こどもの歌と伴奏法Ⅰ】 ２年次になり実習や就職試験など授業外でピアノが課せられることが増え、学生がより実践の場で力を発揮していくことができるよう、課題とは別に実習先や就職試験で求められる曲の指導もしていくよう努めた。
授業科目名【こどもの歌と伴奏法Ⅱ】 これまでに習得したピアノ技術をもとに、学生の習得状況に応じた課題を準備し、それぞれが社会に出てから必要な力を身につけられるよう配慮した。また、演奏技術に不安がある学生に対して、簡易伴奏譜を作成し、その方法についても学生に教授することで、より現場での実践で演奏技術が活かしていけるよう工夫した。

授業科目名【音楽の基礎】 　座学で学んだ内容を実技の実践へ繋げていくためにより理解が深められるよう、オリジナルの鍵盤プリントを用意した。また、復習プリントや小テストを重ね、机間指導を適宜行いながら進めることで学生による質問を受ける機会を設け、全体の状況を把握できるよう配慮した。
授業科目名【器楽アンサンブル】 　初回授業にボディパーカッションを導入することで、自分自身の体でリズムを表現し、苦手意識のある学生にも楽しく自然とリズム感覚が身につくよう配慮した。 また、履修者が少人数だったため、学生が全ての楽器や指揮を体験でき、保育現場で正しく楽器を扱っていけるようグループづくりを工夫した。
授業科目名【こども音楽療育実習】 　保育所や特別支援での音楽会のプログラムを創作していくにあたり、施設ごとにリーダーをたてることで、学生たちが主体的に考え協力し工夫ができるよう配慮した。
授業科目名【保育総合表現】 　こどものためのミュージカルを学生主体で作り上げていくにあたって、音楽面で作品にふさわしい選曲や効果音の提案をし、作品を表現していく上での音楽の重要さが伝わるよう工夫した。また、演奏において楽器の編成をこどもの興味をひく楽器だけでなく、身近な楽器も取り入れるよう指導することで今後の保育現場での劇や音楽会等の活動での指導に活かしていけるよう配慮した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会		2018 年 10 月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州音楽協会	協会員	2015 年 4 月～現在に至る
福岡青年音楽家協会	協会員	2016 年 4 月～現在に至る
むなかた第九コンサート	伴奏ピアニスト	2016 年 4 月～現在に至る
「オーストリア菓子サイラー コンサート」出演	ピアニスト	2018 年 6 月 13 日
「九州山口ジュニアピアノコンクール」審査員	審査員	2018 年 8 月 2 日
「NHK 全国学校音楽コンクール　県大会」出演	伴奏ピアニスト	2018 年 8 月 8 日
「NHK 全国学校音楽コンクール　九州・沖縄ブロック大会」出演	伴奏ピアニスト	2018 年 8 月 22 日
「北九州音楽協会会員による CONCERT 響 」出演	ピアニスト	2018 年 9 月 9 日
「宗像ミアーレ音楽祭 2019」出演	伴奏ピアニスト	2018 年 9 月 30 日
「グランドピアノフェア 注目ピアニストによるミニコンサート」出演	ピアニスト	2018 年 10 月 27 日
「第九コンサートむなかた 2018」出演	伴奏ピアニスト	2018 年 12 月 22 日
「東京インテリア家具 カフェテリアコンサート」出演	ピアニスト	2019 年 3 月 10 日
「第 1 回 バイオリン発表会」出演	伴奏ピアニスト	2019 年 3 月 17 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
チャペルアワー　奏楽　2018 年 4 月～現在に至る シニアサマーカレッジ　「音楽の力で心と身体を健康に ～歌で楽しく認知症予防～」　2018 年 9 月 14 日 クリスマス礼拝　奏楽　2018 年 12 月 13 日 ハンドベル定期演奏会　オルガニスト　2018 年 12 月 15 日